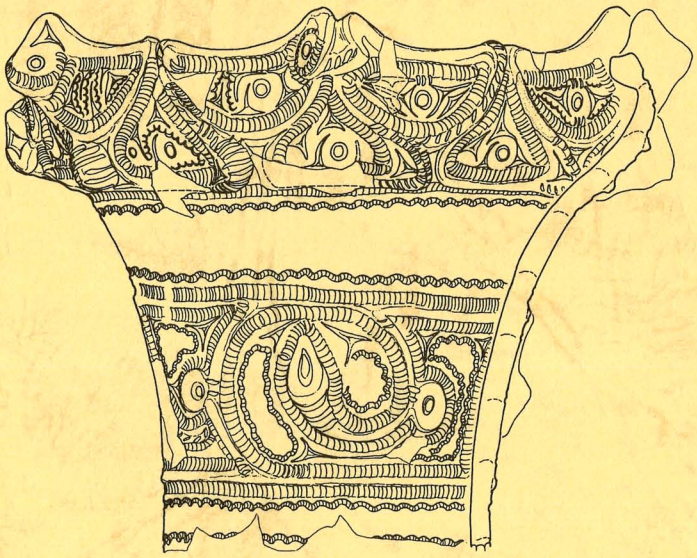
山梨市文化財調査報告書　第８集

TAKA BATAKE

高畑遺跡

—JAフルーツ山梨加納岩統一共選所建設に伴う発掘調査報告書—



2005年3月

ＪＡフルーツ山梨
山梨市教育委員会
（財）山梨文化財研究所

山梨市文化財調査報告書　第８集

TAKA　BATAKE

高畑遺跡

—JAフルーツ山梨加納岩統一共選所建設に伴う発掘調査報告書—

2005年3月

ＪＡフルーツ山梨
山梨市教育委員会
(財)山梨文化財研究所

例　　言

1　本書は山梨県山梨市大野2040-1番地ほか所在の高畑遺跡の発掘調査報告書である。

2　本調査はJAフルーツ山梨加納岩統一共選所の建設に伴い、JAフルーツ山梨より委託を受けて、山梨市教育委員会の指導のもと、（財）山梨文化財研究所が実施した。

3　本書の原稿執筆・編集は櫛原功一（（財）山梨文化財研究所考古第2研究室）が行い、第4章第2節は、鈴木稔（（財）山梨文化財研究所保存科学研究室）が執筆した。また第4章第1節については国立歴史民俗博物館　小林謙一氏に執筆していただいた。

4　発掘調査において基準点測量、空中写真撮影、図化業務を（株）シン技術コンサルに委託した。石器類の石材については（財）山梨文化財研究所地質研究室に鑑定を依頼し、漆紙付着土器については（財）山梨文化財研究所保存科学研究室に分析を依頼した。また、土器の展開写真撮影については（株）スカイサーベイに委託した。ほか、土偶のX線写真撮影については山梨文化財研究所保存科学研究室に委託した。

5　本書に関わる出土品、記録類は山梨市教育委員会で保管している。また山梨市教育委員会では山梨CATVにビデオ撮影を委託し、調査過程の映像資料作成を実施した。

6　発掘調査から報告書作成に至るまで、以下の諸氏、諸機関からご指導、ご理解を賜った。記して感謝申し上げたい（順不同、敬称略）。

ＪＡフルーツ山梨・中村照人（山梨市長）・山梨市教育委員会・山梨県峡東地域振興局・廣瀬久信・水上秀昭・岩森辰幸・小池一夫・花輪幸長・中村昌広・三澤達也・武井正一・中澤昭・清水徳夫・望月秀和・今福利恵・小林謙一・村松佳幸・保坂康夫・米田明訓・三田村美彦・望月和幸・初鹿野博之・土屋健作・塩谷風季・加賀美要次・小林小路・須田泰美・谷口康浩・正木季洋・和田正美・住吉浩之・山梨CATV・三枝興業・早野組・㈱エンドレス

凡　　例

1　グリッド配置図（図5）におけるX・Y数値は、平面直角座標第8系（原点：北緯36度00分00秒）、東経（138度30分00秒）に基づく座標数値である。各遺構平面図中の北を示す方位はすべて座標北である。

2　遺構および遺物の縮尺は次のとおりである。

竪穴	1：60
竈・炉	1：30
土坑・ピット	1：30
全体図	1：400、1：100
土器・土師器・須恵器・陶磁器	1：4
石器	1：3
石鏃等小型石器	2：3
土製品	1：2
銅銭	1：1

3　遺構図版中の遺物接合線については、実線は接合した2点の接合関係を、破線は接合しないものの同一個体であることを示す。

4　土器実測図断面の黒塗りは須恵器、ドット網かけは灰釉・緑釉陶器、白抜きは土器・土師器・磁器を示す。土器・土師器断面図中の破線は接合帯を示す。磨り石・土製円板側面の細い実線は磨り面範囲を示す。

5　土層説明における土色表示は農林水産省水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』（1991年度版）を使用した。

6　遺構図版中の遺物番号は写真図版番号、遺物観察表番号と一致している。

7　本書図1は国土地理院発行の1/200,000地勢図「甲府」、図2は1/25,000地形図「塩山」「石和」を使用した。

8　本書中の時期説明については、山梨県史編年に基づく。

山梨県　1999『山梨県史　資料編2　原始･古代2』

9　本文の註・参考文献については各節（章）ごと文末にまとめた。

本文目次

例　言
凡　例
本文目次
挿図目次
写真目次
表目次
図版目次
写真図版目次
第1章　経　過 …… 1
　第1節　調査の経過 …… 1
　第2節　発掘作業の経過 …… 1

第３節　整理等作業の経緯 …… 3
第２章　遺跡の位置と環境 …… 4
第１節　地理的環境 …… 4
第２節　歴史的環境 …… 6
第３章　調査の方法と成果 …… 9
第１節　調査の方法 …… 9
第２節　層　序 …… 9
第３節　遺　構 …… 9
第４節　遺　物 …… 20
第４章　理化学的分析 …… 29
第１節　山梨県山梨市高畑遺跡出土炭化材の^{14}C年代測定（小林謙一ほか） …… 29
第２節　山梨市高畑遺跡出土土器の付着物について（鈴木稔） …… 31
第５章　総　括 …… 34

報告書抄録

挿図目次

図１　遺跡の位置（１） …… 5
図２　遺跡の位置（２） …… 5
図３　高畑遺跡とその周辺 …… 6
図４　遺跡周辺の地形 …… 7
図５　グリッド配置図 …… 10
図６　遺跡全体図 …… 11
図７　調査区の等高線図 …… 12
図８　1・2号竪穴柱穴配置図 …… 13
図９　４号竪穴柱穴配置図 …… 13
図10　５号竪穴柱穴配置図 …… 13
図11　６号竪穴柱穴配置図 …… 14
図12　10Ａ～Ｃ号竪穴柱穴配置図 …… 15
図13　11号竪穴柱穴配置図 …… 16
図14　10号竪穴20展開拓本 …… 22
図15　１号埋甕１展開図 …… 23
図16　暦年較正確率密度分布 …… 30
図17　赤外分光分析（顕微鏡プレパラートの測定） 32
図18　赤外分光分析（樹脂片の測定） …… 32
図19　土器の変遷（１） …… 36
図20　土器の変遷（２） …… 37
図21　土器の変遷（３） …… 38
図22　遺構の変遷（１） …… 43
図23　遺構の変遷（２） …… 44

写真目次

写真１　遺跡遠景 …… 4
写真２　完成した統一共選所 …… 4
写真３　駐車場に立てられた説明板 …… 4
写真４　稲荷祠の塚 …… 8
写真５　三十六霊塔 …… 8
写真６　大野五輪塔 …… 8
写真７　付着物写真 …… 31
写真８　薄片写真 …… 31
写真９　拡大写真 …… 31

表 目 次

表１　推定結果と暦年較正年代 …… 30
表２　土器観察表 …… 47
表３　石器観察表 …… 54
表４　土製品観察表 …… 60
表５　金属製品観察表 …… 61
表６　追加遺物観察表 …… 153

図版目次

第１図　調査区部分（１） …… 63・64
第２図　調査区部分（２） …… 65・66
第３図　１・２号竪穴（１） …… 67
第４図　１・２号竪穴（２）、４号竪穴（１） …… 68
第５図　４号竪穴（２） …… 69
第６図　５号竪穴（１） …… 70
第７図　５号竪穴（２） …… 71
第８図　５号竪穴（３）、６号竪穴（１） …… 72
第９図　６号竪穴（２）、７～９号竪穴（１） …… 73
第10図　７～９号竪穴（２） …… 74
第11図　10号竪穴（１） …… 75
第12図　10号竪穴（２） …… 76
第13図　11～13号竪穴（１） …… 77
第14図　11～13号竪穴（２）、１・２号焼土、１・２号埋甕 …… 78
第15図　１・２号集石、１号井戸、１～３号土坑 79
第16図　11～16・18～20号土坑 …… 80
第17図　21～24・27・28号土坑 …… 81
第18図　29～33・36・37号土坑 …… 82
第19図　35・38～42号土坑 …… 83
第20図　43～45・48～50・52～54号土坑 …… 84
第21図　55～59号土坑、49・74号ピット …… 85

第22図　西壁（北側・南側）断面、埋没谷トレンチ断面 …… 86
第23図　溝断面 …… 87
第24図　1・2号竪穴遺物（1）…… 88
第25図　1・2号竪穴遺物（2）…… 89
第26図　1・2号竪穴遺物（3）…… 90
第27図　4号竪穴遺物（1）…… 91
第28図　4号竪穴遺物（2）…… 92
第29図　4号竪穴遺物（3）…… 93
第30図　4号竪穴遺物（4）…… 94
第31図　4号竪穴遺物（5）…… 95
第32図　4号竪穴遺物（6）…… 96
第33図　4号竪穴遺物（7）…… 97
第34図　5号竪穴遺物（1）…… 98
第35図　5号竪穴遺物（2）…… 99
第36図　5号竪穴遺物（3）…… 100
第37図　5号竪穴遺物（4）…… 101
第38図　5号竪穴遺物（5）…… 102
第39図　5号竪穴遺物（6）…… 103
第40図　5号竪穴遺物（7）…… 104
第41図　5号竪穴遺物（8）…… 105
第42図　5号竪穴遺物（9）…… 106
第43図　5号竪穴遺物（10）…… 107
第44図　5号竪穴遺物（11）…… 108
第45図　5号竪穴遺物（12）…… 109
第46図　5号竪穴遺物（13）…… 110
第47図　5号竪穴遺物（14）…… 111
第48図　5号竪穴遺物（15）…… 112
第49図　5号竪穴遺物（16）…… 113
第50図　5号竪穴遺物（17）…… 114
第51図　5号竪穴遺物（18）…… 115
第52図　6号竪穴遺物（1）…… 116
第53図　6号竪穴遺物（2）…… 117
第54図　7号竪穴遺物、8号竪穴遺物（1）…… 118
第55図　8号竪穴遺物（2）…… 119
第56図　9号竪穴遺物、10号竪穴遺物（1）…… 120
第57図　10号竪穴遺物（2）…… 121
第58図　10号竪穴遺物（3）…… 122
第59図　10号竪穴遺物（4）…… 123
第60図　10号竪穴遺物（5）…… 124
第61図　10号竪穴遺物（6）…… 125
第62図　11号竪穴遺物（1）…… 126
第63図　11号竪穴遺物（2）…… 127
第64図　11号竪穴遺物（3）・12号竪穴遺物 … 128
第65図　11号竪穴遺物（4）…… 129
第66図　13号竪穴遺物、1号埋甕遺物 …… 130
第67図　2号埋甕遺物、1・2号焼土遺物、5・9・12号土坑遺物 …… 131
第68図　13～16・18・19・22・24号土坑遺物、28号土坑遺物（1）…… 132
第69図　28号土坑遺物（2）、31号土坑遺物 …… 133
第70図　29号土坑遺物 …… 134
第71図　33・34・36・39号土坑遺物、41号土坑遺物（1）…… 135
第72図　41号土坑遺物（2）、42号土坑遺物、11号竪穴遺物（4）…… 136
第73図　48・49・52号土坑遺物 …… 137
第74図　50・53・54・56号土坑遺物 …… 138
第75図　58・59号土坑遺物、55・57・82・83号ピット遺物 …… 139
第76図　1号井戸遺物、2～6・9号溝遺物 … 140
第77図　谷トレンチ遺物、遺構外遺物（1）…… 141
第78図　遺構外遺物（2）…… 142
第79図　遺構外遺物（3）…… 143
第80図　遺構外遺物（4）…… 144
第81図　遺構外遺物（5）…… 145
第82図　遺構外遺物（6）…… 146
第83図　遺構外遺物（7）…… 147
第84図　遺構外遺物（8）…… 148
第85図　遺構外遺物（9）…… 149
第86図　遺構外遺物（10）…… 150
第87図　遺構外遺物（11）…… 151
第88図　遺構外遺物（12）…… 152
第89図　遺構外遺物（13）…… 153
第90図　追加資料 …… 153

写真図版目次

図版1　1：遺跡空撮（東より）　2：同（南より）
図版2　1：遺跡空撮（上より）
　　2：遺跡全景（南より）
図版3　1：1・2号竪穴炉　2・3：同　完掘状況
　　4～8：4号竪穴遺物出土状況
図版4　4号竪穴完掘状況
　　2・3：同　遺物出土状況
　　4：5号竪穴調査風景
　　5：同　覆土中礫出土状況
　　6・7：同　土偶・土製品出土状況
図版5　1：5号竪穴内礫・遺物出土状況
　　2：同　完掘状況
　　3：同　炉体土器半裁状況
　　4～8：同　土器出土状況

図版６　１：６号竪穴出土状況　２：同　完掘状況
３：同　49号ピット礫出土状況
４：同　炉完掘状況
５：７～９号竪穴完掘状況
６：８号竪穴遺物出土状況　７：７号竪穴竈
８：８号竪穴竈
９：９号竪穴竈内坏出土状況
10：９号竪穴竈

図版７　１：10号竪穴遺物出土状況
２：同　完掘状況
３：同　炉A　４：同　炉B
５：同　炉C　６：同　炉A～C
７：同　遺物出土状況
８：11号竪穴遺物出土状況　９：同　炉

図版８　１：11号竪穴完掘状況
２～５：同　遺物出土状況
６：11～13号竪穴　空撮（上より）
７：12号竪穴　炉

図版９　１：１号埋甕　２：２号埋甕　３：１号焼土
４：２号焼土
５：調査区西南付近（１・２号焼土）
６～９：１号井戸（７：同　井戸底曲物出土状況）

図版10　１：11～16・19号土坑　２：19号土坑
３：18号土坑
４：22号土坑　５：24・34号土坑
６：27号土坑　７：28号土坑（上層）
８：同　完掘状況　９：29・36号土坑
10：29号土坑遺物出土状況

図版11　１：30号土坑　２：31号土坑　３：39号土坑
４：27・41号土坑　５：41号土坑
６：50号土坑　７：53号土坑
８：54号土坑　９：55号土坑　10：58号土坑

図版12　１：58号土坑
２：M7付近土坑・ピット検出状況
３：１～３・５号溝、石列空撮（上から）

図版13　１：５号溝（東より）
２：１～３号溝ほか（南より）
３：２号溝（東より）　４：６号溝（東より）
５：８・９号溝（東より）
６：６号溝内須恵器壷出土状況
７：埋没谷トレンチ断面（南西より）

図版14　１：１号集石　２：２号集石
３：L６付近礫出土状況
４・５：５号竪穴周辺完掘状況
６～８：遺構外出土遺物

図版15　１・２号竪穴遺物

図版16　４号竪穴遺物（１）

図版17　４号竪穴遺物（２）、５号竪穴遺物（１）

図版18　５号竪穴遺物（２）

図版19　５号竪穴遺物（３）

図版20　５号竪穴遺物（４）

図版21　５号竪穴遺物（５）

図版22　５号竪穴遺物（６）

図版23　５号竪穴遺物（７）

図版24　５号竪穴遺物（８）、６号竪穴遺物
７号竪穴遺物（１）

図版25　７号竪穴遺物（２）、８号竪穴遺物
９号竪穴遺物、10号竪穴遺物（１）

図版26　10号竪穴遺物（２）

図版27　10号竪穴遺物（３）、11号竪穴遺物（１）

図版28　11号竪穴遺物（２）、13号竪穴遺物
１号焼土遺物、１号埋甕遺物、28号土坑遺物

図版29　29号土坑遺物、34号土坑遺物、41号土坑遺物
48号土坑遺物、52号土坑遺物、54号土坑遺物

図版30　50号土坑遺物、58号土坑遺物、59号土坑遺物
82号ピット遺物

図版31　溝遺物、遺構外遺物（１）

図版32　遺構外遺物（２）、中世陶磁器

図版33　土器展開写真
（１・２号竪穴１・９、４号竪穴２、５号竪穴16）

図版34　土器展開写真
（５号竪穴23・25・31、６号竪穴１）

図版35　土偶のＸ線写真

図版36　漆紙？付着土器（遺構外46）

第1章　経　過

第1節　調査の経過

高畑遺跡は、山梨市大野所在の縄文時代中期を主とする集落遺跡である。平成12年、隣接する天神前西遺跡（今回の調査区の道を挟んだ北側）で、宅地開発に伴う調査が山梨市教育委員会によって実施された。その際、縄文時代中期後半の石囲い炉や平安時代の竪穴住居跡、曽利式期の良好な土偶などが発見され、天神西遺跡と高畑遺跡は隣接遺跡もしくは同一遺跡と推測された。平成12年には大野バイパスの工事に先立ち、市教育委員会が高畑遺跡南側の試掘を行ったところ、遺構はなく、河川氾濫による砂層、泥炭状の黒色土が確認され、南側は重川の影響を大きく受けていることがわかった。

平成14年、高畑遺跡内に位置する大野共選所の建て替え（JAフルーツ山梨加納岩統一共選所建設工事）が計画された。周辺地区の共選所を統合し、従来よりも規模が大きく頑丈な統一共選所を秋の共選の後、次の共選シーズン（平成15年5月）に間に合うように建設するという計画であった。

山梨市教育委員会とJAフルーツ山梨は、平成14年8月末に（財）山梨文化財研究所にて工事の説明を行い、市教育委員会による試掘後に本調査を実施してほしいという調査依頼を（財）山梨文化財研究所に対して行った。その後、市教育委員会では9月中旬から試掘調査に着手し、幅1m、長さ数十mのトレンチを工事予定地内に10本程度設定して遺構・遺物の出方を探った。共選所周囲のモモ畑内の試掘から始め、9月24日に共選所の建物が撤去された後、建物部分の試掘も行われた。その結果、予定地のほぼ全域が縄文時代から平安時代にかけての埋蔵文化財包蔵地であることがわかった。その調査結果に基づき、市教育委員会とJA側が調査について協議した結果、建物部分と削平する北側駐車場部分、約2000㎡について本調査が必要で、盛土される南側（大野バイパス側）は盛り土保存のため調査が不要、という判断がなされた。その後、発掘について農協組合員への説明が行われ、また研究所側とJA側で契約に関する打ち合わせを行い、市教育委員会も指導的立場で関与する形で事業が行われるはこびとなった。調査は工事期間の都合上、調査終了地点から順次工事に着手する形で進めることとなり、埋蔵文化財の調査期間は11月から1月中旬とされた。

なお文化財保護法にもとづく届出は以下の通りである。

平成14年9月1日　文化財保護法第57条の1に基づく発掘届を山梨県教育委員会に提出

平成15年1月22日　遺失物法第13条に基づく埋蔵文化財発見届を日下部警察署に提出

第2節　発掘作業の経過

本調査は平成14年（2002）11月1日から平成15年（2003）1月16日まで実施された。調査体制は以下の通りである。

調査主体　（財）山梨文化財研究所

調査担当者　櫛原功一（山梨文化財研究所考古第2研究室）

＜発掘調査参加者＞

窪田信一・寺内みち子・雨宮久美子・河野安代・斉藤純子・広瀬秋男・池田武子・能登輝代・能登瑛志・広瀬正子・広瀬幸子・広瀬侯子・直井光江・芦澤はつ子・西嶋当志子・中沢寿子・藤巻博子・古屋ゆう子・小沢理奈・村上マリーナ・アコスタオルガ・萩原忠・山口治・丸山朗・広瀬寛・川口要・渡辺和枝・佐藤良子・和田繹子・矢崎洋子・水野マリル・小野恵子・栗田宏一・長谷川規愛・佐藤佐恵美・望月幸子・三枝由紀子・小笠原とし子

調査の経緯は次のとおりである。

（調査日誌抄録）

2002年11月1日（金）

調査区東側から重機による表土剥ぎを開始。

11月5日（火）

器材の運搬、コンテナハウス、簡易トイレの搬入など、調査の準備を進めるとともに、一部共選所の基礎部分などの撹乱の掘り下げを人力で開始する。業者による基準点観測。

11月6日（水）

本日より本格的に調査を開始。共選所の基礎、撹乱、溝を掘り下げる。

11月9日（土）

業者による杭打ち。

11月13日（水）

1号竪穴設定。掘り下げ開始。炉脇に別の石囲い炉を検出。2号竪穴とする。土坑、溝の調査。重機により下げ足らずの部分を再度掘り下げる。

11月14日（木）

近世以降と思われる石積みを伴う溝や撹乱をほぼ完

掘し、清掃、写真撮影。１号竪穴の柱穴調査。２～４号竪穴設定、掘り下げ（３号竪穴は後に欠番とする）。
11月16日（土）
山梨市長来跡、見学。市内小中学校児童生徒に遺跡見学をするよう教委に指示。
11月18日（月）
市会議員来跡、見学。
11月19日（火）
博物館実習のため学生調査参加。５号竪穴内から土偶３点がまとまって出土（接合資料）。
11月26日（火）
北中の生徒約30名による見学と体験発掘。CATV撮影。縄文の集落の広がりを見るために試掘溝を設定。
11月27日（水）
JA主催による組合員を対象とした見学会が午前中、２回に分けて行われ、地元住民約60名が見学。また山梨市長、収入役ほか見学。調査区南側の谷部にトレンチ設定。
11月29日（金）
工事業者と今後の調査および工事の段取りについて協議。12月19日頃には建物本体部分の工事着手予定との通告あり。
11月30日（土）
４号竪穴より新道式期の深鉢数個体が出土。
12月５日（木）
南側西端の壁寄り10m分を工事着手したいとのことで、図化作業など急ぐ。焼土址２基検出。午前中、堀之内小５・６年生11名、午後、加納岩小５・６年生約70名見学。
12月２日（月）
南側埋没谷の掘り下げ。CATVの撮影。
12月６日（金）
山梨小５年48名見学。埋没谷溝中から完形の土師器坏と口縁部の一部を欠く長頸壷出土。曲物底かと思われる木製品もわずかに出土。
12月７日（土）
埋没谷トレンチ掘り下げ。
12月10日（火）
ラジコンヘリによる空撮を行うため、朝からピット内の水抜き、清掃を行う。ラジコンヘリがダンプの電波の影響を受け２機破損。
12月11日（水）
埋没谷南側の砂層中に平安時代の竪穴に伴う竈が存在することが判明。急遽調査を開始（７号竪穴）。
12月12日（木）
７号竪穴として掘り下げた竪穴内から石組竈2箇所が新たに検出される（８・９号竪穴）。調査区南側の明け渡しについて調査後まで待つよう工事側に依頼する。
12月13日（金）
県地域振興局長ほか見学。山梨日日新聞記者取材。
12月17日（火）
UTY取材、撮影。
12月18日（水）
５号竪穴遺物取り上げ。６号竪穴掘り下げ。10号竪穴確認。午前中、日川小約40名見学。
12月19日（木）
山梨市議会議員文教部会、建設部会14名見学。コンテナハウスの移動。
12月20日（金）
10号竪穴から炉3箇所検出。研究所職員等約30名見学。CATV撮影。
12月24日（火）
CATV撮影。UTYニュース放映。
12月25日（水）
業者による空撮（ケーブル使用）。建設工事に調査終了区の明け渡し。南中校長、生徒15名見学。
12月26日（木）
市教育長見学。CATV撮影。
12月27日（金）
工事側との協議（市教委対応）。１月６日工事着手、15日まで調査可能とのこと。
12月28日（土）
中世の石組井戸検出。下層に曲物側板使用。
12月30日（月）
４・10号竪穴の平面図作成。10号竪穴炉体土器の取上げ。本年は本日で終了。
2003年１月４日（土）
６号竪穴の柱穴掘り下げ。土偶頭部出土。
１月５日（日）
６号竪穴完掘、図化。土坑等の調査。中沢新一氏見学。
１月６日（月）
一部工事側に明け渡し。丸石の取上げ。
１月８日（火）
５号竪穴完掘、平面図作成。11号竪穴設定、掘り下げ。CATV撮影。
１月10日（金）
11号竪穴北側から新たに石囲い炉検出（12号竪穴）。壁はない。
１月13日（月）
11号竪穴北側の落込みを13号竪穴とする。
１月15日（水）

道具の撤収。ケーブルによる空撮。コンテナハウスなどの返却。井戸内より古銭2枚出土。

1月16日（木）

掘り残しのピットを調査し、遺構外の遺物など回収。本日にて調査は終了。1号井戸の埋設保存について業者と協議。

第3節　整理等作業の経緯

整理作業は2003年3月から2005年3月末まで、（財）山梨文化財研究所内で行われた。整理体制は次のとおりである。

整理担当者　櫛原功一

整理作業参加者　保坂真澄・矢房静江・梶原薫・佐野靖子・宇津宮則子・須田泰美・原野ゆかり・小澤昭美・宮島恵美子・藤原恵・柳本千恵子・池谷富士子・岸本美苗・金井いく代・坂本しのぶ・小林小路

作業分担

洗浄・注記―須田・宇津宮・原野・小澤・宮島・藤原・柳本・池谷・岸本・金井・坂本・小林

土器復元―矢房・佐野

実測―佐野・矢房・須田・梶原・保坂・小林

トレース―矢房・櫛原

図版作成―保坂・梶原・矢房

表作成―櫛原

写真撮影・プリント―佐野・櫛原

編集―櫛原

整理作業の流れは通常どおりで、洗浄ののち、注記マシーンと手書きで注記作業を行い、土器の接合、復元を行った。実測する遺物を選択し、手描きに加えてマイブンスコープ、写真実測を併用しながら図化した後、トレースした。遺構図、遺物接合関係の整理・トレースも並行して行い、図版組みを行った。図化した遺物すべてについて遺物観察表を作成した後、報告書原稿を執筆した。なお、石器については河西学氏（山梨文化財研究所地質研究室）に石材鑑定を依頼し、漆紙付着土器について、鈴木稔氏（山梨文化財研究所保存科学研究室）に分析を依頼した。また5号竪穴炉内出土の炭化物について、小林謙一氏（国立歴史民俗博物館）に炭素年代測定を実施していただいた。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

高畑遺跡は山梨市大野にある。山梨市内では南西端の地区で、笛吹川を挟んで笛吹市春日居町と隣接する。笛吹川とその支流重川にはさまれた合流点にあたり、標高は303mである。笛吹川は北方の山梨市三富方面から南に向かって流下する大河川であり、重川は東北側の塩山市方面から南に流下する河川で、さらに東側の大和村方面から西へ流下する日川が山梨市一町田中で合流する。すなわち山梨市大野、一町田中付近は甲府盆地東部の水が一箇所に集中する地域となっている。大野地区一帯は笛吹川等が形成した複合扇状地扇端付近にあたり、砂礫層が堆積した緩やかな傾斜面となる一方、重川の周辺は氾濫原が形成されている。遺跡は笛吹川扇状地と重川氾濫原の境付近に立地し、遺跡中央付近から西北側の大野地区集落域にかけては微高地となっている。調査地点はJAフルーツ山梨の旧大野共選所敷地内および周辺のモモ畑である。

大野地区は、笛吹市春日居町桑戸方面から笛吹川にかかる桑戸橋を山梨市側に渡った笛吹川左岸の県道沿いの集落である。近年、大野バイパスが計画され、春日居町駅方面から山梨南中付近へ抜ける道路工事が現在行われている。今回調査した高畑遺跡は、大野公民館東方100mの旧大野共選所地点で、発掘が終了した現在ではほぼ同じ場所に、大野バイパスに面して真新しいJAフルーツ山梨加納岩統一共選所が開所されている（写真２）。また、バイパス側の駐車場には、高

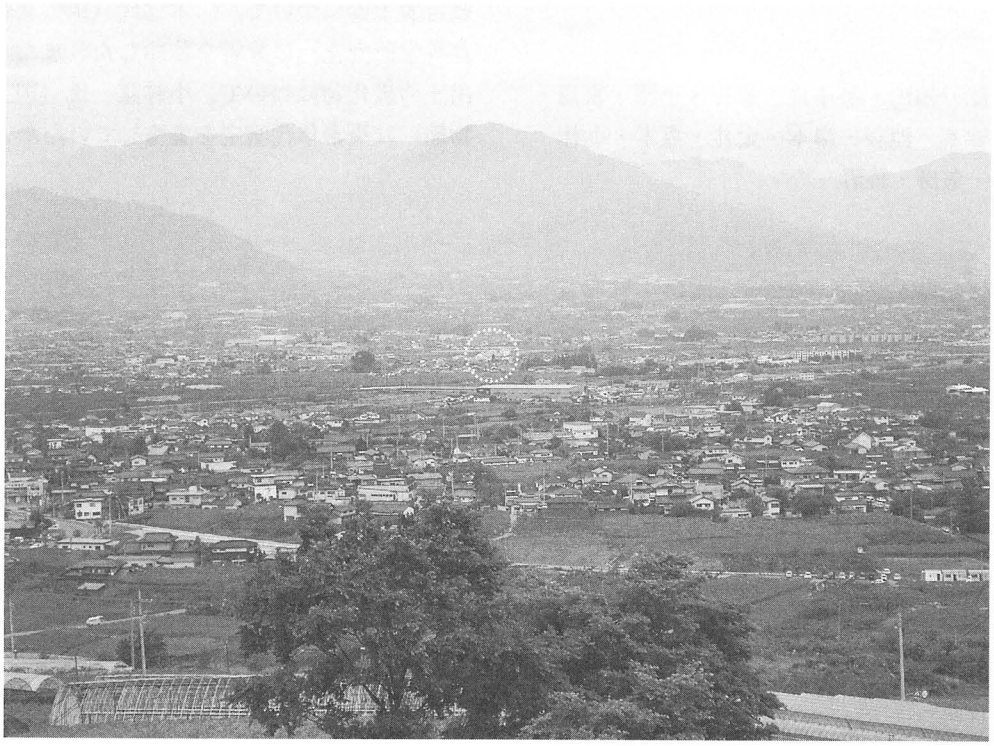


写真１　遺跡遠景

写真２　完成した統一共選所

写真３　駐車場に立てられた説明板

図1　遺跡の位置（1）

図2　遺跡の位置（2）

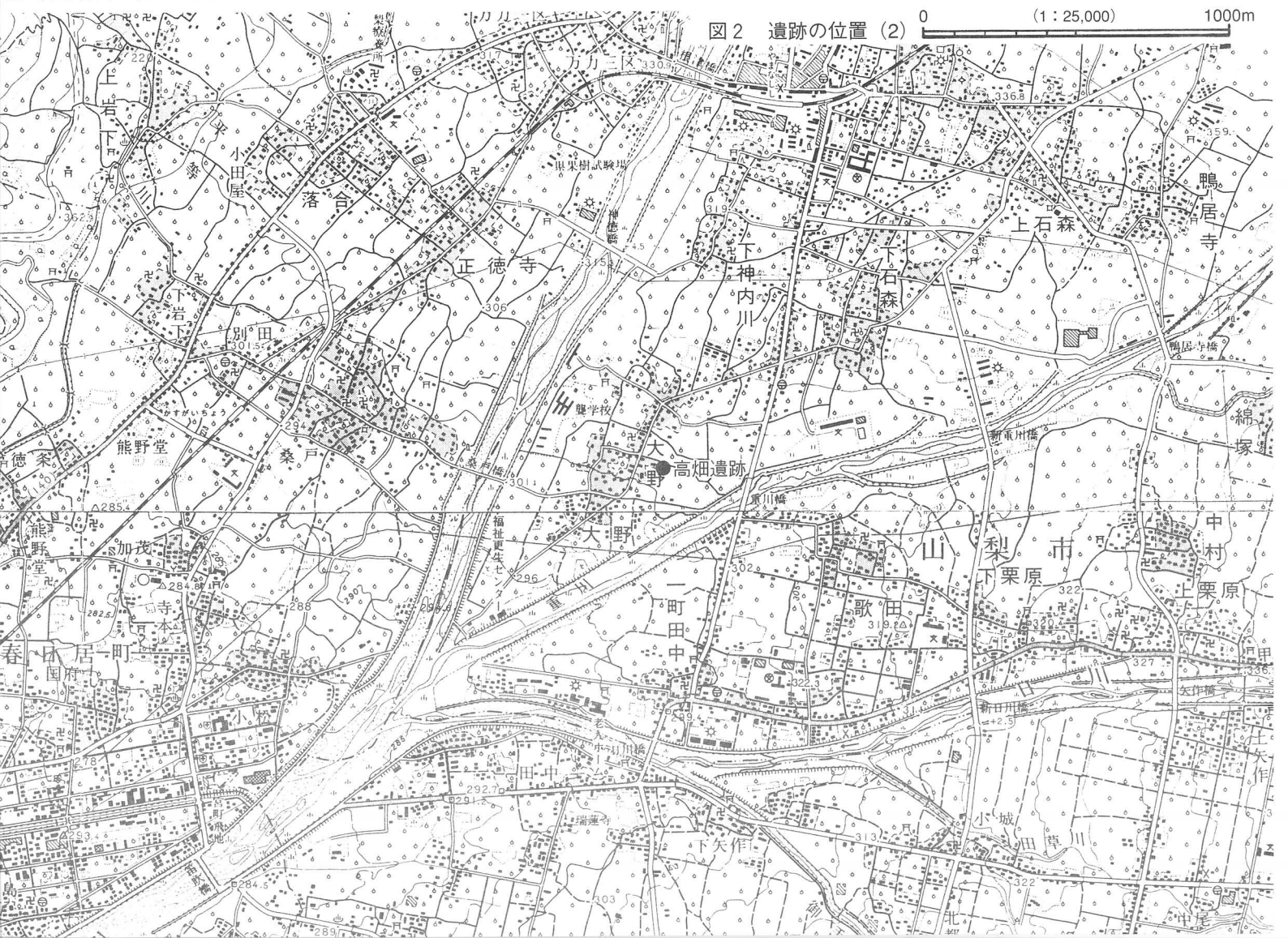


図３　高畑遺跡とその周辺（1：高畑遺跡　2：稲荷祠　3：三十六塚　4：大野五輪塔　5：天神前西遺物）

畑遺跡の調査概要と遺構図、出土土器の写真を付けた説明板が市教育委員会によって立てられた（写真３）。

第２節　歴史的環境

山梨市大野は、和名抄山梨郡十郷のひとつ「於保乃」の遺称とされ、山梨郡大野郷の比定地とされている。

大野郷に関し、2003年、長野県佐久市聖原遺跡で「甲斐国山梨郡大野郷戸□／乙作八千／比後□佛□為／八千体□」「佛」と焼成前の暗文風ヘラ書きのある土師器鉄鉢形土器が発見され、大きな話題となった。この土師器は８世紀末～９世紀代の甲斐型土器で、おそらく大野郷の注文品として甲斐国内（甲府市大坪周辺か）で生産され、使用の過程で信濃に運ばれたものと考えられる。大野郷内での宗教活動を示すものといえ、郷内に僧などの宗教関係者や寺院などの宗教施設の存在が推測されるとともに、移動先の東信地方と大野郷の関連性が伺われる。大野郷の存在を示す最古の文字資料となっている。

中世には大野城（大野砦）があったとされ、城跡の現況、歴史的経緯や言い伝え等について『甲斐国志』「大野ノ城跡」に詳述されている。以下長くなるが引用する。

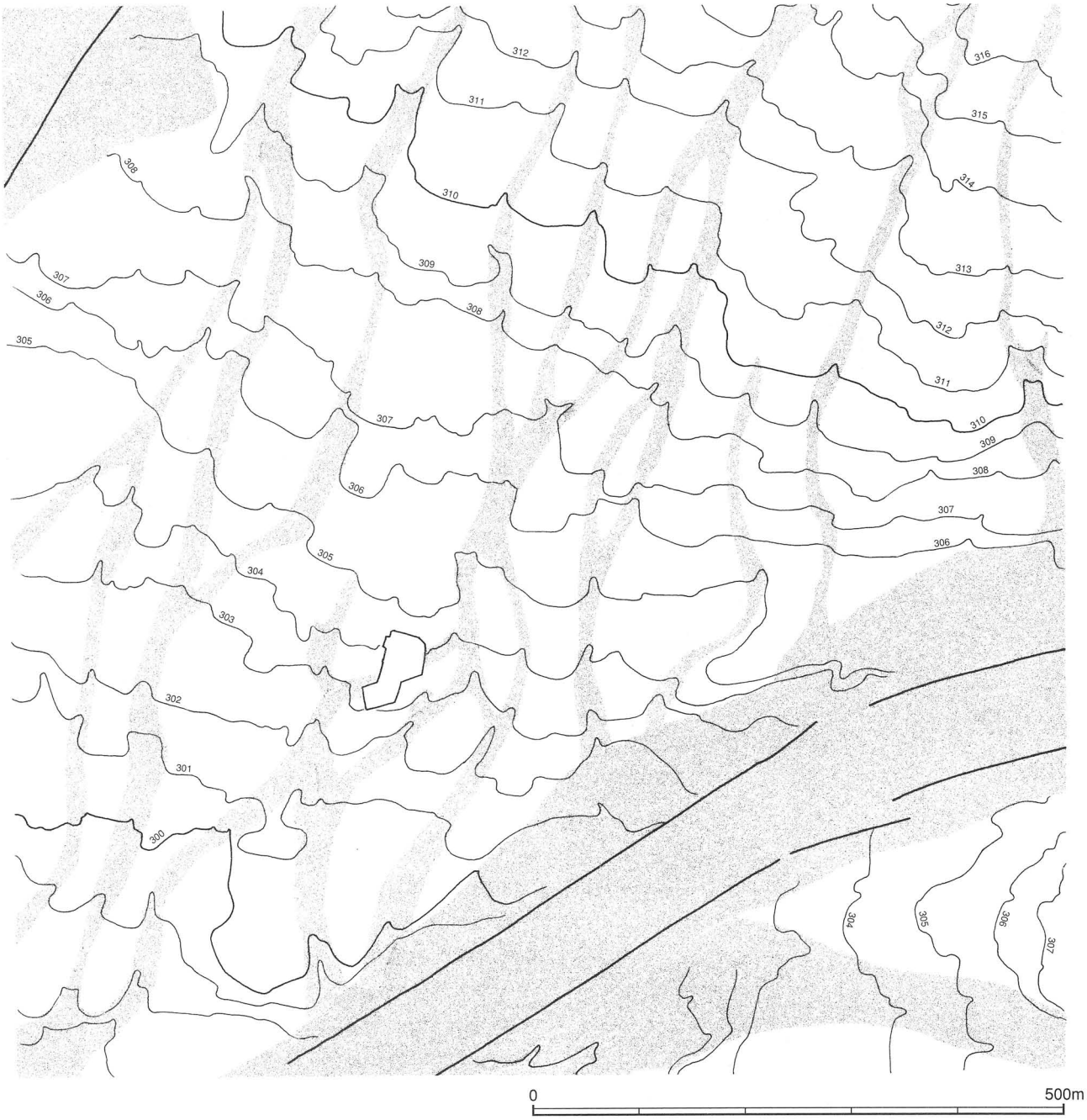


図４　遺跡周辺の地形

「大野ノ城跡　東西五十歩余中央ニ門アリ南北七十五歩四方ノ土堤敷六歩バカリ今ハ北ヨリ西へ回リ八十歩許リ残レリ堀ハ埋リテ小渠存ス東南ノ隅ニ高サ一丈七八尺ノ台アリ上ニ稲荷ヲ祭ル上堤外トノ近辺ヲ外郭ト云フ里人御城屋敷トモ唱フ（中略）村記ニ大野太郎ト云フ者ノ城趾也ト云フ又為朝屋敷ト唱ヘ来ル所村ノ南ニアリ共ニ何人ナルカヲ知ラズ鏡石・鞍掛石ナド云フハ耕田ノ中ニアリ又雲林ト云フ所ニ除地二段七畝八歩アリ相伝フ雲林山健長寺トテ真言宗七堂伽藍ノ廃迹ナリ経塚一基、五輪石塔二基アリ高サ四尺余人呼ビテ大野ノ二本石塔ト名ヅク或ハ為朝ノ墓トモ大野太郎ノ墓トモ唱ヘタリ（中略）三十六塚ハ砦ノ巽位二町許リニアリ壬午ノ時大村勢撃タレタル内ニ名アル首三十六埋メタリ（後略）」

大野城は雁坂口警護の任にあったとされる大村党の拠点で、雁坂口、萩原口、笹子口の三筋の往還を抑える要の位置にあったともいわれる。武田・織田滅亡後、甲斐地域の支配を争って徳川氏と北条氏が争った天正10年（1582）の天正壬午の戦いの際、秩父鉢形城主北条氏邦に与した大村三右衛門ら大村党は、６月、大野城に立て籠もり徳川氏を迎えうったが、徳川方穴山衆家目、穂坂常陸介、有泉大学らの急襲により落城し、その時の死者を葬ったのが三十六塚（三十六霊塔）という。その後、徳川家康の命で松平清宗、三宅康貞ら

が番に当たったという。

『甲斐国志』に記される「土堤」（土塁）については、現在まったく認められず、城とされる範囲は不明である。唯一手がかりになるのは稲荷を祀る「東南隅ノ台」と、「堀ハ埋リテ小渠存ス」という記載である。稲荷祠の台（塚）については今日でも良好に遺存し、その脇に溝がある。その地点が記載のとおり城の東南にあたるとすると、脇の溝は堀跡かと思われる。城の規模については「歩」という単位で東西50歩余、南北75歩、土塁の幅を6歩と記載し、『山梨県史』では1歩＝1.8mと捉えて城の規模を東西90m、南北135m、土塁の幅を11mとする。この規模の区画を、稲荷台を東南隅に置いて地図上に落とすと、現状の道路や溝で囲まれた地割におおよそ当てはまり、南北に長い長方形の城館の姿が想像される。ただ、その南側にも連続して長方形の区画が見えることから、連郭状に南北に連なった形ではなかったかと推測される。三十六塚については、今日、大野城推定地の南側に隣接して「三十六」という字名があり、南方200mの重川の堤防脇の畑中には、「三十六霊塔」と刻まれた供養塔が祀られている。

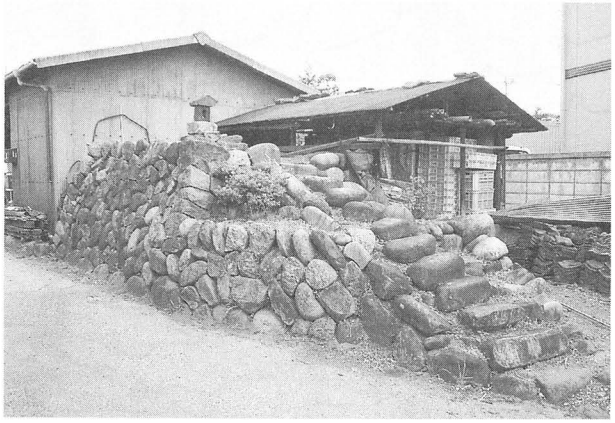


写真4　稲荷祠の塚

写真5　三十六霊塔

写真6　大野五輪塔

ところで山梨市域では詳細遺跡分布調査の結果、126箇所の遺跡が確認され、時代別には縄文時代50、弥生・古墳時代48、奈良・平安時代105、中近世62となっている。

縄文時代の遺跡は、市内では大野地区から下石森地区付近、上栗原地区付近、小原東地区から七日市場地区付近に主な分布域がある。そうした中で高畑遺跡は市内では最も標高の低い土地に位置する遺跡であり、縄文時代中期の典型的な台地上の集落立地とは異なる低地型の集落といえる。

平安時代では市内全域に広く遺跡分布が認められるが、縄文時代の分布をベースにした形で広がっている。高畑周辺では大野地区から上石森地区、下神内川地区に15箇所の遺跡が分布し、「大野郷」遺称地にふさわしい濃密な遺跡分布が認められる。

引用・参考文献

竹内理三編　1984『角川地名大辞典19　山梨県』角川書店
佐藤八郎校訂　1968『甲斐国志』雄山閣
山梨県　2004『山梨県史　資料編7　中世4　考古資料』
磯貝正義監修　1995『山梨県の地名』平凡社
宮澤公雄　2004『堀ノ内遺跡』（財）山梨文化財研究所ほか

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

調査は先述したように、調査は2002年11月から2003年1月中旬まで、約２ヶ月半行われた。山梨市教育委員会の試掘調査の結果を受けて、建物部分と切り土部分の約2500㎡が対象地とされ、工事予定地の中央から北側にかけての範囲を調査することとなった。

まず重機により表土を除去した後、国家座標に基づき調査区内に５ｍグリッドを設定した。人力で精査を行い、遺構確認をするとともに、旧建物の基礎や近世以降と考えられる溝、撹乱坑を先に完掘した。出土遺物は主に平板によって出土地点の図化を行い、レベルを測定し、台帳に通し№で記載した。遺構平面図も同様に平板で作図したほか、土坑、炉、竈については10㎝メッシュを張った取り枠により図化した。また竪穴、土坑、炉、竈等は通常どおり、断面観察、図化したのち、完掘、作図した。埋没谷については当初想定できなかったので、再度重機を入れて掘り下げるとともに、人力で相当量の土量を除去した。埋没谷中央付近にトレンチを設定し、部分的に遺物の有無を調べた。その結果、谷は自然地形であることが判明したため、完掘はせずにトレンチ内の断面図化のみにとどめることとした。また埋没谷南側の微高地では、当初、焼土遺構が数ヶ所あるのみと思われたが、時間が経つに従って砂質土中にいくつかの平安時代の竪穴が確認されたため調査を行った。平安時代の竪穴は調査区内では3軒にとどまったが、埋め土予定の調査区外にかけて、相当数が予想された。全体図作成については、業者委託によりラジコンによる空撮を１回、ポールによる高所からの撮影を１回行い、1/100図を作成した。調査の後半では、建設工事が並行して行われた関係上、市教育委員会を交え、調査に支障がないように工事側と再三協議を行いながら調査が進められた。

第２節　層　序

調査区は中央に斜めの埋没谷があり、北側が微高地状に高く、縄文時代の集落域となり、南側は低くなっている。また埋没谷南側は北側よりも低い微高地となり、平安時代の竪穴が分布する。調査区内のある地点を典型的な層序とすることが難しいと思われたため、調査区の西壁全体の南北方向の断面を図化し、層序とした。西壁の断面図は北側微高地上と、埋没谷以南の南側に分けて図化したが（図６・第22図）、南側については西壁で最下層まで掘り下げることができなかったので、別に谷中央を選んでトレンチを設定し、可能な面まで掘り下げ、図化を行った（図６・第22図）。

西壁（北側）では表土下に旧水田面かと思われる酸化層があり、以下、古墳～平安の包含層（４層）、縄文の包含層（５層）となる。４層は北側中ほどから南側にのみ堆積が見られ、埋没谷に向かって傾斜する。

西壁（南側）は埋没谷上層の断面で、表土以下、古墳～平安包含層（４・７層）、平安の遺構確認面（９・10層）となっている。谷中央は掘り抜いていないが、南寄りに９層が微高地として現れている様子がわかる。

埋没谷トレンチは、谷部中央に谷方向に対し直交するように設定したトレンチで堆積状況を探った。その結果、幅約12ｍの谷内に２回以上の大きな堆積があり、磨耗した縄文土器細片が出土したが、明らかに水流の影響で摩滅していることと、自然の埋没谷のため完掘はせず、トレンチ調査にとどめた。なお、上層で確認された東西方向の６号溝については、斜めにもぐりこんだ層の端を溝として調査した可能性があり、本来は幅が広い自然の溝状遺構であったか、あるいは溝状遺構と重複した溝と思われる。

第３節　遺　構

調査区内には北側に大野共選所があったため、２～３ｍ幅の方形の基礎坑が25箇所程度あり、1.5ｍ四方のコンクリート塊が入れられていた（多くは建物撤去、表土剥ぎの際に除去された）。また調査区中央を斜めに旧道が通り、それに沿って道の両脇を示すと思われる石列、溝が検出されている。旧道は笛吹市春日居町小松方面から大野を経て下石森へ通じる道の一部と考えられ、塩山方面へ抜ける主要路だったという話もある。その旧道、溝によって南北に分けるように、北側の微高地上には縄文時代の遺構が分布し、南側には埋没谷を挟んで南端に平安時代の集落が分布する。

北側では縄文時代の竪穴８軒以上、土坑、ピット、集石があり、道路北側に展開するように集落域が広がる環状集落の一部と思われる。竪穴は縄文中期前半の新道式から中期後葉の曽利Ｉ式まで継続し、１・２号竪穴と10号竪穴内炉Ａ～Ｃは炉が近接して存在することから、竪穴が同一地点で繰り返し構築された状況を示している。またK5・L5グリッド付近には自然堆積による礫の集中部があり、その東側からは細片化した甕を中心とする須恵器が多量に出土した。礫群は当初、古墳の一部とも考えられたが、周濠はなく、南北方向

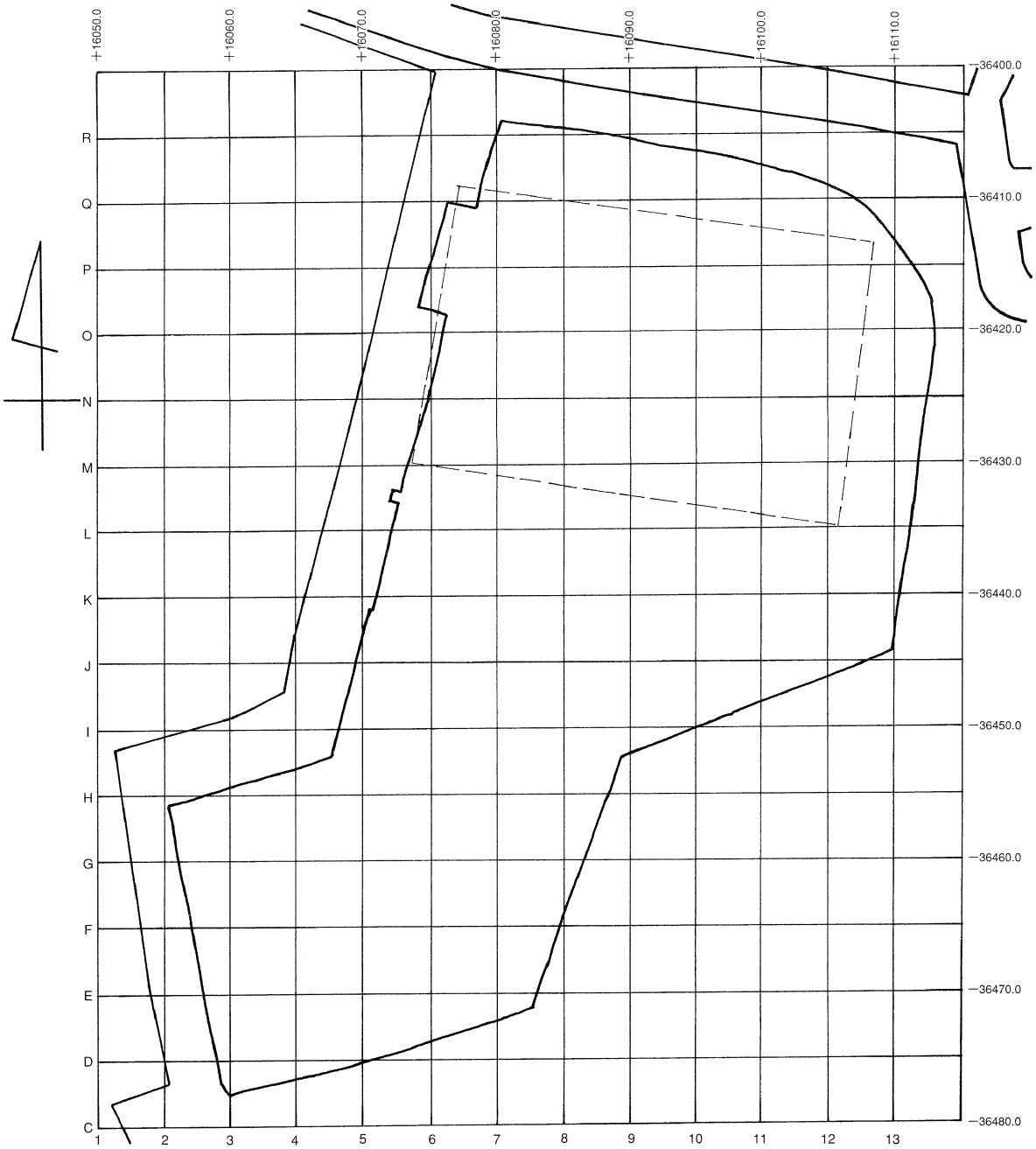


図5　グリッド配置図（グリッド幅は5m）

の自然河道が確認されたことから、地山礫の露出と判断された。そのほか、中世の井戸、溝なども検出されている。

南側ではほぼ全体が埋没谷となるが、南端にかけてわずかに微高地となり、平安時代の竪穴が分布する。3軒が重複することから、周辺には相当数の竪穴が存在することが考えられるが、調査区外は埋め土保存されるということで3軒のみの調査となった。なお山梨市の試掘では調査区外にいくつかの竈らしき箇所が発見されている。埋没谷中には遺構分布は薄いが、覆土中からはやや多くの平安時代から中世の陶磁器類、土師器などが出土した。

そのほか石積みを伴う1～3号溝があるほか、2号溝下層に8・9号溝、さらに埋没谷中央に6・7号溝等の溝跡が検出されている。

(1) 竪穴建物跡

1・2号竪穴（第3・4図）　炉が2箇所隣接し、ともに石囲埋甕炉である。井戸尻式期の石囲い埋甕炉の竪穴を1号竪穴、曽利Ⅰ式期の石囲い埋甕炉の竪穴を2号竪穴としたが、ほとんど同一レベル、同一地点で重なり、竪穴範囲で両者を区別することはできなかったため、「1・2号竪穴」として調査を進めた。遺物はとりあえず井戸尻式期のものを第24図に、曽利Ⅰ式期のものを第25図に分けて掲載したが、井戸尻式期の土

図６　遺跡全体図

器は床直から床下レベルで出土し、床面から覆土にかけて曽利Ⅰ式土器が認められ、覆土中の遺物の大半は２号竪穴に伴うものと考えられる。

１号竪穴の炉（1）は胴下半がくびれたキャリパー形の土器上半を正位に埋設し、土器に密着するように礫を円形に配置したもので、東側は２号竪穴の炉石のため欠失し、南側の礫も失われている。炉体土器の直径は50cm、深さは24cm。内部には焼土層はない。竪穴プラン、柱穴配置は図８に示すように、１号竪穴は主軸長6.0m×交軸長6.3m。７本柱穴の円形プランで、

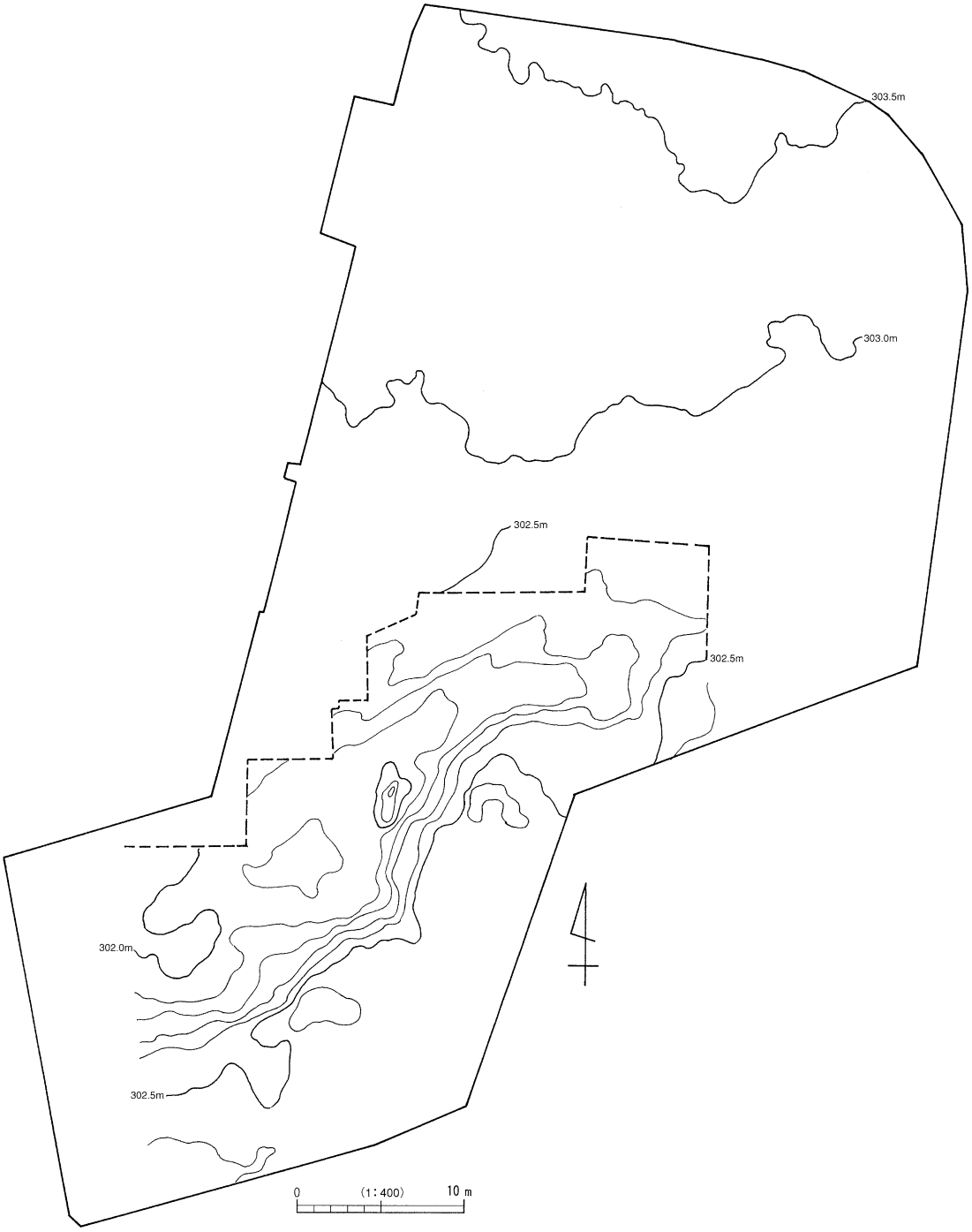


図７　調査区の等高線図

主軸方向はN-14°-Wと推定される。北側には壁が残り、南側では近・現代の浅い削平によって壁を欠失している。壁の高さは約10～15cm。

２号竪穴の炉は、曽利Ⅰ式の底部付近を欠く長胴甕形土器を正位埋設した石囲い埋甕炉である。頚部から口縁部にかけての破片が土器内部に落ち込んでいた。炉石は土器からわずかに離れて配置され、円形、あるいは多角形を意図した配置となっている。炉体土器の口径44cm、高さ42cmと非常に深い炉である。炉体土器内部には焼土層はない。１号竪穴炉同様に南から東側の炉石を欠失する。竪穴は長軸長5.9m×交軸長6.6mの円形プランで、６本あるいは７本の柱穴配置と思われるが、柱穴確認が不十分な部分があったことと、基礎が撹乱しているため、とくに南側の柱穴が確認されていない（図８では６本として推定）。主軸方向はN-17°-E。竪穴の深さは約10～25cm、１・２号竪穴周辺の遺構構築面は砂質土で、ピットを完掘して放置しておくと雨水が溜まり、壁が崩落することがたびたびあったことから、柱穴も埋まりやすく、確認が難しいと考えられる。

南側には正位埋甕がある。竪穴出入り口部に埋設された埋甕とすると、炉と埋甕を結ぶラインを主軸線とみなすことができる。ただし、埋甕は必ずしも主軸線上にあるとは限らないため、確かではない。埋甕の大きさは直径32cm、深さ18cm。埋甕と埋甕炉の上部のレベルはほぼ同じである。この時期の埋甕にしては器高が低く、埋甕ではなく炉体土器であった可能性も想定されるところであるが、一応２号竪穴に伴う埋甕とみなしておく。壁は東側がわずかに検出されているほか、北側にはわずかに壁と思われる段差が存在する。

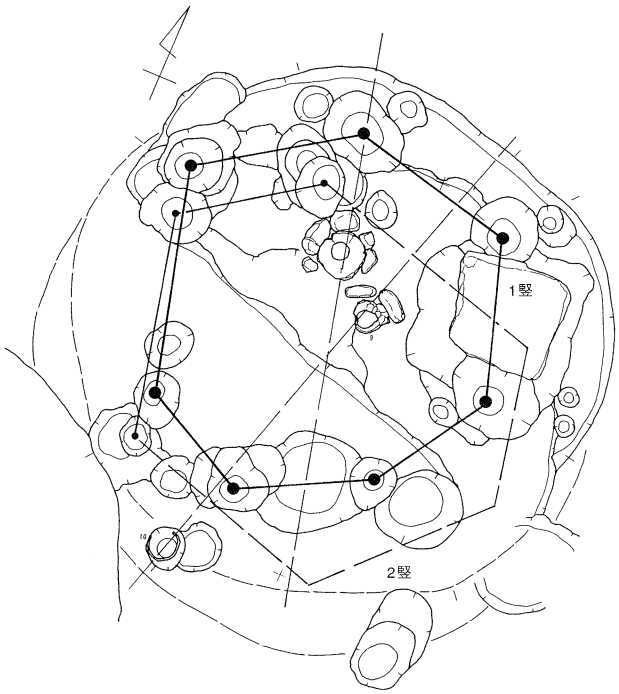


図８　１・２号竪穴柱穴配置図

３号竪穴　当初、１号井戸周辺（４号竪穴北側）を設定したが、竪穴とはならず、井戸に伴う付属施設関連の掘り方と考えられたため、欠番とした。

４号竪穴（第４・５図）　長軸長6.7m、交軸長5.0mの楕円形の竪穴で、２基の基礎のために撹乱を受けている。炉は竪穴中央に炉体土器残片と思われる土器片を残す皿状ピットがあり、炉と考えておくが、通常は奥壁寄りにあることから、31号ピットあたりの可能性が高い。壁は基礎に切られた部分を除き全周する。南側の壁は一応掘り上げたが、不明瞭であった。壁は深さ20～30cmで傾斜は緩い。柱穴は基礎中に２本の柱穴を想定し、７本柱穴と考えられる。主軸方向はN-25°-W。

遺物床面直上を中心に数個体の新道式土器が出土したほか、床面上には焼成不良の土器、未焼成の粘土らしき土壌、土偶脚部片など数点が出土した。粘土がど

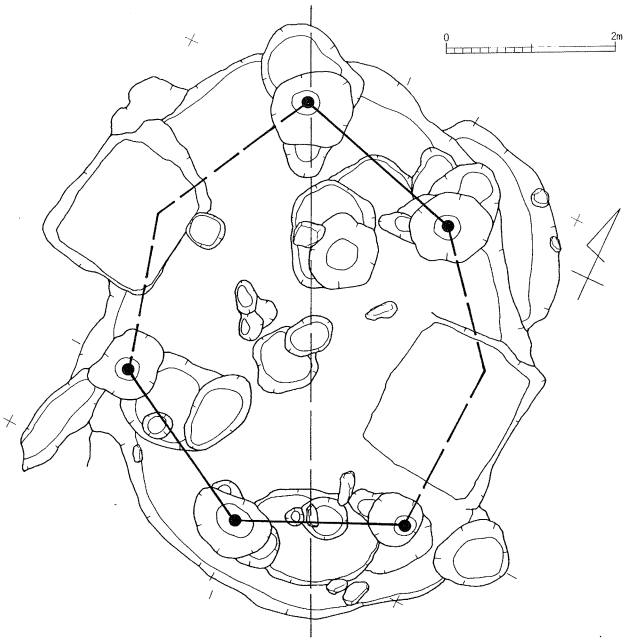


図９　４号竪穴柱穴配置図

のような性格のものか十分な観察ができなかったが、土器製作関連遺構としての竪穴であった可能性がある。床直以外の遺物の多くは竪穴覆土中から出土したが、31号ピット脇の浅い掘り方中からは口縁部をわずかに欠くだけの小型深鉢１点（17）と、深鉢底部を打ち欠いて小型容器としたらしい転用土器２点（５・６）が底面に密着するように出土した。転用土器は5が正位、６が逆位で出土し、何らかの収納状況あるいは使用状態を示しているようであった。

５号竪穴（第６～８図）　長軸長6.4m、短軸長5.4mの楕円形プラン。深さは20～25cm。南壁に48・49号土

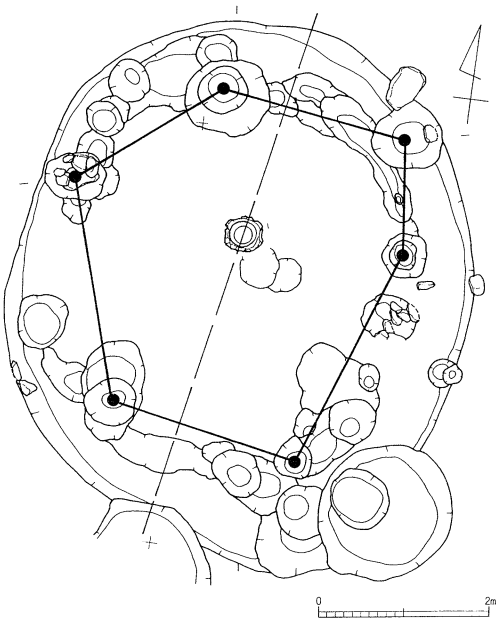


図10　５号竪穴柱穴配置図

坑が重複する。中央奥寄りに埋甕炉がある。胴下半を欠失した直径38cm、高さ33cmの深鉢形土器を正位に埋設し、炉体内に焼土層はない。床面は特に堅緻な面は認められなかった。柱穴は5～6本柱穴と考えられ、炉裏に1本を配した5角形配置（36・39・40・41・84号ピット）あるいは85号ピットを加えた6本柱穴かと思われるが、ほかにやや浅いピットもあり、検討を要する（図10では6本柱を想定）。主軸方向は6本として想定した場合はN-22°-E。柱穴としたピット中からは、いずれも竪穴覆土と同時期の土器片を含んでいる。柱穴の深さは約40～70cmで、38号ピットには覆土上層に礫が詰め込まれたように出土した。部分的に柱穴間を連結するような不明瞭な溝が存在したが、全周しない。

覆土中には礫が多量に含まれ、とくに40・41号ピットをつなぐように検出された周溝上層には、帯状の配置を意図したように礫が出土し、また炉上層、南西壁寄りにも同様の礫が存在した。いずれも竪穴廃絶後に投棄された礫と思われるが、帯状の集積が何を意味するのか不明である。

土器は礫の下層を中心に復元可能な多くの新道式土器が出土したほか、上層から中層にも破片を中心に分布する。土器以外の遺物として土偶が目立ち、分割塊の接合部で剥離した土偶下半身の破片が、近い位置から出土して接合した例など、接合関係をもつ資料が4例存在し、注目される。とくに土偶の出土位置がいずれも帯状の礫で囲まれた内側からで、復元個体の土器にもそうした出土傾向があり、竪穴廃棄後、土器等の廃棄坑として利用される中で土偶についても何らかの廃棄行為が行われていることを伺わせる。帯状の礫は廃棄坑として礫を捨てた際に、埋没過程にある壁面近くに礫を積み上げて片付けた状況と理解しておきたい。

6号竪穴（第8・9図）　調査区北東端、P12グリッド付近で、調査区外に3分の1がかかるようにして検出された竪穴。長軸長5.6m、交軸長4.0m（推定5.0m）で、円形プラン。6本以上の柱穴が存在するが、炉裏の44号ピットと炉を結ぶラインを主軸線とする7本柱穴であろう。柱穴配置は図11の通りで、各ピット（柱穴）は40～50cmの深さをもつ。主軸方向はN-49°-W。炉は中央やや北側にあり、小型石囲い炉で、2個の細長い礫2個が残るのみであるが、おそらく逆五角形に組んだ石組炉である。0.55×0.5m、深さは16cm。南壁寄りに不整形の掘り方を呈した49号ピットがあり、集石状に礫が多数入っていた。竪穴廃棄後の重複と思われる。周溝はない。覆土中には主に北側に礫が散在する。

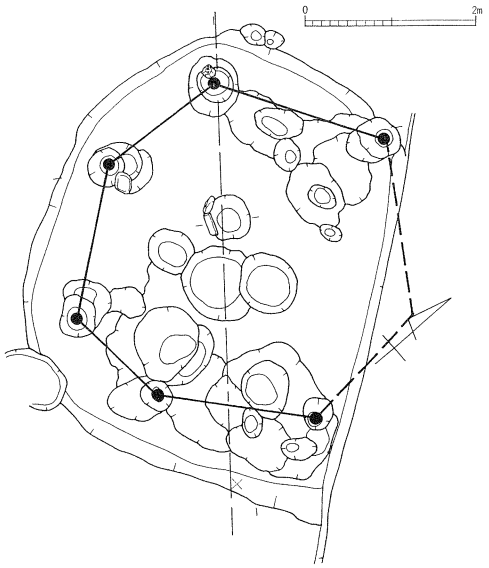


図11　6号竪穴柱穴配置図

遺物は井戸尻式土器を中心とし、遺物量は全体的にやや少ない。床面からは中空の土偶頭部あるいは顔面把手が44号ピットに接して出土したほか、珍しいものでは耳栓、浮子状軽石製品がある。

7号竪穴（第9・10図）　調査区南端、F8グリッド付近に位置し、南西隅の壁が9号竪穴と接する。竈の礫が遺構確認時に露出し、竈と判明したため、竪穴プランを探した。黄褐色砂質土が地山で、覆土は暗褐色土のためプランは分かりにくく、当初は竈西側に広がる竪穴と想定し、調査を進めたが、遺物がなく、壁もはっきりしないため、改めて東側を精査し、プランを確定した。東西3.2m×南北3.5m、深さ10cmの隅丸方形プラン。主軸方向はN-15°-W。西壁ははっきり確認されたが、南側については壁がない。第9図では破線で推定ラインを示したが、もう少し大きかったかもしれない。

竈は北西隅寄りの石組み竈で、袖石は残るが、天井石は欠失する。遺物は竈周辺からやや多く出土した。竈は長さ1.5m、袖石間の幅約30cm、長さ60cm。手前に1.4m四方、深さ10cmの掘り方を伴い、炭化物がやや多い。袖石は3個の石を立てて並べたもので、一部2段積みとなる。

時期的には10世紀後半で、8号竪穴とほぼ同時期。

8号竪穴（第9・10図）　E6グリッド付近にあり、東西3.4×南北3.3mの隅丸方形プランで、深さ37cm。主軸方向はN-83°-E。プランがほとんど見えなかったため西壁については不明確で、もう少しのびる可能性がある。南壁は9号竪穴床面に切り込んでいたことから、南東コーナー部のプランは判明したものの、全体的に明確ではない。北壁は遺構確認時にわずかに識別

できた。

竈は南東隅寄りで、袖石が遺存するが、天井部は欠失する。竈は長さ75cm、幅96cm、袖石間の幅45cm、袖石の長さ52cm。竈手前には炭化物の層が見られた。竈内中央南寄りに支脚石（17）が立ったまま遺存する。竈北側の東壁に幅28cm、長さ95cm、深さ４cmの周溝をもつが、その他の壁際にはない。

遺物は竈周辺を中心に、竪穴内北東側に分布し、床面から11の脚付き鉢？が正位で出土した。時期は10世紀後半。

９号竪穴（第９・10図）　調査区南端、E7グリッド付近にあり、東西3.5m、南北3.0mの隅丸方形プランで、主軸方向はN-80°-E。８号竪穴に南西隅を切られ、東壁付近は7号竪穴と重複する。南壁は南東隅付近に畑の地境の石垣があるため、わずかに完掘できていない。南壁には幅30cm、長さ2m、深さ数cmの周溝が巡る。東、北壁は明確に検出され、周溝はない。本竪穴西側、西壁寄りに竈袖石状の礫が露出し、竈の可能性が高く、９号竪穴の西側にもう１軒存在した可能性があるが調査することができなかった。

竈は東壁わずかに南寄りで、石組の袖石は良好に残るが、天井石は欠失する。長さ1.55m、幅0.85m（焚口）、袖石間の幅35cm、長さ45cm。竈内には、石組間から土師器皿の完形品が逆位に出土し、竈廃棄時の祭祀行為に伴って意図的に伏せられた可能性があるが、底面から浮上するため、偶然的な出土状況ともいえる。竈手前に80cm四方もの大きめの竈焚き口がある。南東隅には竈状に組まれた石があり、南東付近にさらに竪穴の切りあいがあった可能性もあるが、調査区境の石垣がせまっていたため、石垣関連の礫の可能性もあり、現場では判断ができなかった。

遺物は竈周辺を中心に出土し、時期は10世紀前半。

10号竪穴（第11～12図）　N8グリッド付近に位置し、北壁を旧共選所基礎が切り、中央付近には５号溝が重複する。炉が３箇所近接して存在し、柱穴も数軒分存在することから、３軒に分けられるが、ここでは３軒分が重複したプランとして当初把握された範囲を10号竪穴とし、各炉を10A、10B、10Cと区別する。柱穴配置はよくわからないが、７m規模の円形、楕円形プランであることから柱穴本数は５～７本が想定される。北側では２～３軒分の柱穴が密集した状況を呈すが、南側にはほとんど確認できておらず、柱穴配置、竪穴主軸方向を検討できる状況ではないものの、10A号竪穴を5本柱穴、10B号竪穴を6本柱穴、10C号竪穴を不明として一応図12のような想定をした。

10A号竪穴は石囲埋甕炉を炉とする竪穴で、炉は口径40cm、高さ41cmの胴部が強く括れた土器を転用する。口縁部の４個の突起は除去され、破断部は磨かれている。口縁部に接するように楕円形の礫７個が円形に平置きされ、ほぼ完全な炉の状態を保つ。竪穴規模は推定6.5×6.0m、主軸方向はN-38°-W。柱穴は５本と考えておく。床面には南側に正位の埋設土器がある。井戸尻式土器の長胴甕タイプの深鉢底部を打ち抜き、口縁部を欠く土器で、どの竪穴に伴うものか明確ではないものの、土器の時期が10A炉と同じと考えられることから、10A号竪穴に伴うと考えておく。中期中葉の屋内埋甕の類例はきわめて少なく、県内では例外的に藤内式期があるが、通常は曽利Ⅰ式期を初現とされている。とりわけ中期後半の埋甕のように竪穴主軸線上の推定出入り口付近に位置する例はほとんどなく、主軸線から外れる例が数例知られる。

10B号竪穴の石囲い炉は、５個の楕円形の礫を円形に並べ平置きしたもので、北西側の炉石は欠失する。炉の正面は不明ながら、南側に用いられたやや長めの礫が正面に当たる炉石かと思われる。78×70cm、深さ20cm。竪穴規模は7.5×6.5m、主軸方向はN-9°-W。

10C号竪穴の炉は埋甕炉を炉とする竪穴で、西側はピットの掘り方のためか欠損する。石囲いおよび焼土はなく、埋甕（埋設土器）の可能性もある。80×68cm、

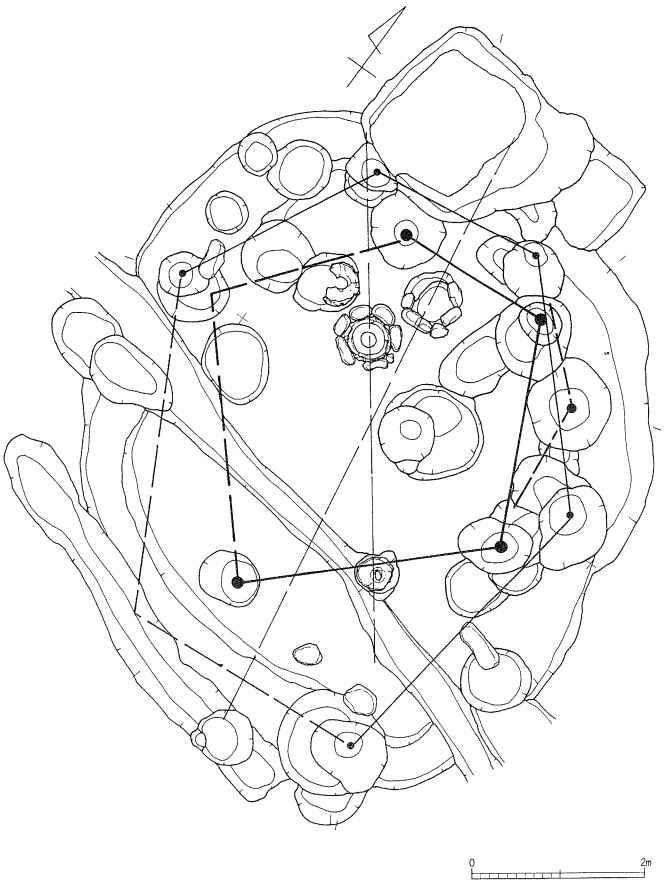


図12　10A～C号竪穴柱穴配置図

深さ21cm。竪穴規模、柱穴配置は不明。

これらの炉の状態、形態からみた変遷は、10B・10Cが古く、10Aが最新で、10Bと10Cの前後関係については石囲いの平面形が藤内式に近い10Bを古く見ておきたい。

竪穴内42号ピットと86号ピットからは、柱穴に接するように長さ50～60cmの棒状自然石が横たわって出土した。42号ピットについては深さが浅く柱穴ではないか、柱穴が確実に検出されていない。礫の出土位置はともにピットに対して壁側ではなく室内側にあり、柱に立てかけるようにして置かれていたらしい。こうした事例は井戸尻式期を中心に山梨県内で散見され、屋内祭祀の一種と考えられている。竪穴主軸線を中心に左右対称に配置される例、奥壁の立石のように1本のみの例のほか、富山県東黒牧上野遺跡のように各柱穴に配置される例などがある。また両者が同一の竪穴空間に配置されるのか、別の時期なのかについても検討を要するが、ここでは両者を10B号竪穴に伴う屋内配石としておく。

覆土中からはやや多くの遺物が10A号竪穴の想定床面範囲を中心に、やや浮いた状態で出土した。

11号竪穴（第13・14図）　P10グリッド付近にあり、13号竪穴と重複する。また南壁付近には旧共選所基礎があり、竪穴の一部と重複する。当初、土坑群と誤認し、いくつかの土坑を半裁するなかで、土器の出土状況が竪穴的と考えられるところがあり、再精査を行って遺構確認をし直した。重複のため竪穴プランが不明瞭であるが、主軸長約4.5m、交軸長約4.0mの円形に近い楕円形プラン。主軸方向はN-9°-W。65・67・68・90号ピットが柱穴で、4本柱穴とするが、炉裏の91号ピットも可能性がある。深さは約40～60cm。柱穴間を不明瞭な周溝がつなぎ、壁はその外周にある。柱穴の外周、壁際をわずかに高くするベッド状遺構の類と思われる。さらに西壁下には不明瞭な周溝が部分的に存在する。

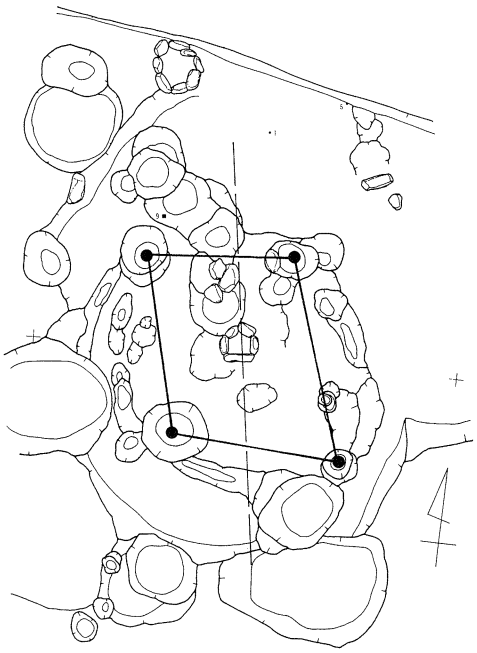


図13　11号竪穴柱穴配置図

炉は竪穴の中央付近にあり、細長い円礫を五角形に組んだ石囲い炉で、完存する。46×42cmの小型で、深さ13cm。焼土はない。

遺物は必ずしも多くはないが、床面、ピット付近からまとまった個体が出土し、とくに65号ピット付近では1の底部を欠く深鉢が完形の鉢（12）の直上から出土し、そばからは完形の台形土器（14）が受け面を上にして正位で出土した。また2個の自然礫を用いた台石が北東、東南寄りから出土している。

12号竪穴（第13図）　Q10グリッド付近、調査区北側中央の調査区境壁際で、調査の最終段階に検出された。13号竪穴と重複し、炉と周辺がわずかに遺存するが、壁は全く不明で竪穴規模は不明。柱穴については11号竪穴内にいくつか分布するが、はっきりしない。炉は楕円形の石囲い炉で、楕円形の円礫を8個用い、平置きではなく横長に縦置きしている。65×60cm、深さ14cmで、焼土はなし。炉底部から新道式土器片が1点出土している。

13号竪穴（第13図）　11号竪穴と重複し、10号溝が東壁付近と重なっているため、竪穴のプラン自体がわかりにくくなっている。床面は深さ22cm程度のほぼ平坦で、床面中央付近には炉石の可能性がある長細い礫が1個設置され、その北側が地床炉的に凹みをもつ。焼土はない。遺物出土量はきわめて少なく、縄文中期の土器片を主とするが、刃部を局部的に研磨した打製石包丁（11）、弥生後期と思われる土器（5）があり、炉の形態を考えると弥生後期の竪穴の可能性が高い。柱穴は未確認である。壁は非常に緩やかで、周溝はない。竪穴とすれば推定6.0×5.5mの楕円形プランとなる。

(2) 焼土遺構

1号焼土（第14図）　調査区南西端、D2グリッドにあり、調査区外にかかる。1.2×1.0mの浅い土坑状の落ち込みを呈し、焼土ブロック、礫、土師器がまとまっている。また全体的に焼土が散在する。竈の可能性も考えられるが、礫のあり方、焼土の堆積状況から、調査時点では竈と判断できなかった。

2号焼土（第14図）　D3グリッドに位置し、1号焼土に近い。土坑状の掘り方をもち、表面中央付近に焼土が濃く分布する。土坑は1.27×1.15m、深さ14cm。

(3) 屋外埋甕

1号埋甕（第14図）　M8グリッドにあり、曽利式のX把手付深鉢の胴上半が正位に埋設され、周囲の50号土坑などにも同一個体片が散在する。無文口縁部は53号土坑内出土。埋甕掘り方は径70cm、深さ12cm。

2号埋甕（第14図）　M7グリッドに位置する。径58×46m、深さ16cmの掘り方中に無文の深鉢底部を正位に埋設したもので、周囲にはいくつかの礫が分布する。土器型式、時期はよくわからないが、そばには1号埋甕が存在し、2基のみではあるが屋外埋甕分布域として捉えることもできる。

(4) 集石

1号集石（第15図）　10号竪穴南側の溝状遺構で、内部には礫が多数入れられている。溝は長さ5.1m、幅0.6m、深さ約5cmで、時期を示す遺物は出土していない。5号溝と1.7mの間をおいて平行し、なんらかの関係を伺わせるが、旧水田面の暗渠の可能性もある。

2号集石（第15図）　P11グリッド、10号溝中に位置する集石で、土坑状の浅い掘り方を伴う。径84m、深さ12m。遺物はとくになし。

(5) 井戸跡

1号井戸（第15図）　P9グリッドに位置する小型円形の石組み井戸で、深さ約1.0m。高さ0.8mに石積みをし、内部に径50cm、高さ15cmの木製の曲物を設置している。石組は上端で径0.8m、底付近で径0.5m。曲物下には小礫が分布し、さらに底にかけては約0.25mの深さをもち、古銭2枚と完形の小型灰釉蓋状製品が出土した。井戸は上部石積みを欠失していることも考えられるが、現状では浅いことから、往時の地下水位の高さを示している。なお、本井戸跡は現位置のまま共選所北側の駐車場内に埋設保存措置がはかられた。

(6) 土　坑

1号土坑（第15図）　Q6グリッドにあり、1.2×1.0m、深さ9cmの浅い円形の土坑。

2号土坑（第15図）　Q9グリッドにあり、1.14×0.82m、深さ18cmの楕円形土坑。

3号土坑（第15図）　Q10グリッドにあり、1.12×1.04m、深さ21cmの円形土坑。

4号土坑（第2図）　L7グリッド所在の撹乱坑。

5号土坑（第2図）　M7グリッド所在の撹乱坑。

6号土坑（第1図）　N7グリッド所在の撹乱坑。

8号土坑（第2図）　M8グリッド所在の撹乱坑。

9号土坑（第2図）　M8・9グリッド所在の撹乱坑。

10号土坑（第2図）　M9グリッド所在の撹乱坑。

11号土坑（第16図）　Q8グリッドにあり、2.42×1.42m、深さ17cmの楕円形土坑。いくつかのピットが重なり、不整楕円形を呈する。井戸尻式期か。

12号土坑（第16図）　Q8グリッド内、11号土坑北側にあり、1.2×1.1m、深さ20cmの不整円形の土坑。

13号土坑（第16図）　Q9グリッド内。1.0×0.76m、深さ24cmの楕円形土坑。15・19号土坑と重複する。井戸尻式期か。

14号土坑（第16図）　Q9グリッド内。1.28×1.1m、深さ25cmの隅丸方形土坑。19号土坑と重複する。

15号土坑（第16図）　Q9グリッド内。1.1×0.86m、深さ15cm。13・19号土坑と重複。

16号土坑（第16図）　Q9グリッド内。0.9×0.8m、深さ12cmの円形土坑。15・19号土坑と接する。井戸尻式期か。

18号土坑（第16図）　P9グリッド内。1.72×1.2m、深さ12cmの浅い楕円形土坑。

19号土坑（第16図）　Q9グリッド内。1.26×1.2m、深さ66cm。13～16号土坑と重複する。覆土中位には15～35cm大の礫を多く含む。

20号土坑（第16図）　I10グリッド内。2.08×1.5m、深さ8cmのごく浅い楕円形土坑。

21号土坑（第17図）　N6グリッド内。1.14×1.12m、深さ18cmの円形土坑で、中央～北側に礫が複数集まっている。

22号土坑（第17図）　N6グリッド内、48号土坑と重複する。1.32×1.21m、深さ20cmの円形土坑。覆土中に礫・土器を含む。

23号土坑（第17図）　N7グリッド内。1.9×1.55m、深さ16cmの不整形土坑。

24号土坑（第17図）　N6グリッド内。1.28×1.12m、深さ38mの円形土坑で、34号土坑と重複する。井戸尻式期か。

27号土坑（第17図）　M8グリッド内。1.08×1.08m、深さ10cmの円形土坑で、41号土坑と重複する。

28号土坑（第17図）　M8グリッド内。1.22×1.06m、深さ83cmの円形袋状土坑。覆土中位～下位に遺物がやや多く分布した。井戸尻式期。

29号土坑（第18図）　L6グリッド内。2.8×1.95m、深さ55cmの不整形土坑で、36号土坑と重複する。脆い1個体分の大型深鉢の破片が多く出土した。井戸尻式期。

30号土坑（第18図）　M9グリッド内。1.2×1.04m、深さ27cmの円形土坑で、断面はボール状。

31号土坑（第18図）　N10グリッド内。全体では2.7×1.8m、深さ48cmの不整形土坑で、中心に0.9×0.75mの円形土坑がある。周囲が大きく落ち込み、断面はボール状をなす。中央土坑中には底面にほぼ接するように、縁が発達しない完形の台石が上向きに遺存し、土器片

も分布する。周囲の浅い掘り方中からは黒曜石製石匙が出土している。

32号土坑（第18図）　N11グリッド内。0.8×0.78m、深さ10cmの浅い円形土坑で、33・37号土坑と接する。

33号土坑（第18図）　N11グリッド内。1.1×1.0m、深さ14cmの浅い円形土坑で、32号土坑と接する。藤内式期か。

34号土坑（第17図）　N7グリッド内。1.28×1.15m、深さ22cmの円形土坑で、24号土坑、ピットと重複する。やや浅い皿状の土坑で、覆土中層にまとまって鉢形土器が出土した。井戸尻式期。

35号土坑（第19図）　N7グリッド内。1.18×0.95m、深さ28cmの楕円形土坑で、内部には20～40cm大の礫5個が入れられている。

36号土坑（第18図）　L7グリッド内。2.02×1.86m、深さ51cmの円形土坑で、径20～50cm大の礫が多数出土した。

37号土坑（第18図）　N11グリッド内。0.95×0.84m、深さ6cmのごく浅い円形土坑で、32号土坑と接する。覆土中に径18～40cmの礫を含む。

38号土坑（第19図）　N9グリッド内。1.6×1.36m、深さ42cmの円形土坑で、円形の撹乱坑と重複する。断面ボール状。

39号土坑（第19図）　M6グリッド内。0.68×0.65m、深さ20cmの円形土坑で、両側に小ピットが重複する。

40号土坑（第19図）　M8グリッド内。1.45×1.18m、深さ38cmの円形土坑。断面はタライ状。底面には小礫が多数露出する。

41号土坑（第19図）　M9グリッド内。1.14×0.9m、深さ41cmの楕円形土坑で、いくつかの掘り方が重複し、全体で1.96×1.43mの不整形を呈す。覆土中層からは土器片が多く出土した。藤内式期。

42号土坑（第19図）　O10グリッド内。2.08×1.4m、深さ38cmの不整形土坑で、複数の掘り方が重複した形を呈す。西側のピットに20～40cm大の礫が集まる。

43号土坑（第20図）　P8グリッド内。1.26×1.08m、深さ17cmの円形土坑で、44号土坑を切る。断面は皿状。

44号土坑（第20図）　P8グリッド内。1.0×0.88m、深さ26cmの円形土坑で、断面はタライ状。

45号土坑（第20図）　P10グリッド内。1.52×1.34m、深さ34cmの楕円形土坑。11号竪穴と重複する。

48号土坑（第20図）　O7グリッド内、5号竪穴と重複する。1.6×1.5m、深さ33cmの円形土坑。小型深鉢(1)が逆位で出土。石囲い状の配石をもつが、炉石ではないと思われる。

49号土坑（第20図）　O7グリッド内、5号竪穴と重複。1.54×1.43m、深さ32cmの円形土坑。曽利Ⅰ式期。

50号土坑（第20図）　M7グリッド内。1.2×1.05m、深さ22cmの円形土坑で、ピットが重複する。皿状の断面で、覆土中位に大型深鉢の大破片が1個体分割れた状態で重なっていた。曽利Ⅲ式期？。

51号土坑（第3図）　M7グリッド内。2.8×2.4m。土坑ではなく、撹乱坑かと思われる円形の落ち込み。

52号土坑（第20図）　P10グリッド内。1.3×1.14m、深さ22cmの不整形土坑で、断面は皿状。中央、覆土上層に遺物がまとまって出土。曽利Ⅰ式新～曽利Ⅱ式古段階のX把手甕などがある。

53号土坑（第20図）　P10グリッド内、11号竪穴と重複。1.03×0.86m、深さ50cmの円形土坑で、断面は袋状に近い箱形。上層に細片化した土器片が多く出土した。

54号土坑（第20図）　Q7グリッド内。1.08×0.88m、深さ20mの円形土坑で、中央に胴下半のみの深鉢が底面直上に横位で出土した。断面は皿状。新道式期。

55号土坑（第21図）　Q8グリッド内。1.45×1.35m、深さ19cmの浅い円形土坑。

56号土坑（第21図）　P9グリッド内。1.15×0.91m、深さ44cmの円形土坑で、断面はボール状。

57号土坑（第21図）　P10グリッド内。0.92×0.69m、深さ24mの楕円形土坑で、断面はボール状。

58号土坑（第21図）　P8グリッド、1・2号竪穴内。1.0×0.9m、深さ18mの浅い円形土坑で、14～40cmの礫とともに土器が出土した。新道式期。

59号土坑（第21図）　P8グリッド内。1.3×0.72m、深さ34cmの楕円形土坑で、北側に土器下半部が斜めに置かれ、南側はさらに深いピットとなる。新道式期。

(7) ピット

土坑以外をピットとし、1から101まで番号をつけた。径20cm程度の細いピットがP8、Q7グリッド付近に集中し、中世の掘立柱建物に関わる柱穴と考えられるが、柱穴配置については十分な検討を行うことができなかった。そのほか、埋没谷周辺にもF4・H8・I9グリッドに小型ピットのまとまりがあり、中世、あるいは平安時代の柱穴と考えられる。ここでは第21図にあるピットについて説明を加える。

49号ピット（第21図）　P12グリッド内。6号竪穴の床面に重複して検出された。1.4×1.0m、深さ22cm。覆土中には底から18cm程度浮上して10～30cm大の礫が集中して出土した。

74号ピット（第21図）　P8グリッド、1・2号竪穴内。58号土坑、75号ピットと重複する。1.7×1.16m、深さ22cmの円形で、南東側に重複するピット内には1

個分の井戸尻式土器片が破片の状態で重なるように出土した。

(8) 溝

1号溝（第3・23図）　K9～K11グリッドに位置する石積みを伴う溝。幅30cm、深さ30cm、長さ16mで、東西方向に直線的に通る。石積みは自然円礫を2段程度行う。東側は3号溝に接続し、西側は2号溝に接続する。1～3号溝は全体で直角三角形の形に配され、2号溝が旧道に関連した溝と考えられることから、それらは同時期の地境溝で、田畑に関わる溝かと思われる。溝中からは近代～現代と思われる瓦礫等が混じり、旧共選所以前に溝として機能していたことが考えられた。また旧共選所の南辺と平行することから1号溝については旧共選所の雨落ち溝、あるいは地境の排水溝として機能していたことも想定される。中世と思われる5号溝と平行することから、何らかの古い地割に沿った構築とも思われる。

2号溝（第2図）　J5～M12グリッド付近に位置し、調査区中央を斜めに横切る溝で、長さ42mを確認した。両脇には断続的に石が直線的に並んでいるが、配石は溝の北側では溝から離れた外側にあり、それとは別に幅の狭い石積みをもつ溝が南側にあり、1・3号溝と同様の規模、形態の溝となる。したがって道の脇に側溝が平行すると考えられる。幅0.9～2.2m、深さ約40cm。2号溝に沿って、あるいは重なるように以前は道があったとされ、図3でも旧共選所脇まで斜めに道がのびている状況がわかり、一説には塩山方面への脇道といわれる。なお、2号溝の調査後、全体を確認面まで下げたところ、第3図に示すように、ほぼ同じ位置に古い溝の一部が確認された（8号溝）。調査区南側では2号溝と同じ方向で埋没谷が確認され、ほかにもいくつかの溝が存在することから、埋没谷が平地化していくなかで以前の溝を踏襲するように各時期に溝が作られ、重複したと考えられる。

3号溝（第3・23図）　J11～M11グリッドに位置し、石積みをもつ直線的な溝で、16mにわたって南北に伸びている。第3図では、溝が旧共選所基礎を切るように示されているが、配石は基礎面よりも深いところにあり、基礎が新しい。旧共選所以前に存在した溝である。

4号溝（第1図）　調査区北西隅、Q7グリッド付近に位置する南北方向の溝。幅0.7～1.8m、深さ約10cm、長さ6mで、1·2号竪穴西側以南で消えている。K6グリッド付近に溝状遺構があるが、それにつながるものかどうかはわからない。

5号溝（第1・23図）C6～N11グリッドを東西に横切る溝で、5・10号竪穴を切る。東側では幅1.5m、深さ40cmと幅広で深く、西側では幅0.8m、深さ20cmと狭い。東側には杭列があり、護岸の杭と思われるが、遺存状況は悪く、取り上げていない。遺物は志野皿、明染付皿などがあり、中世の溝の可能性が高い。溝からやや離れて平行する石列がある。溝から0.7m離れて東西方向に15m並ぶ。溝と関連した配石で、地境を示すものと考えておきたい。また10号竪穴南側には5号溝と平行するように1号集石がある。溝中に礫を充満したもので、これも5号溝に関連した遺構と推測しておきたい。

6号溝（第2・23図）　G3～K9グリッドの埋没谷上層で検出された溝。幅0.7～1.5m、深さ16mで、調査区内では40mを確認している。埋没谷断面のトレンチで溝の断面を観察したが、埋没谷自体が数度の洪水で形成された複合的な堆積状況を示し、溝として調査した部分が自然堆積層の縁部であった可能性もあり、幅については厳密ではない。完形の土師器椀、須恵器長頸壷が出土し、古墳時代末の流路と考えられる。

7号溝（第2・23図）　I9～J8グリッドに位置する。6号溝と直交する溝で、6号溝を起点としてわずかに曲がりながら直線的に南北にのびる。幅0.3～1.2m、深さ18cm、長さ11m。

8号溝（第2・23図）　J7～L9グリッド付近、2号溝下層付近で検出された溝で、微高地と埋没谷の境にあり、埋没谷方向と平行する。断続的に南西方向に伸びると考えられる。幅2m、深さ22cm、長さ17m。

9号溝（第2・23図）　L8～M9グリッドに位置し、8号溝北側に平行する。幅0.8～1m、深さ80cm、長さ12m。全掘しておらず、一部のみ調査を行った。

10号溝（第1・23図）　N11～P11グリッドに位置し、南北に直線的な溝である。当初、北側と南側で別の溝と判断したが、断続的ではあるものの同一ライン上にあることから、整理の段階で同じ溝とした。幅0.9～1.1m、深さ13cm、長さ15.5mで、南側は5号溝にほぼ直角に取り付き、北側は13号竪穴を切る。西側には4号溝が本溝と平行するように存在することから、4・5・10号溝で何らかの区画溝を構成するとも推測できるが、はっきりしない。本溝中にはP11グリッド内に2号集石があり、さらに北側にも小礫が集中する部分がある。集石は重複するものではなく、溝に伴うものかもしれない。

埋没谷（図6、第2図）　E3～M13グリッド付近に所在し、上層は調査区中央から南に向かって浅く埋没する。調査では調査区内にかかる約7割の部分を掘り下げ、上層と重複して平行する溝を調査後、H5～G6グ

リッド付近に溝方向と直交するように長さ13m、幅130mのトレンチを設定し、人力で可能な限り掘り下げた。その断面図が第22図で、それによれば中央やや右寄りに3～7層で示されるように幅4m、深さ1mの自然河道があり、その上層に6層の一部がある。また南側には何回かの落ち込みがある。調査区西側の調査区壁に沿った断面図中、南側の図にも埋没谷が落ち込んでいく様子が見える。地山は南側の微高地に向かって上がっていく。第22図によれば埋没谷は幅推定15m以上であるが、上層の調査にとどめたため、はっきりした上端ラインをしめすことができていない。遺物は第22図18層中より磨耗した縄文中期後半の土器片が出土したが、溝が自然河道であること、遺物が比較的少なく摩滅していること、上層の土量が大量であることから完掘はせずにトレンチのみとした。この埋没谷は現況の地図上でも等高線の状況から存在が推測でき、調査区付近を斜めに横切る谷（旧河道）が想定される。

第4節　遺　物

(1) 竪穴建物跡遺物

1・2号竪穴遺物（第24～26・90図、図版15）　覆土は浅く、炉体土器を除くと遺物は少ない。1は炉体土器。幅広の横帯文で、大きな楕円区画中に太い沈線で文様が描かれる。2も1に類似した器形で、10号竪穴炉体Aに似た3本指の手のモチーフをもつ。3·4は同一個体で、楕円横帯文土器。6は曽利Ⅰ式直前段階、5は曽利Ⅰ式古段階の土器で、6の隆線上のキザミは羽状となる。出土地点はともに1号竪穴内である。9は2号竪穴の炉体土器で、口縁部・胴下半は打ち欠かれている。頚部～口縁部無文帯の破片は炉体内部から出土した。細めの粘土紐をモチーフとして貼付後、縦位条線地文を施文、蛇行粘土紐を貼付したもので、2単位のU字状モチーフの端部は蕨手状になる。10は屋内埋甕とみられる埋設土器で、口縁部、胴部下半を欠く。竹管修形隆帯施文後、縦位条線を施文し、蛇行粘土紐を貼付する。9は曽利Ⅰ式新段階、10はⅡ式古段階である。19～21は台形土器。22・23はミニチュア土器。27～39は打斧、40～42は横刃形、45～48は磨り石・叩き石、43は石鏃、44は石錐か。

石器は23点中、打斧13点（56%）、横刃形石器3点（13%）、凹・磨り石3点（13%、稜磨り石、磨り石、凹み石各1）、石鏃、叩き石、石錐は各1点で、打斧が多い。

そのほか追加資料として第90図に掲載した資料に、中空土偶の頭頂部、あるいは把手片1、焼成粘土塊1がある。

4号竪穴遺物（第27～33図、図版16・17）　1・2は床面出土。口縁部に重三角文をもつキャリパー形の深鉢で、区画文内に玉抱き三叉文をもつ。2は6単位の小波状口縁をもつ土器で、重三角文の一部に抽象的な動物状モチーフを2つもつ。半裁竹管による角押文、刺突文を多用し、三角押文は用いていない。胴部は2単位の渦巻文で、渦先端は手のような表現となっている。胴下半が接合帯部分で平らに欠失している。5・6は22号ピット脇から出土した底部転用品。5は内外面に灰白色の粘土が付着し、粘土の容器、あるいは土器作りの際に水を入れる容器として用いられた可能性がある。6も同様に黄褐色の粘土付着が内外面に認められ、台形土器に付着した粘土に色調が類似している。割れ口は研磨されていないが、ほぼ平らに敲打調整され、破損部の一部に赤彩が認められる。4・7～10・13は円筒形土器。抽象文が施文された例に4・8・10・13があり、山椒魚文等が描かれている。14のモチーフも抽象文か。17は床面出土の小型土器。15・32は長方形横区画文。18・33は縦区画文で、33は北陸系土器。35～37は弥生末～古墳初頭かと思われる赤彩壷で、複数個体ある。40～45は土偶。40～42・44は脚。40は大型脚部で、文様は精巧である。42・45は胴部。46～51は土製円板。52～97は打斧、98～103は横刃形石器で、打斧が非常に多い。104・105・107は磨り石。106は磨斧。110～112は石皿片。

石器は61点中、打斧46点（75%）、横刃形石器6点（10%）、磨り石2点（3%）、石核・凹み石・剥片・磨斧各1点で、打斧が圧倒的に多い。

床面出土の粘土塊は灰褐色で、焼成の悪い土器片を含む粘土質の塊状の土壌。2680gあり、雲母を多量に含む。焼成不良の土器が崩れた可能性がある。

5号竪穴遺物（第34～51図、図版17～24）　1は胴下半を欠いた炉体土器。口縁部の横区画文は重三角文ではなく、狢沢式の様相を残し、三角押文を用いる。橋状把手は2箇所で対向し、4単位の文様帯となっている。頚部以下は無文で、指頭圧痕後ケズリ調整される類例の少ない土器である。3は口縁部に重三角文をもつ小型土器で、胴部横帯文に本体とは異質の粘土を用いている。隆線部分の胎土は赤色粒子を多く含み、赤味が強い。無文部には指頭痕を残している。5も重三角文をもつ小型土器で、文様が精巧である。口縁部は6単位であるが、1箇所の突起には粘土紐による加飾があり、他の突起と区別されている。胴部は2単位の文様構成となる。底部は無文で、台形土器受け面類似の圧痕をもつ。9は重三角文をもつ平口縁の深鉢で、

胴下半にクランク文をもち、古手の文様構成を残す。16は口縁部を8単位の重三角文、胴部は2単位の渦巻文とする。19は新道1式でも狢沢式に近い土器。20は小型円筒形土器に重三角文を施文した土器で、底部の縁が大きくつぶれたまま焼き上げられている。25は重三角文をもつ平口縁、縄文地文の深鉢で、胴部には斜めに短隆線を貼付する。このような「げじげじ文」的な貼付をもつ土器には42・43がある。23は円筒形土器で、胴部に抽象文をもつ。24は竹管文を多用し、重三角文を2段横帯文化した土器で、類例は少ない。30は1単位のクランク状隆線をもち、地文を縄文とする。横に伸びた先端は二股に分かれた手のようになっている。31は小型円筒形土器で、口縁部を重三角文、胴部を縦区画（一部横区画）文とし、抽象文的なモチーフを1単位入れた北陸系土器である。33は長方形区画の横帯文土器で、地文を縄文とする。45・49・55・78にも北陸系的な土器がある。44・48は無文土器で、44は全体に斜めのナデ整形を行った後、胴下半1/3に斜めケズリを行っている。底部は無文であるが、台形土器類似圧痕をもつ。ほぼ完存する。47は2単位の胴部渦巻隆線の下に逆U字隆線が5単位施文されている。胴下半にはケズリ整形が行われ、底部は無文であるが、台形土器類似の圧痕がある。557・58は同一個体で、区画にキザミ（刺突）を加えた北陸系的な文様要素をもつ小型土器である。58に見るように口縁部に大きな突起があり、抽象文（蛇か）をもつ。71～77は浅鉢で、71～75は屈折口縁に文様帯をもつもので、76・77は単純口縁で文様帯をもたない。後者のほうが小型である。99～101は台形土器で、98は土器底部を台形土器に転用したもの。107～110は中期中葉以降の土器で、110は弥生末～古墳初頭。111～120・122・123は土偶で、114は頭部に右巻きの蛇を戴く。蛇の頭部が表現された例で、顔面には白色塗彩が残る。111も同様に頭部に右巻きの渦巻文をもつ土偶であるが、これも蛇体と思われる。頭部の左右に計3個の小孔をもち、懸垂できるようになっている。顔面は仮面状に貼付したもので、出土時は顔面が剥離した状態で発見された。118は3点の土偶片が接合し、分割塊製作法を明瞭に残している。119は接合心棒が足裏に貫通した例。120は割れ口に心棒痕跡がみえる。123は逆ハート形の板状土偶。124は縦・横に貫通孔をもつ小型土製品で、抽象土偶と呼称される体部だけの板状土偶の一種かもしれない。あるいは土偶とは無関係の垂飾模倣品か。121は猪と考えられる動物形土製品で、左面に目らしきくぼみを表現するが、欠損部が多く、よくわからない。125は有孔土製品で、色調、胎土が古代の土師器に似ていることから、時代が異なるかもしれない。土錘か。126～134は土製円板。135・136は焼成粘土塊。137～225は打斧で、非常に多い。226は端部に抉りのある打斧状の石器で、粗製石匙か。227は粗製石匙。228～237は横刃形石器。238・239は石鏃、240～241は石錐、244～247はフレイク。248～253は磨り石。254は台石か。

石器は118点あり、内訳は打斧89点（75%）、横刃形石器10点（8%）、磨り石6点（5%）、剥片4点（3%）、石錐・石匙・石鏃・掻器各2点（各2%）、台石1点で、打斧が圧倒的に多く、その割合はほぼ同時期の4号竪穴と同率となり、石器組成比もほぼ同じで、打斧、横刃形石器以外は全体的に少ない。

そのほか追加資料として第90図に掲載した資料に焼成粘土塊が2点ある。また溶岩礫があり、14×11×7cm、692gを計り、加工はない。富士山起源と思われ、甲府盆地では釈迦堂遺跡などに出土例がある。

6号竪穴遺物（第52図、図版24）　1は井戸尻式の大型円筒形土器で、胴下半は多縄文を縦位施文する。6はミニチュア土器。12～14は土製円板。15は滑車形耳飾で、表面のミガキは良好。16は床面上出土の土偶あるいは顔面把手で、頭頂部には蛇らしき表現の装飾を載せている。中空で、目・口は貫通し、釣り上がった目、ブタ鼻、小さな丸い口は、釈迦堂遺跡に典型例が見られるように、井戸尻式期の土偶に一般的な風貌である。また耳に貫通孔をもつ。17～21は打斧、22・23は横刃形、24は石錐。26・27は浮子状軽石製品で、同一個体かもしれない。

石器は計11点出土し、内訳は打斧5点（45%）、横刃形石器2点（18%）、浮子？2点（18%）、石錐・剥片各1点で、石器数が少なくなっている。

7号竪穴遺物（第54図、図版24・25）　1・2は甲斐型坏で、2は内面黒色で、放射状暗文間にらせん状暗文が入る。3～6は甲斐型直後の坏・皿で、ケズリはなく、底部は糸切りのままである。7・8は灰釉椀で、7は浸し掛け、三日月高台で、折戸53号窯式か。9は緑釉陶器。11は羽釜、12は肥厚口縁の甲斐型甕。14は摘み部に横向きの孔をもつ蓋と思われ、甕系の蓋である。類例には把手の形態がやや異なるが日下部遺跡2号住例があり、甲府盆地東部の地域性をもつ蓋かもしれない。15・16は墨書土器。15は「大」か。

8号竪穴遺物（第54・55図、図版25）　1・2・4・7は甲斐型土器で10世紀前半、3・5・6はその直後、県史編年奈良平安Ⅶ期。3には墨書土器が体部外面にあり、「五五五五」と五が4つ書かれている。習書あるいは何らかのまじない的な内容か。10・11は鉢で、

両者とも類例の少ない器種である。14～16は置き竈で、14には側面に角ばった孔が開けられている。17は竈内に設置されていた支脚石。

ほかに未図化資料として粘土塊がある。16×13cm、厚さ6cmの立方体で、黄褐色を呈し、1550gを計る。おそらく焼成されていると思われるが、明確ではない。竈内の柱状の部材の可能性がある。

9号竪穴遺物（第56図、図版25）　1～11は甲斐型土器坏・皿で、10には底部外面に線刻？+墨書、11には体部外面に墨書（墨痕？）がある。これらのうち2は竈内覆土中位に逆位で出土した皿。12は甕系の鉢で、口径が38.5cmと大きく、器高は低い。13は竈奥壁付近出土の置き竈片で、7号竪穴南壁が不明瞭であったため、7号竪穴に伴う遺物かもしれない。

10号竪穴遺物（第56～61図、図版25～27）　1は炉体土器Aで、胴下半および突起頂を欠く。胴部に直径1.7cmの外面から敲打したような孔があり、土器転用時（埋設時）に開けられた可能性がある。口縁部文様帯は円から3本指をもつ手が出ているようなモチーフで、他の事例では円の部分が顔になった事例がある。器壁は厚く、重量感がある大型土器である。土器内面をみると、粘土を上塗りしたような補修粘土が口縁部を中心に認められる。2は重弧文で、口縁部の湾曲は強い。井戸尻式期に遡る重弧文土器の例である。7も同じ形式と思われ、口縁部の隆線は粘土紐貼付である。3は曽利Ⅰ直前の土器で、頸部が2段に括れ、粘土紐を斜格子に貼付する。胴部は4単位の区画文で、内部を棒状工具による縦位条線とする。4は大きな円柱状の塔状突起を4箇所にもつダイナミックな土器で、把手間には渦巻文（円文）+3本指の手のモチーフをもち、地文は括れより下をやや太目の棒状工具で、括れより上を細い半裁竹管による縦位条線地文とする。塔状把手は非常に大きく、重量があり、土器製作の技術力の高さを示している。5の炉体土器Cも同器形と考えられ、地文は縄文により縦位施文が行われている。17～19はミニチュア土器。20は屋内埋甕の井戸尻式土器で、屋内埋甕としては初現的な事例である。胴部には4単位の人体文風の文様をもつ。23・24は台形土器。25・26は土製円板。27～51は打斧。52～65は横刃形石器。66～68は粗製石匙。69は小型磨斧。70・71は石鏃。75～78は磨り石。

石器は52点出土し、器種別の内訳は打斧25点（48%）、横刃形石器14点（27%）、磨り石4点（8%）、剥片3点（6%）、石匙3点（6%）、石鏃2点（4%）、磨斧1点（2%）である。新道式期と比べ打斧の出土量が減少し、全体的な石器数は減じている。打斧以外の器種については新道式期とほぼ同じである。

11号竪穴遺物（第62～65・72図、図版27・28）　第72図38～41は当初46号土坑として出土した遺物で、整理の過程で本竪穴に帰属することがわかったため、追加する。1は12の直上から出土した深鉢で、口縁は4単位の波状口縁で、把手が対向して付けられているらしい。胴部には指頭痕を残し、2単位の抽象文が施文される。2も抽象文を描いた円筒形土器。8は有孔鍔付土器。12は両耳鉢で、把手を境にして口縁部文様帯の文様が異なる。つまり図示したように片面は重三角文（鋸歯文）、その裏面は竹管押文をもつ蛇行隆線となっている。14は台形土器で、完形であるが、焼成が不良なため、あるいは経年疲労のためか、受け面に細かなヒビが生じている。また受け面周囲から側面、裏面にかけて粘土付着が見られる。脚には円形の貫通孔、未貫通孔が4箇所開き、その間には三角形などの陰刻が

図14　10号竪穴20展開拓本

見られる。接地面はわずかに摩滅する。13・15・16は浅鉢、鉢。口縁部は5号竪穴のように屈折した例はなく、キャリパー状に内湾する。17は土偶。18は焼成粘土塊。19は土製円板。20～30は打斧。31は粗製石匙。35・36は石鏃。32～34は横刃形石器。37は棒状の自然礫先端を研磨した磨製石斧。38・39は台石。第72図38は土偶。39・40は土製円板。41は焼成粘土塊。

石器は20点出土し、内訳は打斧11点（55%）、横刃形石器３点（15%）、石鏃２点（10%）、台石２点（10%）、石匙１点（５%）、磨斧１点（5%）で、新道式期に比べ著しく減少している。

12号竪穴遺物（第64図）　１は炉内出土の鉢？。

13号竪穴遺物（第66図、図版28）　１～４・６は井戸尻～曽利７Ⅱ式土器。５は弥生後期？と思われる土器。７・８はミニチュア土器。９・10・12は打斧。11は横刃形の打製石包丁で、一面に横方向の擦痕（製作時の擦痕か）が見られる。山梨市堀の内遺跡で出土した石包丁とほぼ同じである。13は剥片。

(2) 屋外埋甕遺物

１号埋甕（第66図、図版28）　X把手を推定４箇所にもつ曽利Ⅰ式新あるいはⅡ式古段階の土器で、口縁部片は53号土坑から出土した。把手は通常、隣同士で斜めに連結するが、本例は深鉢形土器の頚部文様帯の上に把手だけを貼付したような状況である。

２号埋甕（第67図）　無文深鉢で、縦にナデ調整されている。

(3) 焼土遺構遺物

１号焼土遺物（第67図、図版28）　甲斐型直後と思われる時期に相当し、１～３は内面に黒色付着がある。６は体部外面に大きな文字で「田ヵ」が書かれている。

２号焼土遺物（第67図）　１は緑釉陶器皿、２は羽釜で鍔は欠失する。

(4) 土坑遺物

ここでは図化遺物のない土坑についても覆土中の遺物について述べる。

１号土坑遺物　新道～藤内式期の土器片がごく少量出土した。

２号土坑遺物　縄文、土師器がごく少量出土した。

３号土坑遺物　井戸尻１式土器片がごくわずか出土している。

４号土坑遺物　土師器、新道式土器片がごく少量出土した。

５号土坑遺物（第67図）　１は打斧。

９号土坑遺物（第67図）　1･2は打斧。３は先尖掻器。

11号土坑遺物（第67図）　１は鉢、３～５は打斧、６は横刃形石器、７は石錐？。ほかに井戸尻１式土器片がわずかに存在する。

12号土坑遺物　新道１式がやや多くあり、同期の所産と思われる。ほかに曽利Ⅴ式土器片、不明土製品がある。

13号土坑遺物（第68図）　２は横刃形石器。新道～藤内～井戸尻式土器片がわずかにあるほか、やや大きな台形土器片がある。

14号土坑遺物（第68図）　２は土製円板。藤内３～井

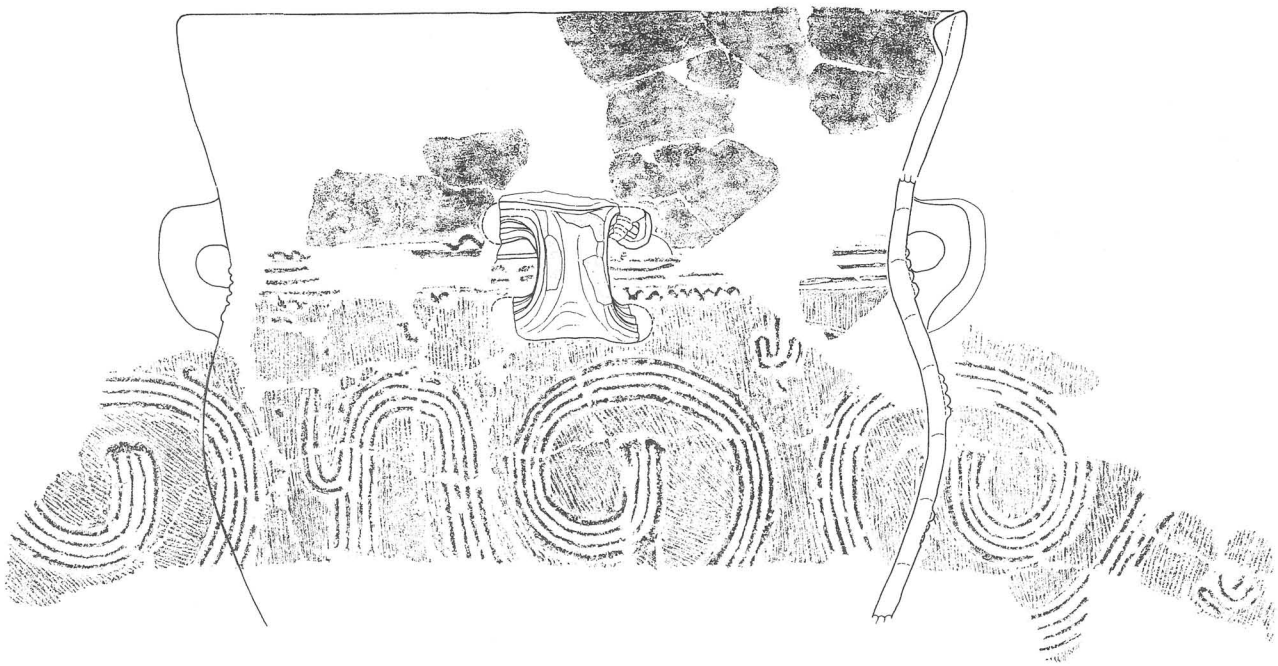


図15　１号埋甕１展開図

戸尻式の土器片が少量出土している。

15号土坑遺物（第68図）　1は土製円板。2～4は打斧。5は横刃形石器。ほかに新道1～井戸尻1式期の土器がやや多く出土している。

16号土坑遺物（第68図）1は時期不詳。2は井戸尻1式期か。覆土には藤内式土器片がごくわずかにある。

18号土坑遺物（第68図）　1・2は打斧。藤内～井戸尻式土器片があり、藤内式土器がやや多い。

19号土坑遺物（第68図）　1は藤内式かと思われる小型深鉢下半。覆土中からは新道～井戸尻1式土器片がごく少量出土した。

21号土坑遺物　曽利Ⅴ式土器ほか土師器片がごくわずか出土。曽利Ⅴ式期の土坑かもしれない。

22号土坑遺物　無文土器片がごくわずかに出土した。

23号土坑遺物　新道～井戸尻式土器がごくわずか出土。

24号土坑遺物（第68図）　1・2は井戸尻2式期かと思われる破片。ほかに井戸尻式土器片がわずかにある。

27号土坑遺物　時期不明の土器がごくわずか出土。

28号土坑遺物（第68・69図、図版28）　1はミミズク把手をもつ深鉢。6は縦位縄文が施文された鉢で、口縁部に補修孔が貫通する。11・12は焼成粘土塊。13・14は打斧。15は横刃形石器。時期は井戸尻1式期と判断されるが、覆土中には藤内3～井戸尻1式土器片がやや多い。

29号土坑遺物（第70図、図版29）　1は推定器高79cmの大型深鉢であるが、非常にもろく、図は推定復元図のためもう少し小型になるかもしれない。口縁部文様帯には3本指のモチーフをもち、胴上半を2段の幅広の楕円横区画文帯、胴下半を縦位縄文とし、屈折底上に1段の横区画帯をもつ。2は1と同一個体のミミズク把手。3は井戸尻式末、曽利Ⅰ式直前の深鉢。4は焼成粘土塊。5～7は打斧、8・9は横刃形石器。時期は井戸尻1式期と判断されるが、覆土中からは藤内3～4式土器片等もやや多く出土している。

30号土坑遺物　曽利Ⅳ式と思われる土器片が1点あるが、時期は不明。

31号土坑遺物（第69図）　3は土坑中央に1とともに正位で出土した台石で、磨り面が薄く黒変する。2は石匙。覆土中には藤内～曽利Ⅱ式まで存在するが、時期のわかる土器片は少なく、井戸尻式2～3式段階か。

32号土坑遺物　井戸尻式らしき土器片が少量出土。

33号土坑遺物（第71図）　2は石匙。縄文中期の土器片がごくわずかにある。

34号土坑遺物（第71図、図版29）　1は浅鉢。2は打斧。井戸尻～藤内式期の土器片を含む。ほかに須恵器がごくわずかにある。

36号土坑遺物（第71図）　1は重弧文土器口縁部。ほかに曽利Ⅱ、平安時代土師器、灰釉陶器、須恵器片が少量ある。

37号土坑遺物　井戸尻式を含む縄文土器がわずかにある。

39号土坑遺物　井戸尻式土器片がやや多く、全体に強く被熱し脆い。

40号土坑　土器はわずかで、井戸尻式と曽利Ⅳ式土器片が出土しているが、時期不明。

41号土坑遺物（第71・72図、図版29）　1は口縁部に蛇体状の環状把手をもつ土器。2は縦位縄文施文の深鉢。3は小型鉢。6～9は打斧。ほかに少量の土器片がある。

42号土坑遺物（第72図）　1は打斧。新道～藤内式土器、土師器片が少量出土。

43号土坑遺物　井戸尻式土器片を含み、未図化資料ではあるが、径2.4cmのごく小さい土製円板1がある。また近世末～明治の磁器をごくわずかに含む。

44号土坑遺物　井戸尻3式土器のややまとまった2個体を含む。

45号土坑遺物　新道式、藤内式、曽利Ⅱ式古段階の土器片を含み、時期は不明。特殊土製品として角状突起を2本もつ小型皿状土製品があり、縁に小孔が1つ開く。類例がなく、復元形はどのようになるのかわからない。

48号土坑遺物（第73図、図版29）　1は小型深鉢で、土坑底面に逆位で出土した。4は打斧。5は横刃形石器。時期のわかる土器片としては新道～藤内式土器があり、藤内式期と思われる。

49号土坑遺物（第73図、図版29）　1は胴部を十字に区画して縦位条線を施文した土器で、頚部文様帯は古手である。曽利Ⅰ式古段階。ほかに新道～曽利Ⅱ式までの土器片がある。

50号土坑遺物（第74図、図版30）　1は曽利Ⅲ式期かと思われる口縁部斜行線文の紐線文系深鉢であるが、頚部の一部に粘土紐を貼付するのみで、胴部は本来粘土紐とすべきところを沈線文とする。器高65cm以上の大型土器である。施文順序を観察すると、①胴部縦位隆線貼付　②胴部櫛歯条線施文　③胴部沈線施文　④口縁部斜行線施文となる。2は打斧。ほかに曽利Ⅱ～Ⅲ式土器がわずかにある。

51号土坑遺物　50号土坑に近く、50号土坑と同一個体の破片、曽利Ⅱ式土器片が出土したほか、1片のみではあるが五領ヶ台Ⅰ式土器片が出土した。

52号土坑遺物（第73図、図版29）　1の胴部モチーフは3本セットの粘土紐貼付後、ヘラキザミをし、竹管

修形はしていない。曽利Ⅰ式新段階。３は打斧。ほかに竹管修形を行った曽利Ⅱ式古段階の土器片がある。

53号土坑遺物（第73図、図版29）　１は土製円板。覆土中には曽利Ⅱ式土器がやや多いほか、新道～藤内式土器片がある。

54号土坑遺物（第73図、図版29）　１は角押文をもつ深鉢。ほかに狢沢式３段階～新道式１段階の土器片がある。

55号土坑遺物　藤内式と思われる土器片のほか、土師器片がある。時期は藤内式期か。

56号土坑遺物（第74図）　１は打斧。ほかに曽利Ⅱ式？土器片がごく少量出土している。

57号土坑遺物　藤内～井戸尻式土器片がわずかにある。

58号土坑遺物（第75図、図版30）　１・３はともに懸垂文が見られ、新道式古段階である。２も口縁部の重三角文帯中に玉抱き三叉文が出現していないことから古段階といえる。ほかに無文の土器片がわずかに存在する。

59号土坑遺物（第75図、図版30）　１は楕円・三角区画文帯の下に垂下する隆線文をもつ土器で、三角押文が施文される。楕円区画の隆線上には円形浮文を貼付し、捻り文となっていないことから、新道式でも古手といえる。ほかに井戸尻式土器片がわずかにある。

(5) ピット遺物

竪穴内ピットを含め、出土遺物について説明する。図化資料以外に未図化資料の様相についても記す。

５号ピット遺物　新道式？を含む。

10号ピット遺物　１号竪穴内。新道～井戸尻式土器片を含む。

11号ピット遺物　１号竪穴内。新道、曽利Ⅰ式土器片を含む。

12号ピット遺物　１号竪穴内。井戸尻式土器をごくわずかに出土。

13号ピット遺物　１号竪穴内。新道式土器等あり。

14号ピット遺物　１号竪穴内。藤内～井戸尻式土器をやや多く出土。

15号ピット遺物　曽利Ⅰ～Ⅱ式土器片やや多い。ほかに新道式、土師器もあり。

18号ピット遺物　新道式土器片をごくわずかに含む。

19号ピット遺物　４号竪穴内。新道３式土器片をごく少量含む。

20号ピット遺物　４号竪穴内。新道式土器を含む。

21号ピット遺物　４号竪穴内。新道式土器片がごく少量出土。

22号ピット遺物　４号竪穴内。新道３式土器をごくわずかに含む。

23号ピット遺物　10号竪穴内。井戸尻３式土器片をごくわずかに含む。

24号ピット遺物　10号竪穴内。新道式、須恵器がごくわずか出土。

25号ピット遺物　10号竪穴内。井戸尻式多い。新道式、曽利Ⅰ式土器片もあり。

27号ピット遺物　10号竪穴内。新道、井戸尻式土器がわずかにある。

28号ピット遺物　井戸尻1式を主体とする。

30号ピット遺物　４号竪穴内。新道式土器片のみ。

31号ピット遺物　４号竪穴内。新道３式土器片が多い。

32号ピット遺物　４号竪穴内。縄文？土器片をごくわずかに含む。

33号ピット遺物　10号竪穴内。井戸尻式土器片を含む。

35号ピット遺物　10号竪穴内。井戸尻１式土器片をごくわずかに含む。

36号ピット遺物　５号竪穴内。新道式土器のみ。

37号ピット遺物　５号竪穴内。新道式のほか井戸尻式土器片を含む。

38号ピット遺物　５号竪穴内。新道２式土器片を少量含む。

39号ピット遺物　５号竪穴内。井戸尻式土器をごくわずか出土。

40号ピット遺物　狢沢３～新道１式土器片をごく少量含む。

41号ピット遺物　５号竪穴内。新道１～３式土器片を多く出土。覆土中遺物と同一と思われる破片もあり。

42号ピット遺物　10号竪穴内。縄文土器片をごくわずか含む。

44号ピット遺物　６号竪穴内。井戸尻式土器片を含む。

45号ピット遺物　６号竪穴内。井戸尻Ⅰ式土器片を含む。

46号ピット遺物　６号竪穴内。井戸尻式土器片を含む。

47号ピット遺物　６号竪穴内。新道、井戸尻1式土器片を含む。

48号ピット遺物　６号竪穴内。井戸尻式土器のみで、非常に多く出土した。

49号ピット遺物　６号竪穴内。井戸尻式土器をわずかに含む。未図化資料ではあるが土製円板1あり。

50号ピット遺物　６号ピット内。井戸尻～曽利Ⅱ式期の土器片を多量に含む。

51号ピット遺物　６号竪穴内。井戸尻1式土器片を少量含む。

52号ピット遺物　６号竪穴内。井戸尻式土器を含む。

54号ピット遺物　井戸尻１～２式の櫛形文土器片１あり。

55号ピット遺物（第75図）　1は打斧。2は剥片。覆土の土器片は井戸尻式を主体とする。
56号ピット遺物　藤内～井戸尻式の土器片あり。
57号ピット遺物（第75図）　1は側面に敲打痕をもつ円礫。叩き石か。そのほか藤内式土器をわずかに含む。
58号ピット遺物　井戸尻式土器片、須恵器片をごくわずか含む。
59号ピット遺物　藤内式のほか土師器がある。
62号ピット遺物　井戸尻式？土器をわずかに含む。
63号ピット遺物　5号竪穴内。曽利Ⅱ式土器、須恵器、土師器片を含む。未図化資料ではあるが、焼成粘土塊がある。4.3×2.5×2.2cm、26gを計る。
64号ピット遺物　11号竪穴内。藤内～井戸尻1式土器をやや多く含む。
65号ピット遺物　11号竪穴内。藤内式土器を少量含む。
66号ピット遺物　11号竪穴内。藤内式？土器片を含む。
67号ピット遺物　11号竪穴内。藤内式土器を含み、曽利Ⅰ式土器片も少量ある。
68号ピット遺物　11号竪穴内。藤内式土器をごくわずかに含む。
69号ピット遺物　11号竪穴内。藤内3～井戸尻式土器片を含む。
70号ピット遺物　11号竪穴内。藤内4式土器？を含む。白磁壷片1出土。
71号ピット遺物　井戸尻式土器片を少量含む。
72号ピット遺物　11号竪穴内。井戸尻式土器を含む。
74号ピット遺物　1号竪穴内。井戸尻1式の大型深鉢の大破片が多数出土。ほとんどが同一個体の資料で、口縁部片を中心に底部付近まで存在するものの、接合ができず、復元は断念した。口縁は平縁で大きな環状把手を複数もち、頸部は楕円文帯が伸びる。胴下半は縦位の縄文を施文する。そのほか曽利Ⅱ式土器片もやや多いほか、新道式～藤内式土器片がある。
75号ピット遺物　1号竪穴内。井戸尻式期かと思われる土器片をやや多く含む。
76号ピット遺物　1号竪穴内。新道、曽利Ⅱ式土器を含む
77号ピット遺物　井戸尻式土器をやや多く含む。
78号ピット遺物　新道式などをごくわずかに含む。
79号ピット遺物　新道1～2式土器片を少量含む。
80号ピット遺物　曽利Ⅱ式土器を含む。
81号ピット遺物　井戸尻式土器片を含む。
82号ピット遺物（第75図）　1は井戸尻式期と思われる水煙状の突起。内側は中空となる。ほかに時期不明の土器が少量ある。
83号ピット遺物（第75図）　1は打斧。

(6) 井戸跡遺物
1号井戸遺物（第76図）　1～3は井戸内出土資料で、1・2はともに腐食のため字が判読しにくくなっているが、ともに「元豊通寶」と思われる。3は完形の蓋状の灰釉陶器で、中世陶器と思われるが、器種は不明。そのほか、井戸周辺を3号竪穴として掘り下げた中に中世関連の遺物があり、未図化資料ではあるが瓦質鍋片が1点出土している。井戸内からは曽利Ⅴ式ほかの縄文土器片がやや多く出土したほか、常滑甕片1、瀬戸灰釉小皿片1がある。
(7) 溝・埋没谷遺物
1号溝遺物　土師器片など出土。
2号溝遺物（第76図、図版31）　1は甲斐型坏で、奈良平安Ⅳ期（9世紀前半）。ほかに未図化資料ではあるが、鉄釉らしき釉が付着した窯体らしき大破片がある。10×12×6cm。また近代のすり鉢、近世～近代の陶磁器がある。
3号溝遺物（第76図）1は石錐？そのほかに近代以降の磁器、瓦、縄文土器、古墳時代～平安時代の土師器のほか、中世灰釉陶器小皿片1が出土した。
4号溝遺物（第76図）　1は打斧。ほかに井戸尻～曽利Ⅱ式期の縄文土器が多く、わずかに8世紀後半代の土師器が含まれる。
5号溝遺物（第76図）　1は志野皿。2は明染付皿で、内面見込み部に十字花文、外面に宝相華唐草文が描かれている。15世紀後半～末。3は土製円板。4は打斧。そのほか10号竪穴と重なる部分では縄文中期の土器を多く含み、近世の染付も含まれている。
6号溝遺物（第76図、図版31）　1・2は6号溝I6グリッド内出土で、1は逆位で出土した完形の坏。古墳Ⅶ～Ⅷ期（7世紀中葉～後半）。2は1のそばから礫にはさまれるようにして横位で出土した長頸壷で、口縁を欠くものの、ほかは割れていない。
7号溝遺物　10世紀前半代の土師器、須恵器片をごくわずか含む。
9号溝遺物（第76図）　1は井戸尻式の浅鉢で、外面に縦位の縄文施文がなされている。2・3はミニチュア土器で、ともに古墳時代以降か。5～9は打斧。そのほか、藤内式土器が多数あるほか、古墳時代土師器、8世紀後半かと思われる甲斐型土器がある。
10号溝遺物　曽利式土器とともに10世紀前半の土師器片が出土している。
谷トレンチ遺物（第77図）　いずれも水流のため角が研磨された土器片で、1は曽利Ⅳ式土器。2・3は時期不明で、中期初頭かもしれない。5は甑あるいは円筒土器。そのほか谷トレンチ内からは曽利Ⅱ～Ⅳ式期

の土器片、古墳時代土師器片が出土し、縄文土器に関してはほとんど角が丸くなった土器ばかりである。

(8) 遺構外遺物

遺構外遺物（第77～89図、図版31・32・35）　2はL6グリッドで礫に囲まれるようにして出土した井戸尻式土器（写真図版14-6参照）。包含層中の礫間からの出土で、下層に土坑は確認されなかったことから、包含層出土とみなした。13も包含層出土とした曽利Ⅰ式土器で、2と同じような出土状況であった。17は1号井戸周辺の礫間から出土した土器で、小型両耳土器である。中期末か。22は中空で球状を呈し、上面に円孔が開く突起。23～30は土偶。23は基礎の撹乱中出土の土偶で、脚を省略する。正面には正中線とヘソ、腹部を示す菱形の沈線文があり、胸はない。底面に径1.5cm、奥行き1.5cmの丸い凹みがある。24は土器の文様の一部の可能性もあるが、土偶頭頂部とした。27は中空の頭部片とみなしたが、ミミズク把手片の可能性もある。26は曽利Ⅲ～Ⅳ式期の小型土偶。25・28は脚、29・30は腕。

31～38は土製円板。39～42はミニチュア土器。43は弥生末～古墳初頭の土器で、頚部に帯状の細かな縄文施文と4個セットの粘土円粒の貼付文がある。44は古墳時代の坏で、6世紀末～7世紀初か。45・46は盤状坏で8世紀前半。46はG3グリッド出土坏で、底部はやや丸く、直径10.5cmと大きい。全面手持ちヘラ削りを施す。底部内面に漆紙？が付着した漆紙付着土器である。漆は厚さ0.1～9㎜で、黒色を呈し、シワ状に縮んでいる。紙？は2.5×1cmの範囲が遺存し、字は肉眼、赤外線ともに確認されなかった。成分分析については鈴木報告（第4章第2節）参照。裏面には線刻の可能性のある直線があり、漆らしき黒色付着がある。48は内面黒色坏で、底部には木葉痕をもつ。8世紀代か。49～56は奈良平安Ⅶ期の土師器坏・皿。57～60は墨書土器で、57は「安」と判読できるが、ほかは不明。61～72はミニチュア土器で61は壷形、62は皿形、63～72は坏形を呈す。古墳～平安時代の所産であろう。

73～91は須恵器で、73は返りのある蓋。74は返りのある坏。7C前半～中。75は高台付坏（皿）で、周縁を打ち欠いて整形した円形の高台片で、転用硯として使用したか、使用目的で調整された可能性がある。76は口縁部を欠く横瓶で、口縁以外はほぼ遺存する。釉が上面から側面に著しく垂れた状況を呈し、底部外面には灰などが付着する。天井部中央に円板をあてて丸く整形していることが内側の状況からわかる。体部下半から底部にかけて回転ヘラケズリで調整している。K7グリッド出土。78～85は壷（甕）口縁部で、頚がハの字に長く広がり1段の稜を持つもの（78・81～83）、持たないもの（79・80）、短く広がるもの（84・85）がある。また83は櫛歯波状文が施文される。85は口縁部が肩部に融着したもので、図では口縁を復元して作図している。失敗作といえる須恵器であり、付近に窯が存在したのか、失敗作も流通したのかわからない。K6・L7・K7グリッド付近に集中し、とくに甕類は破片が細かく砕片化した状態で出土している。

92～110は灰釉陶器で、92は蓋、93・94・96は壷、97～99は皿（97・98は段皿）、105は耳皿、101・104・106～109は椀（104は輪花椀）である。折戸53号窯式（大原2号窯式）のほか、東山72号窯式がある（100など）。93の小壷については近世の可能性が高い。106～110は内面に研磨痕をもつ転用硯で、研磨痕の部分に薄い墨痕をもつもの（106～109）が大半である。時期は折戸53～東山72号窯式期。

111～120は中近世陶磁器、土師質土器。111は土師質土器皿で、時期は不明確であるが、13世紀以降か。112～114は柱状高台の柱状部片。118はすり鉢。119は江戸以降のほうろくか。115は花文スタンプをもつ常滑・渥美系の陶器甕。116は15世紀後半～末の明染付小皿で、外面に宝相華唐草文が描かれている。117は青磁碗。120は白磁碗で口縁部は玉縁となる。121・122は鞴羽口。123は紡錘車。

124～226は打斧。227～236は横刃形石器。237～240は摘みのある粗製石匙。241は石鏃。242～247は剥片で、247は石錐か。248～250は磨斧。251は細長く割れた自然円礫で、先端に赤色顔料が付着している。時期は不明。252～258は磨り石、259・260は凹み石。261～264は砥石で、263には円孔が貫通する。265は丸石。L7グリッド出土（第3図、写真図版14-8）で、遺構には伴っていない。自然の球礫で、一部欠損する。直径34cm、重量41.5kgで、大型の丸石といえる。

そのほか、平安時代の緑釉陶器としてE2・F2・F4グリッドから碗片各1が出土している。

中世陶磁としては図化した5号溝1（志野）・2（明染付小皿）、遺構外115（渥美系）、116（明染付小皿）および未図化で先述した1号井戸内出土の常滑甕1（図版32ℓ）、瀬戸灰釉小皿？1（図版32c）、3号溝の灰釉？皿1（図版32m）、10号竪穴60号ピットの青白磁香炉？1、11号竪穴70号ピットの白磁壷1（図版32k）のほか、遺構外未図化資料としてF2グリッドの青磁蓮弁文碗1、白磁皿2、J7グリッドの白磁皿？1、G2グリッドの青磁蓮弁文碗1、青磁碗1、G4グリッドの草花？文の印花文をもつ青白磁合子蓋？1、N10グリッドの中世瀬戸灰釉小皿片1（図版32b）、G2

グリッドの山茶碗系？こね鉢１がある。

F2・G2グリッドの蓮弁文青磁碗は、しのぎ蓮弁で磁器E期（13世紀前後～13世紀前半）の龍泉窯系I5ｂ類とされる（図版32d・i）。G2グリッド青磁碗は磁器D期（12世紀中～後半）同安窯系碗Ⅰ1b類である（図版32j）。F2グリッドの白磁皿は磁器F期（13世紀中～14世紀前後）Ⅸ1b類の口禿げ皿である（図版32e）。G4グリッドの印花文の青白磁蓋（図版32g）および60号ピット青白磁香炉（図版32f）は磁器G期（14世紀初～中）に置かれる資料である。

中世陶磁の出土地点としては埋没谷中央部の６号溝上層に沿った地点、とくにF2・H2・G4グリッドに集まり、西端付近に集中する傾向があるとともに、北側微高地、５号溝北側に分布する。

第４章　理化学的分析

第１節　山梨県山梨市高畑遺跡出土炭化材の^{14}C年代測定

小林謙一[1)]・坂本　稔[1)]・尾嵜大真[1)]・新免歳靖[1)]・村本周三[2)]・松崎浩之[3)]

1) 国立歴史民俗博物館
2) 総合研究大学院大学
3) 東京大学原子力研究総合センター・タンデム加速器研究部門

山梨県山梨市高畑遺跡出土炭化材の^{14}C年代測定を試みた。試料は、新道式の土器（新地平編年（黒尾・小林・中山1995）で炉体は6a期、覆土中土器は6b期）が伴う、縄紋時代中期に位置づけられる５号住居の炉内出土の炭化材片である。試料番号はYNTKC3とした。

１　炭化物の処理

試料については、以下の手順で試料処理を行った。(1) の作業は、国立歴史民俗博物館の年代測定資料実験室において小林・新免、(2) (3) は、坂本・尾嵜が行った。

(1) 前処理：酸・アルカリ・酸による化学洗浄（AAA処理）。

AAA処理は、炭化材については自動処理器を用いた。80℃、各1時間で、希塩酸溶液（1N-HCl）で岩石などに含まれる炭酸カルシウム等を除去（２回）し、さらにアルカリ溶液（1N—NaOH）でフミン酸等を除去する工程を５回、さらに２回酸処理（240分以上）を行い中和後、純水を使って洗浄した（５回）。

試料は、AAA前処理を行った量（処理量）47mg、処理後回収した量（回収量）20.01mg、ガス精製に供した量（精製）5.23mg、二酸化炭素に精製した際の炭素含有率59.0%である。

(2) 二酸化炭素化と精製：酸化銅により試料を酸化（二酸化炭素化）、真空ラインを用いて不純物を除去。

(3) グラファイト化：鉄（またはコバルト）触媒のもとで水素還元しグラファイト炭素に転換。アルミ製カソードに充填。

AAA処理の済んだ乾燥試料を、500mgの酸化銅とともに石英ガラス管に投じ、真空に引いてガスバーナーで封じ切った。このガラス管を電気炉で850℃で3時間加熱して試料を完全に燃焼させた。得られた二酸化炭素には水などの不純物が混在しているので、ガラス真空ラインを用いてこれを分離・精製した。

1.5mgのグラファイトに相当する二酸化炭素を分取し、水素ガスとともに石英ガラス管に封じた。これを電気炉で650℃で12時間加熱してグラファイトを得た。管にはあらかじめ触媒となる鉄粉が投じてあり、グラファイトはこの鉄粉の周囲に析出する。グラファイトは鉄粉とよく混合した後、穴径１㎜のアルミニウム製カソードに60ONの圧力で充填した。

２　測定結果と暦年較正

AMSによる^{14}C測定は、東京大学原子力研究総合センターのタンデム加速器施設（MALT、機関番号MTC）で行った。

年代データの^{14}CBPという表示は、西暦1950年を基点にして計算した^{14}C年代（モデル年代）であることを示す（BPまたはyr BPと記すことも多いが、本稿では^{14}CBPとする）。^{14}Cの半減期は国際的に5,568年を用いて計算することになっている。誤差は測定における統計誤差（１標準偏差、68%信頼限界）である。

AMSでは、グラファイト炭素試料の^{14}C/^{12}C比を加速器により測定する。正確な年代を得るには、試料の同位体効果を測定し補正する必要がある。同時に加速器で測定した^{13}C/^{12}C比により、^{14}C/^{12}C比に対する同位体効果を調べ補正する。^{13}C/^{12}C比は、標準体（古生物belemnite化石の炭酸カルシウムの^{13}C/^{12}C比）偏差値に対する千分率δ^{13}C（パーミル，‰）で示され、この値を-25‰に規格化して得られる^{14}C/^{12}C比によって補正する。補正した^{14}C/^{12}C比から、^{14}C年代値（モデル年代）が得られる（英語表記ではConventional Ageとされることが多い）。

δ^{13}C値については、東京大学測定分については、加速器による測定を参考として付す。

測定値を較正曲線INTCAL98（暦年代と炭素14年代を暦年代に修正するためのデータベース、1998年版）（Stuiver,M.,et.al. 1998）と比較することによって実年代（暦年代）を推定できる。両者に統計誤差があるため、統計数理的に扱う方がより正確に年代を表現できる。すなわち、測定値と較正曲線データベースとの一致の度合いを確率で示すことにより、暦年代の推定値確率分布として表す。暦年較正プログラムは、OxCal Programに準じた方法で作成したプログラムを用いている。統計誤差は２標準偏差に相当する、95%信頼限界で計算した。年代は、較正された西暦　cal BCで示す。（　）内は推定確率である。図は、各試料の暦年

較正の確率分布である。

この試料は、炉内からの炭化材片の一部であり、もとの材の樹齢によっては、古木効果を考慮する必要もある。暦年較正の結果を見ると、紀元前3115-2820年の可能性が約70%ともっとも高く、ついで紀元前3325～3220年の確率密度が21%である。これまでの測定結果から見ると、後者の年代範囲の古い方である紀元前3325年ころが相当するのではないかと考える。

表１　測定結果と暦年較正年代

試料番号	測定機関番号	炭素年代 δ^{13}C‰	^{14}C BP (補正値)	暦年較正cal BC(2σ) (%)は確率密度
YNTK　C3	MTC-045111	−25.2*)	4430　±35	3325～3220　21.6%
				3170～3155　2.9%
				3115～2820　70.5%

註　*)MALTでのδ^{13}C値は、加速器による測定である。

この分析は、国立歴史民俗博物館　平成16年度基盤研究「高精度年代測定法の活用による歴史資料の総合的研究」（研究代表　今村峯雄）の成果を用いている。

参考文献

小林謙一・中山真治・黒尾和久2004「多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定（補）」『シンポジウム縄文集落研究の新地平３―勝坂から曽利へ―発表要旨』縄文中期集落研究グループ・セツルメント研究会

小林謙一2004『縄紋社会研究の新視点―炭素14年代測定の利用―』六一書房

Stuiver,M.et.al. 1998 INTCAL98 Radiocarbon age calibration,24,000-0 cal BP.Radiocarbon 40 (3) ,1041-1083.

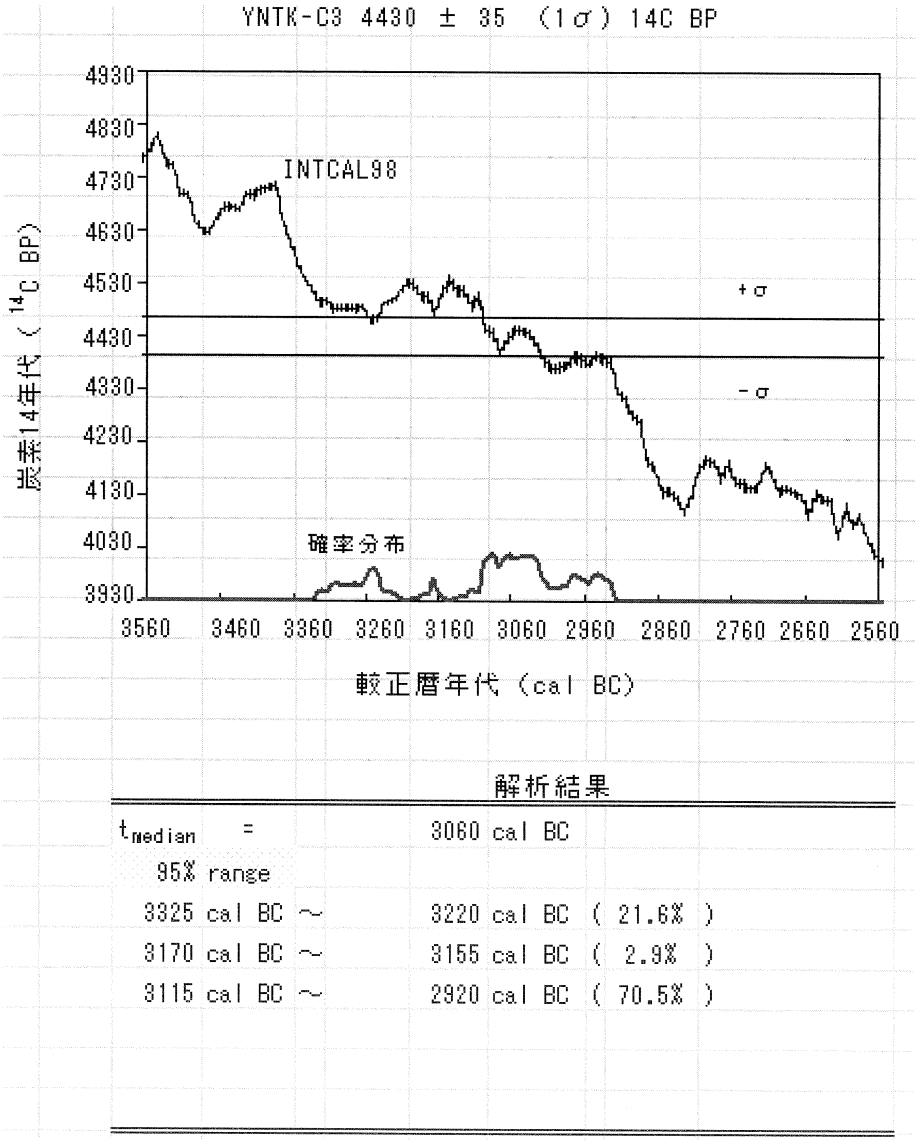


図16　暦年較正確率密度分布

第２節　山梨市高畑遺跡出土土器の付着物について

（財）山梨文化財研究所
鈴木　　稔

山梨市高畑遺跡から出土した土器に付着している樹脂状の物質について調査したので以下に報告する。

１．資料の観察

土器は遺構外出土№.46である。土器に関する詳細は別項にゆずるが、口縁部を欠き、接合された３片（便宜上、大片・中片・小片と呼んでおく）よりなる。肉眼および実体顕微鏡（オリンパス製、SZH実体顕微鏡倍率7.5～64倍）で観察したところ、３片の内面に付着している樹脂状の物質はいくつかの層をなしており、とくに大片において明瞭であるが、最下層、つまり土器に直接付着している層が若干の半光沢を持ち、現状では摩滅･剥落している部分もあるが、付着当初は全体に、しかもある程度均一に土器内面を覆っていた―塗られていた、とは言い切れないが―ものと見られる。目視観察によるかぎり、この樹脂は濃褐色の色調からも漆と判断された。これと似た付着物は３片それぞれの外面にも部分的に見られる。

これに対し、中片においてとくに著しいが、先述の均一な層の上に固化した樹脂層がぶ厚く盛り上がり、断面が見えている部分ではちょうど地層の褶曲のように樹脂が何層にも重なって固化している。この樹脂の表面は風化してざらざらしているが、たまたま割れている部分ではつやのある黒色に見え、目視だけでは漆かどうかは見分けがたかった。

なお、赤外線TVカメラ（浜松ホトニクス製、C1000-03）による観察をおこなったが、とくに文字などは認められなかった。

２．顕微鏡観察

小片のほぼ中央部に弧状に浮き上がっ

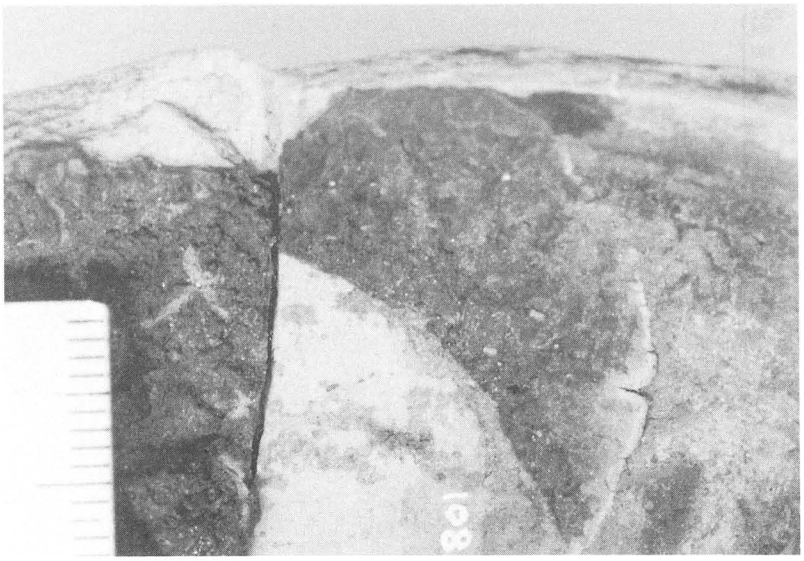


写真７　付着物写真

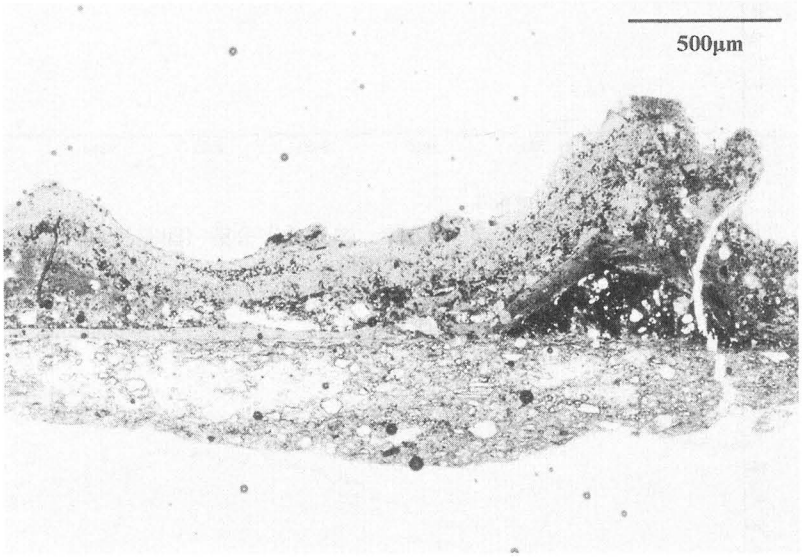


写真８　薄片写真

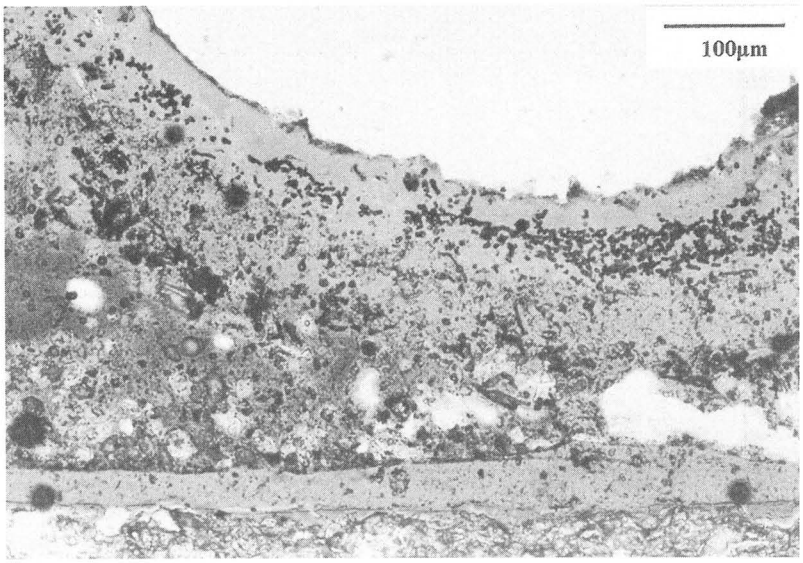


写真９　拡大写真

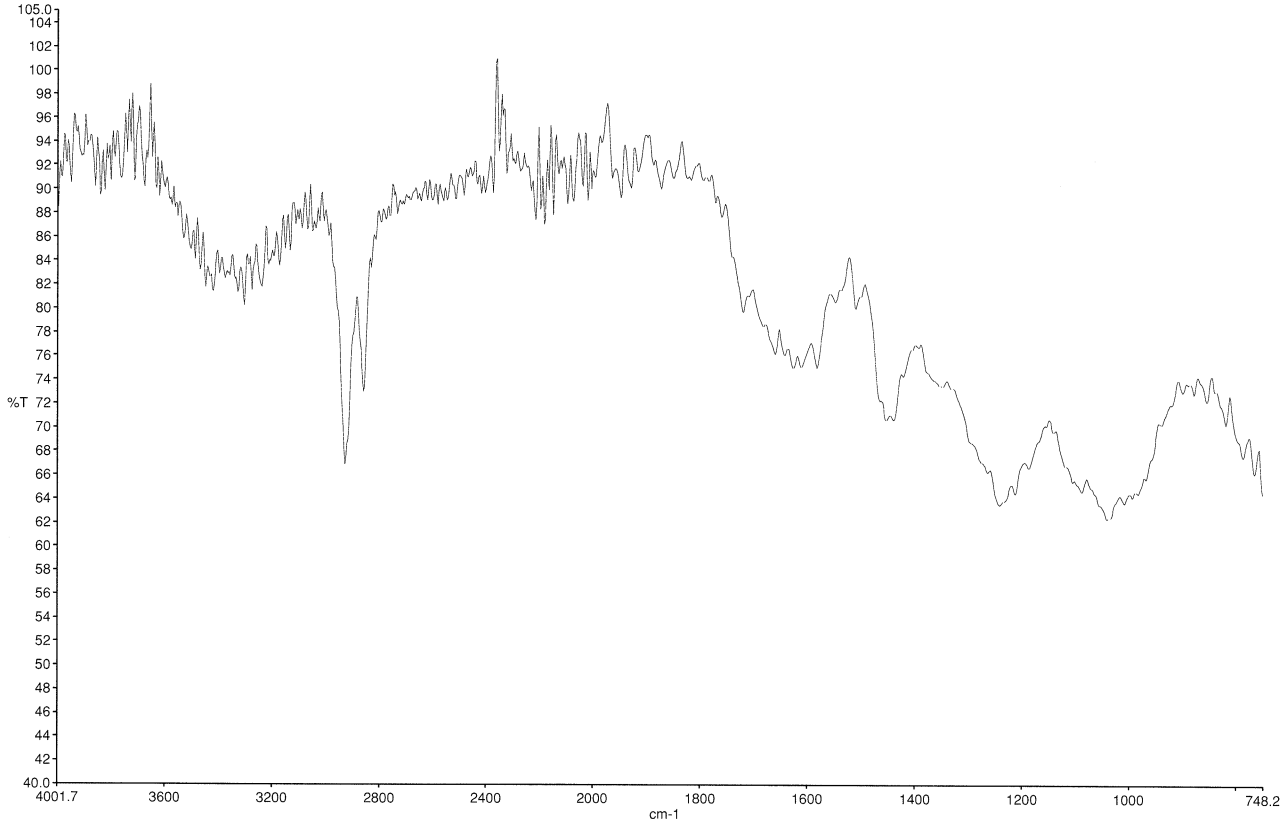


図17　赤外分光分析（顕微鏡プレパラートの測定）

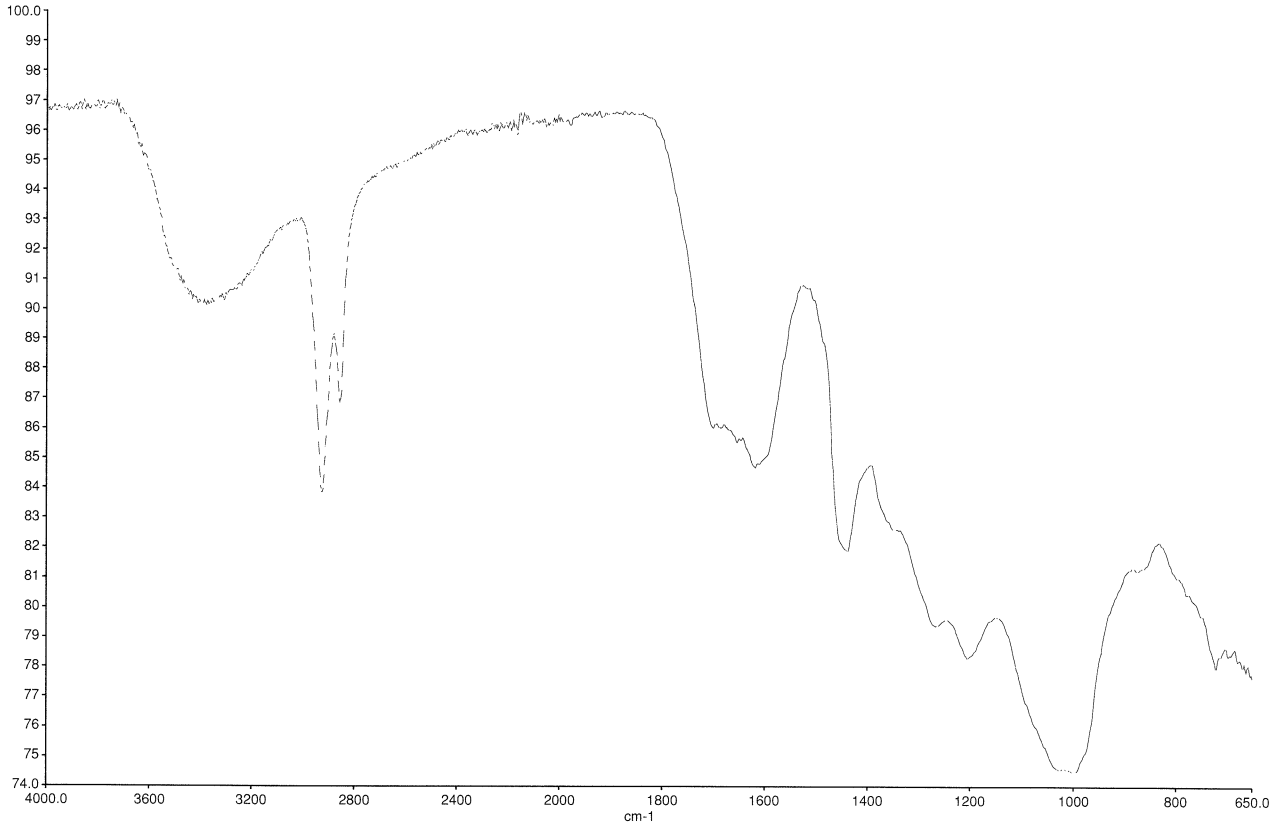


図18　赤外分光分析（樹脂片の測定）

て見える部分（写真７やや右寄り。なお、顕微鏡観察用と赤外分光分析用の試料を左上部より採取）があり、厚手の紙が風化・摩滅したように見える。いわゆる漆紙ではないかと推測されたのでこの部分について実体顕微鏡で詳細に観察した。しかし、繊維質のものが確認できないことからこの土器の胎土とは異なる土が漆で固められ、それがちょうど土層の剥ぎ取り転写のように浮き上がった状態ではないかとも考えられ、決め手を欠いた。そこで、この部分と連続すると見られる付着物層を約5×2mm、厚さ0.5mmのサイズ（土器内面の胎土を含む）で切り出し、樹脂包埋・片面研磨して落射照明下で顕微鏡観察・写真撮影した。ついで、反対面を研磨して薄片とし、落射照明による写真を参照しながら、透過照明下で観察・写真撮影した。使用したのはオリンパスBH-2金属顕微鏡（透過・落射照明型）で、接眼10倍、対物５～50倍。

写真８は透過照明による写真で、中央やや下のほぼ均一な厚さの漆と思われる層が画面を２分しており、その下は土器胎土、上は空隙や雑多な粒子（ただし鉱物はごく少ない）を大量に含み３～４層からなる樹脂層である。

さらに拡大してみると（写真９）、「均一な」と述べた層は厚さ約25～35μmで、その下に夾雑物のより少ない層が途切れ途切れに見られた（厚さは15μm以下で一定しない）。また、樹脂層の最上層も夾雑物の少ない層で、厚さにやや乱れがあるが、ほぼ均一な部分では約30μmである。これらの３層はどれも漆と見てよいと思われるが、他の層はおそらく漆に大量の夾雑物が混じたものと考えるべきであろう。

さて、写真９で最上層直下の層に楕円形（長径約5μm）の黒点が多数見られる。ピントを動かしながら観察すると黒点に見えるのは孔の断面で、ほぼ同じ太さの繊維状の物質が存在した痕跡と思われた。つまりこの層が漆のしみこんだ紙であった可能性があるが、層の厚さが一定しない（最大約40μm）こと、孔の分布に疎密がはなはだしいことにやや疑問が残る。サンプリング箇所を増やすなど調査の工夫が必要だろう。

３．赤外分光分析

樹脂が漆であることを確認するため上記の顕微鏡プレパラートおよび小片の表面から0.5mm立方程度の樹脂片を採取して赤外分光分析を実施した。まず、顕微鏡プレパラートの中央の「均一な漆と思われる」層をSENSIR社のIlluminatIRで測定し（図17）、ついで、樹脂片を同社のHazMatIDで測定した（図18）。どちらも反射ＡＴＲ法（ダイヤモンド結晶）を用いた。測定法の詳細には触れないが、測定部位を視覚的に確認できる長所を持つ。同法について充分なデータ蓄積と解析ができていないので漆の同定には至らなかったが、両者のスペクトルは比較的よく一致しており、どちらも漆と見てよいだろう。

４．まとめ

山梨市高畑遺跡から出土した土器の付着物について調査した結果、漆と思われる樹脂が何層かにわたって付着していることが確認され、そのうちの表面に近い層に紙の繊維ではないかと思われる痕跡が見られた。ただし、全面を覆うようなふた紙であったかどうかは今回の調査では不明である。

第5章　総　括

(1) 遺跡の立地

高畑遺跡は甲府盆地東部の中ほどにあり、笛吹川、重川、日川が集まる低平な地域に所在し、南側は重川の氾濫原に面した微高地上の集落である。県内での縄文時代中期の集落立地としては異例といえる。甲府盆地低部における、このような地域での縄文集落の存在に関しては、笛吹市石和町横田遺跡や甲府市上石田遺跡などが知られ、盆地低部にも縄文中期頃から生活痕跡の存在が確認されていた。しかし地表面で遺跡が見つかりにくく、調査事例も極めて少ないことから、従来あまり関心が持たれることはなかった。

縄文中期では山麓台地が一般的に集落立地として好まれたほか（台地型）、本遺跡のような低地型（河川流域型）集落が併存したことを十分認識する必要がある。

(2) 縄文集落の様相

調査区北側、埋没谷から北側の道路までの間は幅約40m×30mの微高地で、縄文時代中期の集落の一部が検出された。縄文時代中期、新道式期～曽利Ⅰ式期まで重複を含めて計10軒の竪穴住居跡があり、周辺からは土坑約60基、ピット、屋外埋甕が検出されている。竪穴住居を古い順にあげると次のようになる。

新道１式段階―５号竪穴
新道２式段階―４号竪穴
藤内式段階―11号竪穴
井戸尻２式段階―１・10B号竪穴
井戸尻３式段階―６・10A号竪穴
曽利Ⅰ式新段階―２号竪穴

竪穴群が調査区外北側に広がるのは確実で、天神前西遺跡の調査成果を参考にするならば、時期的には中期後半、曽利Ⅱ～Ⅳ式期頃まで竪穴が存続する。したがって本遺跡のみで縄文集落の変遷を語ることはできないものの、とりあえず現状では中期前葉から中葉にかけて連続する中期前半型といえるような継続期間の集落である。集落形態は調査区北側に中心部をもつ環状集落の一部で、土坑群は竪穴域の内帯あるいは竪穴域から外周に分布すると考えられる。調査された範囲は集落全体の約4分の1程度とみられ、全体を調査したならば直径40mほどの円周上に竪穴が配列する環状集落と推測できる。山梨市周辺では拠点的な集落のひとつといえ、山梨市域での縄文中期集落の調査例としては最大で、甲府盆地東部の様相を探るうえで良好な調査事例となった。

竪穴の切り合いは少ないように見えるが、１・２号竪穴、10号竪穴では炉が近接して存在し、竪穴の輪郭をあまり変えずに同一地点で繰り返し時期を違えて竪穴を構築する、という重複パターンが見られる。竪穴の主軸はおおむね南北方向で、炉が中央よりわずかに北側に設けられる。プランは円形、楕円形があり、新道～藤内式期は楕円形、井戸尻式期は円形、という傾向がある。柱穴配置は撹乱（建物基礎）のためにわかりにくいものが多いが、炉の後ろに１本の柱穴を配した５本または７本柱穴が主流で、やや小型の11号竪穴では４本かと思われ、竪穴規模（床面積）に応じて柱穴配置が異なるらしい。炉は新道1式期には埋甕炉（炉体土器）、藤内式～井戸尻1式期には石囲い炉、井戸尻３式～曽利Ⅰ式期には石囲い埋甕炉となる。６・11号竪穴では炉が小型で、五角形を意識した平面形を示している。

屋内埋甕を持つ例に２号竪穴（曽利Ⅰ新式期）、10A号竪穴（井戸尻３式期）があり、従来知られていたよりも早い段階での出現を示している。県内では曽利Ⅰ式の埋甕はわずかにあるものの、出入り口部埋設の屋内埋甕として広く普及するのは曽利Ⅱ式期からといわれ、そうした見方は今日でも変わらない。出現に関しては藤内式期や井戸尻式期の埋甕など、より遡る例も報告されているが、これまでは重複の可能性があるなどとして疑問視されてきたのは事実である。また曽利Ⅰ式期では、屋内の出入り口部ではない床下から長胴甕が逆位で出土する事例が多数報告されており、その底部は穿孔された事例が多い。本遺跡の事例についてはともに正位で、埋設状況は土器上端を床面レベルと同じにする。２号竪穴では上下をカットした胴部を利用し、10A号竪穴では口縁部をカットし、底部を打ち抜いた大型土器を用い、竪穴の主軸線上付近の、いわゆる出入り口に近いところから出土している。柱穴配置が不明確であることから、直ちに出入り口埋甕の新例として確実視できるものではないが、可能性ある例としてみなしておきたい。なお、これまで甲府盆地東部地域は遺跡調査が少なく、状況が不明であったが、屋内埋甕が早い段階で出現・普及した可能性がある。

(3) 縄文土器の変遷

出土土器では、４・５号竪穴出土の新道式期の土器群が時期細分を示す良好な資料となった。『山梨県史』では新道式期は２細分され、１段階では隆帯脇の２重

加飾（キャタピラ文＋三角押文）、胴部懸垂文の消滅、渦巻モチーフの登場などを特徴とし、２段階では隆帯脇の２重加飾の減少、口縁部重三角文中の玉抱き三叉文加飾、パネル文の登場などが特徴とされる。狢沢式と新道式の違いは、狢沢式での幅広の楕円区画文の盛行、角押文の多用、新道式期での口縁部重三角文の出現、三角押文の多用が挙げられているが、モチーフ的には、狢沢式では胴下半にクランク文などの懸垂文をもつのに対し、新道式では懸垂文を欠失し、胴部中位から下位に、抽象的な渦巻状モチーフをもつ横位文様帯（渦巻文帯）が挿入されることが最大の違いと思われる。こうした見方で４・５号竪穴の土器をみると、４号竪穴は県史編年新道２式段階（期）、５号竪穴は同新道１式段階（期）といえる。

５号竪穴は１の炉体土器が古い様相をもつ。口縁部は重三角文ではなく、楕円形に近い文様帯となる。６の大波状把手をもつ土器の口縁部文様帯は楕円形の変形で、区画境には短い粘土紐を縦に連ねた隆線文となり、１の区画境と共通し、狢沢式土器の系譜と言える。これに近い文様として９の重三角文では横向きの隆線文となり、胴下半にはクランク状懸垂文がある。９については型式認定が難しい土器であるが、三角押文の多用、重三角文帯と渦巻文帯の成立から新道式土器といえるものの、懸垂文を残していること、重三角文が古相を呈することから狢沢式の色彩を強く残す土器といえる。19の土器は、重三角文をもち、三角押文を多用するものの、幅広の楕円区画文帯を２段重ね、狢沢の要素が残る。また11は口縁部重三角文であるが、三角押文ではなく角押文で、渦巻文帯がない。以上は新道１式土器でもさらに古手として区別することができる（新道1式古段階）。ではそれらを除いた新道１式新段階、および新道２式土器はどのように理解されるであろうか。

まず４号竪穴の１・２をみると重三角文からなる口縁部文様帯、渦巻文からなる胴部文様帯、胴部下半文様帯の３つに分けられ、文様帯構成がより単純化されている。重三角文内には玉抱き三叉文が印刻され、区画境は耳状にふくらみをもち、側面に数本の線を引く。重三角文内の隆線脇は1重の加飾のみである。５号竪穴でも４号に近いものとして14があり、ほぼ同じタイプの土器といえる。そのほか重三角文内に玉抱き三叉文をもつ土器に５号竪穴５、７、８、16、29、32がある。それらは重三角文の区画境に円孔をもつ球を貼付し、その側面に短い粘土紐を縦に連ねる例（32）、沈線・三角押文とする例がある。

玉抱き三叉文をもたない例を見ると、斜位の角（三角）押文で埋める例（２・13・22・35）、蛇行する三角押文を横に施文する例（26）がある。それらはより狢沢式に近い要素を残す例とみられる。

以上を整理すると新道式期は次のように３細分されることになる。ここでは新道１式、２式、３式と呼称する。

新道１式（古）　三角押文出現。口縁部は重三角文帯を主とし、隆線脇は２重加飾が多い。胴部に渦巻文帯が出現するが、懸垂文を残すもの、渦巻文帯を持たないものもある。重三角区画内は斜位、縦位の三角押文の平行線で埋める例が多いほか、無文例もある。重三角文境には球状貼付文がなく、加飾のないもの、短い粘土紐を縦位あるいは横位に連結したもの、C字状粘土紐、環状粘土紐貼付文など平面的な加飾がある。

新道１式（新）　口縁部重三角文帯の区画境に瘤状粘土を貼付する。さらに環状粘土紐を貼付し、側面には短い粘土紐を連結した例、数本の沈線を描く例などがある。重三角文の区画内は新道１（古）段階とほぼ同じであるが、玉抱き三叉文も見られる。

新道２式　重三角文内には玉抱き三叉文が一般的で、区画境は立体的な瘤状貼付文となる。隆線脇は１重加飾が多い。胴部には渦巻文帯をもち、懸垂文は消滅する。

新道３式　重三角文内は玉抱き三叉文で、区画境は耳状となる。文様帯構成は単純化する。

以上は重三角文をもつ深鉢に着目した細分案であるが、その軸線上に他の器種をのせることによって新道式土器群の変遷過程について考えてみたのが図16～18である。

新道式に続く藤内式期には11号竪穴、41号土坑がある。県史編年では４細分され、石原田遺跡（北杜市長坂町）の考察の際、竪穴資料で4細分を検証したことがあるが、藤内１・２式期は施文技法的にほぼ同じで、破片レベルでの区別が難しい時期である。したがって３細分程度が適正かと思われるが、その内容については別稿で再考することとし、ここでは県史編年に沿って説明する。さて藤内１式期は、竪穴などの遺構がない時期で、遺構外出土遺物を含めても資料がほとんどない。11号竪穴は藤内２～３式期に相当し、１は隆帯脇の竹管押文は幅広で、蛇行沈線が付随する。２では竹管押文は略して蛇行沈線のみとし、抽象文は隆線で輪郭を示し、形骸化が認められる。藤内４式期では41号土坑資料があるが、資料的に多くはない。頚部の楕円区画文帯が誇張されている。

井戸尻式期では１・６・10号竪穴がある。10号竪穴は炉が炉体土器２個を含む３箇所あり、覆土中の土器

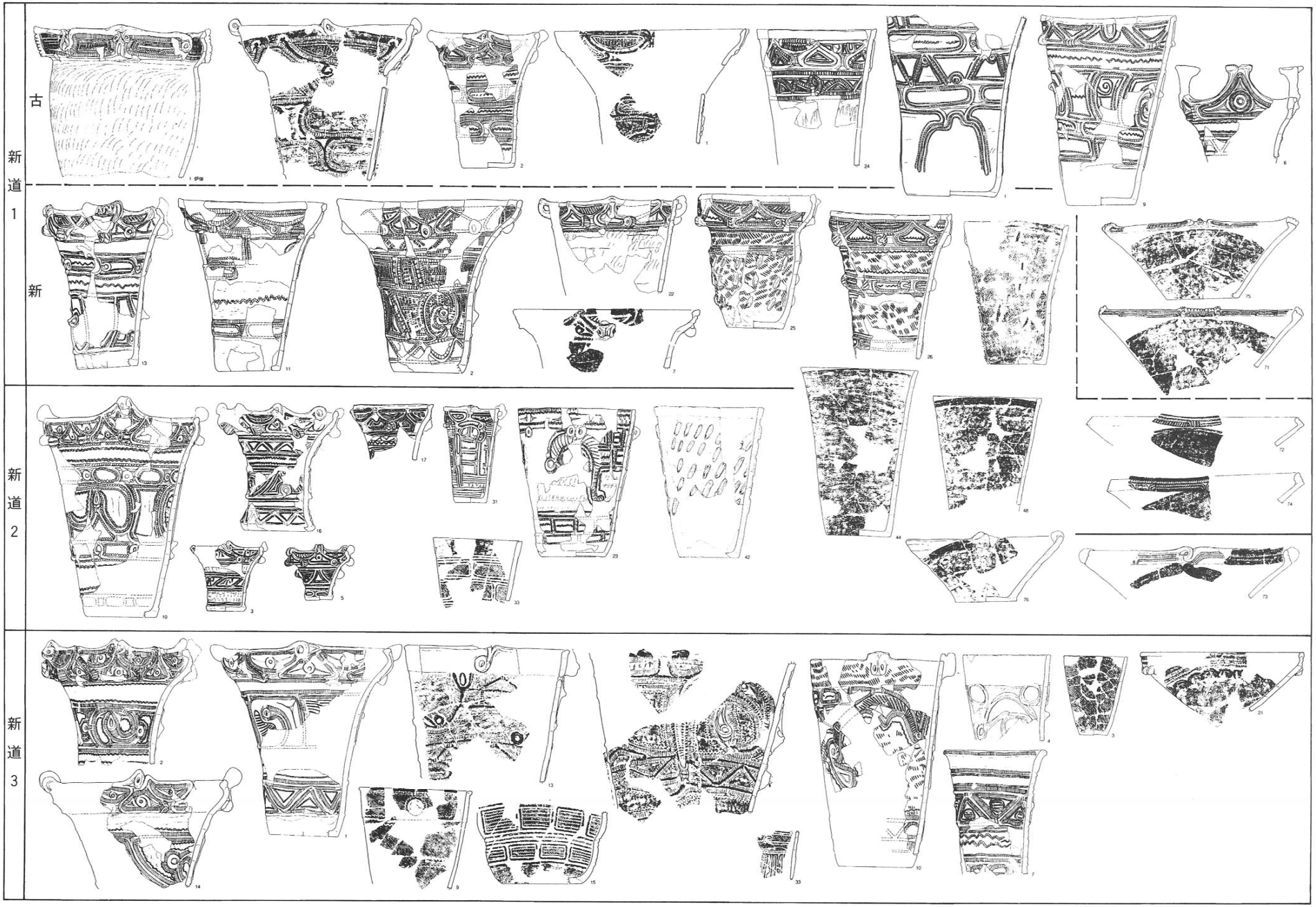


図19　土器の変遷（1）

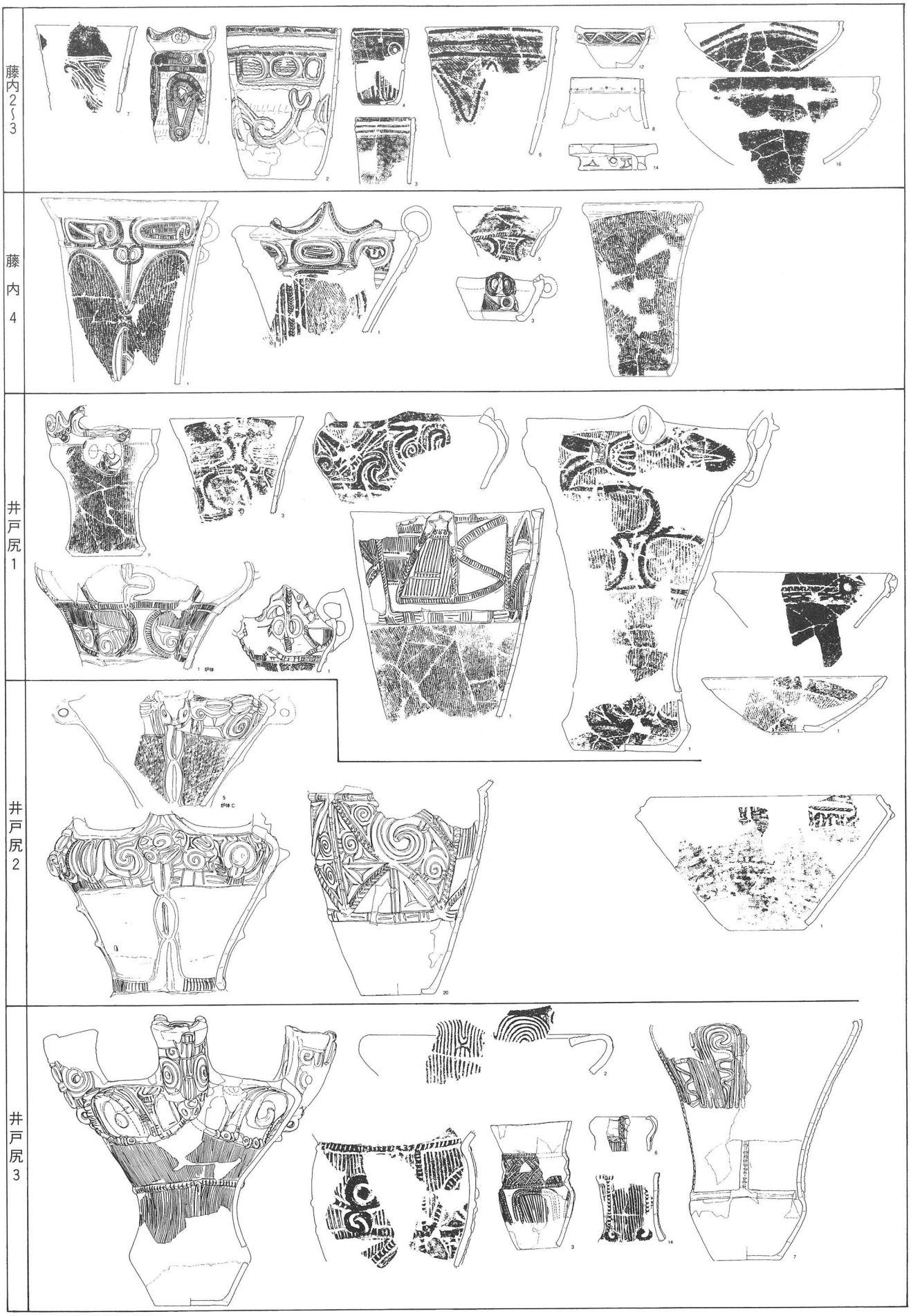


図20　土器の変遷（2）

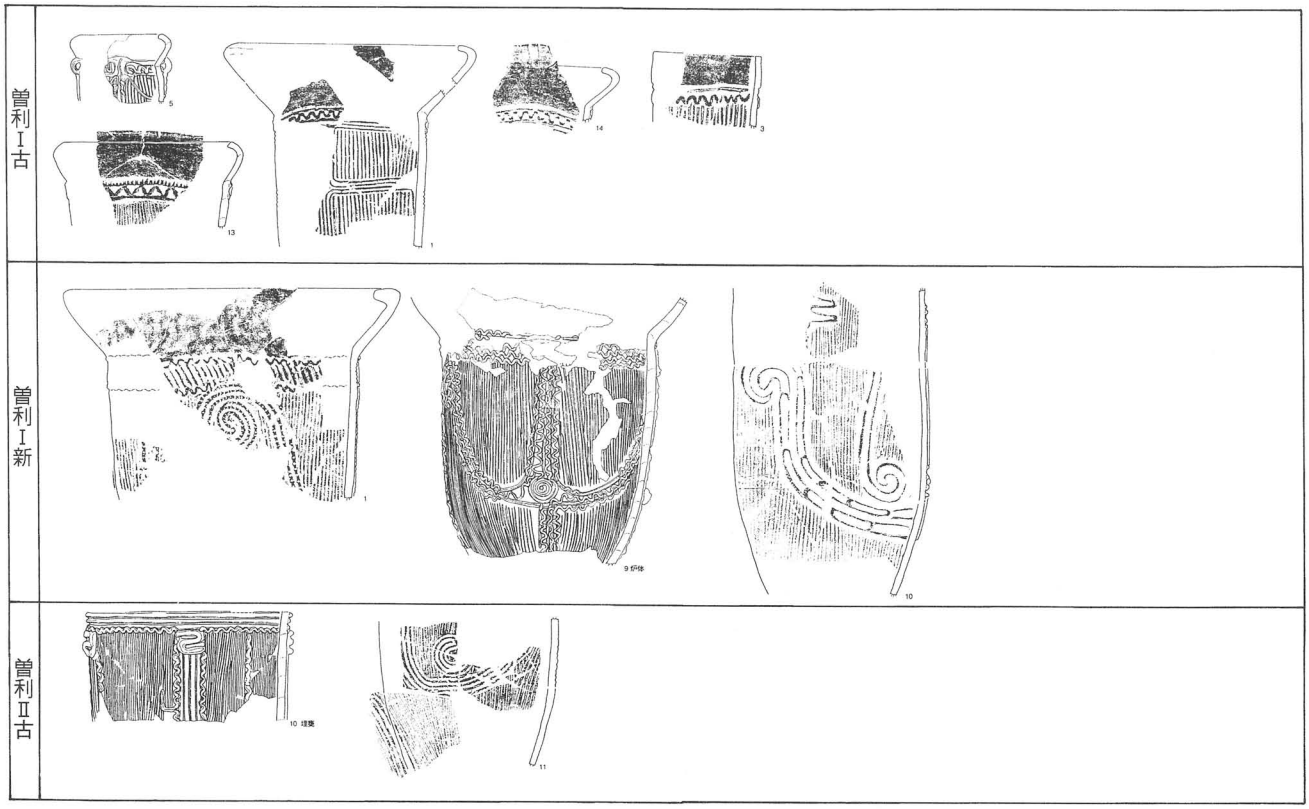


図21　土器の変遷（3）

は炉よりも新しいと判断されることから、土器編年の参考となる。ここではとくに炉体土器および覆土から出土した「多喜窪タイプ」とよばれる４つの塔（突起）をもつ屈折底の深鉢形土器に注目する。

10号竪穴の１・４・５の３個体のうち１は５より新しいと考えられる炉体土器で、４は覆土中出土であることから、５→１→４（新）という順番となる。土器形態は４・５が塔状の立体的な突起、１は波状の突起と思われる。文様構成は口縁部、頚部、胴部文様帯の順で、１では頚部を無文、４では縦位の縄文、５では縦沈線とする。１・５には頚部に押圧低隆帯（鎖状隆帯）が貼付されるが、４にはそれがない。口縁部文様帯は１・５が低隆帯を貼付後、太い沈線で渦巻文などを描くのに対し、４では突出した粘土紐貼付＋沈線となる。文様モチーフとしては１・４に３本指の手があり、またその起点に円文があり、共通する。県史編年で井戸尻式は３細分され、この種の土器は２・３式期とされる。ここでは１・５を井戸尻２式、４を井戸尻３式とみなす。20については屋内埋甕で、文様表現が太い沈線文と渦巻文を多用する点で10A号竪穴炉体土器と共通点が伺えることから、同時期とみなす。覆土中の３・13は曽利Ⅰ～Ⅰ直前で、縦位沈線を胴部地文とする。また８・14も縦位沈線を地文とする共通性があり、４を含めて井戸尻３式期のあり方を示している。注意されるのは２・７の褶曲文（重弧文）土器が含まれる点で、これらはそのまま曽利Ⅱ式の重弧文土器につながる系譜上に位置づけられる土器である。２にみるように大きく強い内湾を示すのが特徴で、７では粘土紐を貼付し竹管修形を行っていない。

１号竪穴１の炉体土器および２については、時期は頚部楕円区画が誇張され、隆線上の加飾が顕著であることから、不明確ながら井戸尻１式期とする。覆土中の６は曽利Ⅰ直前、井戸尻３式期。５は頚部に蛇行隆線を貼付する曽利Ⅰ古段階の土器である。

曽利Ⅰ式期以降では２号竪穴がある。９が炉体土器、10が屋内埋甕で、覆土中から11が出土した。９は端部が渦巻状のU字文をもつ土器で、竹管修形をしない粘土紐上に蛇行粘土紐を３・４本単位で貼付している。10は竹管修形文の両脇に蛇行隆線文を貼付し粘土紐で加飾し、Z状の文様を貼付した土器である。ここでは粘土紐を貼付しただけのものと、粘土紐上を竹管で修形する竹管修形文の２者があることがわかる。近年の研究で、竹管修形文をもつ土器は曽利Ⅱ式古段階に編入したほうが適当とする考え方が提起され、従来曽利Ⅰ式に一括されてきた縦位条線文土器が、曽利ⅠからⅡ式期にわたる土器群として理解されつつある。したがってここでも竹管修形文の土器群は曽利Ⅱ古式として、Ⅰ式とは区別したい。

曽利Ⅰ式古段階の土器として10号竪穴などに破片が散見される。頚部に２本の平行隆線を貼付し、その間

に蛇行粘土紐を貼付するものが多く、口縁部は無文で緩やかに丸く湾曲する。胴部の地文は竹管条線とする。以上のほか、曽利Ⅱ式土器、曽利Ⅲ式と思われる紐線文系土器、曽利Ⅴ式土器片があり、後期以降は皆無となる。このように土器からみると縄文中期前半、新道式から曽利Ⅴ式まで断続的に継続し、遺構面では新道式から曽利Ⅰ式まで居住痕跡が確認された。藤内１式期、曽利Ⅲ～Ⅳ式期については土器、遺構ともに居住痕跡が希薄な時期といえる。

(4) 土器製作関連遺構・遺物

土器以外の出土遺物では、土器製作関連遺構・遺物が注目される。遺構としては４号竪穴で白色粘土が床面に分布し、土器製作、あるいは粘土貯蔵に関連した遺構ではないかと考えられた。

土器製作遺物では焼成粘土塊、台形土器がある。焼成粘土塊は４・５・11号竪穴、28号土坑から出土し、いずれも３～５㎝程度の小型品である。敷物痕をもつ例は１例を除きない。焼成粘土塊については土器焼きの際のテストピースとする説があるが確証はなく、土器製作時に余って硬化した粘土を単に焼成したものではないかと考えられ、いずれにしても集落内で土器製作が行われた傍証とみなされる。

台形土器は１・２号竪穴３点、４号竪穴１点、５号竪穴３点、10号竪穴２点、11号竪１点、遺構外１点の計11点が出土している。ほかに５号竪穴98は土器底部再利用の台形土器である。山梨県内の事例では、限られた集落から多量の台形土器が出土するのが特徴とされ、本遺跡でもそうした傾向は指摘できる。ほとんどは小破片であるが、11号竪穴14の事例は床面直上に正位で出土した完存品で、細かなヒビが受け面に多数入り、受け面周囲から側面、脚にかけて粘土付着が顕著な例であり、台形土器の特徴を具備した資料といえる。ただし脚の摩滅についてはわずかに使用痕が見られるものの、非常に弱い。脚の磨耗が顕著なのは５号竪穴101で、ほとんど磨り減ってしまった状況にある。受け面のヒビについては疲労蓄積による劣化ではないかと思われ、台形土器に特徴的である。台形土器は土器製作に用いられた台と考えているが、異論もある。

４号竪穴の粘土については理化学的分析を実施することができなかったが、土器作りに関わる資料として注目される。多摩ニュータウンNo.245遺跡51号住では竪穴内に粘土堆積があり、下から未焼成土器、台形土器が出土した。本例は床面上に散在する程度で、直接的な土器製作関連遺物の出土はないが、床面およびピット脇から出土した土器底部利用の容器は、土器製作に関わるものと考えられ、この竪穴が廃絶後に土器製作スペースとして利用された可能性を示している。本遺跡が河川近くに立地することから、粘土採掘地点も近くに存在した可能性が高く、土器製作を集落の特徴としていたことも考えられる。

(5) 土偶・土製品

台形土器が多く出土する遺跡は、土偶、土製品が多いという指摘がされているが、本遺跡でも土偶は合計29点と多い。遺構別に出土点数を列記する。

４号竪穴―６
５号竪穴―12
６号竪穴―１（顔面把手か）
11号竪穴―２
遺構外―８

時期別数は、竪穴の時期を当てはめるならば、新道式期20以上、藤内式期２、井戸尻式期１、曽利式期１で、出土部位は頭部（頭～胴部を含む）９、胴部10、脚部９、腕部３となる。中でも新道式期は１式期の５号竪穴で12点と、非常に多く、改めて新道式期は土偶が多い時期であることがわかる。また新道式期は土偶に大小があり、形態も多様な時期で、５号竪穴123は板状で脚を省略、遺構外23では円錐形で脚を省略、４号竪穴40は大型で精巧な文様をもつなど、形態にバラエティーがある。また中期前半では分割塊製作法が顕著で、118は腰部、左右臀部、左右脚部と5個の粘土塊を合体させて製作し、出土状況としてはそれらが接合面で個々に割れ、竪穴内の近い位置から出土している。廃棄時に土偶片を、意図的にさらに破砕して棄てたような状況を呈している。また粘土塊どうしを串状の棒でつなぐ芯棒痕も一般的で、５号竪穴119では足の裏面に突き抜けるように芯棒痕を持つ。そのほか114の顔面には白色粘土が薄く付着する。従来、釈迦堂遺跡、酒呑場遺跡で腹部の印刻文に白色粘土が付着した例が指摘されており、土偶のもつ祭祀性をうかがわせている。

文様では頭頂部の渦巻文が注目される。５号竪穴114ではキザミをもつ渦巻隆線の中央に、蛇の頭のような表現がある。同111ではただの渦巻隆線のみとなり、６号竪穴16では渦巻文様はないが鎌首を持ち上げたような文様がつく。頭部文様については、髪形の多様性を示すものとして理解される一方で、長野県富士見町井戸尻遺跡例では明らかに蛇を載せたような文様があり、土偶の祭祀性が指摘されてきた。蛇のとぐろが渦巻文などに変化していく、という見方で解釈することができ、土偶の性格論を左右する視点といえる。

特殊な土製品としては５号竪穴121の動物形土製品、124・125の錘状土製品がある。このうち121は前脚２

本と頭部から胴部が残るのみで全形が不明であるが、目らしい表現があり、イノシシかと思われる。県内では釈迦堂遺跡でイノシシ形土製品が出土しているが、そのほかにはなく、非常に珍しい土製品といえる。

(6) 縄文時代の石器

縄文時代の石器では、打製石斧の出土量の多さが目立つとともに、風化しやすいホルンフェルスを好んで用いていることがわかる。次いで横刃形石器が多く、やはり打斧と同様の石材選抜をする。それ以外の石器は少なく、とくに石鏃は非常に少ない。磨り石・凹み石も非常に低調である。遺跡は河川に近いが、漁労具といわれる石錘は皆無である。甲府盆地での石錘普及は中期後半であることから、中期前半型集落の本遺跡では出土例がないと考えておく。打斧が多い点は台地上の集落と同じで、打斧を用いた根茎類の採集を生業とするあり方が伺える。

では石器全体について組成比をみたうえで、器種ごとに出土地点別（竪穴、土坑・ピット、遺構外）点数、石材について整理しておく。

なお、ここでは遺跡全体の石器を扱うため、明らかに古墳時代以降とわかる砥石６点、13号竪穴の弥生後期の可能性のある横刃形石器（刃部磨製石包丁）、平安時代の竈内支脚石も全体数としては含まれている。

石器として図化し、表にあげた資料は計486点である。出土地点別には竪穴293、土坑・ピット42、遺構外（溝を含む）151である。器種別には打斧330（68%）、横刃形石器56（11%）、磨り石21（４%）、凹み石４、稜磨り石１、叩き石２、石皿３、台石４、石匙13（３%）、石鏃８（２%）、磨斧６（１%）、掻器３、剥片16、石錐７、石核１、浮子２、丸石１、自然礫１、砥石６（１%）、支脚石１である。

主な器種の点数、出土地点と割合は次のとおり。

①打斧　330点（石器全体の68%）

竪穴192（58%）

土坑・ピット28（８%）

遺構外（溝を含む）　110（33%）

石材　ホルンフェルス　306（93%）

粘板岩　19（６%）

頁岩　２（１%）

安山岩　１（１%）

褐色風化泥質岩　１（１%）

礫岩（ホルンフェルス化）　１（１%）

石材はホルンフェルスおよびそれに類する石材（粘板岩、頁岩等）が多く、板状に剥離し易い石材を選択している。

②横刃形石器　56点（石器全体の12%）

竪穴　40（71%）

土坑　６（11%）

遺構外　10（18%）

石材　ホルンフェルス　47（84%）

粘板岩　５（９%）

砂岩　２（６%）

頁岩　１（２%）

玢岩　１（２%）

横刃形石器は打斧と同じ石材選択をしており、ホルンフェルスを主とする。

③石匙　13点（石器全体の３%）

竪穴　６（46%）

土坑　３（2%）

遺構外　４（3%）

石材　ホルンフェルス　８（6%）

褐色風化泥質岩　２（1%）

黒曜石　１（１%）

チャート　１（１%）

粘板岩　１（１%）

精製・粗製の別があり、精製品は黒曜石・チャート製の２点で、いずれも土坑出土である。粗製石匙は打斧と同様な石材を利用し、精製、粗製では機能的に区別されることは明らかである。

④凹み石・磨り石・稜磨り石　26点（石器全体の５%）

竪穴　17（65%）

土坑　0

遺構外　９（35%）

石材　花崗岩類　21（81%）

安山岩　５（19%）

凹み石は４点のみで、磨り石が多い。富士川流域の天神堂遺跡（南部町）でも同様な傾向が伺え、花崗岩類の入手が容易な地域では磨り石が多いといえる。石材では花崗岩類が卓越するが、凹み石に限ると４点中、安山岩３、花崗岩類1と安山岩が多い。

⑤石鏃　８点（石器全体の２%）

竪穴　７（87%）

土坑　0

遺構外　１（13%）

石材　黒曜石　８（100%）

全体に非常に少ない。すべてが黒曜石製となっている。

⑥石皿・台石　７点（石器全体の1%）

竪穴　６（86%）

土坑　１（14%）

遺構外　0

石材　安山岩　4

花崗岩類　3

石皿３点はすべて安山岩であり、台石に限ると花崗岩類３、安山岩1で、花崗岩類が多い。台石としては花崗岩が選択的に用いられており、石皿とは機能的に区別されていたか、あるいは磨り石に花崗岩が多いことに連動して花崗岩が用いられた可能性がある。

⑦石錐　７点（石器全体の１％）

竪穴　4（57%）

土坑　1（14%）

遺構外　2（29%）

石材　黒曜石　7（100%）

⑧磨斧　６点（石器全体の1%）

竪穴　3（50%）

土坑　0

遺構外　3（50%）

石材　緑色凝灰岩　2（33%）

火山礫凝灰岩　1（17%）

蛇紋岩　1（17%）

ホルンフェルス　1（17%）

砂岩　1（17%）

10号竪穴の蛇紋岩製の例（10竪69）は側面に擦切痕が残る。擦切技法をもつ磨斧は日本海側の富山・新潟方面で製作された可能性が高く、井戸尻式段階に交易によってもたらされたことが考えられる。

機能別に石器数、割合を整理すると次のようになる。

採集系（打斧・横刃形石器・粗製石匙・磨り石・凹み石・稜磨り石・石皿・台石）　430（89%）

狩猟系（石鏃・掻器・精製石匙）　13（２％）

漁労系（浮子）　2（0.4%）

祭祀系（丸石）　1（0.2%）

工具系ほか（磨斧・石錐・叩き石、石核、剥片）32（６％）

その他（縄文以外の石器等）　8（２％）

次に石器組成の時期的な変遷を、竪穴資料をもとに機能別に整理しておく。

新道１・２式期（５号竪穴）118点

採集系（打斧89・磨り石６・粗製石匙２・石鏃２・台石１・横刃形10）108（92%）

狩猟系（石鏃２・掻器２）４（３％）

漁労系　0

工具系ほか（石錐２・剥片４）６（５％）

新道３式期（４号竪穴）61点

採集系（打斧46・石皿３・凹み石１・磨り石２・横刃形石器６）58（95%）

狩猟系　0

漁労系　0

工具系ほか（石核１・剥片１・磨斧１）３（５％）

藤内式期（11号竪穴）20点

採集系（打斧11・粗製石匙１・横刃形石器３・台石２）17（85%）

狩猟系（石鏃２）２（10%）

漁労系　0

工具系ほか（磨斧１）１（５％）

井戸尻１式期（６号竪穴）11点

採集系（打斧５・横刃形２）７（63%）

狩猟系　0

漁労系（浮子２）２（18%）

工具系ほか（石錐・剥片）２（18%）

井戸尻２・３式期（10号竪穴）52点

採集系（打斧25・粗製石匙３・磨り石４・横刃形石器14）46（88%）

狩猟系（石鏃２）２（４％）

漁労系　0

工具系ほか（剥片３・磨斧１）４（８％）

曽利Ⅰ式期（１号竪穴　２号竪穴遺物を含む）22点

採集系（打斧13・横刃形石器３・稜磨り石１・凹み石１・磨り石１）19（86%）

狩猟系（石鏃１）１（５％）

漁労系　0

工具系ほか（石錐１・叩き石１）２（９％）

新道式期に採集系が９割を超える高率で推移し、藤内～曽利Ⅰ式期に８割台に下がるものの、依然高率といえる。そのほかはいずれも数%と極めて低い。

石鏃点数が少ないのは、調査精度の問題の可能性もあるが、磨り石・凹み石も同様に少ないことから、本遺跡の特徴として、狩猟活動は低調で、打斧に依存した採集活動に偏向した生業を営んでいた可能性を考えておきたい。本遺跡は河川に挟まれた立地にあり、狩猟に適した地勢とは考えられないことから、採集活動に重点をおいた石器組成を示すのではないだろうか。

(7) 破砕須恵器の出土

微高地上、埋没谷に面したK・L7グリッド付近から７世紀前半～後半代と思われる須恵器甕を主とした小破片が多量に出土した。甕は複数個体存在し、坏類もある。中には口縁部が融着した焼成不良の甕（第81図85、図版32）があることから、付近に須恵器窯が存在するかもしれない。甕が細片で出土した点については、調査中にはL6グリッド付近の礫堆積を古墳の可能性があるとみて、遺物分布状況をその周辺での散布として想定してみた。しかし礫分布は古墳ではなく、自然堆積の可能性が強いことから、何らかの祭祀行為にもとづく破砕行為の結果の可能性として理解したい。また、

南側にあたる埋没谷中の6号溝出土須恵器長頸壷、土師器碗も、完形もしくは完形に近い遺存状況ではあるが、関連した出土品と思われる。

(8) 平安時代の集落と遺物

平安時代では、縄文時代とは逆に北側には竪穴がなく、洪水の被害を受けやすい南側の微高地上が集落域とされている。埋没谷南側は砂層を地山とする微高地で、平安時代後期の竪穴住居跡3軒が検出された。竪穴は一辺約3～3.5mの方形で、7号竪穴では北竈、8・9号竪穴では東竈が、いずれもコーナー寄りに石組を芯として構築されていた。調査区外に相当数の竪穴が密集して分布することが予想され、古代「大野郷」の中心的な集落とも考えられる。本遺跡からは緑釉陶器のほか墨書土器「安」などの出土があるが、墨書の内容としては一般集落の域を越えるものではない。諸事情により南側微高地は3棟の竪穴の調査にとどまったが、なお相当数の竪穴があると考えられ、また重川の影響がなければかなりの規模の集落と考えられる。

平安時代の遺物としては、通常の甲斐型土器と呼ばれる土師器のほか、甲府盆地では類例の少ない脚付鉢や蓋が出土し、地域性が強くうかがわれた。また灰釉陶器が多く存在するほか、緑釉陶器もある。また8世紀前半の資料になるが、土師器坏内に貼り付いた漆紙？がある。残念ながら文字を見出すことはできなかったが、本遺跡が郷の中心的集落であったことを示唆する資料といえる。

(9) 埋没谷と溝

調査区中央には、斜めに調査区内を横切る旧道跡および溝、石列、暗渠配石があり、その下層に幅15mの埋没谷が確認された。埋没谷の上層には古墳時代から中世の遺物が多く含まれ、平安時代末の灰釉陶器片が多数出土したほか、中世の染付、白磁片、甕などの陶磁器類なども出土している。さらに埋没谷上層面では埋没谷と同じ方向の溝が検出され、7世紀代の土師器や完形に近い須恵器長頸壷が出土し、著しく腐食した曲物底板などの木製品もわずかに出土している。埋没谷中には8・9号溝を中心に腐食した自然木が多数確認されたことから、木製品は本来、埋没谷中に多く存在したと思われる。また5号溝にも護岸と思われる杭がいくつか遺存していた。遺跡周辺にはかつて湧水地点がいくつかあったといわれているが、それらもほとんど涸れてしまったという。上水道重川水源の施設が遺跡東方に建設されてからともいわれている。いずれにしても近年、地下水位が低下し、急速に木製品が腐食したため、製品として取り上げることができたものはない状態であった。かつての地下水位の高さを示すのが1号井戸の深さで、わずか1mで底となっている。底近くには曲物が遺存したが、著しい腐食のため原形での取り上げはできなかった。谷中にトレンチを入れたところ、約1.5m下から谷底部が確認され、砂礫中に摩滅した縄文中期土器片が出土し、幅の広い自然流路であることがわかった。したがって谷の埋没過程で溝が作られ、最後には2号溝および道として姿を大きく変化している。

この埋没谷は、縄文時代には集落の境界として意識された場所ではなかったか、と思われるが、標高が高い北側に縄文集落が立地し、土坑群を切るように谷が迫っていることから、流路による浸食を受けやすい場所であったことは確かである。南側の微高地上では縄文の遺構は検出されていないことから、いずれにしても埋没谷付近で縄文の集落域は途切れている。

(10) 漆紙付着土器

埋没谷内、G3グリッドで内面に漆紙が付着した土師器坏が出土した。6号溝南西端付近にあたり、溝内出土と理解できるかもしれない。時期は8世紀前半、県史編年でいう奈良平安Ⅰ期である。坏は半分に割れているが、近接した地点で出土し、接合した。内面見込み部全面に漆と思われる物質が付着し、土器と漆の間にパックされるようにして、2.5cm×1.0cm大の紙が遺存した。ほかにも紙が付着していた痕跡があるが、残念ながら土器水洗時に洗い流してしまったらしい。肉眼的には文字はなく、また赤外線カメラで観察したが、文字は確認されていない。

漆紙については、県内では韮崎市宮ノ前第3遺跡5号住での発見例がある。5号住は一辺7.7mの大型竪穴で、床面に礎石3個をもつ。時期は県史編年奈良平安時代Ⅳ期、9世紀前半で、南東覆土中から出土し、容器を伴っていない。2枚が付着した状態で出土し、文字は「奈」の可能性がある文字が解読できる。文字が1.5cm～2cmと大きいことから通常の文書とされている。

奈良文化財研究所刊『古代の官衙遺跡』によると、漆利用に用いられた漆容器には、貯蔵用、運搬用があり、運搬用としては頸の細い須恵器壷、平瓶などの土器が利用された。貯蔵用容器には遺存した漆紙の径から大型（径33cm前後）、中型（径22cm前後）、小型（径15cm前後）があるほか、消費の場では漆塗りのパレットとして坏等の土器を用いる場合もあった。時期的には飛鳥以降、平城の官衙・寺院・邸宅・工房跡から出土するが、長岡京以降はほとんどみられなくなり、土器から曲物等に変更されたことが考えられるという。本遺跡の土器は貯蔵用、運搬用ではなく、取り分けて

新道1～2

5号竪穴
12・54・58・59号土坑

井戸尻1

1・6・10号竪穴
11・13・19・28・29・34号土坑

新道3

4・12号竪穴

井戸尻2

10A・B号竪穴
24号土坑

藤内1～2

11号竪穴
48号土坑

井戸尻3

31号土坑

藤内3～4

14号土坑

曽Ⅰ～Ⅱa

2号竪穴
36・49・50・52号土坑

図22　遺構の変遷（1）

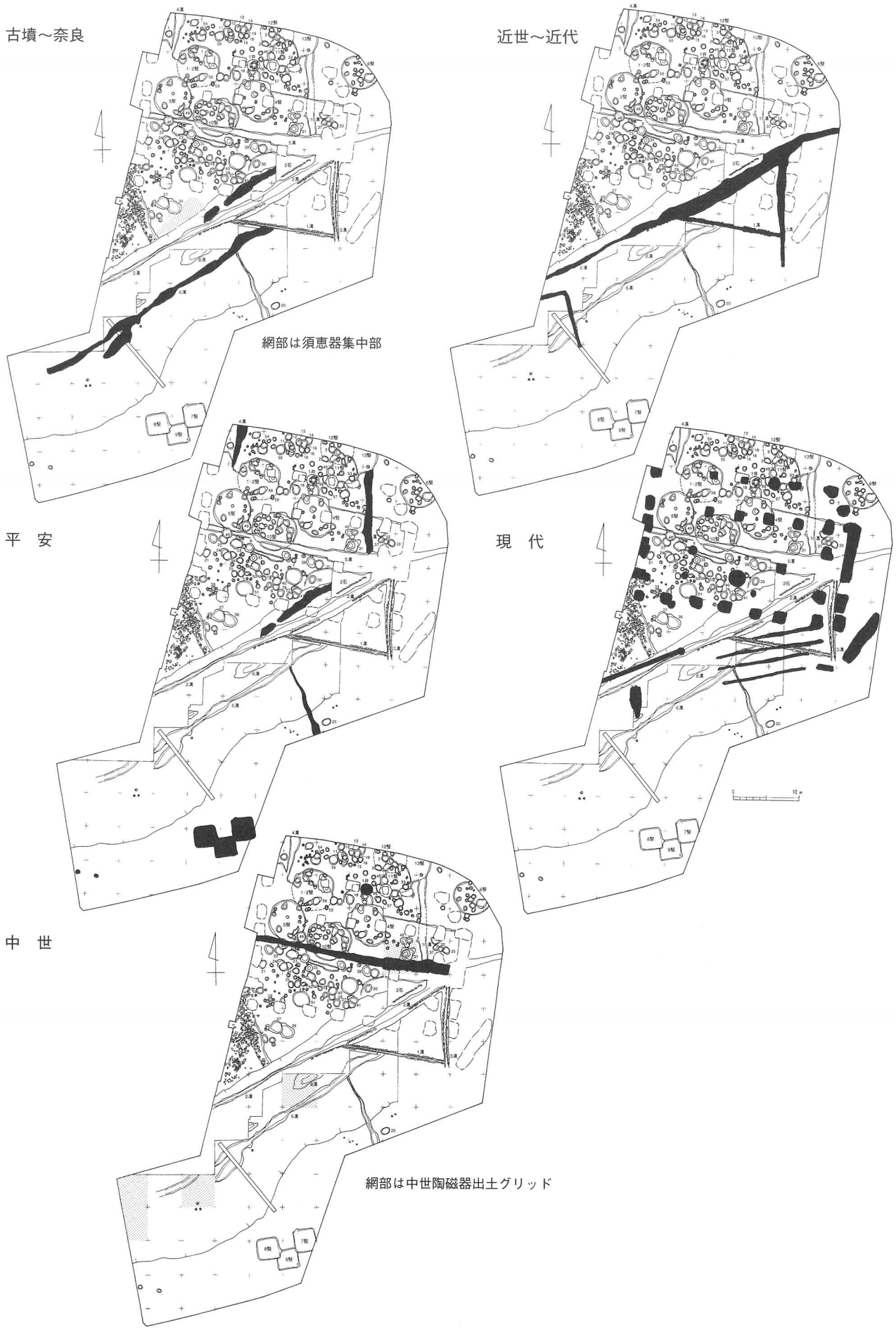


図23　遺構の変遷（2）

一時的に利用する目的で坏に入れられ、ホコリ等が入らないように反故紙を懸けたものと考えられる。したがって遺跡付近に工房等の存在が想定できる。今回の調査ではそうした建物跡は確認されていないものの、遺跡周辺は後の大野郷の中核となる地域と考えられることから、公的な工房が存在した可能性がある。

(11) 中世の高畑遺跡

中世では井戸、溝があり、中世と考えられる小ピットがいくつか検出されているが、それらの配置から具体的な建物復元案、遺構配置図を描くことができなかった。ただ5号溝で区画された北側に井戸をはじめとする建物配置が推定されることから、井戸を備えた宅地等の推定が可能で、陶磁器類の分布状況は中心域を想定する手がかりとなる。

中世では、大野城跡が近いことから、戦国期には大野城関連の集落が周囲に存在したことは想像でき、本遺跡北～西側微高地上の一部はそうした集落周辺部であったことが考えられる。中世前期では柱状高台の土師質土器や青磁、白磁の小片があり、とくに青磁・白磁の年代観から12～14世紀代に高級磁器を所有した土豪クラスの存在が推定でき、平安末から引き続き集落域が存在したことがわかる。また15世紀後半～末には明染付小皿などの高級貿易陶磁もみられることから、13世紀から16世紀まで継続する勢力が大野地区にあった、ということがいえる。したがって大野城は一時的な防御施設ではなく、館を中心とした長期的な居住域として理解しておきたい。大野城そのものの位置が定かではないが、本遺跡での出土遺物から大野城推定地周辺は平安末以降、既に有力土豪層の館的な拠点ではなかったかと思われる。大野付近は笛吹川、日川、重川が集まるところから東山梨地域の交通の要であるとともに、天然の要害的な立地をなすことから、戦国期に大野城が成立する前段階に、既に拠点的な場として成立していたことが十分考えられる。

(12) 高畑遺跡の変遷

縄文時代から現代に至る土地利用の変遷についてまとめたのが図19・20である。それをもとに遺構の変遷を整理しておく。

新道1～2　5号竪穴とその周辺に54・58・59号土坑などが存在する。集落域は北側調査区外へ広がっていたとみられる。なお本遺跡で最古の土器は五領ヶ台Ⅰ式土器で、中期初頭から居住域とされ始めた可能性がある。

新道3　4号竪穴および12号竪穴を本段階と推定する。前段階からの継続性が強い。

藤内1～2　11号竪穴は藤内2式期頃かと思われ、土坑は33・48号土坑がやや離れた位置に散在する。集落形態は読み取りにくい状況にある。

藤内3～4　竪穴の有無は定かではないが、井戸尻1式と推定した12号竪穴が本段階の可能性もある。土坑は14・41号土坑が散在する。

井戸尻1　1・6・10B号竪穴の3軒からなり、土坑は11・13・28・29号土坑など散在した状況で分布している。軒数、土坑数は多く、本遺跡でのピークとして捉えられる。

井戸尻2　10A・10C号竪穴、24号土坑がある。

井戸尻3　竪穴はないが、本期まで10A号竪穴が継続した可能性は十分に考えられる。土坑としては31号土坑がある。

曽利Ⅰ～Ⅱa　2号竪穴があり、その周辺から南側にかけて土坑が散在する。集落全体の構造は理解しにくいが、2号竪穴よりも南側に集落の中心があったとは考えにくいので、集落の外帯に土坑が分布する状況を想像しておきたい。この後、曽利Ⅴ式期まで土器の散布が見られるが、後期以降は土器が存在しない。

弥生　図には入れていないが、13号竪穴は弥生後期の可能性があり、遺構外で弥生後期の土器も認められることから、弥生時代後期になって改めて開発されたらしい。

古墳～奈良　竪穴はないが、埋没途中にある埋没谷に6・9号溝が存在する。また微高地上、K·L7グリッド周辺には7世紀後半代と思われる須恵器が細片状態で多数散布し、何らかの祭祀空間とされていた可能性が強い。

平安　南側微高地上に3軒の竪穴が順次構築され、東側には7号溝、北側微高地上には南北に約20m間隔で4・10号溝がある。埋没谷はほとんど埋まった状況で、9号溝が前段階から引き続き存在すると考えられるが、定かではない。居住域は南側、生産域は北側か。

中世　1号井戸のほか、5号溝から数点の陶磁器が出土した。5号溝は石列を北側に伴い、東側北側面には杭を打ち込んで護岸工事を行っている。井戸周辺には小ピットがあり、柱穴の並びは検討できなかったが、掘立柱建物からなる建物跡と思われ、溝北側に井戸、建物からなる宅地が想定できる。

近世～近代　1～3号溝はいつ頃構築されたものかはっきりとわからないが、近世以降と思われ、一部の溝は現代まで機能していた可能性がある。I5グリッド付近のL字の暗渠は、溝内に礫を充填したもので、近代あるいは現代の水田に伴う暗渠排水溝である。

現代　調査前に存在した大野地区共選所の基礎があり、それ以前に存在した水田？関連の暗渠が数本存在

する。また畑内にゴミ等を廃棄した円形の廃棄土坑がいくつかある。

最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行に至るまで、JAフルーツ山梨の関係者および大野地区をはじめとする地元組合員の方々には、多大なるご理解、ご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。また冬の厳しい折、調査に参加していただいた多くの方々、整理作業に携わってくださった方々には改めて感謝し、御礼申し上げます。

参考文献

平川南　1993「宮ノ前第3遺跡出土漆紙文書」『宮ノ前第3遺跡』韮崎市教育委員会ほか

奈良文化財研究所　2004『古代の官衙遺跡　Ⅱ遺物・遺跡編』

今福利恵「中期中葉（勝坂式土器）」『山梨県史　資料編2　原始・古代2』山梨県

櫛原功一　2004「台形土器の研究」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第12集

山梨県考古学協会　2002『土器から探る縄文社会　2002年度研究集会資料集』

表2　土器・陶磁器観察表

（長は長石、角閃石(輝石)、雲は雲母、赤は赤色粒子、石は石英の略）

図	地点	No.	種別	器種	時期	口/底/高	整形技法	色調	胎土	注記	備考
24	1·2号竪穴	1	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆帯、キザミ、沈線	褐～暗褐	長-多、角、雲	1046	1竪炉体土器
24	1·2号竪穴	2	縄文	深鉢	中期	－/－/－	沈線、隆線、キザミ	褐	長、雲、角、赤	2422·3553·3554·3556	
24	1·2号竪穴	3	縄文	深鉢	中期	(30.4)/－/－	沈線、キザミ	褐～黒褐	長、角、赤	3357·3358	
24	1·2号竪穴	4	縄文	深鉢	中期	(30.4)/－/－	沈線、把手	褐	長、角、赤	3558	3と同一
24	1·2号竪穴	5	縄文	深鉢	中期	(13.0)/－/－	沈線、隆線、キザミ、把手	褐～暗褐	雲-多、長、角、赤	306	
24	1·2号竪穴	6	縄文	深鉢	中期	(12.0)/－/－	沈線、隆線、キザミ	褐	長、角、赤	307(1竪ピ)	
24	1·2号竪穴	7	縄文	深鉢	中期	－/－/－	沈線	褐～暗褐	長、石、角、赤	87	
24	1·2号竪穴	8	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、キザミ、竹管沈線	灰褐～褐	長、赤、角	3584·3586	
25	1·2号竪穴	9	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、粘土紐、竹管条線	褐～灰褐	長、赤、角	201(炉)·206～208·1047·3527	2竪炉体土器
25	1·2号竪穴	10	縄文	深鉢	中期	－/－/－	竹管隆線、竹管条線、粘土紐	褐	長、雲、赤	2竪埋甕	胴部輪切り状態
25	1·2号竪穴	11	縄文	深鉢	中期	－/－/－	竹管沈線	灰褐	デ-極多、角	141·152	胎土異質
25	1·2号竪穴	12	縄文	深鉢	中期	－/－/－	ナデ	褐～明褐	長-多、石、赤	197	
25	1·2号竪穴	13	縄文	鉢	中期	－/－/－	ナデ	褐、内面暗褐	長-多、石、赤、雲、角	126	
25	1·2号竪穴	14	縄文	鉢	中期	－/－/－	ナデ	鈍い褐～黒	長、角	588	内面一部朱彩?
25	1·2号竪穴	15	縄文	深鉢	中期	－/－/－	竹管沈線、隆線	褐	長、雲、石、赤、角	137	
25	1·2号竪穴	16	縄文	深鉢	中期	－/－/－	縄文RL、隆線	黄褐	長、角、雲	124	
25	1·2号竪穴	17	縄文	深鉢	中期	－/－/－	重弧文、蛇行隆線	褐	長、角、雲	102	
25	1·2号竪穴	18	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、撚糸L	黄褐	長、角、赤	151	
27	4号竪穴	1	縄文	深鉢	中期	(39.0/15.5/43.5)	キャタピラ文、沈線、隆線、キザミ、三角押引	黄褐～褐	長、雲、赤、角	1053·1554～1556·1559·1569·1571·1953·1957	もろい
27	4号竪穴	2	縄文	深鉢	中期	31.5/－/－	隆線、キザミ、角押文、竹管刺突	褐～暗褐	長、角、赤	1562	底部欠損
27	4号竪穴	3	縄文	深鉢	中期	14.5/6.5/17.9	縄文RL	黄褐～暗褐	長、角、雲、赤	860·1568·1570	内面黒変、約7割遺存
27	4号竪穴	4	縄文	深鉢	中期	19.8/－/－	隆線、抽象文	褐、内面暗褐	長、角、赤、石	1566·3015(4竪31ピ)·3024(4竪31ピ)～3028	内面薄く黒変
27	4号竪穴	5	縄文	深鉢	中期	－/12.8/－	角押文、隆線、三角押引、キザミ	褐～暗褐	長-多、雲、角	1976	内面黒変
27	4号竪穴	6	縄文	深鉢	中期	－/12.4/－	隆線、三角押引	茶褐	長-多、雲、赤	1977	深鉢底部の転用容器、割口～内面赤彩
27	4号竪穴	7	縄文	深鉢	中期	23.5/－/－	角押文、三角押引、隆線	褐	長、角、雲	1594	
27	4号竪穴	8	縄文	深鉢	中期	(22.0)/－/－	ナデ、貼付文（抽象文）	鈍い褐	長、雲、角	1575·1576	内面薄く黒変
27	4号竪穴	9	縄文	深鉢	中期	(26.0)/－/－	縄文RL、三角押引	暗褐～褐	雲-多、長、赤、角	843～847	
28	4号竪穴	10	縄文	深鉢	中期	(32.7/16.7/48.0)	抽象文、隆線、縄文RL、キザミ、キャタピラ文	淡褐	長、赤、角、雲	1572～1574·1947·1950·1952·1955·1956·1960·1966·3014	内面下半薄く黒変
28	4号竪穴	11	縄文	深鉢	中期	(24.0)/－/－	隆線、竹管押引	鈍い褐	長、赤	4竪	
28	4号竪穴	12	縄文	深鉢	中期	－/－/－	キャタピラ文、沈線、隆線	鈍い褐	雲-多、長、角	1583·1584	もろい
28	4号竪穴	13	縄文	深鉢	中期	(37.0)/－/－	キャタピラ文、隆線、三角押文	褐～暗褐	長、雲	840·1561·1964	
28	4号竪穴	14	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、キザミ、キャタピラ文、三角押引、陰刻	褐～暗褐	長、雲	1930·1932・1933·1937·1938·1943	
29	4号竪穴	15	縄文	深鉢	中期	－/(18.0)/－	竹管沈線、竹管押引、竹管刺突	黄褐、内面暗褐	長-多、角、赤	824·825·828·1592·1593	内面黒変
29	4号竪穴	16	縄文	深鉢	中期	－/13.0/－	縄文RL	褐	長-多、雲、角、石	1967	底部内外面補修粘土?
29	4号竪穴	17	縄文	小型深鉢	中期	－/5.6/－	竹管沈線、ナデ	褐、内面暗褐	長、雲	1974	内面薄く黒変
29	4号竪穴	18	縄文	深鉢	中期	－/(8.7)/－	竹管押引、キャタピラ文	黄褐、内面暗褐	雲、長	4竪	
29	4号竪穴	19	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、ナデ	褐	雲、長、角	854·975	
29	4号竪穴	20	縄文	深鉢	中期	－/12.4/－	隆線、キャタピラ文、三角押引	黒褐～褐	長、角、雲	1562·1958	
29	4号竪穴	21	縄文	浅鉢	中期	(37.4)/－/－	三角押文、キャタピラ文、押圧隆線	褐	長-多、角、雲、赤	770·772·773·880·1037·1039	
29	4号竪穴	23	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、キャタピラ文、三角押引	褐	長、雲	1962	
29	4号竪穴	24	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、角押引、陰刻、刺突	黄褐	長、雲、角	3020(4竪31ピ)	
29	4号竪穴	25	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、三角押引			1008·1009	
29	4号竪穴	26	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、キャタピラ文	褐	雲-多、長	1032～1034	
29	4号竪穴	27	縄文	深鉢	中期	－/－/－	沈線、縄文RL	暗褐～褐	長、雲、角	814	
29	4号竪穴	28	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、キザミ、三角押引、キャタピラ文	黄褐	長、角、石	799	
29	4号竪穴	29	縄文	深鉢	中期	－/－/－	キャタピラ文	褐	長、雲、赤	1552	
29	4号竪穴	30	縄文	深鉢	中期	－/－/－	ナデ、縄文RL	褐	長、角、雲	793	
29	4号竪穴	31	縄文	深鉢	中期	－/－/－	ナデ、隆線	褐、内面暗褐	長、角	4竪31ピ	
29	4号竪穴	32	縄文	深鉢	中期	－/－/－	竹管押引、三角押引、キザミ、縄文0段多縄RL?	褐	長、石、角、赤	1025	
29	4号竪穴	33	縄文	深鉢	中期	－/－/－	竹管沈線、竹管押引、縄文RL	褐	長、雲、角	1581	北陸系
29	4号竪穴	34	縄文	深鉢	中期	－/－/－	沈線、櫛歯状沈線	黄褐～黒褐	長-大、デ、赤、堆	859	
29	4号竪穴	35	弥生?	壷	後期	(12.5)/－/－	ナデ	赤褐	長、赤	4竪	内外面赤彩、36と同一か
29	4号竪穴	36	弥生?	壷	後期	－/7.0/－	底部圧痕、ナデ	赤褐～鈍い褐	長、石、赤	979	内外面赤彩
29	4号竪穴	37	弥生?	壷	後期	－/(6.0)/－	外面縦ミガキ	赤褐～褐	長、赤	4竪	内外面赤彩
29	4号竪穴	38	縄文	深鉢	中期	－/－/－	三角押引、キャタピラ文	褐	長、角、雲	1949	ミミズク把手
34	5号竪穴	1	縄文	深鉢	中期	38.6/－/－	角押文、三角押文	褐～黒褐	長-多、雲	3425·5竪炉内	
34	5号竪穴	2	縄文	深鉢	中期	(42.0 /15.5)/38.8	隆線、三角押文	褐～暗褐	長、雲、赤、角	2586	内面薄く黒変
34	5号竪穴	3	縄文	小型深鉢	中期	15.5/8.0/15.9	三角押引、陰刻、隆線、キザミ、指頭圧痕	褐、内面黒褐	長、赤	2041·3167·3169	内面黒変、隆線赤色粘土
34	5号竪穴	4	縄文	深鉢	中期	(17.0)/－/－	三角押文、隆線、陰刻、ミガキ良	褐	長、堆、雲	2834	角状突起
34	5号竪穴	5	縄文	小型深鉢	中期	12.0/5.9/12.5	隆線、三角押引、陰刻	褐	長、角、雲	2902	約9割遺存
34	5号竪穴	6	縄文	深鉢	中期	(24.5)/－/－	波状口縁、三角押文、角押文、陰刻、隆線	暗褐	長、角、雲、堆	706·2351·2358	4単位把手か
34	5号竪穴	7	縄文	深鉢	中期	(42.5)/－/－	三角押引、隆線、陰刻、指頭痕	褐～鈍い褐	長-多、角	490·531·930·2251·2254·2310	

図	地点	No.	種別	器種	時期	口/底/高	整形技法	色調	胎土	注記	備考
34	5号竪穴	8	縄文	深鉢	中期	(25.0)/－/－	0段多縄RL、隆線、陰刻、三角押文	灰褐～褐	長-多、雲、角	3047·3073·3124·3196·3205	もろい
35	5号竪穴	9	縄文	深鉢	中期	30.2/15.3/43.0	隆線、三角押引	褐	長、角、雲、赤	2304·2410·3069	内面薄く黒変
35	5号竪穴	10	縄文	深鉢	中期	35.5/15.8/49.5	隆線、三角押引、陰刻	褐～暗褐	長、雲	742·2582	約4割遺存
35	5号竪穴	11	縄文	深鉢	中期	33.5/(13.8/39.5)	隆線、角押文、ケズリ	暗褐～褐	長、赤、角	2846·3078·3079·3127	約6割遺存
35	5号竪穴	12	縄文	深鉢	中期	(24.0)/－/－	三角押文、角押文、隆線、刻み、突起	褐	長、雲、角	3160	もろい
35	5号竪穴	13	縄文	深鉢	中期	24.5/13.5/37.4	三角押引、隆線	褐～暗褐	長、角、赤	2295·2907	
36	5号竪穴	14	縄文	深鉢	中期	(38.0)/－/－	三角押文、キャタピラ文、隆線、陰刻、刺突	褐～暗褐	長、雲、角	403·927·2289·2397·2408·2409·2435·2585	内面薄く変色
36	5号竪穴	15	縄文	深鉢	中期	17.5/7.8/21.5	隆線、指頭圧痕	明褐	長-多、赤、雲、角	3075	約8割遺存、内面黒変なし
36	5号竪穴	16	縄文	深鉢	中期	26.0/15.8/28.5	隆線、三角押引、陰刻	褐	長-多、赤	676·3071	ややもろい、8単位の波状口縁
36	5号竪穴	17	縄文	深鉢	中期	18.3/－/－	隆線、陰刻、三角押文	褐	長、雲、角、赤	2915·3079	
36	5号竪穴	18	縄文	深鉢	中期	(30.0)/12.7/(33.0)	隆線、三角押引、キザミ	褐～暗褐	長、角、雲	2916·3078	底部以外は小破片
36	5号竪穴	19	縄文	深鉢	中期	(39.5)/－/－	隆線、三角押引	橙褐	雲-多、長、角	407·410·438·679·2372·2375·2379～2381·2383·2387·2552·2555·2848·2916·2917	
36	5号竪穴	20	縄文	小型深鉢	中期	(9.2)/7.3/11.4	隆線、三角押引	褐	長、角、雲、赤	430	
36	5号竪穴	21	縄文	深鉢	中期	－/16.2/－	隆線、角押文、三角押文	橙褐、内面暗褐	長、赤、雲	2369·2370·2537	
37	5号竪穴	22	縄文	深鉢	中期	(29.8)/－/－	隆線、三角押引、把手、指頭痕	褐	長、角、雲	2915·3137·3183	
37	5号竪穴	23	縄文	深鉢	中期	26.9/14.5/33.5	三角押文、沈線、隆線、キザミ、陰刻、抽象文、指頭痕	暗褐～褐	長、角、赤	2840·3053·3067～3069·3098～3100	外面上半薄く黒変
37	5号竪穴	24	縄文	深鉢	中期	27.0/－/－	隆線、竹管隆線、三角押引	暗褐～褐	長-多、雲、角、赤	2573·2836·2841～2843·2905	内面下半黒変
37	5号竪穴	25	縄文	深鉢	中期	25.8/12.9/30.0	角押文、三角押文、縄文RL、押圧隆線	暗褐～褐	長、雲、石、赤	2236·2237·2239·2240·2914	内面下半黒変
37	5号竪穴	26	縄文	深鉢	中期	27.4/－/－	隆線、三角押引、角押文、縄文RL	褐～暗褐	雲-多、長、角、赤	3076	内面下半黒変、約9割遺存
37	5号竪穴	27	縄文	深鉢	中期	30.0/－/－	隆線、三角押文	褐	長-やや多、角、雲	2918·3082	
37	5号竪穴	28	縄文	深鉢	中期	(41.5)/－/－	三角押文、隆線、口唇キザミ	褐～黄褐	長、赤、雲	701·2359·2545·2547	ややもろい
38	5号竪穴	29	縄文	深鉢	中期	(30.5)/－/－	キャタピラ文、陰刻、刺突、隆線	暗褐～褐	長-やや多、雲	444·713·985·2397·2546	
38	5号竪穴	30	縄文	深鉢	中期	11.5/6.2/18.3	隆線、縄文RL	褐	角-大、長	3132·3133	約6割遺存、隆線文は1単位のみ
38	5号竪穴	31	縄文	深鉢	中期	12.4/7.0/22.0	竹管沈線、キザミ、陰刻、隆線、1単位の抽象文、三角押文	褐、内面暗褐	長、雲、角、赤	3076·3160·3119	北陸系か、内面黒変
38	5号竪穴	32	縄文	深鉢	中期	(44.0)/－/－	三角押文、隆線、陰刻、撚糸L?	黄褐～暗褐	長、雲、角	508·537·732·2527·2531·5竪41ピ	
38	5号竪穴	33	縄文	深鉢	中期	(20.4)/－/－	半裁竹管文、縄文RL	橙褐	長-やや多、雲	2304·2557	
38	5号竪穴	34	縄文	深鉢	中期	－/－/－	三角押文、隆線、縄文RL	褐、内面黒褐	長·雲·石-多、焼成不良	2916	もろい
38	5号竪穴	35	縄文	深鉢	中期	(31.5)/－/－	三角押文、隆線、竹管押引文	褐～暗褐	雲-多、長、赤、角	2915	
38	5号竪穴	36	縄文	深鉢	中期	－/－/－	三角押文、隆線、キャタピラ文、刻み	褐	長-多、角、雲	2339	
38	5号竪穴	37	縄文	深鉢	中期	(43.5)/－/－	三角押文、隆線、キャタピラ文、刻み	明褐、内面暗褐	長、角、雲	419·436·725·726	内面黒変
38	5号竪穴	38	縄文	深鉢	中期	－/－/－	角押文、隆線、横ケズリ	褐	長-多、雲	3121	
38	5号竪穴	39	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、ナデ	暗褐	長、角、石	431·432	
38	5号竪穴	40	縄文	深鉢	中期	－/(15.0)/－	三角押文、隆線、キャタピラ文、底面離れ砂	褐	長-多、雲、赤	2847	
38	5号竪穴	41	縄文	深鉢	中期	－/12.7/－	三角押文、隆線、刻み	褐	長、雲	2575	底面は平滑、内面薄く変色
39	5号竪穴	42	縄文	深鉢	中期	(25.0)/13.7/34.0	貼付文	明褐～暗褐	長-多、雲、角、堆、赤	2568·2576·3072·3073·3120	内面薄く黒変
39	5号竪穴	43	縄文	深鉢	中期	23.7/12.7/32.7	縄文RL、貼付文	暗褐～褐	長、石、赤、角、雲	437·2347·2399·2546·2557·2844·2845	内外面薄く黒変、約8割遺存
39	5号竪穴	44	縄文	深鉢	中期	26.7/12.5/37.8	横ナデ、ケズリ	暗褐	長、赤、角、雲	2293·2294·2297·2907·2908	内面下半黒変
39	5号竪穴	45	縄文	深鉢	中期	－/5.5/－	竹管沈線、キザミ、陰刻	褐～暗褐	長、赤、石	3067	内面黒色
39	5号竪穴	46	縄文	深鉢	中期	－/－/－	三角押文、隆線	橙褐、内面暗褐	長、雲、赤	2529	内面炭化物付着
39	5号竪穴	47	縄文	深鉢	中期	－/12.5/－	隆線、三角押文、竹管沈線、ケズリ	褐、内面黒褐	長、雲、角、赤	2901	内面黒変
39	5号竪穴	48	縄文	深鉢	中期	24.3/－/－	粘土帯積上痕	褐～暗褐	長-大·多、赤、雲	2584·3163	
39	5号竪穴	49	縄文	深鉢	中期	－/－/－	竹管文、刻み、隆線	暗褐～褐	長、雲	3060·3175·3202·5竪36ピ	
39	5号竪穴	50	縄文	深鉢	中期	22.7/－/－	指頭痕	褐	長·雲-多	3134	
39	5号竪穴	51	縄文	深鉢	中期	－/12.5/－	隆線、角押文、三角押文	褐	長、雲、石、赤	996·2583	
39	5号竪穴	52	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、沈線	褐～暗褐	雲、長、赤、堆	2271·2339	
40	5号竪穴	53	縄文	深鉢	中期	－/－/－	竹管文、刻み、隆線	褐	長-やや多、角、雲	2537·2916	
40	5号竪穴	54	縄文	小型深鉢	中期	(13.8)/－/－	隆線	黒褐	長-多、雲	5竪	
40	5号竪穴	55	縄文	深鉢	中期	－/7.2/－	竹管文、刻み	褐、内面黒褐	長·角-多、石	2363	内面黒変、底面灰付着
40	5号竪穴	56	縄文	深鉢	中期	－/7.2/－	竹管沈線	褐、内面黒褐	長、石、雲、赤	2366	内面黒変
40	5号竪穴	57	縄文	深鉢	中期	(14.1)/－/－	竹管文、刻み、隆線、刺突	黒褐	長-やや多、雲、赤、石	2547	
40	5号竪穴	58	縄文	深鉢	中期	－/－/－	竹管文、竹管押引文、刻み、刺突、三角押文、突起	褐	長-多、雲、角	2322	56と同一
40	5号竪穴	59	縄文	深鉢?	中期	(32.5)－/－/－	ナデ、横ヘラケズリ	褐	長-やや多、角、雲	5竪	
40	5号竪穴	60	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、キャタピラ文、三角押文	褐	雲-やや多、長、角	427·443·715·716·2395	もろい
40	5号竪穴	61	縄文	小型深鉢	中期	(9.2)/－/－	無節L	黒褐	長·白-多、角	3192	内外面黒色、もろい
40	5号竪穴	62	縄文	鉢	中期	(40.9)/－/－	隆線、沈線	褐	長-大·多、赤、角	3166	
40	5号竪穴	63	縄文	深鉢	中期	－/－/－	角押文、三角押文、陰刻、刺突	茶褐	長、角	484	

図	地点	No.	種別	器種	時期	口/底/高	整形技法	色調	胎土	注記	備考
40	5号竪穴	64	縄文	深鉢	中期	−/−/−	キャタピラ文、隆線、三角押文	褐〜茶褐	長、角、雲	465	
40	5号竪穴	65	縄文	深鉢	中期	−/−/−	隆線、刻み、陰刻、三角押文	橙褐	長、角、雲	392	
40	5号竪穴	66	縄文	深鉢	中期	−/−/−	竹管文、竹管押引文、陰刻、刻み	暗褐	長、雲、角	2349	
40	5号竪穴	67	縄文	深鉢	中期	−/−/−	隆線、三角押文、角押文、縄文LR	褐	雲、長、角	2284	
40	5号竪穴	68	縄文	深鉢	中期	−/−/−	キャタピラ文、三角押文、隆線、陰刻	暗褐	長、角、雲	2340	突起部
40	5号竪穴	69	縄文	深鉢	中期	−/−/−	竹管文、刻み、隆線	褐	雲、長	709・2384	
40	5号竪穴	70	縄文	深鉢	中期	−/−/−	隆線、刻み、三角押文、キャタピラ文	褐	長、雲、赤	2393	37と同一
40	5号竪穴	71	縄文	浅鉢	中期	43.6/−/−	隆線、キザミ、三角押引、ケズリ	暗褐	長-大、角、赤	2911・3069・3070・3079	
40	5号竪穴	72	縄文	浅鉢	中期	(47.0)/−/−	三角押引	暗褐	長、雲、角	2327	
40	5号竪穴	73	縄文	浅鉢	中期	(45.0)/−/−	三角押文	褐	長、角、雲	719・721・722・925・988・2245・2248・2249・2251・2306・2307	もろい
41	5号竪穴	74	縄文	浅鉢	中期	(43.0)/−/−	三角押文、陰刻	暗褐	長、雲	2256・3108	
41	5号竪穴	75	縄文	浅鉢	中期	40.0/(16.5)/18.0	三角押文、隆線、ケズリ	褐	長、雲、赤	500・529・540・903・904・906・923・933・934・954・958・992・2227・2235・2580・2838	底部磨耗
41	5号竪穴	76	縄文	浅鉢	中期	(34.6)/14.0/15.7	指頭圧痕	褐	長-大・多、雲、角	2296・2299	底部無文
41	5号竪穴	77	縄文	浅鉢	中期	33.2/11.3/14.3	ナデ、ケズリ、底部圧痕	褐	長-大・多、角、雲	919・2417・2528・2586・2593・P7	
41	5号竪穴	78	縄文	深鉢	中期	−/−/−	竹管文、刻み、陰刻	外面-褐、内面-黒褐	長、雲、角	3075	北陸系か
41	5号竪穴	79	縄文	深鉢	中期	−/−/−	キャタピラ文、三角押引文、隆線文	外面-暗褐、内面-橙褐	長、雲、角	2348	
41	5号竪穴	80	縄文	深鉢	中期	−/−/−	角押文、三角押文、隆線	褐	長-多・大、雲、角	5竪	
41	5号竪穴	81	縄文	深鉢	中期	−/−/−	隆線	褐	長、雲	688・2291・2371	
41	5号竪穴	82	縄文	深鉢	中期	−/−/−	隆線、キャタピラ文、三角押文	褐	長-大、角、雲	2338	
41	5号竪穴	83	縄文	深鉢	中期	−/−/−	隆線、竹管文、キャタピラ文、三角押文、陰刻	褐	長、雲	446・447・692・2360・2362・2365	
41	5号竪穴	84	縄文	深鉢	中期	−/−/−	隆線、角押文、三角押文、橋状把手	暗褐	雲-やや多、長	2548	もろい
41	5号竪穴	85	縄文	深鉢	中期	−/−/−	三角押文、角押文、隆線	褐〜暗褐	長-多、雲、角	3188	
41	5号竪穴	86	縄文	鉢	中期	(40.5/10.0)/19.6	ナデ	褐〜暗褐	長、角、赤	3165・3167	内面一部赤彩
42	5号竪穴	87	縄文	浅鉢	中期	(34.8)/−/−	ケズリ	褐	長、角	2911・3067	
42	5号竪穴	88	縄文	深鉢	中期	−/−/−	隆線、縄文RL、角押文、三角押文、陰刻	暗褐	雲-大、長、赤	3171	
42	5号竪穴	89	縄文	深鉢	中期	−/−/−	角押文、刺突、三角押文、隆線、刻み	褐、内面黄褐	長、角	519	
42	5号竪穴	90	縄文	深鉢	中期	−/15.7/−	三角押文、隆線	褐〜暗褐	長-多、雲	3164	
42	5号竪穴	91	縄文	深鉢	中期	−/(12.0)/−	ナデ	褐	長、石、赤	766	
42	5号竪穴	92	縄文	深鉢	中期	−/12.0/−	ナデ	褐〜暗褐	長-多、石、雲、赤	3116	底部摩滅
42	5号竪穴	93	縄文	深鉢	中期	−/−/−	隆線、角押文、三角押文、縄文RL	褐、内面暗褐	長、雲、角	2577	
42	5号竪穴	96	縄文	深鉢	中期	−/(14.8)/−	ナデ	褐、内面暗褐	長、赤、角、雲	2841・2904	内面黒変
42	5号竪穴	97	縄文	深鉢	中期	−/−/−	三角押引、隆線、キャタピラ文	褐、内面黒褐	長、角、雲	673・962	内面黒変
42	5号竪穴	102	縄文	深鉢	中期	−/−/−	三角押引、キャタピラ文、隆線、陰刻	暗褐〜褐	長-多、雲、赤	918	
42	5号竪穴	103	縄文	深鉢	中期	−/−/−	隆線、三角押引、指頭痕	褐、内面暗褐	長、角、赤	2909	内面薄く黒変
42	5号竪穴	104	縄文	深鉢	中期	−/−/−	三角押引、隆線、刻み	褐	長、雲、角、赤	2385	
42	5号竪穴	105	縄文	深鉢	中期	−/−/−	三角押文、貼付文	褐、内面黒褐	長、雲、赤	2586	内面黒変
42	5号竪穴	106	縄文	深鉢	中期	−/−/−	隆線、三角押引、角押文	褐、内面黒褐	長-多、雲、赤	2594	内面黒変
43	5号竪穴	107	縄文	深鉢	中期	(32.0)/−/−	隆線、キザミ、沈線	褐〜暗褐	長-多、角、赤	483・724・2912・2913	
43	5号竪穴	108	縄文	深鉢	中期	(18.0)/−/−	竹管沈線、粘土紐	暗褐	長、雲、角	3168	外面スス付着
43	5号竪穴	109	縄文	深鉢	中期	−/−/−	沈線、粘土紐	暗褐、内面褐	雲-大、角、長	2586	外面薄く黒変
43	5号竪穴	110	弥生?	甕	後期	(16.0)/−/−	ハケメ、口唇キザミ	黄褐	長、石、赤	917・5竪41ピ	もろい
52	6号竪穴	1	縄文	深鉢	中期	42.5/−/−	隆線、沈線、キザミ、竹管刺突、0段多縄RL	鈍い褐	長-多、赤、角、雲	2480	もろい
52	6号竪穴	2	縄文	深鉢	中期	−/−/−	みみずく把手、キザミ、0段多縄RL	褐	長-多、角、赤、石	2480	
52	6号竪穴	3	縄文	深鉢	中期	(18.5)/−/−	隆線、沈線、キザミ、0段多縄RL	暗褐	雲、長、角	2441	
52	6号竪穴	4	縄文	深鉢	中期	−/−/−	みみずく把手、キザミ、沈線	黄褐	長、角、雲	2219	ややもろい
52	6号竪穴	5	縄文	深鉢	中期	−/(15.0)/−	0段多縄RL	褐、内面黒褐	長、角、雲	2473	内面黒変
52	6号竪穴	7	縄文	深鉢	中期	−/−/−	沈線、0段多縄RL	褐〜暗褐	長、赤、角	2112	外面薄く変色
52	6号竪穴	8	縄文	深鉢	中期	−/−/−	隆線、沈線、キザミ	褐、内面暗褐	長、石、雲、角、赤	2442	内面薄く黒変
52	6号竪穴	9	縄文	深鉢	中期	−/−/−	竹管条線、粘土紐	褐	長、石、角	2204・6竪50ピ	
52	6号竪穴	10	縄文	浅鉢	中期	(39.5)/−/−	押圧隆線、沈線	褐	長、石、雲、赤	2468・3245・3253	
52	6号竪穴	11	縄文	深鉢	中期	−/−/−	竹管条線、隆線、竹管押引	褐	長-極多、雲、角、赤	2121	
54	7号竪穴	1	土師	坏	平安	(14.8)/−/−	ヘラケズリ	橙褐	赤、白、長、石	7竪・9竪	
54	7号竪穴	2	土師	内黒坏	平安	−/(5.2)/−	ロクロナデ、ヘラケズリ、内面螺旋状暗文	明褐、内面黒	赤	7竪	
54	7号竪穴	3	土師	皿	平安	(12.4/5.1)/2.2	ロクロナデ、底部糸切	褐	赤、白、石	1925	
54	7号竪穴	4	土師	皿	平安	12.2/5.6/2.0	ロクロナデ、底部糸切	橙褐	赤、雲、長	1805	
54	7号竪穴	5	土師	坏	平安	(12.0)/5.6/3.3	ロクロナデ	橙褐	焼成不良、赤	1823	軟質
54	7号竪穴	6	土師	坏	平安	14.5/5.9/5.4	ロクロナデ	橙褐〜暗褐	焼成不良	1824	ゆがみあり、軟質
54	7号竪穴	7	灰釉	碗	平安	16.8/8.1/5.8	ロクロナデ、付高台、釉付けがけ	灰白		1675〜1677・1806・1808	底部にヒビ割れ、約7割遺存
54	7号竪穴	8	灰釉	皿?	平安	−/6.8/−	ロクロナデ、付高台、見込み部全面施釉	白〜緑灰	黒	1926	
54	7号竪穴	9	緑釉	碗	平安	(16.6)/−/−	稜あり、内外面施釉	淡緑	乳褐色	7竪	小破片
54	7号竪穴	10	土師	坏?	平安	(22.8)/−/−	ロクロナデ	外面暗褐、内面明褐	長、赤、石、やや軟質	1667・1929	
54	7号竪穴	11	土師	羽釜	平安	(28.0)/−/−	ハケメ	明褐	長、角、雲	1810	
54	7号竪穴	12	土師	甕	平安	29.2/−/−	肥厚口縁、ハケメ	明褐	長、角、赤	1803・1820・1821・電	

図	地点	No.	種別	器種	時期	口/底/高	整形技法	色調	胎土	注記	備考
54	7号竪穴	13	土師	甕	平安	－/8.8/－	ハケメ、内面ナデ、底部木葉痕	暗褐	長-やや多、雲、角	1813～1815・1891・7竪竈	底部内面黒変
54	7号竪穴	14	土師	蓋	平安	－/－/－	内面ハケメ、貫通孔をもつ摘み	褐	長、角、石	1927	地域的な形態か
54	7号竪穴	15	土師	坏	平安	－/－/－	ヘラケズリ	橙褐	赤	7竪	体部外面墨書「大」?
54	7号竪穴	16	土師	坏	平安	－/－/－	ロクロナデ、玉縁	橙褐	赤	7竪	体部外面墨書
54	8号竪穴	1	土師	皿	平安	(11.7/4.5)/2.3	ロクロナデ、ヘラケズリ	橙褐	赤、白	1849	
54	8号竪穴	2	土師	坏	平安	(13.5)/4.9/5.2	ロクロナデ、ヘラケズリ、底部糸切	明褐～暗褐		1887	内面薄く黒色化
54	8号竪穴	3	土師	皿	平安	12.2/5.5/2.4	ロクロナデ、底部糸切	明褐	赤、長、石	1830	体部外面墨書「五五五五」、ほぼ完存
54	8号竪穴	4	土師	坏	平安	－/4.4/－	ロクロナデ、ヘラケズリ、底部糸切後ケズリ	淡褐	赤、長	1850	
54	8号竪穴	5	土師	皿	平安	(11.9)/5.0/2.5	ロクロナデ、底部糸切	明褐	赤、白、石、長、角	1836・1841	
54	8号竪穴	6	土師	坏	平安	－/5.2/－	ロクロナデ、底部糸切	暗褐	赤、白、石、長	1835	
54	8号竪穴	7	土師	内黒坏	平安	－/4.6/－	ヘラケズリ(底部外面も)	黒～橙褐	赤	8竪・F6	黒色土器
54	8号竪穴	8	灰釉	皿	平安	－/6.5/－	ロクロナデ、付高台	白～灰	白	1890(8竪竈)	内面磨耗痕?
55	8号竪穴	10	土師	鉢?	平安	(29.5)/－/－	ナデ、内面横ハケ	褐	長、石、角、赤	1889・竈	
55	8号竪穴	11	土師	鉢?	平安	(34.0)/－/－	内面横ハケ、外面ナデ	褐	長、角、赤	1827	蓋の可能性
55	8号竪穴	12	土師	甕	平安	(41.0)/－/－	ハケメ	褐～暗褐	長、石、角	竈	竈内出土、胴部内外面薄く変色
55	8号竪穴	13	土師	甕	平安	－/10.0/－	内外面ハケメなし、ナデ	黒褐～鈍い褐	雲、長、赤、白	1842・1848・竈	外面使用痕、内面見込み部黒変
55	8号竪穴	14	土師	置き竈	平安	(27.5/34.0/28.5)	ハケメ	明褐～暗褐	長、角、赤	1841・1846・1847・1853・1854・1857・竈	内面薄く変色
55	8号竪穴	15	土師	置き竈	平安	(27.0)/－/－	内外面ハケメ	暗褐～褐	長、角、赤	1845・1851・1888(竈)	内面薄く黒変
55	8号竪穴	16	土師	置き竈	平安	(28.0/35.2/26.4)	内外面ハケメ	褐	長、角、赤	1838～1840・1843・1844・1852・1855・1856・1886(竈)・1889(竈)	内面薄く黒変
56	9号竪穴	1	土師	皿	平安	(12.9)/－/－	ロクロナデ、ヘラケズリ	橙褐	長、赤	1893	
56	9号竪穴	2	土師	皿	平安	12.7/3.5/3.0	ロクロナデ、ヘラケズリ	橙褐	赤	1866	完存、竈内逆位
56	9号竪穴	3	土師	坏	平安	(11.7)/－/－	ロクロナデ、ヘラケズリ	黄褐	赤	1659	
56	9号竪穴	4	土師	坏	平安	12.1/4.6/4.5	ロクロナデ、ヘラケズリ	褐	赤	1885・9竪竈	
56	9号竪穴	5	土師	坏	平安	(14.8)/4.6/5.1	ヘラケズリ	橙褐	赤、白	1660	
56	9号竪穴	6	土師	内黒坏	平安	(13.4)/－/－	ヘラケズリ	橙褐、内面黒	赤	9竪	
56	9号竪穴	7	土師	坏	平安	(14.8/5.2)/4.4	ロクロナデ、ヘラケズリ	褐～暗褐	赤、白	1859・9竪竈	
56	9号竪穴	8	土師	坏	平安	(15.5)/－/－	ロクロナデ、ヘラケズリ	明褐	赤	9竪竈・8竪	
56	9号竪穴	9	土師	坏	平安	(13.8)/4.5/4.6	ロクロナデ、ヘラケズリ	褐～黒褐	赤	1883(9竪竈)	約6割遺存
56	9号竪穴	10	土師	皿?	平安	－/5.0/－	ヘラケズリ	明褐	赤	9竪	底部外面墨書・線刻
56	9号竪穴	11	土師	坏	平安	－/(5.3)/－	ロクロナデ、ヘラケズリ	黄褐	赤	9竪竈	体部外面墨書?
56	9号竪穴	12	土師	甕	平安	(38.4)/8.5/18.8	ハケメ、底部木葉痕	褐～暗褐	長、角、雲	1657・1860～1862・1864・1865・1881・1882・1884・7竪・8竪	外面スス付着
56	9号竪穴	13	土師	置き竈	平安	－/－/－	ハケメ	褐	雲-やや多、長、角	1626・1654・1655(9竪)・1826	
56	10号竪穴	1	縄文	深鉢	中期	40.0/－/－	隆線、沈線、押圧隆線、三本指文	橙褐～褐	長-多・大、雲、角	3242(炉A)	粘土の上塗り、側面孔
56	10号竪穴	2	縄文	深鉢	中期	(35.0)/－/－	竹管沈線、重弧文	橙褐	雲-多、長、角	2780・2782・2783・2983～2987・M8	
57	10号竪穴	3	縄文	深鉢	中期	18.3/(9.5)/28.5	粘土紐による斜格子、隆線、キザミ、沈線	褐～暗褐	長、角、雲、石、赤	2707・2744・D8・O8	内面、外面上半薄く黒変、約8割遺存、胴部4単位
57	10号竪穴	4	縄文	深鉢	中期	40.0/16.7/68.0	塔状把手、沈線、隆線、キザミ、三本指モチーフ	鈍い褐～褐	雲-多、長、角、赤	2669・2670・2679・2735～2741・2743・2748・2750・49十	内面薄く黒変
57	10号竪穴	5	縄文	深鉢	中期	－/－/－	沈線、押圧沈線、0段3縄RL	橙	長、赤、雲、角	3243(10竪炉C)	胴下半欠
57	10号竪穴	6	縄文	深鉢	中期	(16.8)/－/－	沈線、隆線、キザミ	褐	長-多、角、赤	2970	もろい
58	10号竪穴	7	縄文	深鉢	中期	－/14.9/54.0	粘土紐、キザミ	褐～暗褐	長-多、雲、赤	2656・2660・2667・2672・2701・2746・2747	
58	10号竪穴	8	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、沈線、キザミ	褐	長、角、雲	2723～2725・2745・2777・2789・2799・2990	
58	10号竪穴	9	縄文	深鉢	中期	(33.4)/－/－	隆線	褐	長、角、赤	3263	
58	10号竪穴	10	縄文	深鉢	中期	－/－/－	角押文、隆線	褐～暗褐	長、雲、角	10竪25ピ	
58	10号竪穴	11	縄文	鉢?	中期	－/－/－	押圧隆線、沈線	褐	長、赤、雲	3241(10竪43ピ)	
58	10号竪穴	12	縄文	深鉢	中期	(21.0)/－/－	ナデ	暗褐	長、雲、石	2728・3152	
58	10号竪穴	13	縄文	深鉢	中期	(26.5)/－/－	沈線、隆線	暗褐	雲-多、長	2668・2676・2777	内外面黒変
58	10号竪穴	14	縄文	深鉢	中期	－/－/－	沈線、隆線、キザミ	褐	長-多、雲、角	2749	
58	10号竪穴	15	縄文	深鉢?	中期	－/15.0/－	ナデ	暗褐	長・雲-多、角	2792	浅鉢底部の可能性、内面黒変、底面磨耗
58	10号竪穴	16	縄文	深鉢	中期	－/8.7/－	ナデ	黄褐、内面暗褐	長、雲、角	2748	
59	10号竪穴	20	縄文	深鉢	中期	－/16.0/－	隆線、沈線、キザミ、陰刻	黄褐～褐	長、石、赤、角	10竪埋甕(3244)	底部打ち抜きか、正位埋設
59	10号竪穴	21	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、キザミ	褐	長-大・多、雲、角	2663・2796	
59	10号竪穴	22	縄文	鉢	中期	(36.8/11.0)/16.5	ナデ	褐	長、雲	2702・2703	
62	11号竪穴	1	縄文	深鉢	中期	14.8/(10.0/27.5)	隆線、キャタピラ文、沈線、キザミ、縄文RL、指頭痕	褐、内面暗褐	雲・長-多、角、赤	3382	底部欠損、約9割遺存、内面薄く黒変
62	11号竪穴	2	縄文	深鉢	中期	26.0/(15.0/35.0)	抽象文、隆線、沈線、縄文RL、指頭痕	褐～灰褐・暗褐	長、角	3384	もろい、内面薄く黒変、約7割遺存
62	11号竪穴	3	縄文	深鉢	中期	13.0/－/－	隆線、竹管押引、縄文RL?	褐	長、雲、角	3324・3401・3402	
62	11号竪穴	4	縄文	深鉢	中期	12.0/7.4/(17.8)	竹管文、縄文RL、沈線	褐	長、角、雲	3333・3401	
62	11号竪穴	5	縄文	深鉢	中期	－/－/－	竹管文、竹管押引	黒褐	雲-やや多、長	3349	
62	11号竪穴	6	縄文	深鉢	中期	(29.8)/－/－	隆線、角押引、縄文RL	黄褐、内面暗褐	雲、長、角	3387・3397・3398	内面薄く黒変、もろい
62	11号竪穴	7	縄文	深鉢	中期	(23.0)/－/－	隆線、竹管押引、縄文RL?	褐	長、角、赤	3314・3354	
62	11号竪穴	8	縄文	有孔鍔付	中期	16.3/－/－	隆線、径4～5mmの孔	褐～黒褐	長、雲、角	3368・3377・3378・3384	孔は総数16か
62	11号竪穴	9	縄文	深鉢	中期	－/10.2/－	竹管沈線、縄文RL	褐	長-多、角、雲	3383	
63	11号竪穴	10	縄文	深鉢	中期	－/－/－	竹管条線、隆線	褐～黒褐	長-多、石、赤、雲、角	3347・3476・3479・3491・3492	内面下半薄く黒変

図	地点	No.	種別	器種	時期	口/底/高	整形技法	色調	胎土	注記	備考
63	11号竪穴	11	縄文	壷	中期	－/(11.0)/－	縄文RL、隆線	褐	長-多、雲、角、赤	3389・3410	
63	11号竪穴	12	縄文	把手鉢	中期	16.5/6.7/9.7	竹管押引、三角押引、隆線、陰刻	褐～暗褐	長-多、雲、角	3497	ほぼ完存、把手2、文様2単位
63	11号竪穴	13	縄文	浅鉢	中期	(35.5)/－/－	隆線、竹管押引	褐	長、雲、角	3302・3317・3318・3320・3331・3373	
63	11号竪穴	15	縄文	浅鉢	中期	－/－/－	隆線、角押引	灰褐～褐	雲-大、長、角	3375	
63	11号竪穴	16	縄文	鉢	中期	(45.5)/－/－	ナデ、沈線	褐	長、雲、角	3388	
64	12号竪穴	1	縄文	浅鉢	中期	(29.0)/－/－	三角押引	茶褐	長、雲、赤	12竪炉	
66	13号竪穴	1	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、沈線	褐	長、角、赤	3509	
66	13号竪穴	2	縄文	深鉢	中期	－/－/－	竹管条線、隆線	暗褐	長、雲、赤	13竪	
66	13号竪穴	3	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、キザミ、沈線	褐	長、雲、角	3513	
66	13号竪穴	4	縄文	深鉢	中期	－/－/－	条線、隆線、キザミ	灰褐～褐	長、角、赤、雲	3508	
66	13号竪穴	5	弥生?	甕?	弥生?	－/8.0/－	ナデ、底部無文	橙褐	長、赤、雲	3516	
66	13号竪穴	6	縄文	深鉢	中期	－/－/－	縄文RL、粘土紐	褐～暗褐	長、角	13竪	
66	1号埋甕	1	縄文	X把手深鉢	中期	(61.5)/－/－	竹管隆線、竹管条線、粘土紐、X把手	褐	長-多、赤、角	1号埋甕・口縁は53土(3449・3451～3454・3456～3460・3462・3463・3468・3475)・50土	
67	2号埋甕	1	縄文	深鉢	中期	－/13.6/－	縦ナデ	茶褐	長-多、赤-大、雲	2埋	もろい
67	焼土1	1	土師	高台皿	平安	(12.6)/－/－	ロクロナデ	橙褐～赤褐	長、赤、石	1300	内面黒変
67	焼土1	2	土師	皿	平安	(12.8)/6.9/2.5	ロクロナデ、底部糸切	橙褐	長、赤	1294	内面黒変
67	焼土1	3	土師	皿	平安	(12.1)/5.3/2.7	ロクロナデ、底部糸切	橙褐	長、角、赤	1297・1308	
67	焼土1	4	土師	皿	平安	13.0/6.3/2.4	ロクロナデ、底部糸切	橙褐	長、角、赤	1296	
67	焼土1	5	土師	坏	平安	(11.8)/－/－	ロクロナデ	橙	赤	1301	もろい
67	焼土1	6	土師	坏?	平安	(12.0)/－/－	ロクロナデ	橙褐	赤、白、角	1309(焼土1)	体部外面墨書「田」?
67	焼土2	1	緑釉	皿	平安	(27.0)/－/－	ロクロナデ	緑褐	灰褐色	1315	小破片
67	焼土2	2	土師	羽釜	平安	(16.7)/－/－	内外面ハケメ	暗褐	長、角、雲	焼土2	
67	11号土坑	1	縄文	深鉢	中期	(41.0)/－/－	無文	褐	長、赤	360	
67	11号土坑	2	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、キザミ、沈線	暗褐	長、褐、雲	11土	
68	13号土坑	1	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、キザミ	黄褐	長、赤、雲	345	
68	14号土坑	1	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、キザミ	褐	雲-多、長、赤	351	
68	16号土坑	1	縄文	深鉢	中期	－/－/－	竹管沈線、竹管押引	黄褐	長、雲	317	
68	16号土坑	2	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、キザミ、縄文0段多縄RL	黄褐	長、赤	316	
68	19号土坑	1	縄文	深鉢	中期	－/(7.1)/－	縄文RL	黄褐	長、雲	682	内面アレ
68	22号土坑	1	縄文	深鉢	中期	－/－/－	竹管隆線、ナデ	橙褐	長、雲、赤、角	2900	
68	24号土坑	1	縄文	深鉢	中期	－/－/－	沈線	褐、内面黒褐	長-多、雲-大、赤	2890	内面黒変
68	28号土坑	1	縄文	深鉢	中期	(20.0)/－/－	隆線、キザミ、沈線、撚糸文?L、みみずく把手	赤褐	長、角、赤	2627・2773・2823・2824・2826・2827	もろい
68	28号土坑	2	縄文	深鉢	中期	(41.6)/－/－	隆線、沈線	鈍い褐	長、角、石	2821	
68	28号土坑	3	縄文	深鉢	中期	(21.2)/－/－	0段多縄RL	褐～鈍い褐	長、赤	2764・2767	
68	28号土坑	4	縄文	浅鉢	中期	－/－/－	押圧隆線、沈線	褐	長、雲、角	2622	
68	28号土坑	5	縄文	深鉢	中期	－/－/－	0段多縄RL、磨消文	暗褐、内面黒褐	長、雲	2621	内面黒変
69	28号土坑	6	縄文	鉢	中期	(47.5)/－/－	竹管沈線、竹管押引、0段多縄RL	明褐～灰褐	長-多、角、石、雲	2629・2769・2771・2817・2820・2822	補修孔、もろい
69	28号土坑	7	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、キザミ	褐	長、角、赤、雲	2824	
69	28号土坑	8	縄文	深鉢	中期	－/－/－	沈線、刺突、0段多縄RL	褐	長、角、石、雲	2819	
69	28号土坑	9	縄文	深鉢	中期	－/－/－	竹管沈線、沈線	褐～暗褐	長、角、雲、赤	2775	
69	28号土坑	10	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、キザミ、0段多縄RL	褐	長、角、石、雲	2774・2825	
69	31号土坑	1	縄文	鉢?	中期	－/10.2/－	無文	橙褐	長-多、雲、赤	2807	底部内外面磨耗
70	29号土坑	1	縄文	深鉢	中期	(52.0/23.0/78.6)	隆線、沈線、縄文RL	褐、内面暗褐	長-多、角、赤	1910・1994・2320・2503・2857・2859～2862・2864・2865・2867・2868・2872～2877・2880・2881・2882・2884・2885～2887・2888・2966・3264	非常にもろい
70	29号土坑	2	縄文	深鉢	中期	－/－/－	ミミズク把手	褐、内面暗褐	長-多、角、赤	2864・2865	
70	29号土坑	3	縄文	深鉢	中期	(16.8)/－/－	沈線、蛇行隆線	暗褐	長、赤、角	2403・2431(29土)	
71	33号土坑	1	縄文	深鉢	中期	－/－/－	竹管沈線、竹管条線	褐	長、角、赤	33土　、	
71	34号土坑	1	縄文	浅鉢	中期	(51.0/16.5)/30.5	沈線、刻み隆線、体部横ケズリ	暗褐～橙褐	長-極多、雲・角-多、赤	2894・2895	
71	36号土坑	1	縄文	深鉢	中期	－/－/－	重弧文、隆線	褐	長-多、雲、赤	2856	
71	36号土坑	2	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、ナデ	橙褐	雲-多、長	2879	
71	39号土坑	1	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、刻み、沈線	橙褐	長-多、赤、角	2922	
71	41号土坑	1	縄文	深鉢	中期	(38.5)/－/－	竹管沈線、刻み、縄文0段多縄、突起	褐～暗褐	長-多、角、赤	2490・2509・2524・2938・2939・2941・2945・2957・2958・2963・3220	
72	41号土坑	2	縄文	深鉢	中期	26.3/(13.4)/39.5	0段多縄RL	鈍い褐	雲-多、長、赤	2930・2940・2942～2946・2952・2953	補修孔(未貫通)、内面わずかに黒変
72	41号土坑	3	縄文	鉢	中期	(20.0/11.0)/11.0	隆線、沈線、竹管押引、把手	褐	長-多、角、赤	2949	
72	41号土坑	4	縄文	深鉢	中期	－/18.8/－	竹管隆線、竹管押引	橙褐	長、角、雲	2485・2933・2950・2954・2956	
72	41号土坑	5	縄文	深鉢	中期	(24.5)/－/－	隆線、刻み、キャタピラ文、沈線、縄文RL	褐	雲、長、赤	2934～2936	
73	48号土坑	1	縄文	小型深鉢	中期	13.0/6.0/13.0	無節L	褐	長、赤、角、雲	3431	約5割遺存
73	48号土坑	2	縄文	深鉢	中期	－/6.6/－	無文	褐	長、角	3432・3433	
73	48号土坑	3	縄文	鉢	中期	(36.0)/－/－	縄文RL	鈍い褐	長-多、雲	3428	
73	49号土坑	1	縄文	深鉢	中期	(39.8)/－/－	竹管沈線、粘土紐	褐、内面暗褐	雲-多、長、赤	3420～3423	
73	49号土坑	2	縄文	深鉢	中期	－/－/－	竹管沈線、粘土紐	褐	長-多、赤	3424	
73	52号土坑	1	縄文	深鉢	中期	(46.0)/－/－	竹管条線、粘土紐、竹管押引	褐～暗褐	長-多、赤、雲	3192・3281～3288・3291・3292・3295・3296・3298・3301・3306～3308・3310～3313・3350・3437	
73	52号土坑	2	縄文	深鉢	中期	－/－/－	竹管沈線、竹管刺突	褐、内面黒褐	長-多、赤	3287・3293・3296	
74	50号土坑	1	縄文	深鉢	中期	(58.5/14.5/68.0)	竹管沈線、重弧文、櫛歯条線、隆線、沈線	褐～黄褐	長-多、赤	1800・3266	
74	54号土坑	1	縄文	深鉢	中期	－/13.6/－	隆線、角押文、三角押文、沈線	茶褐	長、雲、角	3474	

図	地点	No	種別	器種	時期	口/底/高	整形技法	色調	胎土	注記	備考
75	58号土坑	1	縄文	深鉢	中期	(43.5)/－/－	隆線、三角押引	橙褐	長、角、雲、赤	3597・3606・3607・3611	
75	58号土坑	2	縄文	深鉢	中期	(23.2)/11.6/31.3	キャタピラ文、三角押文、隆線	褐、内面黒褐	長、雲、角	3595～3602・3604・3605・3607～3610・3612・1竪	内面黒変
75	58号土坑	3	縄文	深鉢	中期	－/14.2/－	隆線、三角押引、ケズリ	橙褐	長-多、雲、赤、堆	3603	底部無文
75	58号土坑	4	縄文	深鉢	中期	－/(17.0)/－	角押文、三角押文、隆線	褐	長-多、角、雲、赤	3609・3612	もろい
75	59号土坑	1	縄文	深鉢	中期	－/19.8/－	隆線、キザミ、三角押引、貼付文、ケズリ	鈍い褐	長、角、赤	3577(59土3号埋甕)・3578	ややもろい
75	82号ピット	1	縄文	深鉢	中期	－/－/－	水煙文突起、沈線	黄褐	雲-多、長、角	82ピ	
76	1号井戸	3	灰釉	蓋?	中世?	4.4/2.5/1.2	ロクロナデ?、施釉	淡褐		3562	完存
76	2号溝	1	土師	坏	平安	(11.8)/6.6/4.2	ロクロナデ、ヘラケズリ	橙褐	赤、雲	2溝	約7割遺存
76	5号溝	1	志野	皿	中世	(11.0)/－/－	ロクロナデ	灰褐	灰白	5溝(N10)	16C末
76	5号溝	2	染付	皿	中世	－/(7.0)/－	見込み部十字花文、外面宝相華唐草文	白、青		5溝(N10)	明、15C後半～末
76	6号溝	1	土師	坏	奈良	12.8/－/3.9	外面ケズリ	橙褐	長、赤、角、雲	1343	内面一部布目痕
76	6号溝	2	須恵	長頸壺	奈良	－/8.4/－	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台	緑灰	白	1344	口縁部欠損、約9割遺存
76	9号溝	1	縄文	浅鉢	中期	(40.5/11.6)/12.5	0段多縄RL?	橙褐	長、雲、赤	2449・2502・2517～2519	ややもろい
77	谷トレンチ	1	縄文	深鉢	中期	－/－/－	沈線、条線	灰褐	長、赤、雲	1332	全体磨耗
77	谷トレンチ	2	縄文	深鉢	中期?	－/－/－	沈線?	褐	長、角	谷トレ	全体磨耗
77	谷トレンチ	3	縄文	深鉢	中期?	－/－/－	竹管沈線、竹管押引	褐、内面黒褐	長、赤、雲	1346	内面黒変
77	谷トレンチ	4	縄文	深鉢	中期	－/－/－	撚糸L?、竹管沈線	赤褐	長、赤	1331	全体磨耗
77	谷トレンチ	5	土師	円筒土器	古墳?	－/(13.4)/－	内外面ハケメ	赤褐～灰褐	赤、雲、長、石	1338	
77	遺構外	1	縄文	深鉢	中期	40.0/－/－	隆線、キザミ、把手、竹管沈線、0段多縄RL	赤褐～暗褐	長、雲、赤、角	2162	
77	遺構外	2	縄文	深鉢	中期	25.0/(15.5)/34.5	突起、ミミズク把手、0段3縄RL	褐	長-多、角、雲	1995・1996・L6	
77	遺構外	3	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、三角押引、角押文	褐、内面暗褐	長-多、雲、角、赤	3125	
77	遺構外	4	縄文	深鉢	中期	18.8/－/－	竹管文、沈線、隆線、刻み	褐	雲-大・多、角	表採	内面薄く黒変
77	遺構外	5	縄文	深鉢	中期	－/－/－	竹管文、沈線、隆線、刻み	暗褐	長-多、雲、角	1445	
77	遺構外	6	縄文	深鉢	中期	－/－/－	口縁突起、隆線、刻み、沈線	褐	長、褐、石	3224	
77	遺構外	7	縄文	深鉢	中期	34.5/－/－	隆線、沈線、刻み	褐～黄褐	長、雲、赤	2150・2325	
77	遺構外	8	縄文	小型深鉢	中期	(9.0)/－/－	竹管沈線、刻み	褐	長、雲	P7	
77	遺構外	9	縄文	浅鉢	中期	－/－/－	隆線、三角押文、角押文、角押文	褐～暗褐	長、デ?、雲	3227	
78	遺構外	10	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、刻み	黒褐～暗褐	雲、長、赤	1991・1992	
78	遺構外	11	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、沈線、竹管押引文	褐	長、雲	基礎3	
78	遺構外	12	縄文	深鉢	中期	－/－/－	沈線、隆線、竹管押引文	褐～黒褐	長-多、雲、角、赤	3竪209	11と同一
78	遺構外	13	縄文	深鉢	中期	14.0/－/－	粘土紐、櫛歯条線	暗褐～褐	雲-やや多、長	2405	約7割遺存、内面・外面上半薄く黒変
78	遺構外	14	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、蛇行粘土紐	鈍い褐	雲-多、長、赤、角	1429	
78	遺構外	15	縄文	深鉢	中期	－/－/－	竹管隆線、竹管文	褐～黄褐	雲・角-多、長	3竪263	
78	遺構外	16	縄文	鉢	中期	(31.5)/－/－	沈線、無節L	暗褐～黄褐	長-多、赤	1377	
78	遺構外	17	縄文	把手鉢	中期	9.3/(6.5)/9.6	沈線、刺突	褐	雲、長、角	3195・3521・1号井戸	約9割遺存
78	遺構外	18	縄文	深鉢	中期	－/－/－	沈線、櫛歯ハ状文	鈍い褐～暗褐	長、石、堆、赤	2168	
78	遺構外	19	縄文	深鉢	中期	－/－/－	隆線、ハの字文	褐～暗褐	長-多、赤	3竪243	
78	遺構外	20	縄文	深鉢	中期	－/－/－	沈線、ハの字文	褐～茶褐	長、角、赤、石	3竪218	
78	遺構外	21	縄文	深鉢	中期	－/－/－	口縁部突起、内部空洞、球状、沈線、隆線文	褐	赤-大・多、長、雲	2269	
80	遺構外	43	弥生	壷	後期	－/－/－	縄文LR、貼付文	橙褐	長、石、角	1611・2261・K5・K6	
80	遺構外	44	土師	坏	古墳	(17.6)/11.0/5.3	ヘラケズリ	橙褐	長、赤、雲	1722・L7	
80	遺構外	45	土師	坏	奈良	14.3/10.0/3.5	ヘラケズリ	橙褐	赤	1787	
80	遺構外	46	土師	坏	奈良	(14.1)/10.1/2.9				1088・1089	内面漆紙?付着
80	遺構外	47	土師	高坏	古墳	－/13.3/－	ヘラケズリ、ミガキ	暗褐～橙褐	赤	2001	
80	遺構外	48	土師	坏	奈良?	(12.2)/7.0/4.8	ロクロナデ、底部木葉痕	暗褐、内面黒褐～暗褐	長、赤、角	1604	
80	遺構外	49	土師	坏	平安	11.8/5.0/3.4	ロクロナデ、底部糸切	褐～橙褐	長、雲、角	E2	約5割遺存
80	遺構外	50	土師	皿	平安	(12.0/5.8)/2.5	ロクロナデ、底部糸切	黄褐	長、石、赤	K8	ややもろい
80	遺構外	51	土師	皿	平安	(12.8/5.4)/2.1	ロクロナデ、底部糸切	橙褐	赤	F5	
80	遺構外	52	土師	坏	平安	(15.0/7.8)/4.4	ロクロナデ、底部糸切	黄褐	長、石、赤	1074	ややもろい
80	遺構外	53	土師	内黒坏	平安	13.7/6.5/3.7	ロクロナデ、底部糸切	黒褐～黒	赤-大	1152	外面黒変
80	遺構外	54	土師	坏	平安	(11.8)/5.6/3.3	ロクロナデ、底部糸切	褐	長-多、赤	1602	もろい
80	遺構外	55	土師	坏	平安	(11.6/5.8)/3.7	ロクロナデ、底部糸切	鈍い褐	赤、長、雲	1202	
80	遺構外	56	土師	坏	平安	15.0/7.9/4.8	ロクロナデ、底部糸切	灰	赤、白	F2	
80	遺構外	57	土師	坏	平安	－/(5.0)/－	ヘラケズリ	鈍い褐	赤	表採	体部外面墨書「安」
80	遺構外	58	土師	内黒坏	平安	－/－/－	ロクロナデ、ヘラケズリ	外面橙褐、内面黒	赤	F2	体部外面墨書
80	遺構外	59	土師	坏?	平安	－/－/－	糸切後ヘラケズリ	灰褐	赤	G3	底部外面墨書
80	遺構外	60	土師	坏?	平安?	－/－/－	ロクロナデ	橙褐	赤	E3	体部外面墨書「万」?
80	遺構外	73	須恵	蓋	古墳	(12.5)/－/－	ロクロナデ	青灰		1199	
80	遺構外	74	須恵	坏	古墳	8.8/4.3/3.8	ロクロナデ、底部ケズリ	青灰	白	溝2088	約7割遺存
80	遺構外	75	須恵	高台坏?	奈良	－/10.2/－	ロクロナデ、付高台	青灰	白	1109	
80	遺構外	76	須恵	平瓶	奈良?	－/8.5/－	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	緑灰～灰	白、黒	2018・2024・2025・L7	約9割遺存
80	遺構外	77	須恵	壷	奈良?	－/(7.7)/－	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台	褐～青灰	白	1153・1166・1167	
80	遺構外	78	須恵	甕	古墳?	－/21.0/－	ロクロナデ、隆線、外面叩き、内面当て具痕	灰白	白・黒	1448・1696・1706・1707・1710・1718・2026・2032・2038・2058・L7	
80	遺構外	79	須恵	甕	古墳?	21.0/－/－	ロクロナデ	灰白		1652・1759・1760	
80	遺構外	80	灰釉	壷	平安?	(20.1)/－/－	ロクロナデ、叩き	緑灰、内面灰褐		J7・M6	
80	遺構外	81	須恵	甕	古墳?	23.0/－/－	ロクロナデ、叩き	灰白	長	1477・1724・1778・1779	
80	遺構外	82	須恵	甕	古墳?	(30.0)/－/－	ロクロナデ、隆線	灰白		1595・I6	
81	遺構外	83	須恵	甕	古墳?	(49.6)/－/－	ロクロナデ、4本の波状沈線、隆線	灰	赤、白	1204・1460・1643・1694・1695	

図	地点	No	種別	器種	時期	口/底/高	整形技法	色調	胎土	注記	備考
81	遺構外	84	須恵	壷	古墳?	(18.0)/－/－	ロクロナデ、叩き、内面一部ハケメ	暗灰	堆、白	2059・2066・2072・2079・2089・2141・2143・G5・I6	
81	遺構外	85	須恵	甕	古墳?	(25.4/－/36.0)	丸底、外面叩き	灰～灰青	長、黒	68・69・1394・1451～1453・1458・1459・1461・1462・1470・1471・1475・1486・1645・1648・1698・1699・1701・1703～1705・1714～1717・1728・1734・1751・1752・1761・2009・2021・2031・2033・2055・K7・L7・M8	口縁部が肩に融着(図の口縁部は復元)
81	遺構外	86	須恵	鉢?	奈良?	－/(15.5)/－	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台	灰	白、黒	1243	
81	遺構外	87	須恵	鉢?	平安?	－/(13.6)/－	ロクロナデ	灰	白、黒	1603	内面平滑
81	遺構外	88	須恵	壷	平安?	－/7.2/－	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台	青灰	白、黒	1383・L7	
81	遺構外	89	須恵	壷	不明	－/13.2/－	ロクロナデ、底部指頭痕?、付高台	青灰	断面褐色、白、赤、石	31	
81	遺構外	90	須恵	壷	奈良?	－/8.5/－	ロクロナデ、付高台?	灰白		1267	
81	遺構外	91	須恵	鉢?	奈良?	－/8.9/－	ロクロナデ、底部糸切	灰褐	やや軟質、白、赤	1100	
81	遺構外	92	灰釉	蓋?	平安	(12.8)/－/－	ロクロナデ	緑灰～白		E6	
81	遺構外	93	灰釉	四耳壷?	平安	－/－/－	内面当て具痕	緑褐～灰	白	G4	
81	遺構外	94	灰釉	壷	平安	－/7.2/－	ロクロナデ、削り出し高台?	灰緑		1142	
81	遺構外	95	灰釉?	小壷	近世?	－/3.1/－	ロクロナデ	灰～白		F4	近世陶器か
81	遺構外	96	灰釉	壷	平安	－/7.2/－	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台	灰褐		1086	
81	遺構外	97	灰釉	段皿	平安	(12.6/6.3)/1.9	ロクロナデ、付高台	灰白		E3	
81	遺構外	98	灰釉	段皿	平安	(12.6/6.7)/1.8	ロクロナデ、付高台	灰白		F4	
81	遺構外	99	灰釉	皿	平安	(12.9/7.0)/2.6	ロクロナデ、付高台	灰	白	J6	
81	遺構外	100	灰釉	碗	平安	－/(8.1)/－	ロクロナデ	灰白～緑灰	白	1196	見込み部全面施釉
81	遺構外	101	灰釉	碗	平安	－/8.0/－	ロクロナデ、付高台	灰	黒	1083	内面平滑
81	遺構外	102	灰釉	碗	平安	－/7.0/－	ロクロナデ、付高台	乳白	白、黒	1289	高台に圧痕
81	遺構外	103	灰釉	碗?	平安	－/8.9/－	ロクロナデ、付高台	青灰	白	2004	須恵的な色調、静岡方面か
81	遺構外	104	灰釉	輪花碗	平安	－/－/－	ロクロナデ			E3	体部縦沈線
81	遺構外	105	灰釉	耳皿	平安	10.2/5.0/－	ロクロナデ、付高台、見込み部全面施釉	灰褐～緑褐	白	1092	
82	遺構外	106	灰釉	碗	平安	－/6.5/－	ロクロナデ、漬掛け、付高台	灰白	灰色、赤、白	1151	転用硯か(内面使用痕)、
82	遺構外	107	灰釉	碗	平安	－/9.0/－	ロクロナデ、付高台	灰褐	白	1205	転用硯か(わずかに墨痕)
82	遺構外	108	灰釉	碗	平安	－/7.0/－	ロクロナデ、付高台	灰～褐		1200	転用硯(内面朱?付着)
82	遺構外	109	灰釉	碗?	平安	－/7.2/－	ロクロナデ、付高台	灰褐	白	G6	転用硯(内面磨耗・薄い朱墨痕)
82	遺構外	110	灰釉	皿	平安	－/(7.8)/－	ロクロナデ、付高台	灰白	黒	1222	転用硯か(内面)
82	遺構外	111	土師	皿	中世	8.5/5.6/1.7	ロクロナデ、底部糸切	橙褐	白、雲、石	2323	約9割遺存、見込み部キズ
82	遺構外	112	土師	柱状皿?	中世	－/3.9/－	柱状高台	明褐	長、角、赤	J6	
82	遺構外	113	土師	柱状皿?	中世	－/4.0/－	柱状高台、ロクロナデ	暗褐	雲-多	H6	
82	遺構外	114	土師	柱状皿?	中世	－/5.1/－	柱状高台、ロクロナデ、底部糸切	黄褐	長、石、角	1221	
82	遺構外	115	陶器	甕	中世	－/－/－	同心円状印	暗褐	長、黒	2463	渥美?
82	遺構外	116	染付	皿	中世	(9.0/5.1)/1.9	外面宝相華唐草文	白、青		N9	明、15C後半～末
82	遺構外	117	青磁	碗	中世	－/6.2/－	内面片彫り	青白	灰白	1161	青白磁か
82	遺構外	118	土師	すり鉢	中世	(28.0)/－/－	内面櫛歯状沈線、ロクロナデ	暗褐～灰褐	赤、雲、長、断面黒色サンド	3堅291	
82	遺構外	119	土師	ほうろく	近世?	(19.9/22.5)/4.0	ナデ	黄褐～褐	長、雲、角	J6	
82	遺構外	120	白磁	碗	中世	(14.9)/－/－	ロクロナデ、玉縁	白		F4	

表３　石器観察表

（Hfはホルンフェルスの略）

図版	地点	No.	分類	長/幅/厚	重さg	石材	色調	注記	備考
25	1･2号竪穴	26	砥石	7.1/3.0/1.3	32.0	泥質岩	灰褐	966	
27	1･2号竪穴	27	打斧	11.3/4.7/1.3	79.0	Hf	青灰	308(1竪ピ)	表面劣化
27	1･2号竪穴	28	打斧	10.0/5.4/1.5	94.0	Hf	青灰	385(1竪10ピ)	
27	1･2号竪穴	29	打斧	11.9/4.4/1.3	63.0	Hf	灰褐	138	
27	1･2号竪穴	30	打斧	11.9/4.7/1.6	145.0	Hf	青灰	1竪13ピ	
27	1･2号竪穴	31	打斧	11.1/4.3/1.6	86.0	Hf	青灰	312(1竪ピ)	表面劣化
27	1･2号竪穴	32	打斧	12.3/4.5/1.4	116.0	Hf	青灰	557	
27	1･2号竪穴	33	打斧	16.6/7.1/2.7	410.0	Hf	灰褐	149	
27	1･2号竪穴	34	打斧	11.9/3.8/1.2	62.0	Hf	青灰	202(2竪炉)	表面劣化
27	1･2号竪穴	35	打斧	10.2/5.4/1.2	90.0	Hf	青灰	156	
27	1･2号竪穴	36	打斧	9.0/4.9/1.2	66.0	Hf	灰褐	311(1竪ピ)	
27	1･2号竪穴	37	打斧	5.6/4.7/1.4	53.0	Hf	灰褐	1竪74ピ	
27	1･2号竪穴	38	打斧	7.9/3.9/1.0	34.0	Hf	灰褐	3541	
27	1･2号竪穴	39	打斧	6.6/3.9/1.2	35.0	Hf	青灰	1竪	
27	1･2号竪穴	40	横刃形	12.0/5.4/1.9	151.0	Hf	灰褐	1000	
27	1･2号竪穴	41	横刃形	11.8/5.7/2.0	115.0	Hf	灰褐	571	
27	1･2号竪穴	42	横刃形	7.9/5.5/1.4	72.0	Hf	青灰	160	
27	1･2号竪穴	43	石鏃	2.1/1.4/0.4	0.7	黒曜石	黒透	310(1竪ピ)	
27	1･2号竪穴	44	石錐	2.5/1.4/0.3	1.2	黒曜石	黒透	1竪76ピ	
27	1･2号竪穴	45	叩き石	7.8/5.9/3.5	260.0	安山岩	灰褐	155	側面敲打
27	1･2号竪穴	46	磨り石	12.2/10.0/7.0	1310.0	花崗岩類	灰褐	886(1竪10ピ)	
27	1･2号竪穴	47	凹み石	15.0/6.1/3.5	537.0	安山岩	灰褐	154	
27	1･2号竪穴	48	稜磨り石	16.1/9.2/4.2	1005.0	花崗岩類	灰褐	142	
31	4号竪穴	52	打斧	10.7/6.3/1.7	129.0	頁岩	灰	3238	
31	4号竪穴	53	打斧	11.7/5.0/1.3	108.0	Hf	青灰	4竪	
31	4号竪穴	54	打斧	12.8/5.7/1.2	112.0	Hf	青灰	822	表面劣化
31	4号竪穴	55	打斧	16.8/6.3/1.4	156.0	Hf	青灰	795	
31	4号竪穴	56	打斧	17.0/6.8/2.2	286.0	Hf	灰褐	835	
31	4号竪穴	57	打斧	12.1/6.0/1.5	117.0	Hf	灰褐	1036	
31	4号竪穴	58	打斧	12.2/5.5/1.4	89.0	Hf	青灰	390	表面劣化
31	4号竪穴	59	打斧	12.9/5.4/1.6	150.0	Hf	灰褐	785	
31	4号竪穴	60	打斧	12.6/5.8/1.8	140.0	Hf	青灰	796	
31	4号竪穴	61	打斧	11.8/4.8/1.3	101.0	Hf	青灰	3008	
31	4号竪穴	62	打斧	9.8/9.2/2.1	209.0	Hf	青灰	1054	
31	4号竪穴	63	打斧	11.1/5.6/1.5	118.0	Hf	灰褐	1012	
31	4号竪穴	64	打斧	9.2/5.5/1.4	90.0	Hf	青灰	4竪	
31	4号竪穴	65	打斧	11.7/5.5/1.8	132.0	Hf	灰褐	618	表面劣化
31	4号竪穴	66	打斧	12.6/4.7/1.4	100.0	Hf	青灰	1959	
31	4号竪穴	67	打斧	8.8/3.3/1.1	45.0	Hf	青灰	1935	表面劣化
31	4号竪穴	68	打斧	9.5/6.7/1.2	102.0	Hf	青灰	1971	
31	4号竪穴	69	打斧	10.0/5.5/1.4	86.0	Hf	青灰	1587	
31	4号竪穴	70	打斧	9.5/5.2/1.0	78.0	Hf	青灰	839	
31	4号竪穴	71	打斧	8.0/5.3/1.5	87.0	Hf	灰褐	1057	
32	4号竪穴	72	打斧	11.1/5.2/1.0	101.0	Hf	青灰	776	
32	4号竪穴	73	打斧	11.6/4.4/1.6	118.0	Hf	青灰	597	表面劣化
32	4号竪穴	74	打斧	10.8/4.9/1.4	82.0	Hf	青灰	830	
32	4号竪穴	75	打斧	12.6/5.5/1.3	115.0	Hf	灰褐	617	表面劣化
32	4号竪穴	76	打斧	10.1/5.6/1.5	124.0	Hf	青灰	1049	
32	4号竪穴	77	打斧	9.0/2.8/0.7	25.0	Hf	青灰	829	表面劣化
32	4号竪穴	78	打斧	7.3/5.0/1.3	49.0	Hf	青灰	804	
32	4号竪穴	79	打斧	8.5/4.2/1.1	41.0	Hf	青灰	3041	表面劣化
32	4号竪穴	80	打斧	7.4/5.8/1.2	84.0	Hf	青灰	980	
32	4号竪穴	81	打斧	10.8/3.4/1.3	46.0	Hf	灰褐	1019	
32	4号竪穴	82	打斧	12.1/3.9/0.8	45.0	Hf	灰褐	831	
32	4号竪穴	83	打斧	10.8/5.6/1.9	126.0	Hf	青灰	643	
32	4号竪穴	84	打斧	10.0/5.9/2.3	140.0	Hf	青褐	1020	
32	4号竪穴	85	打斧	10.0/6.2/1.4	126.0	Hf	灰褐	1942	
32	4号竪穴	86	打斧	9.3/5.8/1.8	101.0	Hf	灰褐	1017	表面劣化
32	4号竪穴	87	打斧	11.0/5.8/0.7	84.0	Hf	灰褐	1055	
32	4号竪穴	88	打斧	7.2/5.5/1.2	58.0	粘板岩	青灰	794	表面劣化
32	4号竪穴	89	打斧	8.9/4.3/0.8	36.0	Hf	青灰	1031	表面劣化
32	4号竪穴	90	打斧	9.5/4.8/1.1	60.0	Hf	灰褐	777	表面劣化
32	4号竪穴	91	打斧	10.4/4.8/1.1	51.0	粘板岩	青灰	601	
32	4号竪穴	92	打斧	9.1/4.3/1.4	64.0	粘板岩	灰褐	611	
32	4号竪穴	93	打斧	8.5/4.0/1.2	53.0	Hf	青灰	3237	表面劣化
32	4号竪穴	94	打斧	6.7/4.0/2.2	68.0	Hf	青灰	620	
32	4号竪穴	95	打斧	6.2/4.1/1.4	40.0	Hf	灰褐	783	表面劣化
32	4号竪穴	96	打斧	7.5/4.2/1.1	49.0	Hf	灰褐	1056	表面劣化
32	4号竪穴	97	打斧	6.4/3.3/0.8	21.0	Hf	青灰	790	表面劣化
33	4号竪穴	98	横刃形	8.2/4.6/0.8	35.0	Hf	青灰	781	
33	4号竪穴	99	横刃形	8.0/6.4/0.9	50.0	Hf	灰褐	1973	
33	4号竪穴	100	横刃形	11.8/5.8/1.4	86.0	Hf	灰褐	976	
33	4号竪穴	101	横刃形	8.3/8.7/1.9	140.0	Hf	灰褐	4竪	
33	4号竪穴	102	横刃形	12.0/5.6/1.3	104.0	Hf	灰褐	1038	
33	4号竪穴	103	横刃形	10.1/4.5/1.4	65.0	Hf	青灰	805	
33	4号竪穴	104	磨り石	11.0/8.4/6.4	905.0	花崗岩類	灰褐	1001	
33	4号竪穴	105	凹み石	10.5/7.7/6.9	786.0	安山岩	灰褐	1023	
33	4号竪穴	106	磨斧	11.1/5.2/3.7	366.0	火山礫・凝灰岩	緑褐	1589	
33	4号竪穴	107	磨り石	7.0/6.1/5.1	297.0	花崗岩類	灰	1021	
33	4号竪穴	108	石核	8.5/3.8/2.2	90.0	チャート	青灰	1586	

図版	地点	№	分類	長/幅/厚	重さg	石材	色調	注記	備考
33	4号竪穴	109	剥片	4.0/1.6/0.8	3.3	黒曜石	黒透	1030	
33	4号竪穴	110	石皿	6.3/5.2/5.5	169.0	安山岩	灰褐	1022	
33	4号竪穴	111	石皿	8.9/4.7/7.1	368.0	安山岩	灰褐	2097	
33	4号竪穴	112	石皿	10.7/10.4/7.5	968.0	安山岩	灰褐	1002	
46	5号竪穴	137	打斧	11.1/5.6/1.3	129.0	粘板岩	青灰	514	
46	5号竪穴	138	打斧	10.5/5.0/1.0	61.0	Hf	灰褐	741	表面劣化
46	5号竪穴	139	打斧	14.5/5.8/1.6	198.0	Hf	灰褐	521	
46	5号竪穴	140	打斧	17.1/6.3/2.4	269.0	Hf	灰褐	3141	表面劣化
46	5号竪穴	141	打斧	15.1/5.8/1.3	167.0	Hf	灰褐	2389	
46	5号竪穴	142	打斧	11.4/5.1/1.7	103.0	Hf	灰褐	5竪	
46	5号竪穴	143	打斧	12.0/4.8/1.5	105.0	Hf	青灰	2830	表面劣化
46	5号竪穴	144	打斧	10.6/5.7/1.8	108.0	Hf	青灰	956	
46	5号竪穴	145	打斧	12.5/5.9/1.3	142.0	Hf	灰褐	3049	
46	5号竪穴	146	打斧	11.5/4.3/1.5	101.0	Hf	青灰	458	
46	5号竪穴	147	打斧	13.3/5.8/1.5	153.0	Hf	灰褐	3105	
46	5号竪穴	148	打斧	13.2/5.9/2.0	163.0	Hf	青灰	983	
46	5号竪穴	149	打斧	12.7/5.3/1.7	158.0	Hf	青灰	2434	
46	5号竪穴	150	打斧	13.5/6.1/2.0	220.0	Hf	灰褐	3122	
46	5号竪穴	151	打斧	13.0/5.6/2.0	189.0	Hf	灰褐	553	
46	5号竪穴	152	打斧	11.3/5.3/1.6	113.0	Hf	灰褐	2430	
47	5号竪穴	153	打斧	12.9/5.1/2.2	162.0	Hf	灰褐	3085	
47	5号竪穴	154	打斧	13.6/5.1/1.6	132.0	Hf	灰褐	3136	
47	5号竪穴	155	打斧	13.0/5.8/1.4	158.0	Hf	褐	3093	
47	5号竪穴	156	打斧	12.1/5.7/1.6	138.0	Hf	青灰	3048	
47	5号竪穴	157	打斧	10.5/6.6/1.6	143.0	粘板岩	青灰	549	
47	5号竪穴	158	打斧	9.7/6.0/1.1	86.0	Hf	灰褐	3184	
47	5号竪穴	159	打斧	12.0/4.5/1.1	68.0	Hf	灰褐	5竪	表面劣化
47	5号竪穴	160	打斧	10.5/4.8/1.3	82.0	Hf	青灰	3161	表面劣化
47	5号竪穴	161	打斧	11.9/5.9/1.4	99.0	Hf	灰褐	5竪	
47	5号竪穴	162	打斧	11.4/5.0/1.8	111.0	Hf	灰褐	3141	
47	5号竪穴	163	打斧	11.3/5.4/0.9	63.0	Hf	灰褐	3091	表面劣化
47	5号竪穴	164	打斧	13.7/5.2/2.4	177.0	Hf	青灰	3580	
47	5号竪穴	165	打斧	15.4/5.5/1.2	133.0	Hf	灰褐	3080	
47	5号竪穴	166	打斧	14.6/6.8/1.8	232.0	Hf	灰褐	957	
47	5号竪穴	167	打斧	13.3/5.2/2.1	192.0	Hf	灰褐	516	
47	5号竪穴	168	打斧	10.8/4.9/2.1	132.0	Hf	灰褐	2560	
47	5号竪穴	169	打斧	10.6/4.8/1.5	92.0	Hf	灰褐	5竪	表面劣化
47	5号竪穴	170	打斧	10.6/6.0/1.8	141.0	Hf	灰褐	2432	
47	5号竪穴	171	打斧	13.0/4.9/1.7	151.0	Hf	灰褐	3045	
47	5号竪穴	172	打斧	11.1/5.2/0.8	62.0	Hf	青灰	3087	表面劣化
48	5号竪穴	173	打斧	11.6/5.0/1.3	93.0	Hf	青灰	3095	表面劣化
48	5号竪穴	174	打斧	10.8/6.9/2.1	233.0	Hf	青灰	2587	
48	5号竪穴	175	打斧	13.0/4.8/1.3	117.0	Hf	灰褐	2906	
48	5号竪穴	176	打斧	11.7/5.0/1.2	89.0	Hf	灰褐	991	
48	5号竪穴	177	打斧	11.4/6.5/1.6	164.0	Hf	青灰	3057	
48	5号竪穴	178	打斧	10.2/4.8/1.0	62.0	Hf	灰褐	2283	表面劣化
48	5号竪穴	179	打斧	11.6/4.0/1.0	49.0	Hf	灰褐	2574	
48	5号竪穴	180	打斧	10.5/5.2/1.2	114.0	Hf	青灰	2567	
48	5号竪穴	181	打斧	11.2/5.4/1.0	68.0	Hf	灰褐	517	表面劣化
48	5号竪穴	182	打斧	12.6/4.7/2.2	146.0	Hf	灰褐	3139	
48	5号竪穴	183	打斧	14.5/5.4/1.5	154.0	Hf	灰褐	3088	
48	5号竪穴	184	打斧	11.0/5.3/1.4	137.0	Hf	灰褐	2535	
48	5号竪穴	185	打斧	14.7/7.6/2.2	329.0	Hf	灰褐	3191	表面劣化
48	5号竪穴	186	打斧	11.1/5.3/1.3	83.0	Hf	青灰	3092	表面劣化
48	5号竪穴	187	打斧	13.2/5.4/1.0	101.0	Hf	青灰	3123	
48	5号竪穴	188	打斧	12.0/4.7/1.7	94.0	Hf	灰褐	497	
48	5号竪穴	189	打斧	11.9/4.8/1.2	78.0	Hf	灰褐	493	表面劣化
48	5号竪穴	190	打斧	12.5/5.2/1.4	136.0	Hf	青灰	3135	
48	5号竪穴	191	打斧	12.9/6.2/1.4	138.0	Hf	灰褐	3179	
48	5号竪穴	192	打斧	12.9/3.5/0.8	42.0	粘板岩	青灰	3200	
49	5号竪穴	193	打斧	14.0/5.2/1.1	91.0	Hf	灰褐	2569	表面劣化
49	5号竪穴	194	打斧	12.7/4.8/1.5	132.0	Hf	灰褐	3207	
49	5号竪穴	195	打斧	14.6/5.4/1.6	133.0	Hf	灰褐	548	
49	5号竪穴	196	打斧	11.0/7.5/2.8	237.0	Hf	灰褐	3054	
49	5号竪穴	197	打斧	10.1/5.3/0.8	51.0	Hf	青灰	3113	表面劣化
49	5号竪穴	198	打斧	8.0/5.1/0.7	50.0	Hf	灰褐	3142	表面劣化
49	5号竪穴	199	打斧	9.5/4.0/1.4	68.0	Hf	青灰	5竪	表面劣化
49	5号竪穴	200	打斧	8.8/5.7/1.1	75.0	Hf	灰褐	913	表面劣化
49	5号竪穴	201	打斧	12.3/3.5/0.8	44.0	Hf	青灰	3114	表面劣化
49	5号竪穴	202	打斧	7.8/3.5/0.8	29.0	Hf	青灰	395	表面劣化
49	5号竪穴	203	打斧	9.7/4.6/0.8	68.0	Hf	灰褐	5竪	
49	5号竪穴	204	打斧	9.2/2.7/1.3	40.0	Hf	灰褐	3196	表面劣化
49	5号竪穴	205	打斧	9.8/3.2/0.8	35.0	Hf	灰褐	5竪	表面劣化
49	5号竪穴	206	打斧	8.8/3.5/0.9	35.0	Hf	青灰	3209	表面劣化
49	5号竪穴	207	打斧	8.3/3.7/1.1	42.0	Hf	灰褐	5竪	
49	5号竪穴	208	打斧	7.7/5.8/1.3	71.0	Hf	青灰	3062	
49	5号竪穴	209	打斧	9.7/4.0/1.3	57.0	Hf	青灰	491	
49	5号竪穴	210	打斧	10.0/3.5/0.8	36.0	Hf	灰褐	5竪	
49	5号竪穴	211	打斧	7.9/4.6/1.5	71.0	Hf	灰褐	3162	
49	5号竪穴	212	打斧	8.5/5.6/0.8	53.0	Hf	青灰	3118	
49	5号竪穴	213	打斧	7.6/4.5/1.2	40.0	Hf	灰褐	3197	
49	5号竪穴	214	打斧	7.6/3.5/1.3	32.0	Hf	灰褐	5竪	
49	5号竪穴	215	打斧	7.5/6.1/1.3	91.0	Hf	青灰	3198	

図版	地点	No.	分類	長/幅/厚	重さg	石材	色調	注記	備考
49	5号竪穴	216	打斧	8.0/5.1/1.7	85.0	Hｆ	灰褐	2447	表面劣化
49	5号竪穴	217	打斧	8.1/4.8/1.3	62.0	Hｆ	灰褐	5竪	
49	5号竪穴	218	打斧	7.6/5.3/1.1	49.0	Hｆ	灰褐	5竪	表面劣化
49	5号竪穴	219	打斧	6.3/5.7/1.2	58.0	Hｆ	灰褐	5竪	
50	5号竪穴	220	打斧	6.8/7.8/1.4	120.0	Hｆ	青褐	5竪	
50	5号竪穴	221	打斧	8.1/6.1/.2.2	98.0	Hｆ	灰褐	5竪	
50	5号竪穴	222	打斧	7.3/4.9/0.5	29.0	Hｆ	青灰	5竪	
50	5号竪穴	223	打斧	8.2/7.6/1.8	192.0	Hｆ	灰褐	2572	
50	5号竪穴	224	打斧	7.5/5.5/1.0	49.0	粘板岩	青灰	5竪	
50	5号竪穴	225	打斧	5.6/4.6/1.5	51.0	Hｆ	灰褐	5竪	
50	5号竪穴	226	石匙	10.8/5.4/1.3	79.0	Hｆ	灰褐	3303	
50	5号竪穴	227	石匙	7.2/4.0/0.5	18.0	Hｆ	灰	3090	
50	5号竪穴	228	横刃形	9.9/4.7/1.7	62.0	Hｆ	青灰	3304	
50	5号竪穴	229	横刃形	7.6/7.0/1.2	63.0	Hｆ	灰褐	522	
50	5号竪穴	230	横刃形	8.9/6.6/1.4	82.0	Hｆ	灰褐	542	
50	5号竪穴	231	横刃形	6.3/6.0/0.5	31.0	Hｆ	青灰	990	
50	5号竪穴	232	横刃形	9.7/9.4/1.4	169.0	Hｆ	青灰	3055	
50	5号竪穴	233	横刃形	7.1/5.6/0.8	33.0	Hｆ	青灰	984	
50	5号竪穴	234	横刃形	11.2/7.6/1.3	120.0	Hｆ	灰褐	487	
50	5号竪穴	235	横刃形	12.0/5.6/1.0	80.0	Hｆ	灰褐	3106	表面劣化
50	5号竪穴	236	横刃形	9.8/6.8/1.5	100.0	Hｆ	青灰	63ピ	
50	5号竪穴	237	横刃形	8.8/6.2/2.0	135.0	Hｆ	青灰	2590	
50	5号竪穴	238	石鏃	2.5/1.6/0.3	0.8	黒曜石	黒透	2558	
50	5号竪穴	239	石鏃	2.3/1.9/0.2	0.7	黒曜石	透	2558	
50	5号竪穴	240	石錐	2.8/2.5/1.1	5.6	黒曜石	黒	3204	
50	5号竪穴	241	石錐	2.4/1.9/0.6	2.1	黒曜石	黒透	3126	
50	5号竪穴	242	剥片	2.0/1.4/0.4	1.0	黒曜石	黒透	5竪	
50	5号竪穴	243	剥片	2.0/1.6/0.3	0.9	黒曜石	黒透	5竪	
50	5号竪穴	244	掻器	2.0/1.5/0.8	1.5	黒曜石	黒	5竪	
50	5号竪穴	245	剥片	3.2/2.1/0.5	2.8	黒曜石	黒透	5竪	
50	5号竪穴	246	剥片	2.7/2.4/0.5	2.5	黒曜石	黒透	5竪36ピ	
50	5号竪穴	247	掻器	1.8/1.5/0.4	1.0	黒曜石	黒透	5竪36ピ	
50	5号竪穴	248	磨り石	11.2/8.0/6.3	840.0	花崗岩類	灰褐	2433	
51	5号竪穴	249	磨り石	11.7/8.9/6.2	980.0	花崗岩類	灰褐	3111	
51	5号竪穴	250	磨り石	15.8/7.7/5.3	1042.0	花崗岩類	灰褐	704	
51	5号竪穴	251	磨り石	13.2/11.4/5.3	1130.0	安山岩	灰	3305	
51	5号竪穴	252	磨り石	11.0/9.6/5.5	1902.0	花崗岩類	灰褐	961	
51	5号竪穴	253	磨り石	8.1/6.0/4.3	331.0	安山岩	灰褐	2556	
51	5号竪穴	254	台石	46.6/34.5/8.8	22500.0	花崗岩類	灰褐	3110	
53	6号竪穴	17	打斧	8.2/5.6/1.8	91.0	Hｆ	青灰	6竪	
53	6号竪穴	18	打斧	10.4/6.3/1.6	136.0	表面褐色風化泥質岩	青灰	6竪	
53	6号竪穴	19	打斧	7.8/4.3/2.2	78.0	Hｆ	青灰	6竪	表面劣化
53	6号竪穴	20	打斧	8.9/4.1/1.1	45.0	Hｆ	灰褐	6竪	
53	6号竪穴	21	打斧	5.6/4.7/1.3	36.0	Hｆ	灰褐	6竪45ピ	
53	6号竪穴	22	横刃形	10.5/6.1/1.0	79.0	粘板岩	青灰	3260	
53	6号竪穴	23	横刃形	8.5/4.3/0.8	25.0	Hｆ	青灰	2448	
53	6号竪穴	24	石錐?	4.6/1.4/0.9	4.9	黒曜石	黒透	3251	
53	6号竪穴	25	剥片	2.1/1.6/0.6	1.6	黒曜石	黒透	6竪48ピ	
53	6号竪穴	26	浮子?	4.5/3.5/1.7	5.7	軽石	灰褐	6竪48ピ	
53	6号竪穴	27	浮子?	3.9/4.0/3.8	14.2	軽石	灰褐	6竪48ピ	
54	7号竪穴	17	磨り石	8.3/7.3/5.6	492.0	花崗岩類	灰褐	1664	
54	7号竪穴	18	砥石	13.5/4.5/3.3	191.0	凝灰岩	茶褐	1670	
55	8号竪穴	17	支脚石	14.2/9.2/10.5	1915.0	安山岩	灰褐	8竪	
59	10号竪穴	27	打斧	13.2/5.7/2.3	204.0	Hｆ	灰褐	2706	
59	10号竪穴	28	打斧	14.1/5.2/2.2	198.0	Hｆ	青灰	2801	
59	10号竪穴	29	打斧	10.7/4.1/1.3	68.0	粘板岩	青灰	2980	
59	10号竪穴	30	打斧	11.1/5.4/1.4	114.0	Hｆ	灰褐	2644	
59	10号竪穴	31	打斧	10.8/4.8/1.5	96.0	Hｆ	灰褐	2781	
59	10号竪穴	32	打斧	12.8/4.5/1.2	81.0	Hｆ	青灰	2793	
59	10号竪穴	33	打斧	14.2/4.8/1.4	142.0	Hｆ	青灰	2800	
60	10号竪穴	34	打斧	9.9/5.7/1.5	99.0	Hｆ	灰褐	2784	
60	10号竪穴	35	打斧	12.1/3.8/1.6	85.0	Hｆ	青灰	2813	
60	10号竪穴	36	打斧	11.7/4.9/1.2	93.0	Hｆ	青灰	3143	
60	10号竪穴	37	打斧	12.9/5.4/1.2	111.0	Hｆ	灰褐	2716	表面劣化
60	10号竪穴	38	打斧	9.7/4.3/1.0	54.0	Hｆ	青灰	10竪	表面劣化
60	10号竪穴	39	打斧	10.2/4.0/1.6	61.0	Hｆ	青灰	2713	表面劣化
60	10号竪穴	40	打斧	9.6/5.5/1.2	70.0	Hｆ	青灰	2630	表面劣化
60	10号竪穴	41	打斧	9.8/7.2/1.6	159.0	Hｆ	青灰	2992	
60	10号竪穴	42	打斧	7.0/4.2/1.8	62.0	Hｆ	灰褐	10竪	
60	10号竪穴	43	打斧	8.8/5.0/1.2	50.0	Hｆ	灰褐	10竪	
60	10号竪穴	44	打斧	10.2/4.5/0.8	50.0	粘板岩	灰褐	10竪	
60	10号竪穴	45	打斧	6.2/5.0/1.0	51.0	Hｆ	青灰	10竪	
60	10号竪穴	46	打斧	6.5/4.6/0.9	36.0	Hｆ	灰褐	10竪(O8)	
60	10号竪穴	47	打斧	9.4/3.3/0.8	32.0	Hｆ	青褐	10竪	
60	10号竪穴	48	打斧	8.5/3.8/0.9	48.0	Hｆ	青灰	2787	
60	10号竪穴	49	打斧	4.9/7.5/1.3	77.0	Hｆ	灰褐	2705	表面劣化
60	10号竪穴	50	打斧	8.5/7.2/1.1	86.0	Hｆ	青灰	2812	
60	10号竪穴	51	打斧	5.2/4.5/0.7	25.0	Hｆ	青灰	2690	
60	10号竪穴	52	横刃形	10.4/6.5/1.5	105.0	Hｆ	青灰	2650	
60	10号竪穴	53	横刃形	9.2/7.7/1.6	146.0	玢岩	灰	2632	
60	10号竪穴	54	横刃形	8.4/5.6/2.7	64.0	Hｆ	灰褐	3159	
60	10号竪穴	55	横刃形	9.3/7.2/1.1	94.0	Hｆ	青灰	2829	
60	10号竪穴	56	横刃形	7.7/6.9/0.8	82.0	Hｆ	青灰	2808	

図版	地点	№	分類	長/幅/厚	重さg	石材	色調	注記	備考
60	10号竪穴	57	横刃形	10.3/6.2/1.2	77.0	Ｈｆ	青褐	3154	
60	10号竪穴	58	横刃形	8.0/5.0/0.9	58.0	Ｈｆ	灰褐	2732	表面劣化
60	10号竪穴	59	横刃形	9.6/6.6/1.4	111.0	Ｈｆ	灰褐	2809	表面劣化
60	10号竪穴	60	横刃形	7.9/6.0/0.9	48.0	Ｈｆ	青灰	10竪	
60	10号竪穴	61	横刃形	8.5/4.0/0.6	29.0	Ｈｆ	青灰	2785	
61	10号竪穴	62	横刃形	9.5/5.4/1.0	88.0	Ｈｆ	青灰	2697	
61	10号竪穴	63	横刃形	9.7/7.4/1.2	89.0	粘板岩	青灰	10竪	
61	10号竪穴	64	横刃形	10.0/5.4/2.2	99.0	Ｈｆ	青灰	2734	
61	10号竪穴	65	横刃形	11.4/8.0/1.6	148.0	Ｈｆ	青灰	10竪	
61	10号竪穴	66	石匙	13.2/8.4/0.8	105.0	Ｈｆ	灰褐	2693	
61	10号竪穴	67	石匙	6.7/6.3/1.0	46.0	Ｈｆ	青灰	10竪	
61	10号竪穴	68	石匙	7.9/5.0/1.0	31.0	粘板岩	灰	3240(10竪28ピ)	
61	10号竪穴	69	磨斧	5.9/2.7/1.1	27.0	蛇紋岩類？	緑褐	28ピ	擦切痕残存、斜刃
61	10号竪穴	70	石鏃	1.3/1.3/0.4	0.6	黒曜石	黒	2682	
61	10号竪穴	71	石鏃	2.5/1.5/0.4	0.9	黒曜石	黒透	2681	
61	10号竪穴	72	剥片	2.8/2.1/1.2	5.5	黒曜石	黒透	10竪	
61	10号竪穴	73	剥片	2.1/1.8/0.6	1.7	黒曜石	黒透	10竪	
61	10号竪穴	74	剥片	3.1/2.1/0.9	5.6	黒曜石	黒透	3157	
61	10号竪穴	75	磨り石	12.5/8.7/5.8	1400.0	花崗岩類	灰褐	2658	
61	10号竪穴	76	磨り石	11.4/9.9/6.4	1080.0	花崗岩類	灰褐	2994	
61	10号竪穴	77	磨り石	10.0/7.7/5.4	622.0	花崗岩類	灰褐	2794	
61	10号竪穴	78	磨り石	11.2/10.4/6.6	1200.0	花崗岩類	灰褐	2675	
64	11号竪穴	20	打斧	12.2/5.5/1.9	179.0	Ｈｆ	灰褐	3337	
64	11号竪穴	21	打斧	12.9/6.2/1.9	164.0	Ｈｆ	青灰	3353	
64	11号竪穴	22	打斧	11.7/5.2/1.3	92.0	Ｈｆ	灰褐	3340	
64	11号竪穴	23	打斧	14.3/6.3/1.6	142.0	Ｈｆ	青灰	3386	
64	11号竪穴	24	打斧	11.3/4.8/1.8	143.0	Ｈｆ	灰褐	3487	
64	11号竪穴	25	打斧	10.6/4.0/1.0	63.0	粘板岩	青灰	3407	
64	11号竪穴	26	打斧	10.6/5.4/2.1	150.0	Ｈｆ	青灰	3369	
64	11号竪穴	27	打斧	10.5/6.2/1.5	89.0	粘板岩	青灰	3403	表面劣化
64	11号竪穴	28	打斧	9.7/5.5/1.2	85.0	Ｈｆ	青灰	3339	
64	11号竪穴	29	打斧	10.2/4.4/1.6	99.0	Ｈｆ	青灰	3336	表面劣化
64	11号竪穴	30	打斧?	9.0/6.6/1.1	85.0	Ｈｆ	青灰	3488	表面劣化
64	11号竪穴	31	石匙	9.1/4.7/0.8	45.0	Ｈｆ	青灰	3501	
64	11号竪穴	32	横刃形	11.0/6.3/1.4	99.0	砂岩	青灰	3338	
64	11号竪穴	33	横刃形	8.2/4.9/0.8	35.0	Ｈｆ	青灰	3343	
64	11号竪穴	34	横刃形	10.4/4.8/1.2	45.0	Ｈｆ	灰褐	3442	表面劣化
64	11号竪穴	35	石鏃	2.3/1.4/0.4	0.7	黒曜石	黒透	11竪	
64	11号竪穴	36	石鏃	1.2/1.2/0.2	0.3	黒曜石	黒	11竪	
64	11号竪穴	37	磨斧	15.3/3.0/1.8	101.0	Ｈｆ	青灰	3319	
65	11号竪穴	38	台石	44.1/29.6/14.2	29200.0	安山岩	灰	3400	
65	11号竪穴	39	台石	46.1/34.2/12.8	34800.0	花崗岩類	灰褐	3500	
66	13号竪穴	9	打斧	11.2/6.4/1.3	124.0	粘板岩	青灰	3490	
66	13号竪穴	10	打斧	6.8/5.9/1.9	78.0	Ｈｆ	灰褐	13竪	
66	13号竪穴	11	横刃形	7.5/3.7/0.6	25.0	粘板岩	灰褐	3512	石包丁
66	13号竪穴	12	打斧	6.7/5.7/1.4	51.0	Ｈｆ	灰褐	13竪	
66	13号竪穴	13	横刃形	8.2/7.2/1.9	118.0	Ｈｆ	青灰	3511	
67	5号土坑	1	打斧	11.4/5.0/1.4	97.0	Ｈｆ	青灰	5土	
67	9号土坑	1	打斧	12.5/4.5/1.0	83.0	Ｈｆ	灰褐	9土	表面劣化
67	9号土坑	2	打斧	10.7/5.4/1.6	129.0	Ｈｆ	灰褐	9土	
67	9号土坑	3	掻器	2.0/1.5/1.4	1.8	黒曜石	黒	9土(M8)	
67	11号土坑	3	打斧	8.2/3.6/1.2	36.0	粘板岩	暗褐	12土	
67	11号土坑	4	打斧	11.0/5.2/1.1	68.0	Ｈｆ	灰褐	12土	
67	11号土坑	5	打斧	10.3/4.4/1.3	87.0	Ｈｆ	灰褐	361	
67	11号土坑	6	横刃形	8.4/4.1/0.9	33.0	Ｈｆ	青灰	12土	
67	11号土坑	7	石錐?	2.6/1.4/0.6	1.7	黒曜石	黒褐	12土	
68	13号土坑	2	横刃形	9.8/8.6/1.9	214.0	Ｈｆ	青褐	347	
68	15号土坑	2	打斧	11.7/7.3/2.3	195.0	Ｈｆ	青灰	322	
68	15号土坑	3	打斧	9.5/3.2/1.4	49.0	Ｈｆ	青灰	334	
68	15号土坑	4	打斧	9.7/5.7/1.5	93.0	Ｈｆ	灰褐	319	
68	15号土坑	5	横刃形	9.6/6.8/0.9	78.0	Ｈｆ	青灰	335	
68	18号土坑	1	打斧	11.5/5.0/1.6	155.0	Ｈｆ	灰褐	480	
68	18号土坑	2	打斧	10.6/5.2/1.3	97.0	Ｈｆ	灰褐	478	
69	28号土坑	13	打斧	8.6/4.1/1.0	57.0	Ｈｆ	青灰	28土	
69	28号土坑	14	打斧	9.2/5.5/1.3	77.0	Ｈｆ	青灰	2628	表面劣化
69	28号土坑	15	石匙	7.5/5.1/0.8	29.0	Ｈｆ	青灰	28土	
69	31号土坑	2	石匙	4.0/2.4/0.6	4.0	黒曜石	黒透	2806	
69	31号土坑	3	台石	34.3/31.5/9.2	15100.0	花崗岩類	灰褐	2802	磨り面黒変
70	29号土坑	5	打斧	12.7/4.5/1.5	91.0	Ｈｆ	灰褐	2863	表面劣化
70	29号土坑	6	打斧	11.0/6.1/2.1	147.0	Ｈｆ	青灰	2967	
70	29号土坑	7	打斧	11.0/4.7/2.2	85.0	Ｈｆ	青灰	2870	
70	29号土坑	8	横刃形	10.0/6.0/0.6	66.0	Ｈｆ	青灰	2871	表面劣化
70	29号土坑	9	横刃形	10.0/7.7/2.1	218.0	Ｈｆ	青黒	2868	
71	33号土坑	2	石匙	5.4/3.8/0.8	14.6	チャート	青灰	2854	
71	34号土坑	2	打斧	10.5/3.0/0.9	34.0	Ｈｆ	灰褐	2893	
72	41号土坑	6	打斧	7.6/3.8/0.8	35.0	Ｈｆ	灰褐	41土	表面劣化
72	41号土坑	7	打斧	9.7/5.3/0.9	59.0	Ｈｆ	青灰	2931	表面劣化
72	41号土坑	8	打斧	10.2/5.6/1.8	119.0	Ｈｆ	灰褐	2937	
72	41号土坑	9	打斧	15.5/5.6/1.8	204.0	Ｈｆ	灰褐	2948	
72	42号土坑	1	打斧	11.1/5.7/0.9	86.0	Ｈｆ	青灰	3232	表面劣化
73	48号土坑	4	打斧	9.8/4.3/1.7	98.0	Ｈｆ	灰褐	3430	
73	48号土坑	5	横刃形	8.9/4.0/1.0	60.0	粘板岩	青灰	48土	
73	52号土坑	3	打斧	8.8/5.9/2.0	126.0	Ｈｆ	灰褐	3278	

図版	地点	No.	分類	長/幅/厚	重さg	石材	色調	注記	備考
74	50号土坑	2	打斧	10.3/4.8/2.2	137.0	Hｆ	灰褐	3269	表面劣化
74	56号土坑	1	打斧	12.2/3.5/1.5	82.0	Hｆ	灰褐	3506	
75	55号ピット	1	打斧	4.8/5.7/0.9	41.0	Hｆ	灰褐	55ピ	
75	55号ピット	2	剥片	5.4/2.9/1.1	15.1	黒曜石	黒透	3265	
75	57号ピット	1	叩き石?	9.4/7.9/2.1	113.0	Hｆ	灰褐	57ピ	
75	ピット	1	打斧	11.3/6.1/1.8	152.0	Hｆ	灰褐	3268	
76	3号溝	1	石錐?	2.8/1.3/1.0	2.9	黒曜石	黒透	3溝(L11)	
76	4号溝	1	打斧	10.9/5.5/1.3	89.0	Hｆ	灰褐	164	表面劣化
76	5号溝	4	打斧	10.5/5.6/1.3	89.0	Hｆ	青灰	5溝(N8)	表面劣化
76	9号溝	4	剥片	2.8/1.2/0.6	1.9	黒曜石	黒透	9溝	
76	9号溝	5	打斧	11.3/4.8/1.8	122.0	Hｆ	青灰	2496	
76	9号溝	6	打斧	10.2/4.7/1.7	105.0	Hｆ	灰褐	9溝(M11)	表面劣化
76	9号溝	7	打斧	13.3/5.8/1.3	114.0	Hｆ	青灰	9溝(M11)	
76	9号溝	8	打斧	14.4/3.8/2.2	126.0	Hｆ	青灰	9溝(M11)	
76	9号溝	9	打斧	14.0/6.1/2.4	246.0	Hｆ	灰褐	2483	
82	遺構外	124	打斧	15.2/7.7/3.3	445.0	Hｆ	青灰	1897	
82	遺構外	125	打斧	14.1/7.2/2.9	214.0	Hｆ	灰褐	F4	
82	遺構外	126	打斧	13.3/5.5/1.7	175.0	Hｆ	灰褐	2078	
82	遺構外	127	打斧	17.0/8.0/3.4	385.0	粘板岩	青灰	1944	
82	遺構外	128	打斧	11.2/4.0/1.3	65.0	粘板岩	青灰	K6	表面劣化
82	遺構外	129	打斧	10.7/4.9/1.0	68.0	Hｆ	青灰	K9	
82	遺構外	130	打斧	12.3/4.3/1.1	81.0	Hｆ	灰褐	L5	
82	遺構外	131	打斧	12.5/4.9/1.4	84.0	Hｆ	青灰	2176	
82	遺構外	132	打斧	10.9/5.3/2.1	161.0	Hｆ	灰褐	3275	
83	遺構外	133	打斧	15.2/8.9/2.0	335.0	Hｆ	青灰	2462	表面劣化
83	遺構外	134	打斧	13.6/5.9/2.5	174.0	Hｆ	灰褐	K7	
83	遺構外	135	打斧	13.7/5.4/3.6	264.0	Hｆ	青灰	1986	
83	遺構外	136	打斧	12.4/5.9/1.5	181.0	Hｆ	灰褐	K7	
83	遺構外	137	打斧	14.1/5.2/1.8	183.0	Hｆ	灰褐	K8	
83	遺構外	138	打斧	15.7/7.2/2.1	330.0	礫岩(Hｆ化)	青褐	1108	表面劣化
83	遺構外	139	打斧	14.5/4.7/2.5	158.0	Hｆ	青灰	1900	表面劣化
83	遺構外	140	打斧	15.7/4.3/1.7	107.0	Hｆ	青褐	1414	
83	遺構外	141	打斧	12.8/5.7/1.3	124.0	Hｆ	灰褐	28	表面劣化
83	遺構外	142	打斧	11.2/5.6/1.2	91.0	Hｆ	灰褐	J6	
83	遺構外	143	打斧	11.8/5.1/1.5	81.0	Hｆ	灰褐	3	
83	遺構外	144	打斧	11.1/4.7/2.2	126.0	Hｆ	青灰	1405	
83	遺構外	145	打斧	11.5/4.8/2.1	143.0	Hｆ	青灰	K6	
83	遺構外	146	打斧	11.3/4.7/1.3	80.0	Hｆ	青灰	745	表面劣化
83	遺構外	147	打斧	13.8/6.2/1.8	233.0	Hｆ	灰褐	2461	
83	遺構外	148	打斧	11.1/5.5/1.4	81.0	Hｆ	灰褐	1989	表面劣化
83	遺構外	149	打斧	13.6/5.4/1.4	117.0	Hｆ	青灰	2507	
83	遺構外	150	打斧	13.3/6.2/1.1	131.0	Hｆ	灰褐	1987	表面劣化
83	遺構外	151	打斧	12.7/4.7/1.9	112.0	Hｆ	灰褐	2092	表面劣化
84	遺構外	152	打斧	15.0/5.8/1.6	168.0	Hｆ	灰褐	37	
84	遺構外	153	打斧	11.1/5.1/1.6	103.0	Hｆ	灰褐	M6	表面劣化
84	遺構外	154	打斧	14.0/5.8/0.9	103.0	Hｆ	灰褐	J6	
84	遺構外	155	打斧	12.2/6.5/1.7	216.0	Hｆ	灰褐	40	
84	遺構外	156	打斧	10.5/4.4/1.4	84.0	Hｆ	青灰	1507	
84	遺構外	157	打斧	11.7/5.4/1.7	110.0	頁岩	灰褐	9	
84	遺構外	158	打斧	8.9/4.5/0.9	52.0	Hｆ	青灰	41	表面劣化
84	遺構外	159	打斧	11.5/4.0/1.7	106.0	Hｆ	青灰	1798	
84	遺構外	160	打斧	11.1/6.0/1.7	131.0	Hｆ	青灰	L6	
84	遺構外	161	打斧	14.9/5.6/2.1	189.0	Hｆ	青灰	M6	
84	遺構外	162	打斧	12.7/4.9/1.6	147.0	Hｆ	灰褐	I7	
84	遺構外	163	打斧	10.8/5.3/2.0	161.0	Hｆ	青灰	K5	
84	遺構外	164	打斧	10.5/4.8/1.2	78.0	Hｆ	青灰	F4	
84	遺構外	165	打斧	14.1/4.3/1.5	72.0	Hｆ	灰褐	1270	
84	遺構外	166	打斧	10.9/4.7/1.7	102.0	Hｆ	青灰	L8	
84	遺構外	167	打斧	15.8/8.3/2.8	352.0	Hｆ	灰褐	1990	表面劣化
84	遺構外	168	打斧	14.0/9.3/2.5	452.0	Hｆ	灰褐	J6	
84	遺構外	169	打斧	12.2/11.8/3.0	523.0	Hｆ	青灰	1898	
85	遺構外	170	打斧	12.3/6.7/2.6	290.0	Hｆ	青灰	1534	
85	遺構外	171	打斧	14.2/4.8/1.8	151.0	Hｆ	灰褐	1443	表面劣化
85	遺構外	172	打斧	10.6/4.7/1.6	121.0	Hｆ	灰褐	P8	
85	遺構外	173	打斧	9.8/5.6/2.0	119.0	粘板岩	青灰	P8	
85	遺構外	174	打斧	12.5/5.3/2.3	183.0	Hｆ	青灰	1128	
85	遺構外	175	打斧	11.1/4.1/1.2	69.0	Hｆ	青灰	2456	表面劣化
85	遺構外	176	打斧	10.5/4.4/1.2	68.0	Hｆ	青灰	1485	
85	遺構外	177	打斧	10.5/4.0/1.7	83.0	Hｆ	灰褐	2177	
85	遺構外	178	打斧	12.3/4.6/1.2	75.0	Hｆ	青灰	L7	表面劣化
85	遺構外	179	打斧	11.3/3.8/1.3	66.0	Hｆ	青褐	1484	
85	遺構外	180	打斧	10.9/4.7/1.5	116.0	Hｆ	灰褐	2961	
85	遺構外	181	打斧	8.8/5.2/2.5	133.0	Hｆ	灰褐	1247	
85	遺構外	182	打斧	11.2/5.6/1.8	116.0	粘板岩	青灰	K9	
85	遺構外	183	打斧	9.1/5.2/1.0	63.0	Hｆ	灰褐	1220	
85	遺構外	184	打斧	10.6/4.5/1.3	72.0	Hｆ	青灰	M9	
85	遺構外	185	打斧	8.8/5.0/2.0	103.0	Hｆ	灰褐	M6	
85	遺構外	186	打斧	10.8/6.2/2.2	193.0	Hｆ	灰褐	K7	
85	遺構外	187	打斧	11.4/6.2/1.1	115.0	Hｆ	青灰	M8	
85	遺構外	188	打斧	11.7/6.8/2.1	151.0	安山岩	灰褐	1239	
85	遺構外	189	打斧	10.4/4.9/1.7	118.0	Hｆ	灰褐	J7	表面劣化
85	遺構外	190	打斧	9.7/4.4/1.3	64.0	Hｆ	青灰	53	表面劣化
85	遺構外	191	打斧	9.6/5.5/1.0	52.0	Hｆ	青灰	O8	表面劣化

図版	地点	No.	分類	長/幅/厚	重さg	石材	色調	注記	備考
85	遺構外	192	打斧	8.8/3.8/1.3	48.0	Hｆ	青灰	1870	
85	遺構外	193	打斧	6.8/4.8/1.3	73.0	Hｆ	青灰	D2	
85	遺構外	194	打斧	9.5/4.9/1.3	68.0	Hｆ	青灰	O9	
85	遺構外	195	打斧	9.9/4.3/0.9	51.0	Hｆ	青灰	M6	表面劣化
85	遺構外	196	打斧	10.0/4.5/0.9	44.0	Hｆ	灰褐	N11	
86	遺構外	197	打斧	13.1/5.8/0.9	103.0	Hｆ	青灰	3竪264	
86	遺構外	198	打斧	9.5/6.4/2.7	191.0	Hｆ	灰褐	1981	
86	遺構外	199	打斧	12.3/4.6/1.6	193.0	Hｆ	灰褐	M6	
86	遺構外	200	打斧	8.4/6.4/1.8	108.0	Hｆ	青灰	K7	
86	遺構外	201	打斧	9.5/3.2/0.9	40.0	Hｆ	青灰	J8	表面劣化
86	遺構外	202	打斧	9.6/5.7/1.0	66.0	Hｆ	青灰	1770	表面劣化
86	遺構外	203	打斧	9.1/3.9/1.5	59.0	Hｆ	青灰	236(3竪)	表面劣化
86	遺構外	204	打斧	9.1/3.8/1.4	43.0	粘板岩	青灰	277(3竪)	
86	遺構外	205	打斧	9.7/5.3/1.2	62.0	Hｆ	灰褐	4	表面劣化
86	遺構外	206	打斧	8.8/4.7/1.6	80.0	Hｆ	灰褐	H5	表面劣化
86	遺構外	207	打斧	8.9/2.4/0.9	22.0	Hｆ	青灰	292(3竪)	表面劣化
86	遺構外	208	打斧	10.5/4.9/1.2	79.0	Hｆ	灰褐	M8	表面劣化
86	遺構外	209	打斧	9.4/5.3/1.6	96.0	Hｆ	青灰	F4	表面劣化
86	遺構外	210	打斧	9.9/4.5/1.7	80.0	Hｆ	灰褐	M7	
86	遺構外	211	打斧	10.1/4.3/1.2	51.0	粘板岩	青灰	3222	
86	遺構外	212	打斧	11.7/5.8/1.1	96.0	Hｆ	灰褐	K8	表面劣化
86	遺構外	213	打斧	8.3/3.8/1.0	40.0	Hｆ	青灰	L6	表面劣化
86	遺構外	214	打斧	8.5/6.2/1.5	108.0	Hｆ	青灰	1985	
86	遺構外	215	打斧	8.5/5.5/2.0	142.0	Hｆ	灰褐	J6	
86	遺構外	216	打斧	6.3/5.5/1.0	51.0	Hｆ	青褐	L6	
86	遺構外	217	打斧	6.9/4.3/1.8	61.0	Hｆ	青灰	K10	
86	遺構外	218	打斧	7.7/4.5/1.3	61.0	Hｆ	灰褐	I7	表面劣化
86	遺構外	219	打斧	6.5/6.7/1.4	68.0	Hｆ	青灰	1504	
86	遺構外	220	打斧	8.0/4.0/2.0	74.0	Hｆ	灰褐	J8	
86	遺構外	221	打斧	8.6/5.0/1.3	71.0	Hｆ	青灰	M8	
86	遺構外	222	打斧	9.7/5.6/1.2	80.0	Hｆ	青灰	1103	
86	遺構外	223	打斧	6.8/3.2/0.6	18.0	Hｆ	青灰	表採	
86	遺構外	224	打斧	8.5/4.1/1.1	48.0	Hｆ	灰褐	2081	表面劣化
87	遺構外	225	打斧	7.4/6.1/1.4	86.0	Hｆ	灰褐	N7	表面劣化
87	遺構外	226	打斧	7.9/4.3/0.8	37.0	Hｆ	青灰	P10	
87	遺構外	227	横刃形	11.2/9.8/1.7	213.0	Hｆ	青灰	1708	
87	遺構外	228	横刃形	7.6/6.9/1.8	112.0	頁岩	灰褐	I4	
87	遺構外	229	横刃形	11.7/6.0/1.1	97.0	Hｆ	灰褐	N9	
87	遺構外	230	横刃形	11.2/5.1/1.3	74.0	Hｆ	青灰	M6	
87	遺構外	231	横刃形	9.5/5.4/0.9	62.0	粘板岩	灰褐	I4	
87	遺構外	232	横刃形	7.3/5.8/1.5	81.0	Hｆ	灰褐	1413	
87	遺構外	233	横刃形	6.9/6.4/1.9	114.0	砂岩	白褐	1921	
87	遺構外	234	横刃形	10.1/5.4/1.7	88.0	Hｆ	灰褐	1402	
87	遺構外	235	横刃形	10.6/4.8/1.1	65.0	Hｆ	青灰	N6	
87	遺構外	236	横刃形	8.7/3.6/1.2	49.0	Hｆ	青灰	L5	
87	遺構外	237	石匙	8.3/3.6/0.9	41.0	Hｆ	青灰	42	
87	遺構外	238	石匙	6.2/5.3/0.7	34.0	表面褐色風化泥質岩	青灰	3270	
87	遺構外	239	石匙	6.5/5.2/0.7	28.0	表面褐色風化泥質岩	灰褐	O9	
87	遺構外	240	石匙	6.8/5.6/1.0	41.0	Hｆ	灰褐	I7	
87	遺構外	241	石鏃	1.6/1.4/0.3	0.4	黒曜石	黒透	N6	
87	遺構外	242	剥片	2.9/1.4/0.8	2.3	黒曜石	黒透	M7	
87	遺構外	243	剥片	2.6/1.9/1.0	4.1	黒曜石	黒透	J6	
87	遺構外	244	剥片	3.4/2.7/0.8	5.7	黒曜石	黒透	I6	
87	遺構外	245	剥片	2.8/2.5/0.7	4.7	黒曜石	黒	M8	
87	遺構外	246	剥片	1.3/1.3/0.4	0.9	黒曜石	黒透	N6	
87	遺構外	247	石錐	3.0/1.7/0.9	2.4	黒曜石	黒透	表採	
87	遺構外	248	磨斧	6.2/4.6/3.8	211.0	緑色凝灰岩	緑褐	F4	
87	遺構外	249	磨斧	14.1/4.8/3.5	365.0	緑色凝灰岩	灰褐	3221	
87	遺構外	250	磨斧	15.8/4.6/3.4	407.0	砂岩	緑褐	3277	
87	遺構外	251	自然礫	15.7/2.6/1.9	137.0	Hｆ	灰褐	H6	赤色顔料付着
88	遺構外	252	磨り石	7.2/6.9/5.8	401.0	花崗岩類	灰褐	I6	
88	遺構外	253	磨り石	9.7/7.1/5.3	558.0	花崗岩類	灰褐	I7	
88	遺構外	254	磨り石	9.9/8.1/5.8	688.0	花崗岩類	灰褐	3360	
88	遺構外	255	磨り石	9.8/9.3/6.8	880.0	花崗岩類	灰褐	M10	
88	遺構外	256	磨り石	9.3/6.0/4.5	390.0	花崗岩類	灰褐	1228	
88	遺構外	257	磨り石	7.5/6.7/5.0	338.0	花崗岩類	灰褐	2174	
88	遺構外	258	磨り石	12.9/7.4/4.8	704.0	花崗岩類	灰褐	2173	
88	遺構外	259	凹み石	11.5/6.2/5.4	561.0	花崗岩類	灰褐	2094	
88	遺構外	260	凹み石	7.3/7.6/4.9	408.0	安山岩	灰褐	1946	
88	遺構外	261	砥石	7.4/4.6/2.2	105.0	砂岩	灰褐	I6	
88	遺構外	262	砥石	4.6/2.4/2.1	47.0	凝灰岩	茶褐	表採	
88	遺構外	263	砥石	6.3/2.6/2.4	58.0	凝灰岩	黄褐	1317	径4ミリの貫通孔
88	遺構外	264	砥石	6.2/2.1/1.4	26.0	凝灰岩	黄褐	K7	
89	遺構外	265	丸石	34.5/30.0/28.2	41500.0	花崗岩類	灰褐	遺構外	

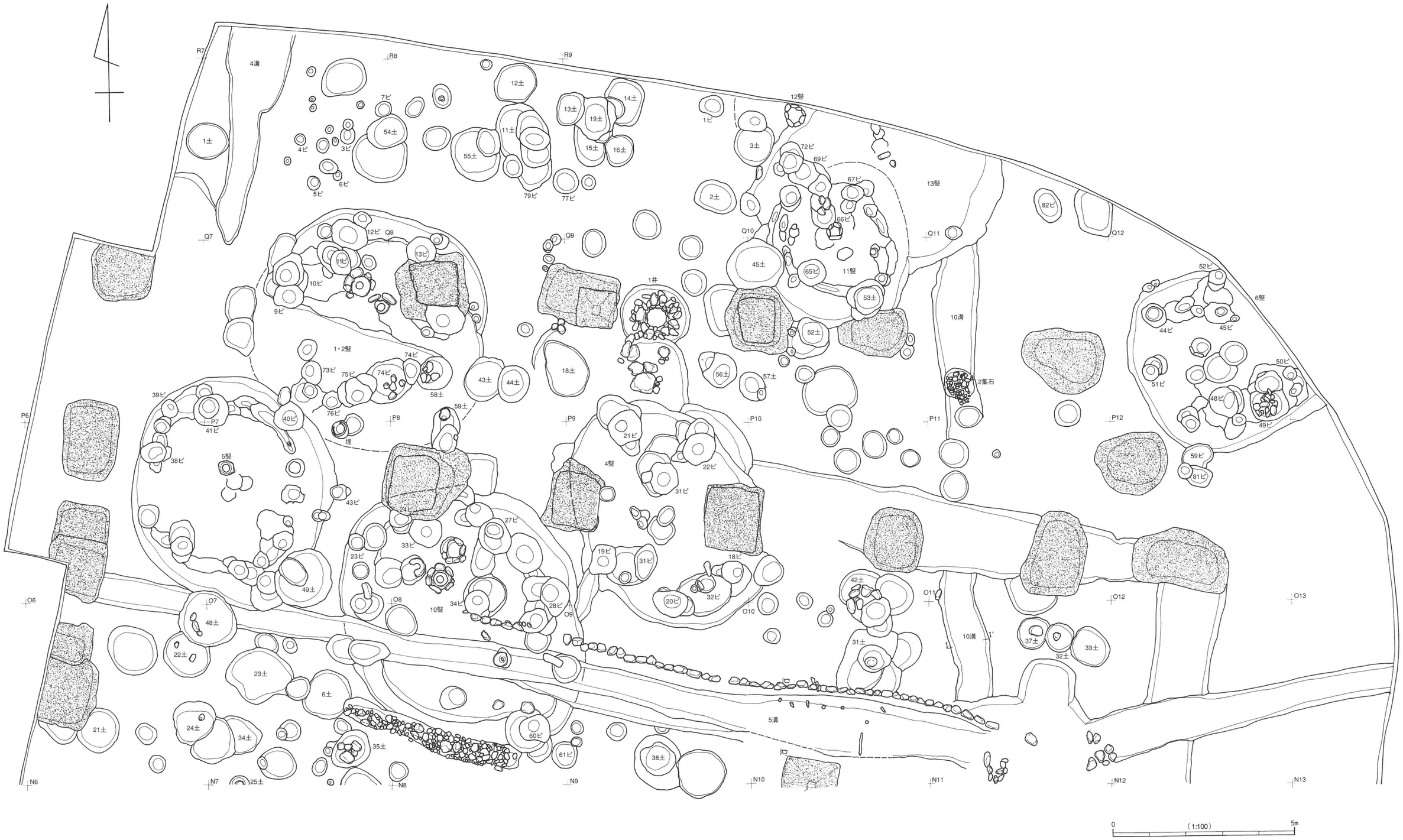
表4　土製品観察表

図版	地点	No.	種別	時期	長/短/厚cm 口/底/高cm	重さg	整形技法等	色調	胎土	注記	備考
25	1·2号竪穴	19	台形土器	縄文中期	(26.0/24.0/3.5)	280.0	ナデ、ミガキ	黒	長、石	383	
25	1·2号竪穴	20	台形土器	縄文中期	(21.3)/－/－	404.0	ミガキ、沈線	暗褐～褐	長、石、雲、角	3548	受け面中央アレ、脚部摩滅
25	1·2号竪穴	21	台形土器	縄文中期	(22.4)/－/－	91.0	ナデ	黒～黄褐	長-多·大、赤	119	
25	1·2号竪穴	22	ミニチュア土器	縄文中期	5.9/2.7/5.8	56.0	内面輪積み痕	褐～暗褐	長、赤、角、雲	309(1竪ピ)	約7割遺存
25	1·2号竪穴	23	ミニチュア土器	縄文中期	－/2.8/－	23.0	ナデ	褐	長、石、角、赤	80	
25	1·2号竪穴	24	土製円板	縄文中期	4.7/4.1/1.1	32.0	無文	暗褐	長、角、赤	1竪14ピ	隅丸5角形
29	4号竪穴	22	台形土器	縄文中期	(21.8)/-/-	152.0	側面角押文	黄褐	長、角、赤、雲	3031(4竪21ピ)	
30	4号竪穴	39	焼成粘土塊	縄文中期	5.4/3.4/1.8	34.0		黄褐	長-やや多	816	
30	4号竪穴	40	土偶脚	縄文中期	9.3/4.3/6.2	150.0	三角押引、陰刻、ナデ	褐	長、赤、雲	388	右脚
30	4号竪穴	41	土偶脚	縄文中期	5.0/4.7/4.0	70.0	ナデ	暗褐	長、赤、角、雲	389	
30	4号竪穴	42	土偶胴	縄文中期	3.8/5.6/3.4	44.0	沈線、三角押引、串状圧痕	黒褐	長、雲	2098	腹部
30	4号竪穴	43	土偶脚	縄文中期	5.4/4.5/5.3	130.0	角押文、串状圧痕	暗褐	長、赤、雲	1940	
30	4号竪穴	44	土偶脚	縄文中期	2.8/2.6/2.8	17.0	キャタピラ文、蛇行沈線	暗褐	長-多、角	4竪	脚、串状圧痕
30	4号竪穴	45	土偶腰	縄文中期	2.5/2.6/2.4	8.0	キャタピラ文、三角押文	暗褐	長、雲	4竪	
31	4号竪穴	46	土製円板	縄文中期	3.1/3.0/1.5	18.0	無文	褐	長-多、雲、角、赤	1936	ややもろい
31	4号竪穴	47	土製円板	縄文中期	2.9/2.5/1.2	9.0	竹管文	褐～暗褐	長、雲、角	4竪	研磨弱い
31	4号竪穴	48	土製円板	縄文中期	3.7/3.6/1.2	14.0	キャタピラ文、三角押文	褐	長、雲、角	4竪	周囲研磨弱い
31	4号竪穴	49	土製円板	縄文中期	3.6/3.4/1.3	20.0	無文	鈍い褐	長-多、角、雲	4竪	
31	4号竪穴	50	土製円板	縄文中期	3.7/3.6/1.0	18.0	角押文、三角押文	褐	長	4竪	周囲研磨弱い
31	4号竪穴	51	土製円板	縄文中期	2.7/2.2/1.0	5.0	無文	褐	長、雲	4竪	もろい
42	5号竪穴	94	ミニチュア土器	縄文中期	(8.8/6.2)/5.5	40.0	指頭?圧痕	褐	長、角、雲	5竪	
42	5号竪穴	95	ミニチュア土器	縄文中期	－/4.2/－	70.0	ナデ	褐、内面黒褐	雲、赤、角、長	2828	
42	5号竪穴	98	転用底部	縄文中期	14.8/16.7/3.1	147.0	角押文	黄褐、内面黒褐	長、雲、角	2304	底部転用、受け面・脚端部摩滅
42	5号竪穴	99	台形土器	縄文中期	(26.6/28.8)/4.6	132.0	ナデ	褐	長、雲	2302	脚端部摩滅は弱い
42	5号竪穴	100	台形土器	縄文中期	(29.8/24.2)/3.8	608.0	ナデ	明褐	長-やや多、雲	2374·2377	脚端部摩滅
42	5号竪穴	101	台形土器	縄文中期	(26.8/27.9)/1.7	545.0	ナデ	褐	長-多、雲	3190	脚部摩滅、受け面使用痕
43	5号竪穴	111	土偶	縄文中期	11.0/10.6/5.8	270.0	隆線、ナデ	褐～暗褐	長、角、雲	3066·3117	顔面は板状貼付、耳部と頭頂に懸垂孔、頸～胸部に串状圧痕
43	5号竪穴	112	土偶	縄文中期	3.3/2.9/1.6	12.0	三角押文、陰刻	褐	長、赤	5竪	内部空洞
43	5号竪穴	113	土偶頭部	縄文中期	4.7/4.4/3.1	41.0	隆線、串状圧痕?	褐	長、角、雲	2907	顔面剥離
44	5号竪穴	114	土偶頭部	縄文中期	4.5/5.2/4.4	66.0	沈線、刻み隆線	橙褐	長、雲	2225	頭頂に蛇体、顔面に白色粘土付着、串状圧痕
44	5号竪穴	115	土偶足	縄文中期	2.3/2.7/1.2	5.0	ナデ	暗褐	長、雲	5竪36ピ	足先端部
44	5号竪穴	116	土偶	縄文中期	5.0/4.1/2.2	24.0	角押文	褐	長、雲、角	5竪	臀部片
44	5号竪穴	117	土偶	縄文中期	6.2/5.6/4.9	129.0	粘土貼付、えぐり	褐～黒褐	長、雲、赤	5竪	頭部のみ
44	5号竪穴	118	土偶	縄文中期	12.4/8.8/4.6	396.0	角押文、陰刻、分割塊製作技法	褐～暗褐	長、雲	368～370·385	胴下半、腹部陰刻内に褐色粘土?付着
45	5号竪穴	119	土偶	縄文中期	5.6/5.6/4.4	74.0	三角押文、脚に串状圧痕	褐	長、雲	313·314·922	臀部下半
45	5号竪穴	120	土偶	縄文中期	6.8/5.2/2.8	79.0	串状圧痕、乳房貼付	黒褐	長、雲	2559	右腕
45	5号竪穴	121	動物形土製品	縄文中期	5.9/3.8/3.6	44.0	2本の脚	褐	長、石、赤	5竪	猪形か
45	5号竪穴	122	土偶	縄文中期	4.4/3.2/3.3	36.0	三角押文、陰刻、串状圧痕	黒褐～黄褐	長、雲	5竪	右側臀部
45	5号竪穴	123	土偶	縄文中期	3.3/4.2/1.7	28.0	沈線、串状圧痕	褐	長、雲	315	板状
45	5号竪穴	124	有孔土製品	縄文中期	3.7/1.9/1.2	10.0	ナデ、貫通孔	褐	長、赤	5竪	
45	5号竪穴	125	錘状土製品	縄文中期	6.9/4.8/4.5	154.0	ナデ、径1.3cmの貫通孔	橙褐	雲、赤	367	古墳時代の可能性、完存
46	5号竪穴	126	土製円板	縄文中期	2.6/2.5/1.0	8.0	沈線	暗褐	長、雲、角	5竪	ややもろい
46	5号竪穴	127	土製円板	縄文中期	3.2/2.9/1.1	60.0	沈線、刻み	黄褐	長、角	5竪	隅丸四角形
46	5号竪穴	128	土製円板	縄文中期	4.1/3.6/1.3	26.0	沈線	褐	長-多、雲、角	5竪	周囲研磨弱い
46	5号竪穴	129	土製円板	縄文中期	4.2/4.0/1.0	18.0	無文	褐	雲-多、長、赤、角	5竪	周囲研磨
46	5号竪穴	130	土製円板	縄文中期	4.5/4.5/1.4	31.0	沈線?	褐～黄褐	長-多、雲、角	5竪	周囲研磨弱い
46	5号竪穴	131	土製円板	縄文中期	3.2/2.3/1.1	9.0	無文	鈍い褐	長、赤、角	5竪37ピ	周囲研磨弱い
46	5号竪穴	132	土製円板	縄文中期	3.2/3.1/1.2	16.0	無文	暗褐	長、雲	5竪	周囲研磨
46	5号竪穴	133	土製円板	縄文中期	4.2/3.6/1.1	20.0	無文	暗褐～褐	長、雲、赤	5竪	周囲研磨弱い
46	5号竪穴	134	土製円板	縄文中期	4.3/4.2/0.8	21.0	三角押文	橙褐	長、角、雲	5竪	周囲研磨
46	5号竪穴	135	焼成粘土塊	縄文中期	3.8/3.1/2.3	22.0	圧痕	暗褐	長、雲、赤	5竪	
46	5号竪穴	136	焼成粘土塊	縄文中期	4.3/3.6/2.3	35.0	圧痕、指紋	褐～黒褐	長、雲、赤	5竪	
52	6号竪穴	6	ミニチュア土器	縄文中期	5.2/2.2/3.6	22.0	沈線文	褐	長、角、雲	3257(6竪51ピ)	約3割遺存
52	6号竪穴	12	土製円板	縄文中期	3.7/3.7/1.2	18.0	無文	褐～暗褐	長、雲、角	6竪	隅丸四角形、周囲研磨
52	6号竪穴	13	土製円板	縄文中期	4.3/3.8/1.2	26.0	無文	暗褐～褐	長、雲、角	6竪	周囲研磨弱い
52	6号竪穴	14	土製円板	縄文中期	2.8/2.7/1.1	12.0	縄文RL	鈍い褐	長、角、雲	3248	周囲研磨
52	6号竪穴	15	耳栓	縄文中期	2.5/2.4/1.6	6.0	滑車形	鈍い褐	長、角、赤	1024	完存
53	6号竪穴	16	顔面把手?	縄文中期	10.6/11.4/7.7	368.0	内部空洞の球状、目·口貫通、耳に孔	褐	長-多·大、雲-多	3247	頭頂に蛇体?、顔面把手の可能性あり
54	8号竪穴	9	ミニチュア土器	不明	(4.0/2.7)/2.4	10.0	ナデ	褐	長、石、角	8竪竈	
58	10号竪穴	17	ミニチュア土器	縄文中期	4.6/3.5/4.8	42.0	沈線	淡褐	長、角、雲	2685	
58	10号竪穴	18	ミニチュア土器	縄文中期	(4.6)//	24.0	無文	暗褐	長、雲、赤	10竪·O8	20と同一
58	10号竪穴	19	ミニチュア土器	縄文中期	－/(4.6)/－	28.0	脚付?	内面黒色、外面褐	長、雲、赤	10竪	
59	10号竪穴	23	台形土器	縄文中期	(22.0)/－/－	149.0	側面沈線	暗褐	長、雲、赤	2719	
59	10号竪穴	24	台形土器	縄文中期	－/(26.7)/－	122.0	側面円孔、沈線	暗褐	長、角	2663	
59	10号竪穴	25	土製円板	縄文中期	3.7/2.1/1.3	14.0	沈線	暗褐	長-多、雲、角	O8	周囲研磨、欠損
59	10号竪穴	26	土製円板	縄文中期	4.1/3.8/2.2	24.0	キャタピラ文、縄文RL、沈線	暗褐	長、角	10竪	研磨弱い
63	11号竪穴	14	台形土器	縄文中期	19.5/15.5/6.0	1390.0	脚付、円孔、陰刻	褐～黄褐	長-多、角	3381	受け面細かなヒビ、接地面弱く磨耗、受け面縁部～側面に粘土付着、ほぼ完存
63	11号竪穴	17	土偶	縄文中期	6.7/5.6/4.9	116.0	目·口は刺突	茶褐～黒褐	雲-多、長	3478	頭部～胸部
63	11号竪穴	18	焼成粘土塊	縄文中期	5.3/4.6/3.1	62.0	圧痕	黒褐～褐	長-多	11竪66ピ	
63	11号竪穴	19	土製円板	縄文中期	3.5/3.4/1.1	16.0	沈線	黄褐	長、石、角	11竪	周囲研磨
66	13号竪穴	7	土鈴?	縄文中期	－/－/－	21.0	ナデ	褐	長、石、角	3507	半球状
66	13号竪穴	8	ミニチュア土器	縄文中期	3.4/3.7/3.2	48.0	ナデ	黄褐～暗褐	長、雲、角	3514	完存
68	14号土坑	2	土製円板	縄文中期	4.0/3.3/1.3	22.0	無文	褐～黒褐	長、角、赤	353	隅丸四角形
68	15号土坑	1	土製円板	縄文中期	3.1/2.6/1.3	14.0	無文	鈍い褐	長、雲、赤	325	周囲研磨弱い

図版	地点	No.	種別	時期	長/短/厚cm 口/底/高cm	重さg	整形技法等	色調	胎土	注記	備考
69	28号土坑	11	焼成粘土塊	縄文中期	5.5/4.0/3.8	57.0	指頭?圧痕	暗褐	長、角、石	2756	
69	28号土坑	12	焼成粘土塊	縄文中期	4.2/2.9/1.9	18.0	圧痕	鈍い褐	長、角	2756	
70	29号土坑	4	焼成粘土塊	縄文中期	4.9/4.5/4.9	82.0	圧痕	灰褐	長-多、雲	29土	ややもろい
72	11号竪穴	38	土偶胴	縄文中期	5.7/6.2/3.0	80.0	隆線、三角押文	褐～黒褐	長、角、雲、赤	46土	
72	11号竪穴	39	土製円板	縄文中期	4.1/4.1/1.3	28.0	無文	暗褐	長、雲、角	46土	
72	11号竪穴	40	土製円板	縄文中期	4.0/3.6/1.2	20.0	指頭?圧痕	褐	長、角、雲	46土	周囲研磨なし
72	11号竪穴	41	焼成粘土塊	縄文中期	4.8/3.2/2.8	30.0	圧痕	褐	長、雲、角、赤	46土	
74	53号土坑	1	土製円板	縄文中期	3.0/2.9/1.2	13.0	無文	褐	長、角、赤	53土	周囲研磨
76	5号溝	3	土製円板	縄文中期	4.1/4.0/1.6	26.0	無文	黒褐～褐	長、雲、角	N8	周囲研磨
76	9号溝	2	ミニチュア土器	古墳?	/2.4/	33.0	ナデ	橙褐	長、角	2520	
76	9号溝	3	ミニチュア土器	古墳?	4.1/4.0/3.5	50.0	ナデ	灰褐	長、角	2491	ほぼ完存
78	遺構外	21	台形土器	縄文中期	(20.3)/－/－	670.0	付高台	褐～淡褐	長、赤	基礎2・基礎5	受け面に使用痕
78	遺構外	23	土偶	縄文中期	6.8/3.9/3.8	82.0	円錐形、沈線、三角押文、縄文LR?	褐	長、角、雲	36	頭と腕欠損
79	遺構外	24	土偶頭部?	縄文中期	2.3/4.1/3.6	26.0	貼付、角押文、三角押文	褐	長、雲	1541	頭頂部片
79	遺構外	25	土偶脚	縄文中期	5.0/2.8/3.1	40.0	ナデ	暗褐	長、雲、赤、角	1567	
79	遺構外	26	土偶	縄文中期	3.4/4.0/2.0	18.0	沈線文	褐～黒褐	長-やや多	L6	胴部のみ
79	遺構外	27	土偶顔?	縄文中期	6.8/4.0/6.8	48.0	内部空洞、隆線	褐	長、雲、赤	2083	
79	遺構外	28	土偶足	縄文中期	6.9/3.4/3.0	63.0	ナデ	鈍い褐	長、石、雲	1095	左足か
79	遺構外	29	土偶腕	縄文中期	2.8/2.1/1.7	10.0	ナデ	褐	長、安	表採	腕部か
79	遺構外	30	土偶腕	縄文中期	3.8/2.3/1.7	19.0	ナデ	褐	長、角、赤	1117	
79	遺構外	31	土製円板	縄文中期	2.7/2.4/0.8	8.0	無文	黒褐	長、角、雲	H7	周囲研磨なし
79	遺構外	32	土製円板	縄文中期	2.7/2.5/1.0	9.0	無文	黒褐～褐	長-多、雲	H7	周囲研磨
79	遺構外	33	土製円板	縄文中期	3.8/3.3/1.2	18.0	縄文RL?	褐	長、雲、角	G4	周囲研磨
79	遺構外	34	土製円板	縄文中期	3.9/3.7/1.3	24.0	無文	橙褐	長-多、角	L6	周囲研磨
79	遺構外	35	土製円板	縄文中期	3.7/3.4/1.0	14.0	無文	橙褐	長-やや多	3竪	周囲研磨
79	遺構外	36	土製円板	縄文中期	3.4/3.3/1.0	17.0	沈線	黒褐～褐	長、雲、角	表採	隅丸四角形、弱い研磨
79	遺構外	37	土製円板	縄文中期	3.7/3.3/1.2	15.0	縄文RL?	褐	長-大、雲、赤	H5	周囲研磨弱い
79	遺構外	38	土製円板	縄文中期	3.5/3.2/1.1	17.0	無文	黒褐～黄褐	長-多、雲、角	M8	隅丸四角形
79	遺構外	39	ミニチュア土器	縄文中期	(4.9)/－/2.2	25.0	ナデ	黄褐	長、角、赤	M8	約6割遺存
79	遺構外	40	ミニチュア土器	縄文中期	－/(3.0)/－	4.0	ナデ	黒褐～褐	長-多、角	表採	
79	遺構外	41	ミニチュア土器	縄文中期	－/1.0/－	14.0	ナデ	黒褐～橙褐	長、石	O7	内面赤彩
79	遺構外	42	ミニチュア土器	縄文中期	－/4.2/－	42.0	沈線	褐	長、雲、角	不明	
80	遺構外	61	ミニチュア土器	不明	－/3.1/－	24.0	ナデ	橙褐	赤、角	1868	
80	遺構外	62	ミニチュア土器	不明	4.5/3.7/1.7	24.0	ナデ	鈍い褐	長、角	M9	
80	遺構外	63	ミニチュア土器	縄文中期	(5.7/3.5)/2.9	24.0	ナデ	暗褐～黒褐	長、角、雲	G3	
80	遺構外	64	ミニチュア土器	古墳?	4.5/3.2/4.1	108.0	ナデ	褐～黒褐	長-やや多	1	完存
80	遺構外	65	ミニチュア土器	古墳?	(3.7)/3.4/3.3	38.0	ナデ	灰褐、内面黒褐	長、角	I5	
80	遺構外	66	ミニチュア土器	古墳?	－/3.7/－	23.0	ナデ	灰白	長、赤	J10	
80	遺構外	67	ミニチュア土器	不明	(6.0/3.3) /3.3	33.0	指頭?圧痕	黄褐	長、雲、角	M8	
80	遺構外	68	ミニチュア土器	古墳?	4.5/4.2/4.3	96.0	ナデ、底面圧痕	橙褐	長、角	2457	完存
80	遺構外	69	ミニチュア土器	古墳?	7.0/5.5/4.0	110.0	ナデ	橙褐	長-多、石、角、雲	H6	約5割遺存
80	遺構外	70	ミニチュア土器	古墳?	(5.8)/4.4/5.7	138.0	ナデ	黄褐	長、角、赤	1610	約8割遺存
80	遺構外	71	ミニチュア土器	古墳?	6.6/4.0/5.0	212.0	ナデ、指頭圧痕	灰褐	長、角、雲	2002	完存
80	遺構外	72	ミニチュア土器	古墳?	6.7/6.5/5.8	272.0	ナデ	灰褐	長、石、赤、角、雲	2	ほぼ完存
82	遺構外	121	鞴羽口	平安?	9.0/5.3/1.8	232.0	ナデ?	褐	長-多、石、角	I5	
82	遺構外	122	鞴羽口	平安?	8.4/3.5/1.6	70.0	ナデ	褐	長、雲、角	L5	
82	遺構外	123	転用紡錘車	古墳	3.9/3.8/1.5	24.0	ナデ	橙褐	赤	F6	高坏脚の転用か、割口研磨

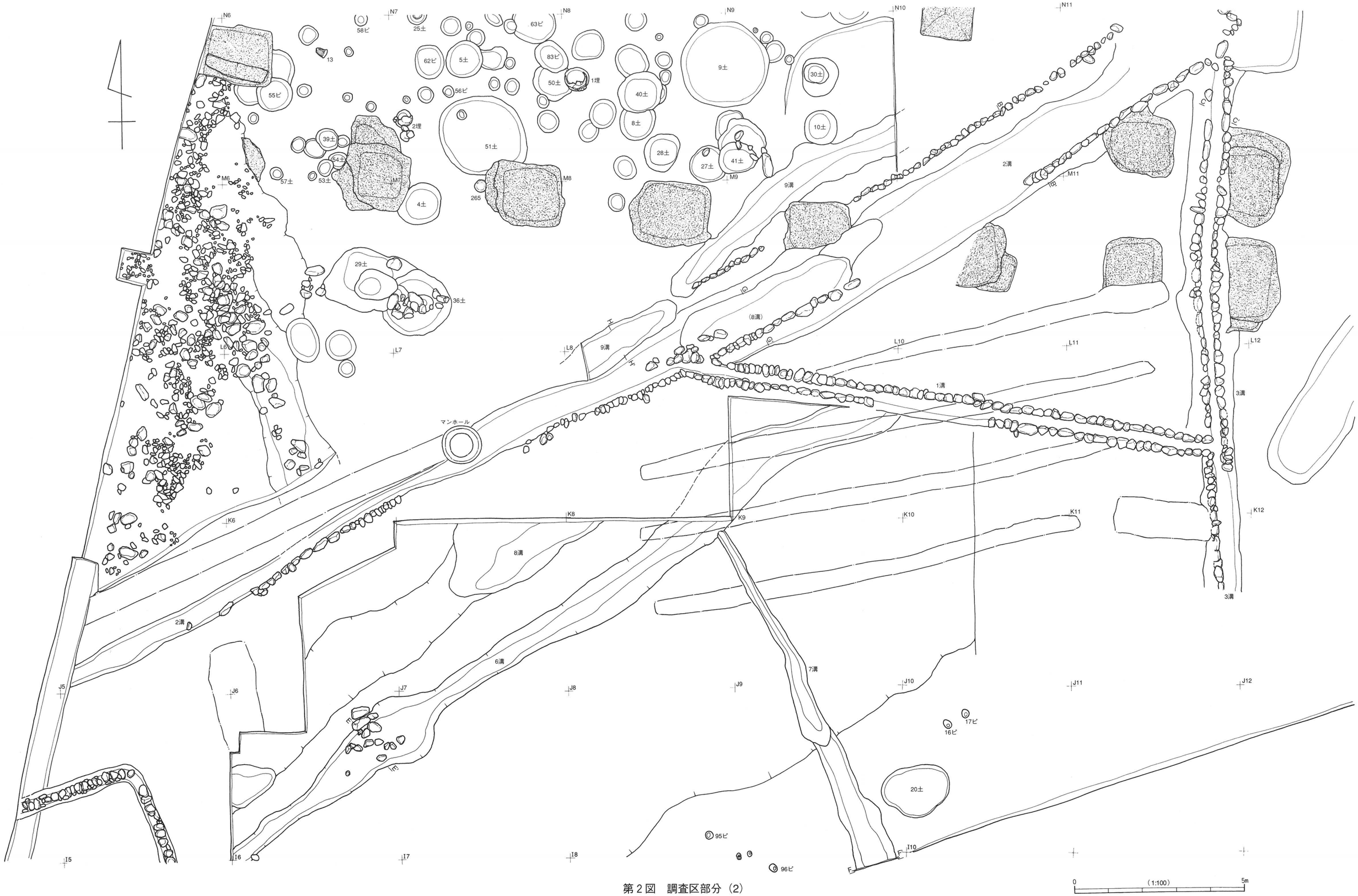
表5　金属製品観察表

図版	地点	No.	種別	材質	長cm	幅cm	厚さcm	注記	備考
25	1・2号竪穴	25	銭貨	銅	2.4	2.0	0.2	1竪15ピ　382	銭種不明、もろい
76	1号井戸	1	銭貨	銅	2.3	2.3	0.2	3563	「元豊通宝」か
76	1号井戸	2	銭貨	銅	2.3	2.3	0.25	3564	「元豊通宝」か、腐食

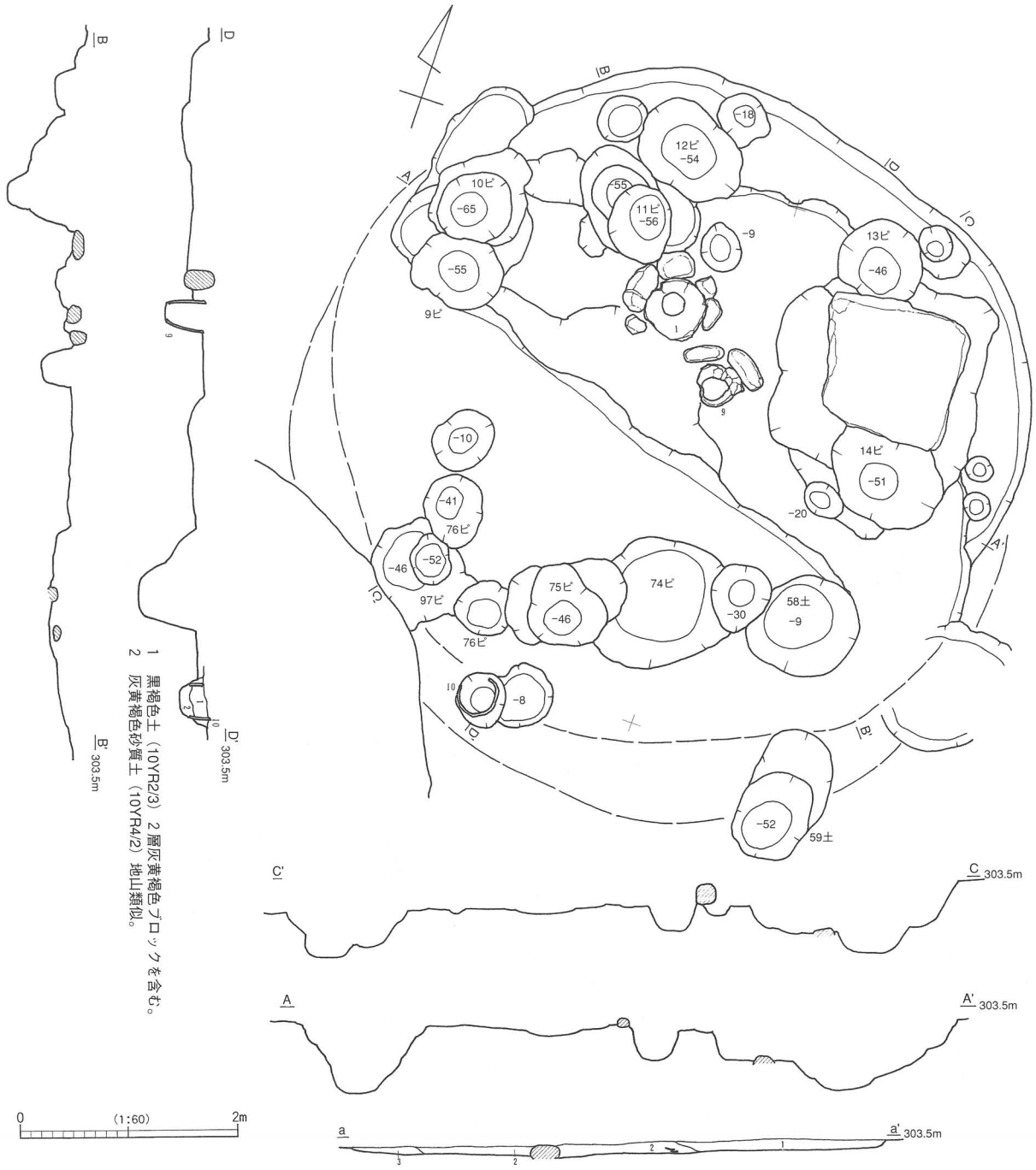


R7
R8
R9
4溝
1土
7ピ
54土
4ピ
3ピ
6ピ
5ピ
12土
55土
11土
79ピ
77ピ
13土
19土
14土
15土
16土
1ピ
12竪
3土
72ピ
69ピ
67ピ
66ピ
2土
13竪
82ピ
Q7
Q8
Q9
Q10
Q11
Q12
12ピ
13ピ
11ピ
10ピ
9ピ
1井
45土
65ピ
11竪
53土
52土
10溝
52ピ
6竪
44ピ
45ピ
1・2竪
74ピ
73ピ
75ピ
74ピ
58土
43土
44土
18土
56土
57土
2集石
51ピ
50ピ
48ピ
49ピ
39ピ
P6
P7
41ピ
40ピ
76ピ
P8
59土
P9
P10
P11
P12
38ピ
5竪
21ピ
4竪
22ピ
31ピ
59ピ
81ピ
43ピ
24ピ
27ピ
33ピ
23ピ
19ピ
31ピ
18ピ
49土
O6
O7
O8
10竪
34ピ
28ピ
O9
20ピ
32ピ
O10
42土
O11
O12
O13
48土
22土
23土
6土
31土
10溝
37土
32土
33土
5溝
21土
24土
34土
35土
60ピ
61ピ
38土
N6
N7
25土
N8
N9
N10
N11
N12
N13
0
(1:100)
5m

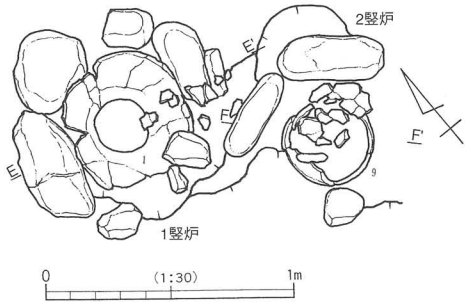
第１図　調査区部分（1）


N6
N7
N8
N9
N10
N11
58ピ
25土
63ピ
13
62ピ
5土
83ピ
50土
1埋
9土
30土
55ピ
56ピ
40土
8土
10土
2埋
39土
51土
28土
27土
41土
54土
53土
57土
M6
M7
M8
M9
M11
4土
265
9溝
2溝
29土
36土
(8溝)
L6
L7
L8
L10
L11
L12
1溝
3溝
マンホール
K6
K8
K9
K10
K11
K12
8溝
2溝
6溝
7溝
J5
J6
J7
J8
J9
J10
J11
J12
17ピ
16ピ
20土
95ピ
96ピ
I5
I6
I7
I8
I10
0
(1:100)
5m

第２図　調査区部分（2）



1・2号竪穴炉



1竪炉

E　E'303.5m

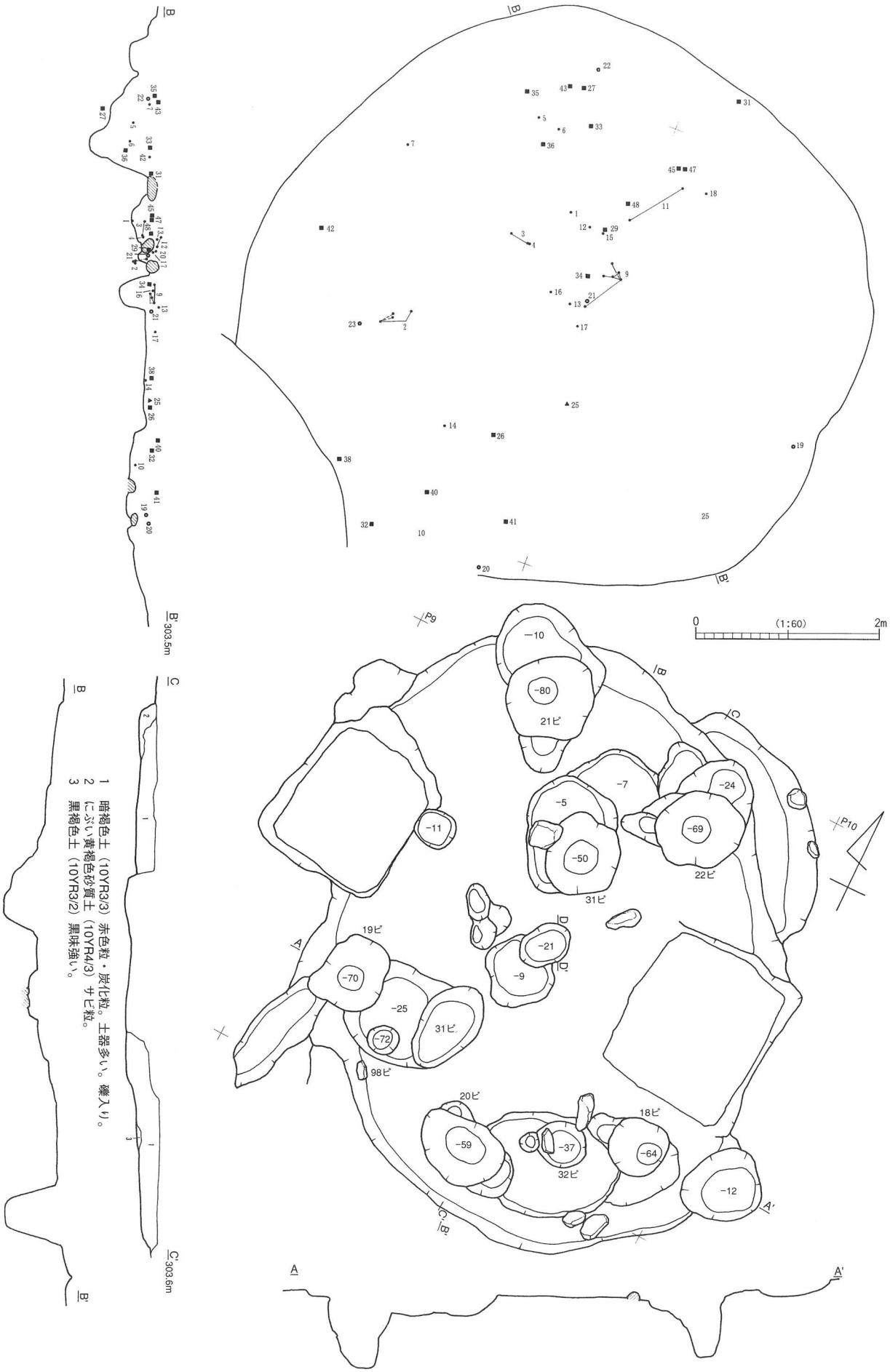
1　黒褐色土（10YR3/2）炭化粒少。2層小ブロック・焼土粒・土器片を含む。
2　にぶい黄褐色土（10YR5/3）塊状。
3　暗褐色土（10YR3/3）2層小ブロックをやや多く含む。

2竪炉

F　F'303.5m

1　黒褐色土（10YR2/3）炭化粒・赤色粒微量。土器片。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）地山類似。

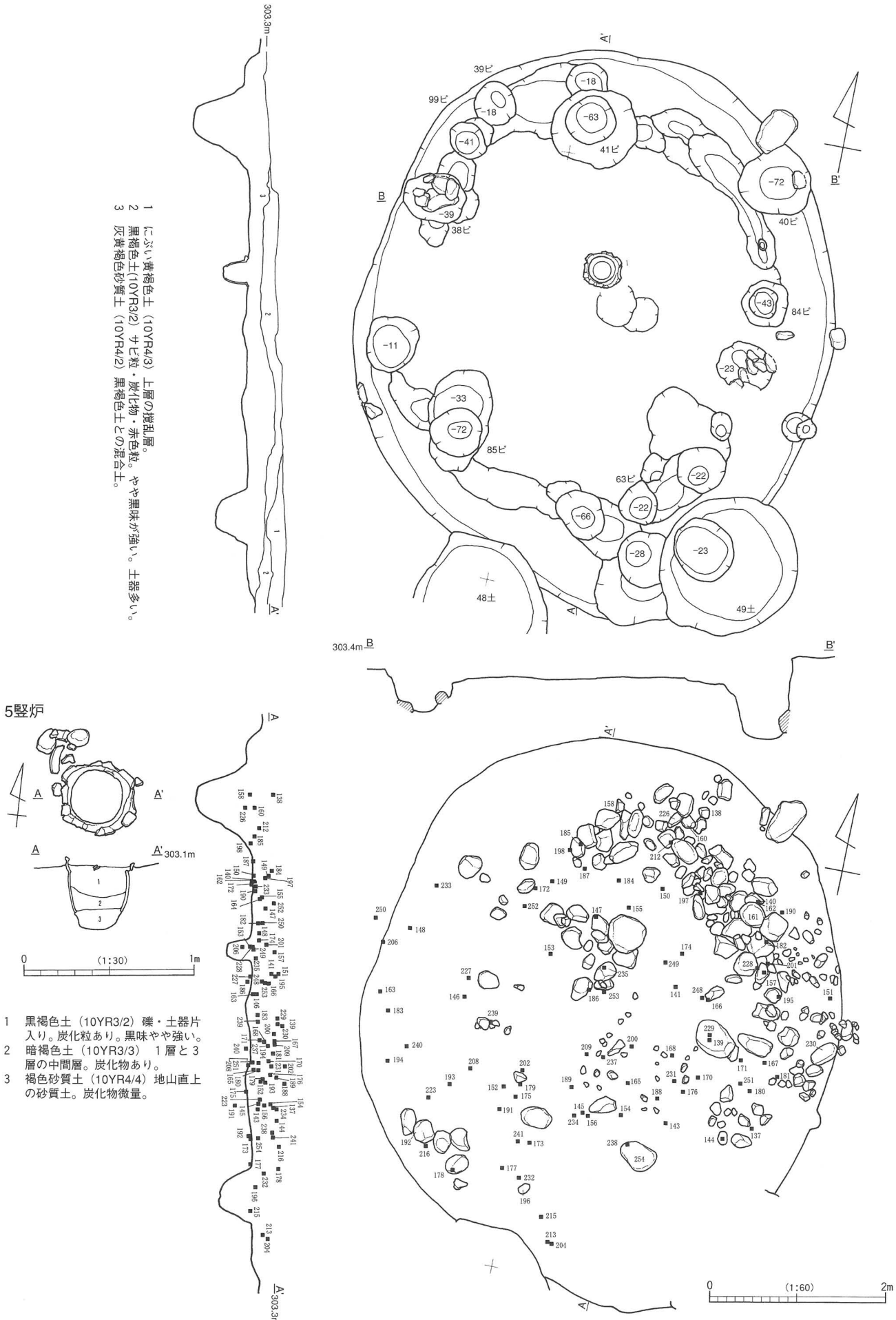
第3図　1・2号竪穴（1）



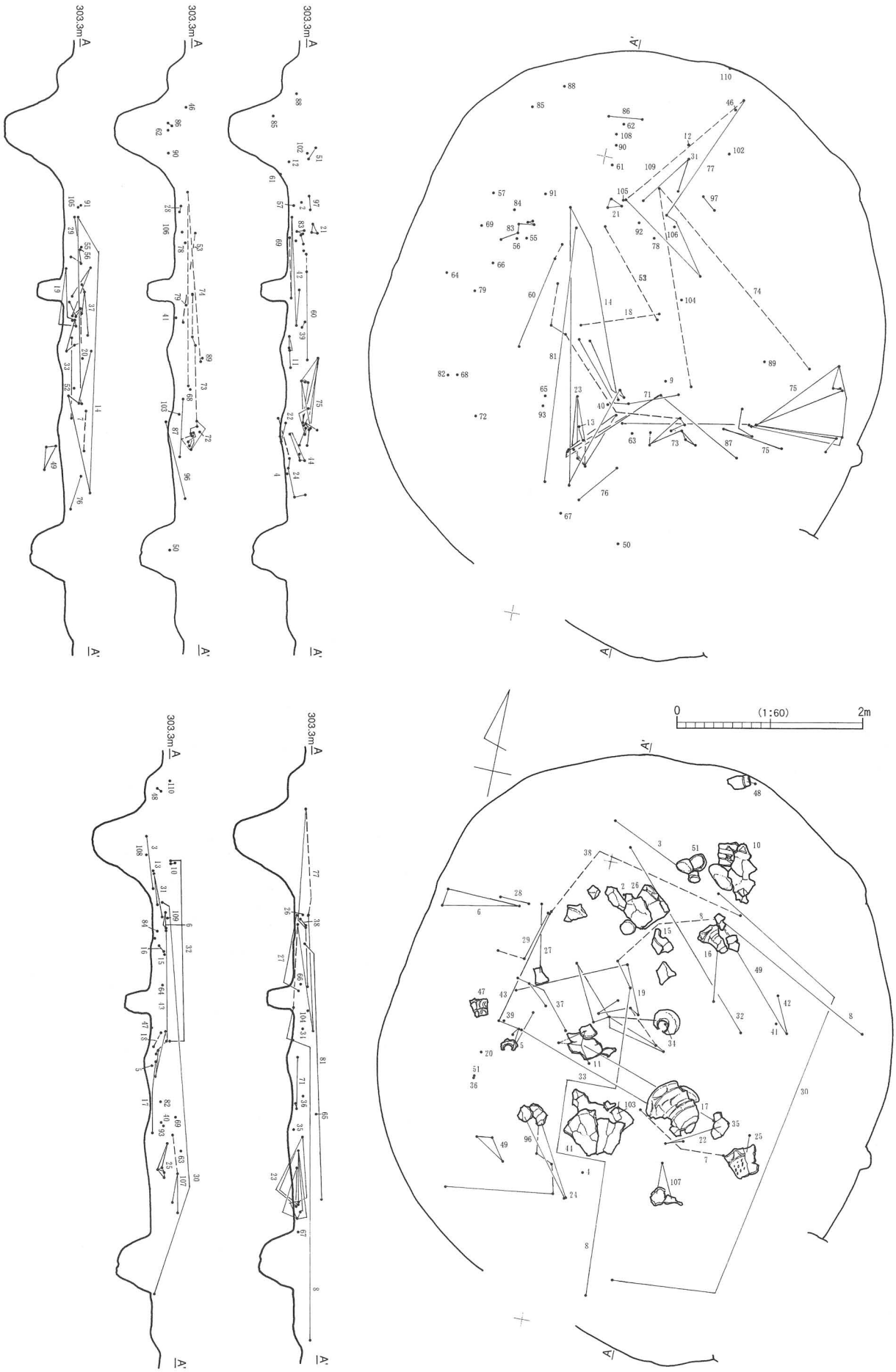
第４図　１・２号竪穴（2）、４号竪穴（1）

4竪炉
D
D'
D
D'
303.5m
1　黒褐色土（10YR2/3）炭化粒少。砂質土少。炉体土器残片？あり。
0
(1:30)
1m
破線内は粘土分布を示す。
0
(1:60)
2m
B
B'
303.4m

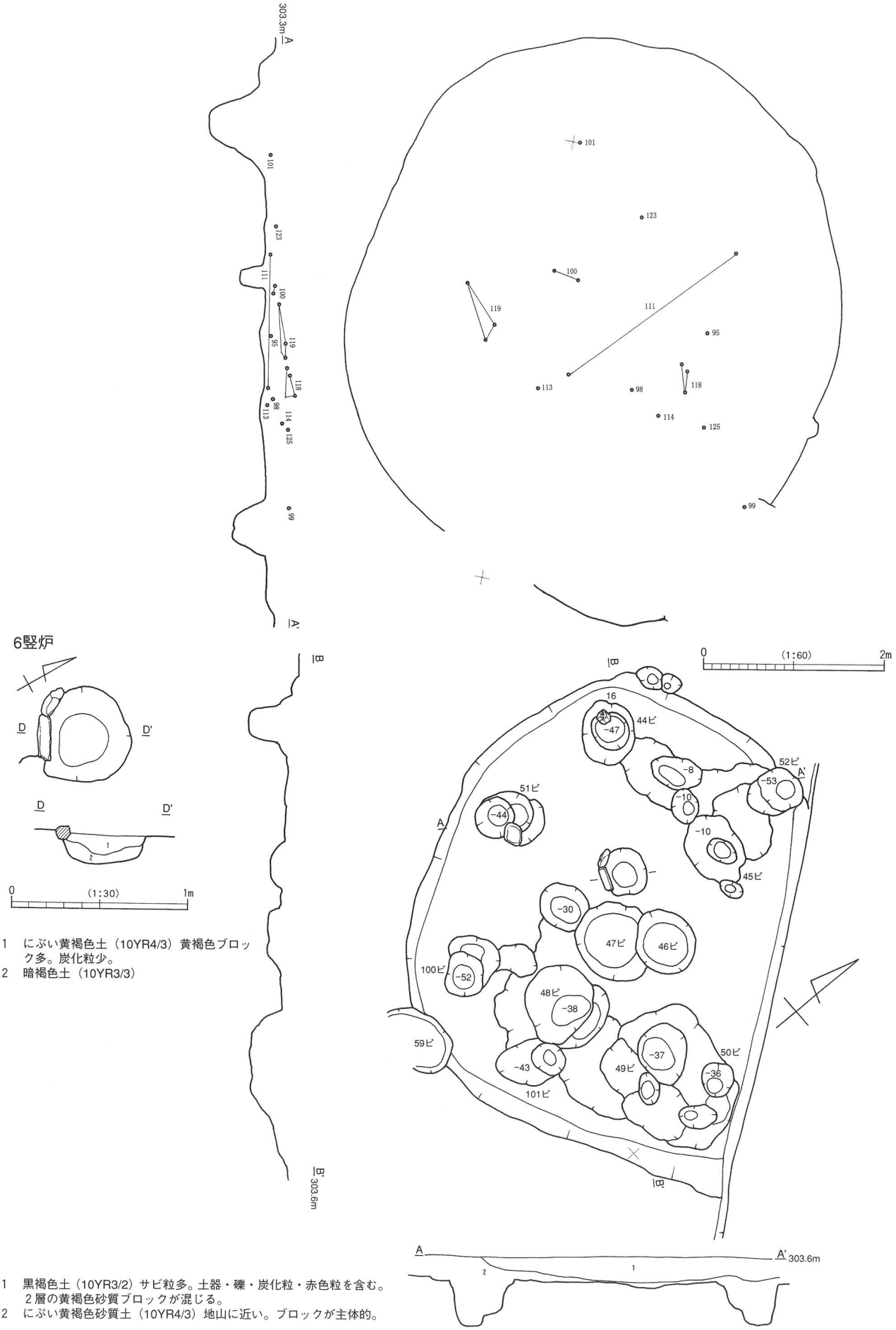
第５図　４号竪穴（２）


303.3m
A'
1 にぶい黄褐色土（10YR4/3）上層の攪乱層。
2 黒褐色土(10YR3/2) サビ粒・炭化物・赤色粒。やや黒味が強い。土器多い。
3 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黒褐色土との混合土。
39ピ
99ピ
41ピ
40ピ
84ピ
85ピ
63ピ
38ピ
48土
49土
B
B'
303.4m
5竪炉
A
A'
303.1m
0
(1:30)
1m
1 黒褐色土（10YR3/2）礫・土器片入り。炭化粒あり。黒味やや強い。
2 暗褐色土（10YR3/3） 1層と3層の中間層。炭化物あり。
3 褐色砂質土（10YR4/4）地山直上の砂質土。炭化物微量。
0
(1:60)
2m

第6図　5号竪穴（1）



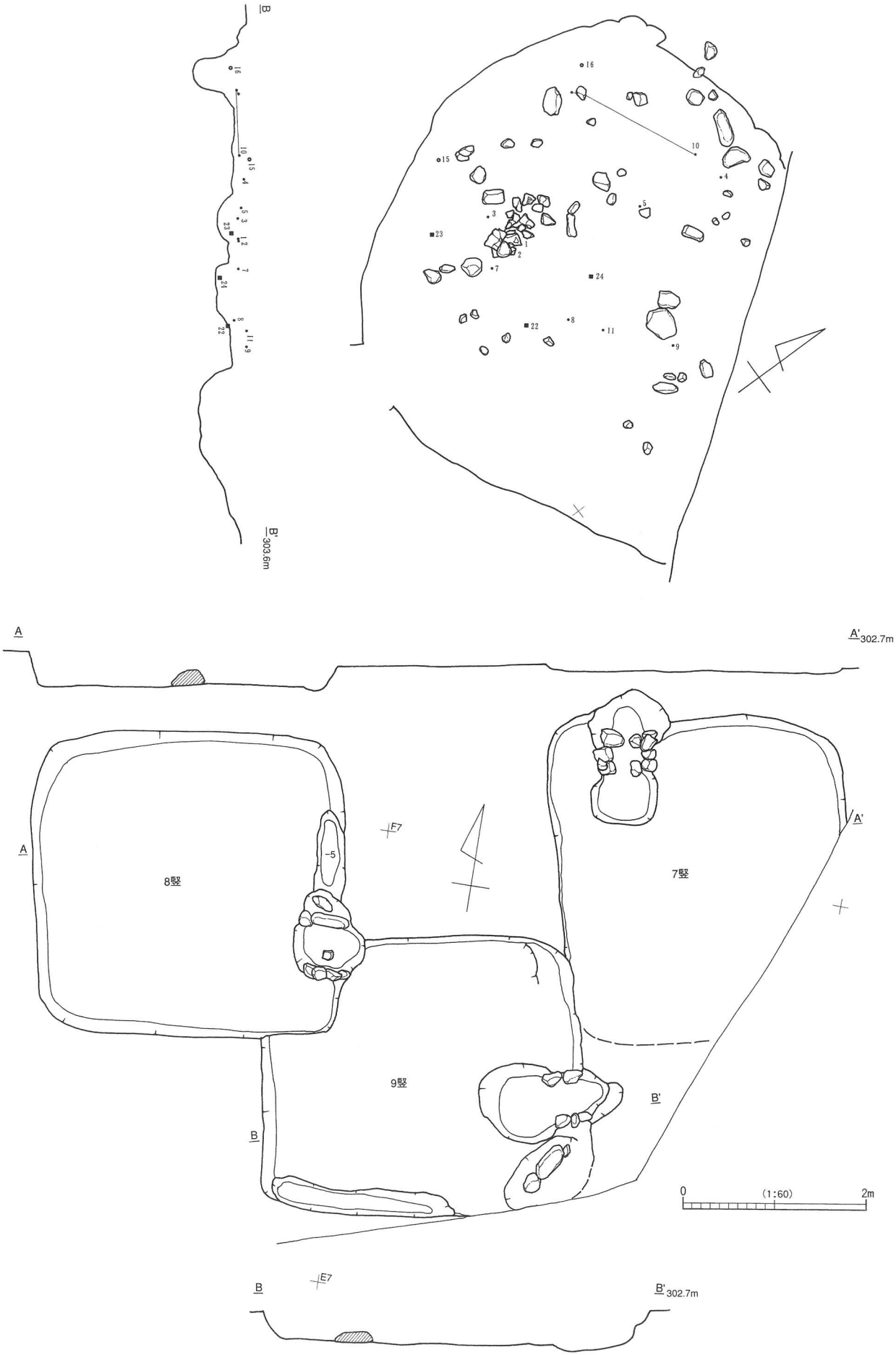
第７図　５号竪穴（2）



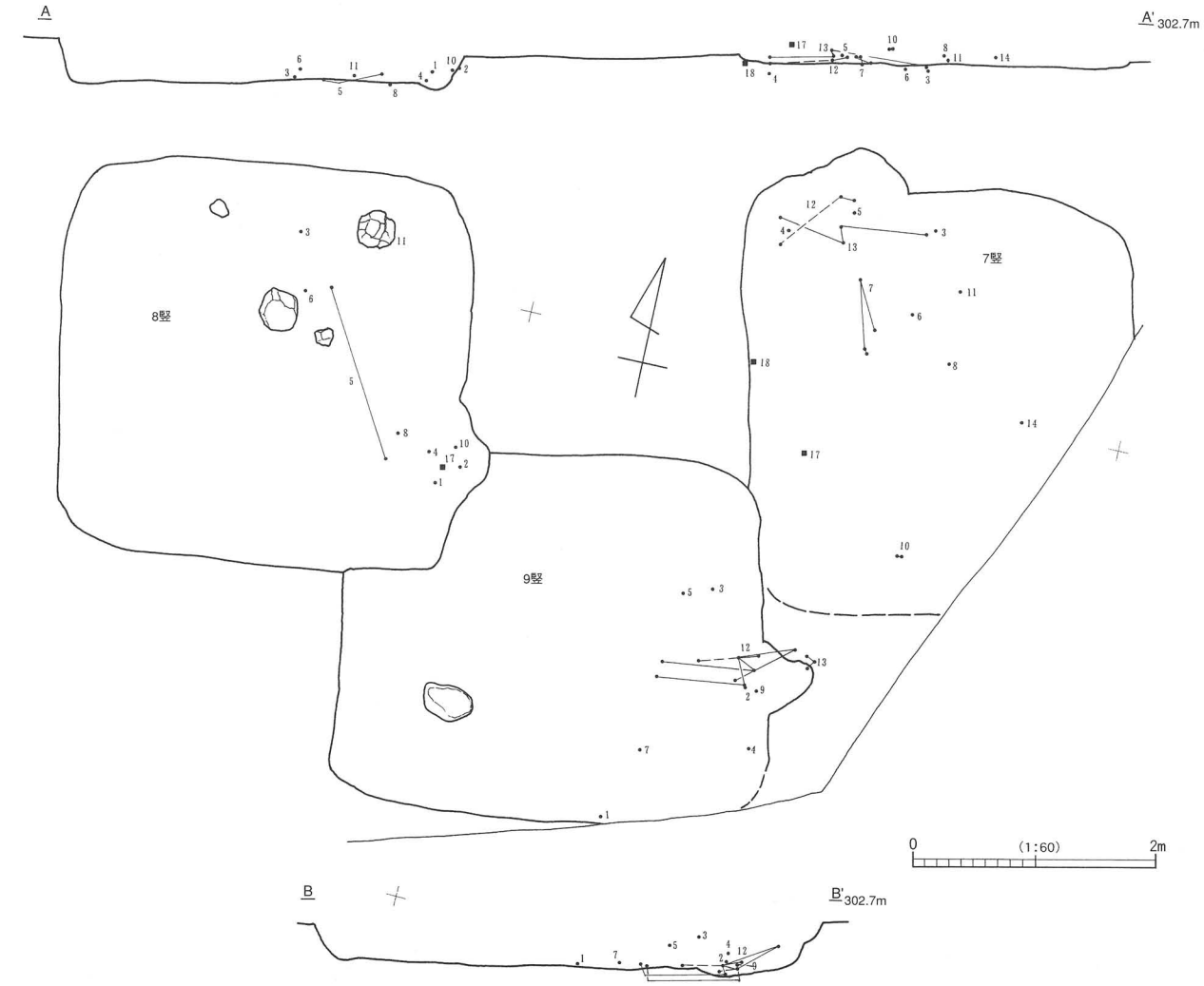
1　にぶい黄褐色土（10YR4/3）黄褐色ブロック多。炭化粒少。
2　暗褐色土（10YR3/3）

1　黒褐色土（10YR3/2）サビ粒多。土器・礫・炭化粒・赤色粒を含む。2層の黄褐色砂質ブロックが混じる。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）地山に近い。ブロックが主体的。

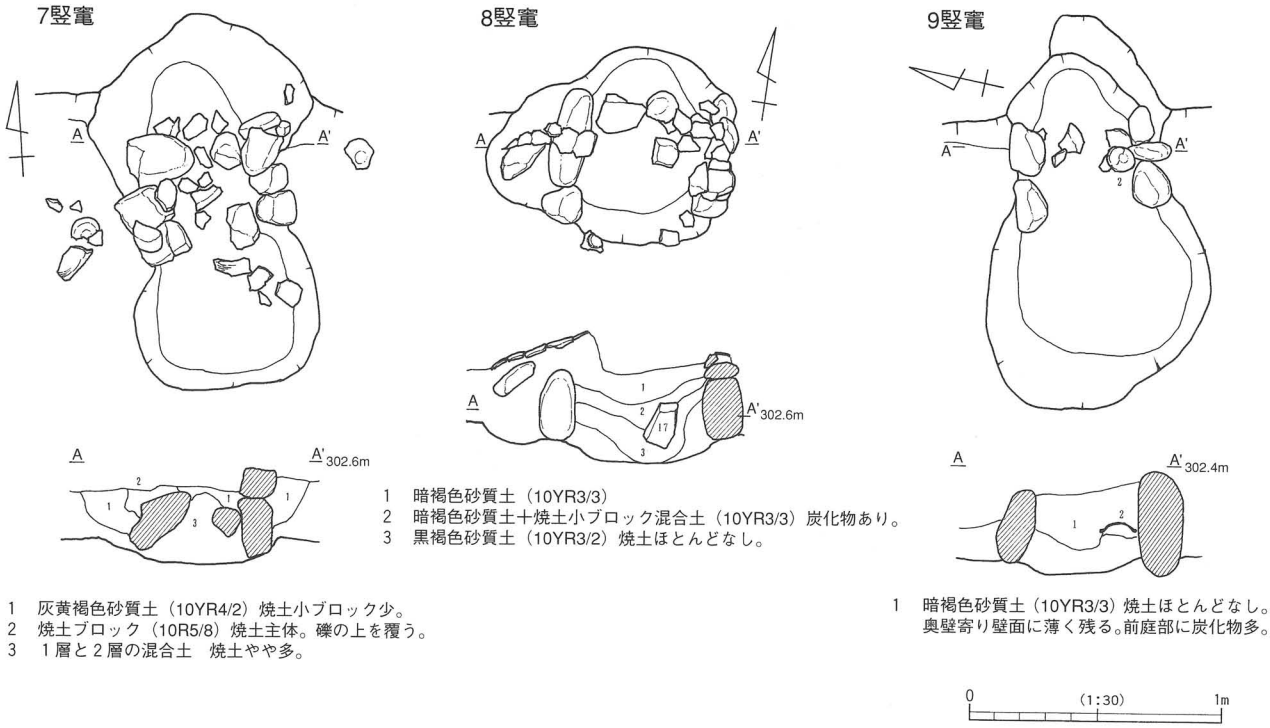
第8図　5号竪穴（3）、6号竪穴（1）



第９図　６号竪穴（2）、７～９号竪穴（1）



1　にぶい黄褐色土（10YR4/3）黄褐色ブロック多。炭化粒少。
2　暗褐色土（10YR3/3）

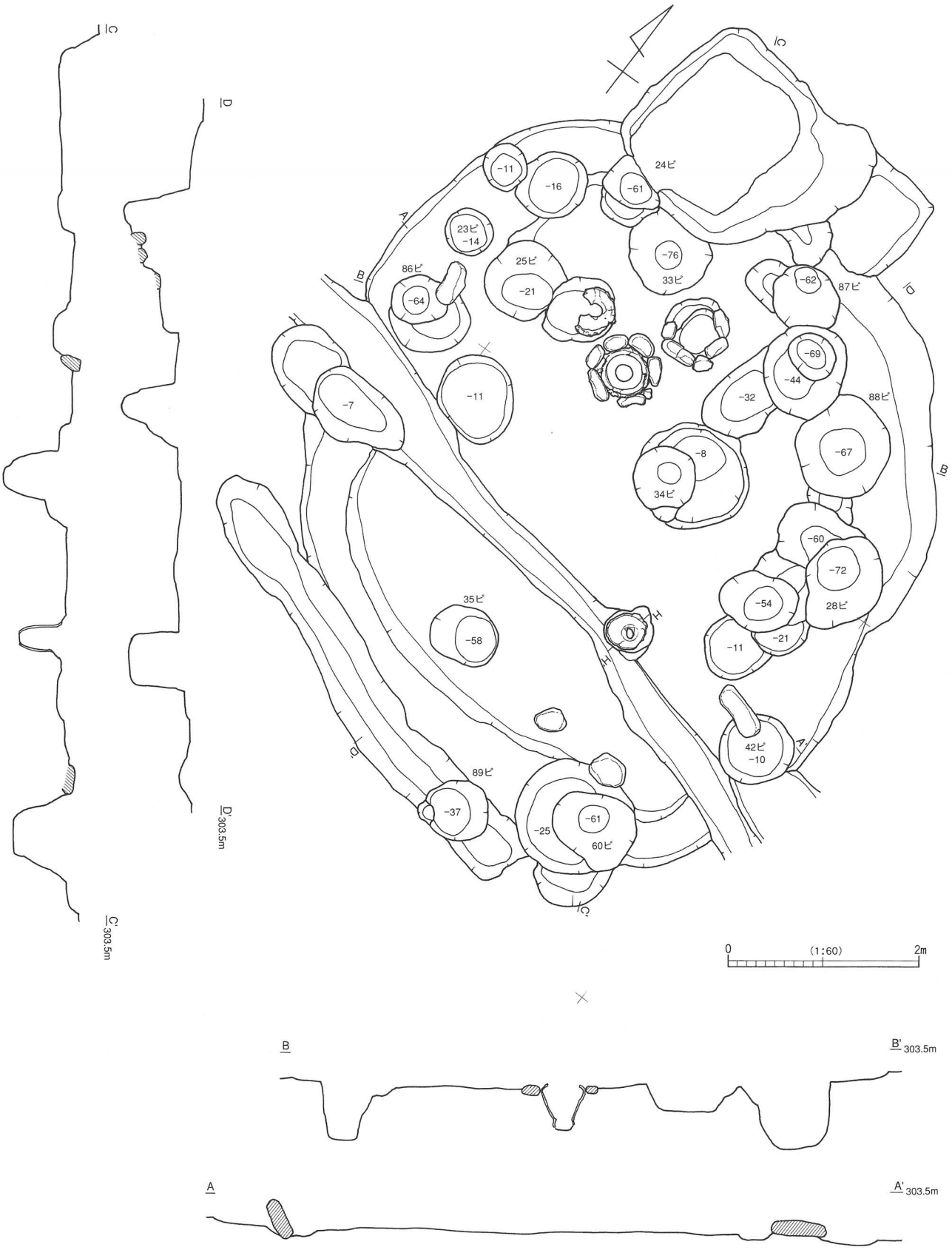


1　暗褐色砂質土（10YR3/3）
2　暗褐色砂質土十焼土小ブロック混合土（10YR3/3）炭化物あり。
3　黒褐色砂質土（10YR3/2）焼土ほとんどなし。

1　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）焼土小ブロック少。
2　焼土ブロック（10R5/8）焼土主体。礫の上を覆う。
3　1層と2層の混合土　焼土やや多。

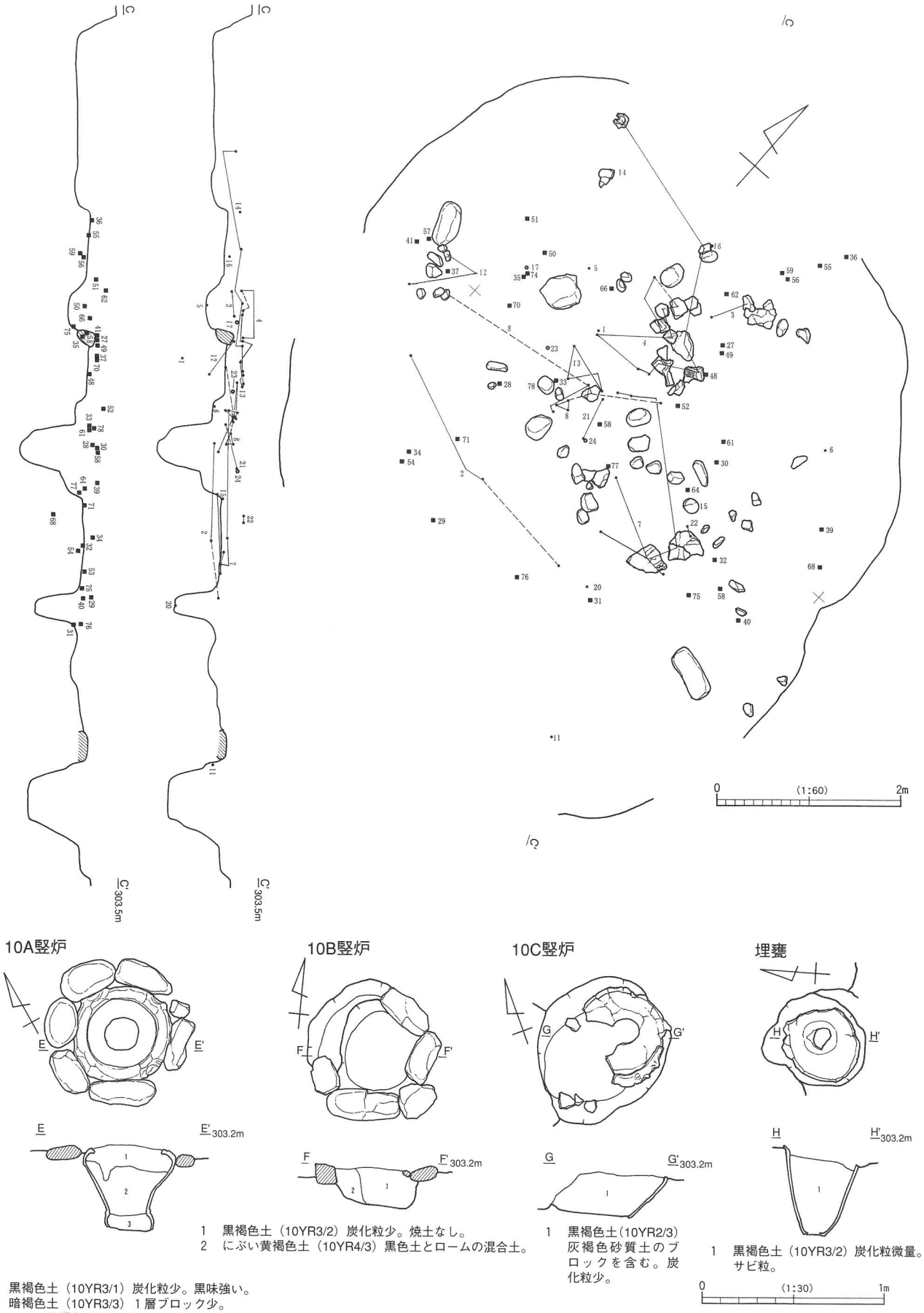
1　暗褐色砂質土（10YR3/3）焼土ほとんどなし。
奥壁寄り壁面に薄く残る。前庭部に炭化物多。

第10図　6号竪穴（2）、7～9号竪穴（1）



C
D
C'
D'
303.5m
C'
303.5m
24ピ
-11
-16
-61
23ピ
-14
-76
33ピ
25ピ
-21
86ピ
-64
-62
87ピ
-69
-44
-32
88ピ
-7
-11
-8
34ピ
-67
-60
-72
28ピ
-54
-21
-11
35ピ
-58
42ピ
-10
89ピ
-37
-25
-61
60ピ
A
B
D
H
0
(1:60)
2m
B
B'
303.5m
A
A'
303.5m

第11図　10号竪穴（1）



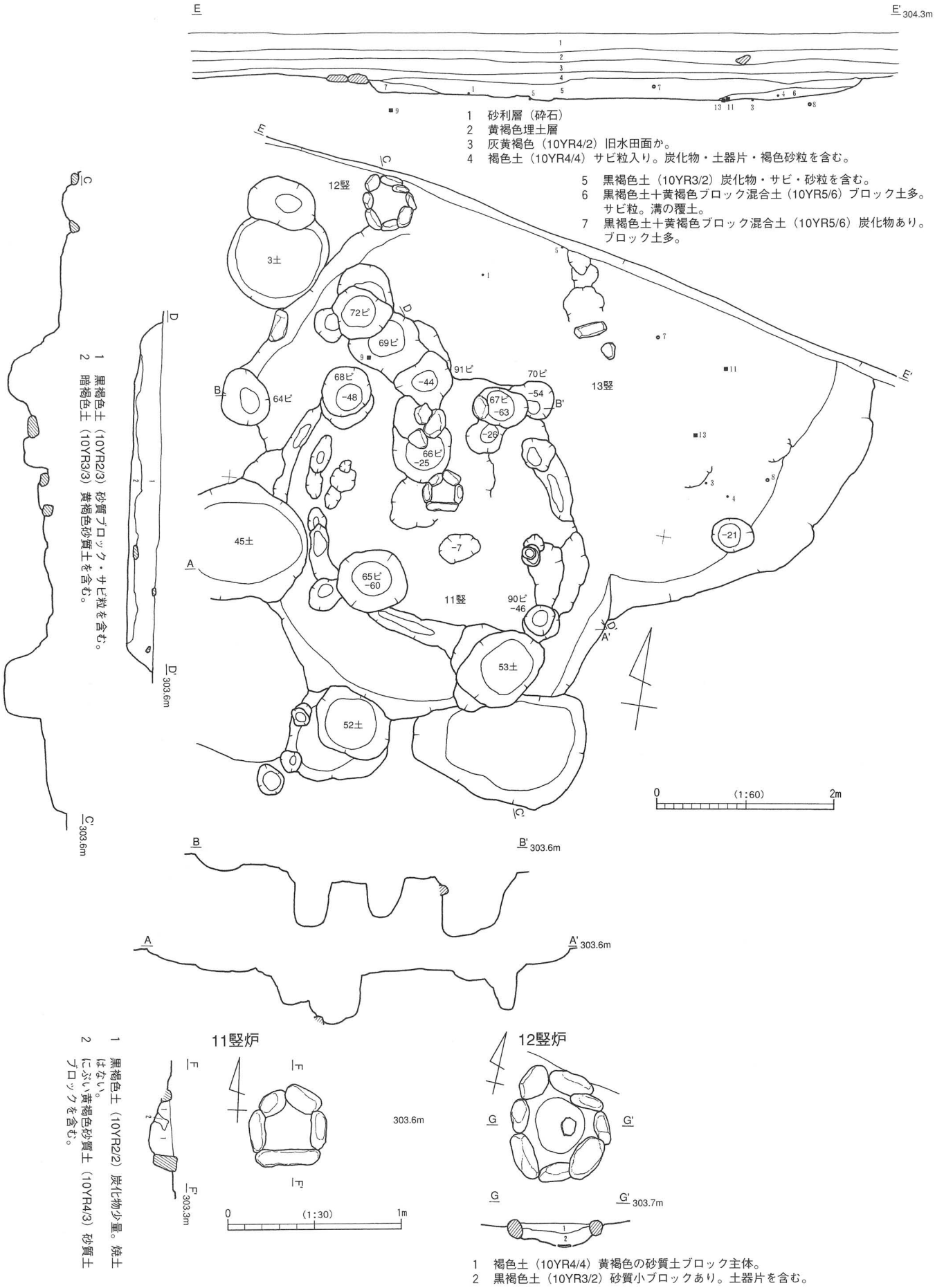
1　黒褐色土（10YR3/2）炭化粒少。焼土なし。
2　にぶい黄褐色土（10YR4/3）黒色土とロームの混合土。

1　黒褐色土（10YR2/3）灰褐色砂質土のブロックを含む。炭化粒少。

1　黒褐色土（10YR3/2）炭化粒微量。サビ粒。

1　黒褐色土（10YR3/1）炭化粒少。黒味強い。
2　暗褐色土（10YR3/3）1層ブロック少。
3　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）

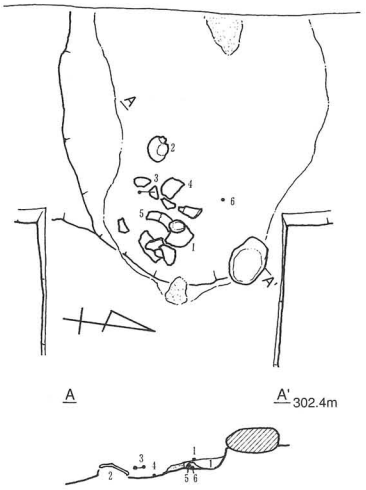
第12図　10号竪穴（2）



第13図　11～13号竪穴（1）

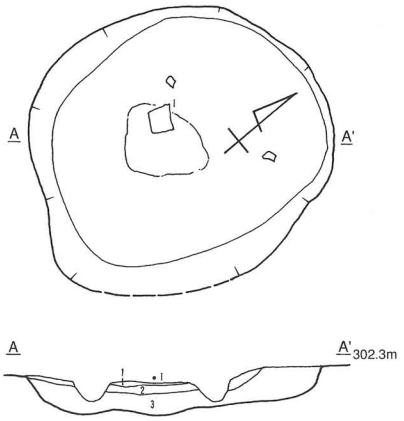
11号竪穴

1号焼土



1　褐灰色砂質土（10YR4/1）炭化物を含む。
2　橙色（2.5YR6/8）焼土ブロック。

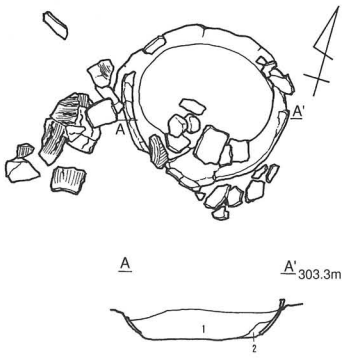
2号焼土



1　炭化物＋焼土層　炭化物主体。炭の上に焼土がのる。土器片を含む。
2　褐灰色砂質土（10YR4/1）炭化物多。サビ粒あり。
3　褐灰色砂質土（10YR4/1）サビ粒あり。

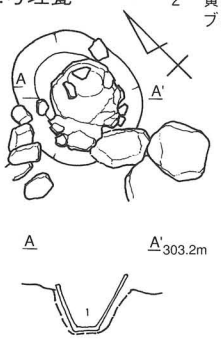
0　(1:30)　1m

1号埋甕



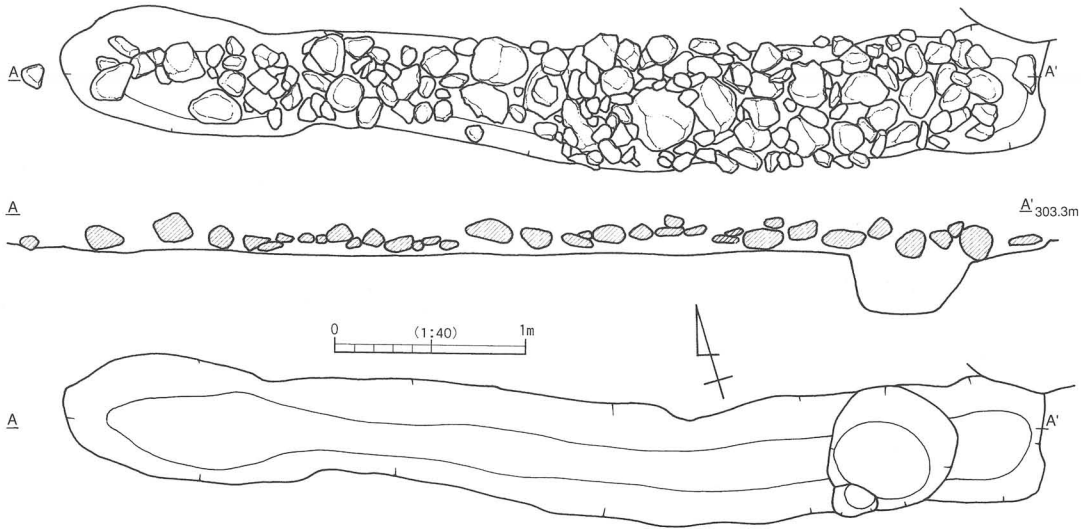
1　灰黄褐色土（10YR4/2）2層ブロックを含む。土器片・炭化粒を含む。
2　黄褐色砂質土（2.5Y5/3）砂質ブロックを含む。

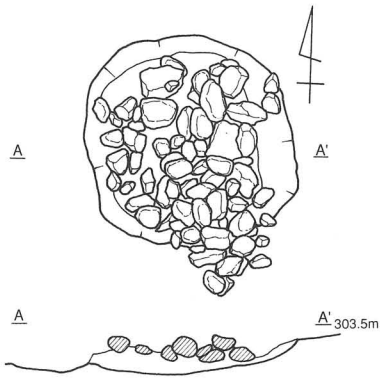
2号埋甕

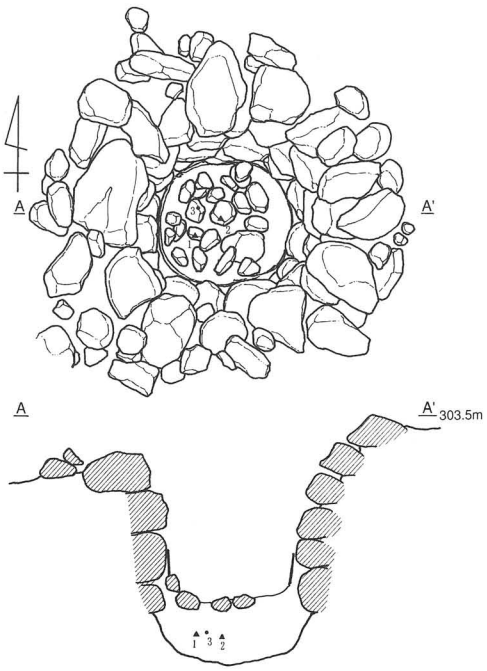


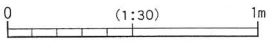
1　暗褐色土（10YR3/3）土器片を含む。砂粒少。

第14図　11～13号竪穴（2）、1・2号焼土、1・2号埋甕

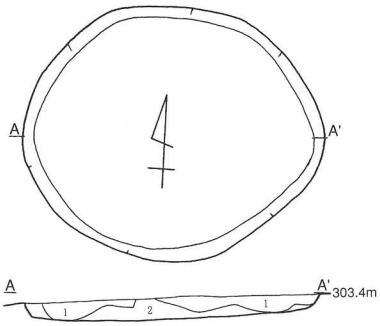






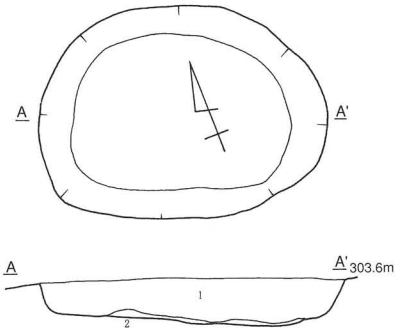


1号土坑



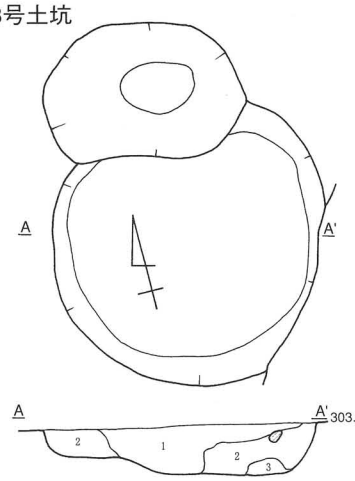
1　黒褐色土（10YR3/2）ロームブロック少。土器片少。サビ粒。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）地山・砂層と１層の混合土。

2号土坑



1　黒褐色土（10YR3/2）小礫・土器片少。ローム砂質ブロック。炭化粒・サビ粒あり。
2　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）灰色砂質ブロックを含む。

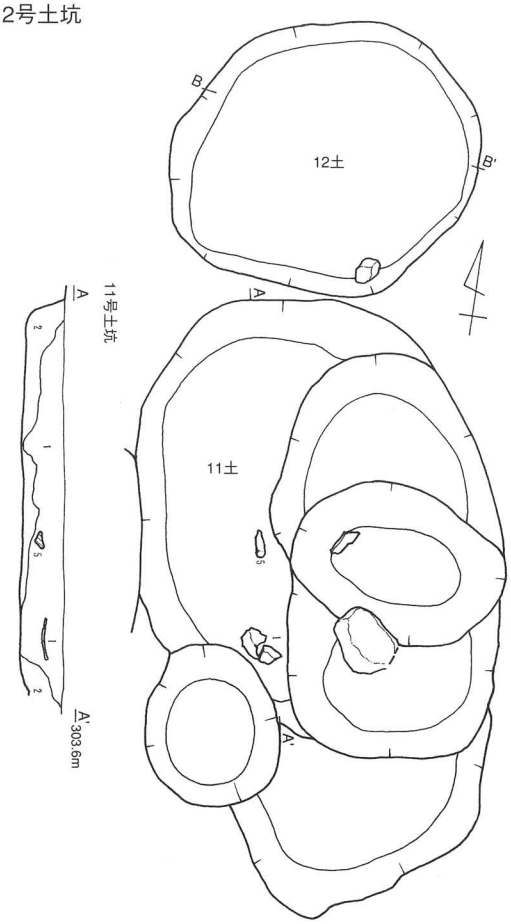
3号土坑



1　黒褐色土十灰黄褐色土混合土（10YR3/2）灰黄褐色土ブロックを上層に多く含む。炭化物。
2　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色ロームブロックを含む。やや黒味あり。
3　灰黄褐色砂質ブロック（10YR5/2）

第15図　１・２号集石、１号井戸、１～３号土坑

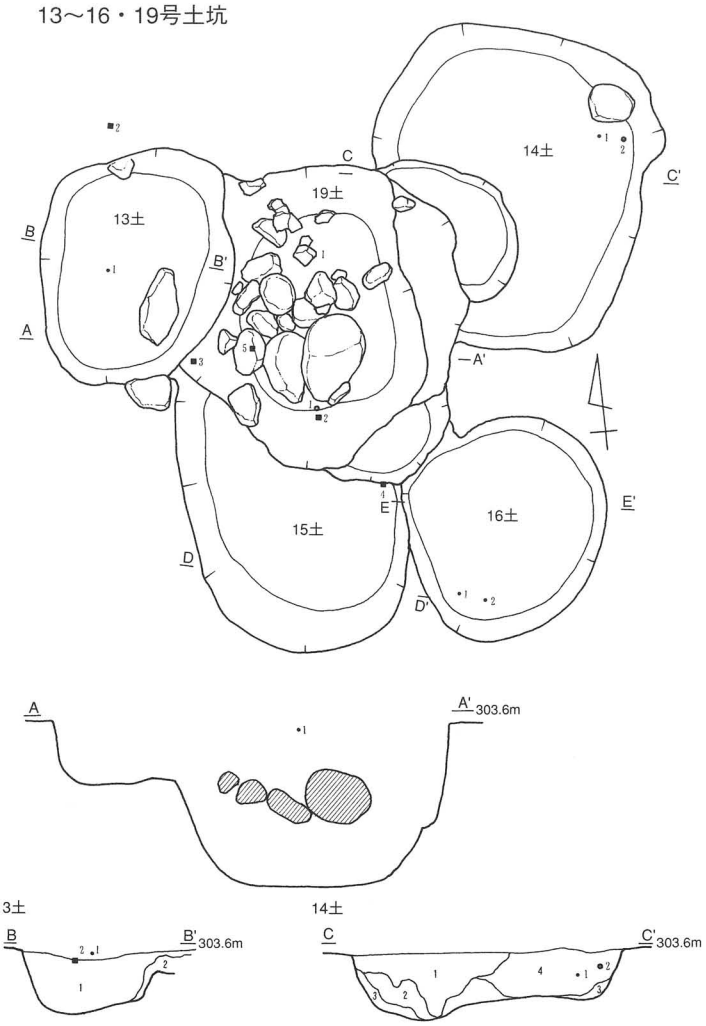
11・12号土坑



1　黒褐色土（10YR2/3）土器片を含む。焼土粒わずか。
2　暗褐色砂質土（10YR3/4）地山と1層の混合土。

1　黒褐色土（10YR2/3）炭化物あり。焼土粒・礫を含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）サビ粒多。黄褐色砂質ブロックを含む。

13～16・19号土坑



1　黒褐色土（10YR3/2）土器片・礫を含む。
2　暗褐色土（10YR3/4）サビあり。

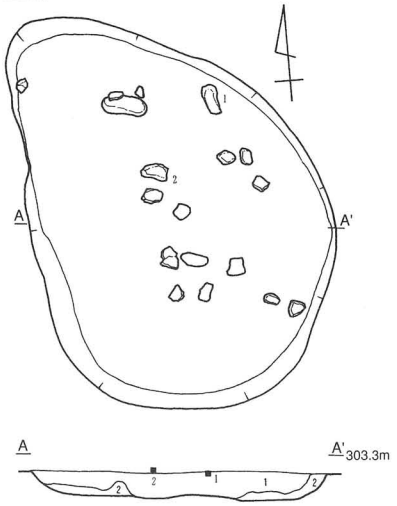
1　黒褐色土（10YR2/3）土器片あり。炭化粒を含む。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）砂質土のブロックを含む。
3　暗褐色土（10YR3/4）やや黒味が強い。
4　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）土器片あり。

1　黒褐色土（10YR2/3）灰褐色砂質ブロック多。土器片。サビ粒。
2　暗褐色土（10YR3/4）サビ粒多。黒味が強い。

1　黒褐色土（10YR2/3）土器片あり。炭化粒少。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）サビ粒。1層小ブロックをわずかに含む。

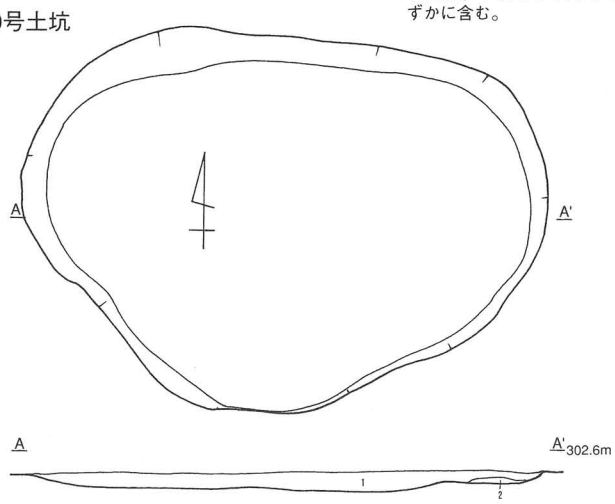
0　（1:30）　1m

18号土坑



1　黒褐色土（10YR2/2）砂質土混じる。赤色粒。土器・石器を含む。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）砂質土ブロックあり。

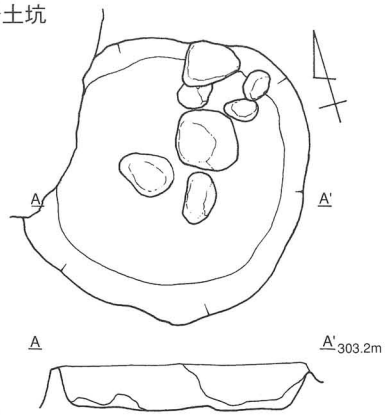
20号土坑



1　黒褐色砂質土（10YR2/3）黒味が弱い。
2　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）砂層。

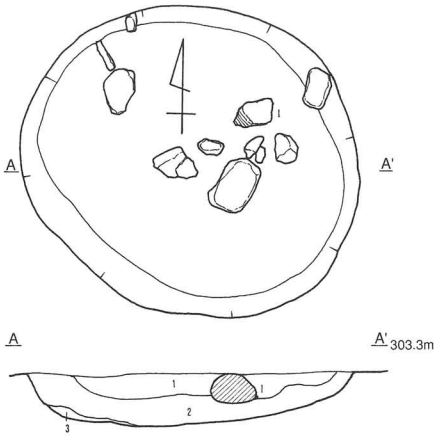
第16図　11～16・18～20号土坑

21号土坑



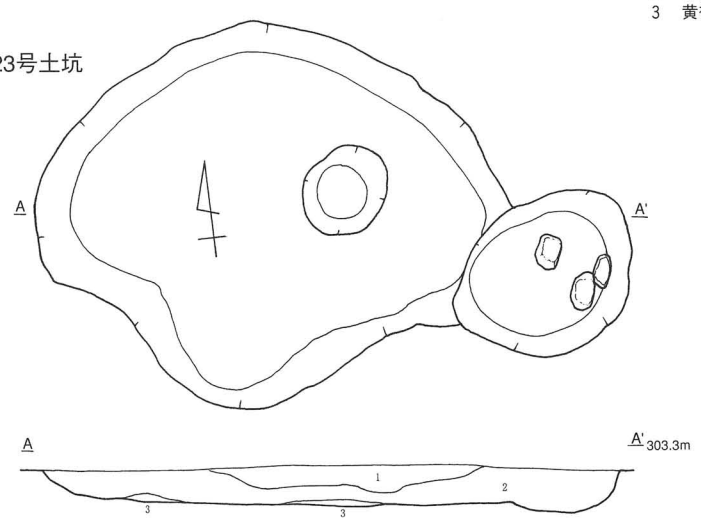
1　黒褐色土（10YR3/2）黒色強い。3層の砂粒を少量含む。土器片。
2　暗褐色土（10YR3/3）3層ブロックを含む。サビ粒。土器片。
3　オリーブ褐色砂質土（2.5Y4/3）地山～地山直上層。

22号土坑



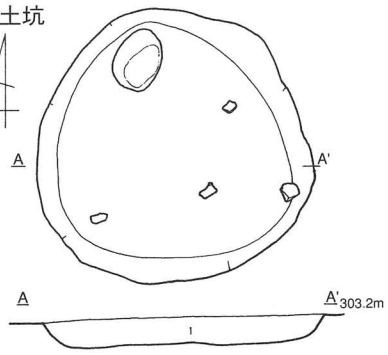
1　黒褐色土（10YR3/2）サビ粒。
2　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）砂層ブロック・砂粒を含む。
3　黄褐色砂質土（2.5Y5/3）地山～地山直上。

23号土坑



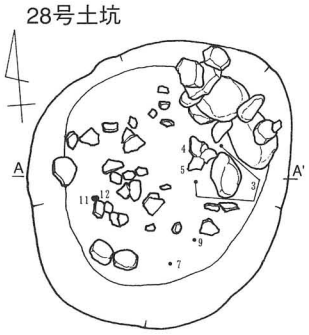
1　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）小礫・砂質ブロック多。サビ粒。
2　黒褐色土（10YR2/2）炭化粒・砂質ブロック・サビ粒。
3　にぶい黄褐色砂（10YR4/3）地山類似。

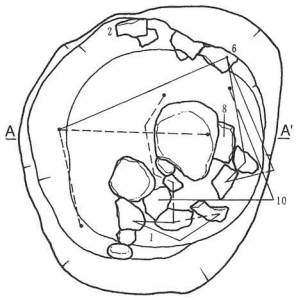
27号土坑

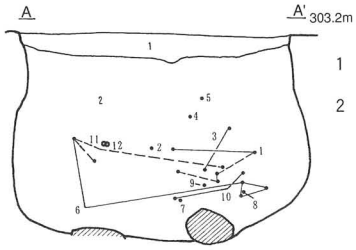


1　黒褐色土（10YR2/2）サビ粒。黒味強い。土器片。

28号土坑

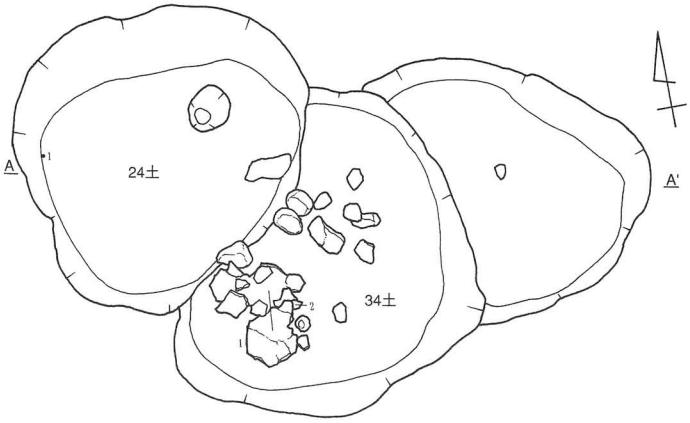


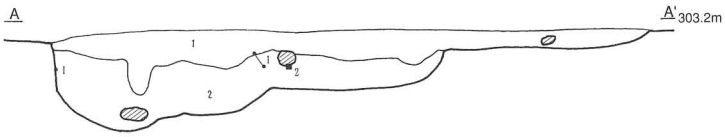




1　黒褐色土（10YR3/2）サビ粒。炭化粒少。
2　黒褐色土（10YR2/2）土器片・礫・炭化物を含む。

24・34号土坑



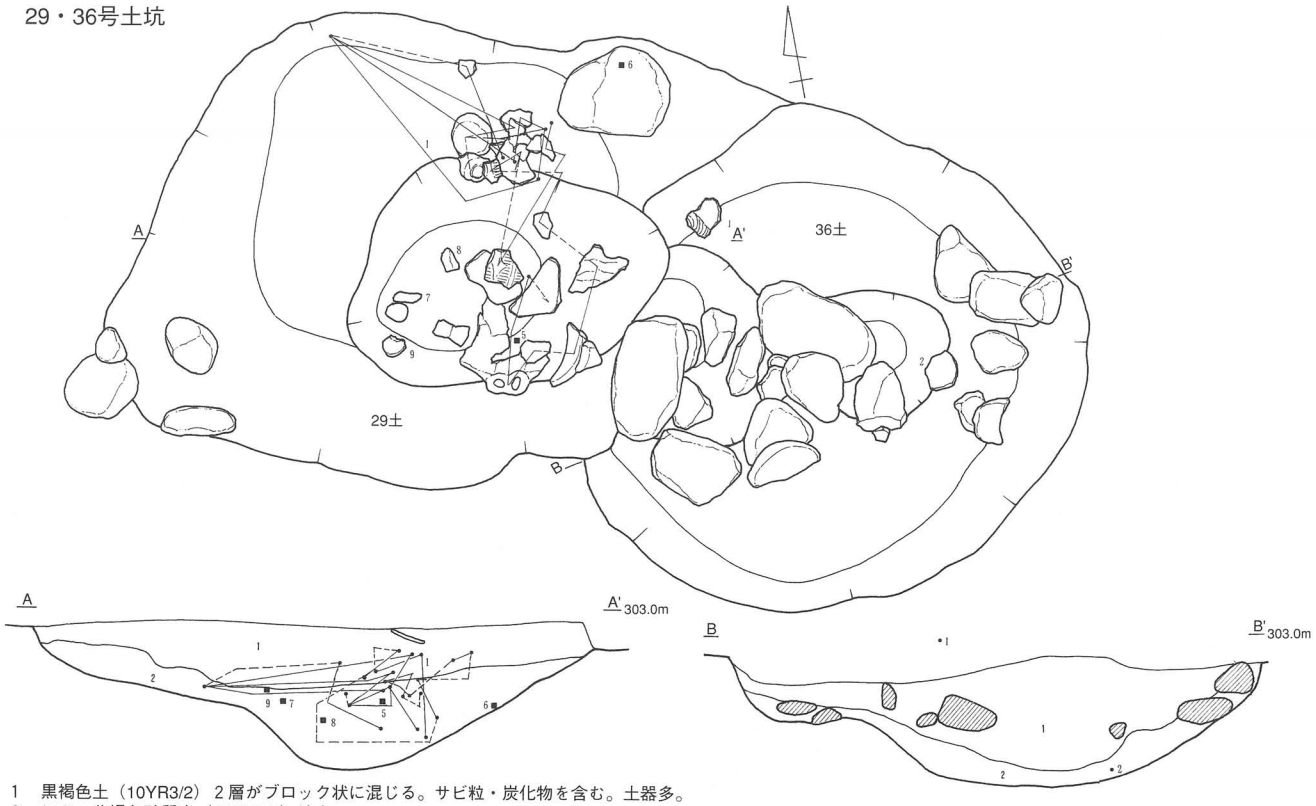


1　黒褐色土（10YR3/2）サビ粒・炭化粒を含む。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黒色小ブロックを含む。サビ粒。

0　(1:30)　1m

第17図　21～24・27・28号土坑

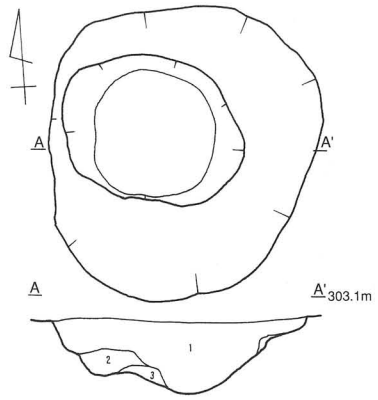
29・36号土坑



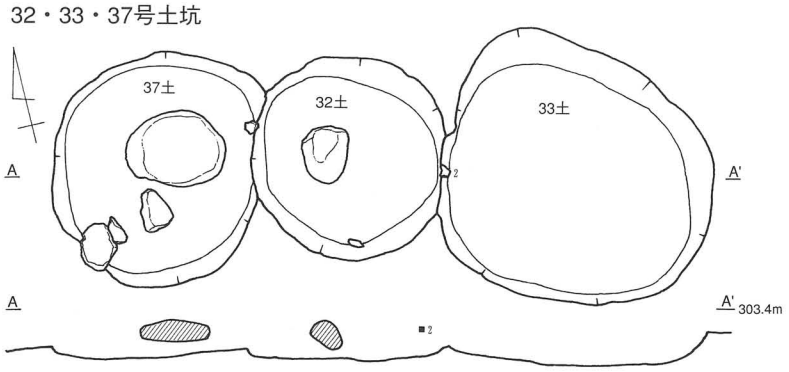
1　黒褐色土（10YR3/2）2層がブロック状に混じる。サビ粒・炭化物を含む。土器多。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）地山。

1　黒褐色土（10YR2/3）炭化粒・サビ粒あり。砂質土の小ブロックあり。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）地山直上。

30号土坑

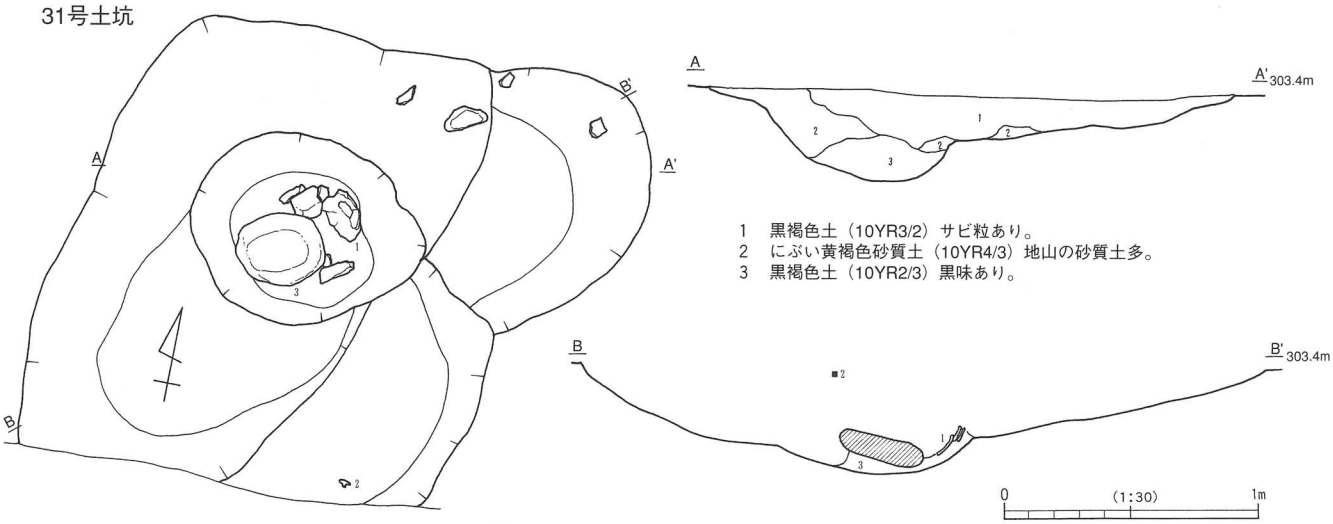


32・33・37号土坑



1　黒褐色土（10YR3/1）炭化粒・サビあり。3層の砂質小ブロックを含む。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）1層と3層の混合土。
3　黄褐色土（10YR5/3）地山。

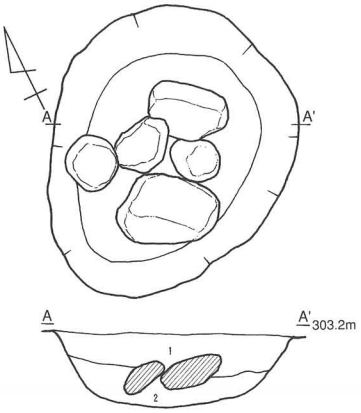
31号土坑



1　黒褐色土（10YR3/2）サビ粒あり。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）地山の砂質土多。
3　黒褐色土（10YR2/3）黒味あり。

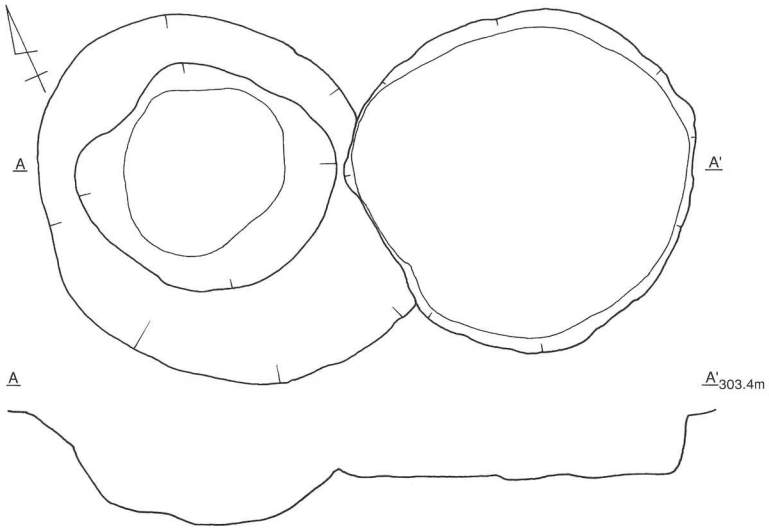
第18図　29～33・36・37号土坑

35号土坑

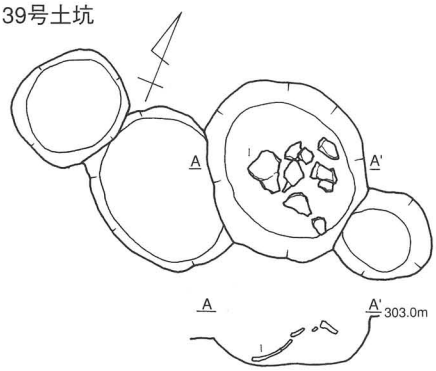


1　黒褐色土（10YR3/2）サビ粒あり。砂質小ブロック少。
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）地山類似の砂質土。礫あり。

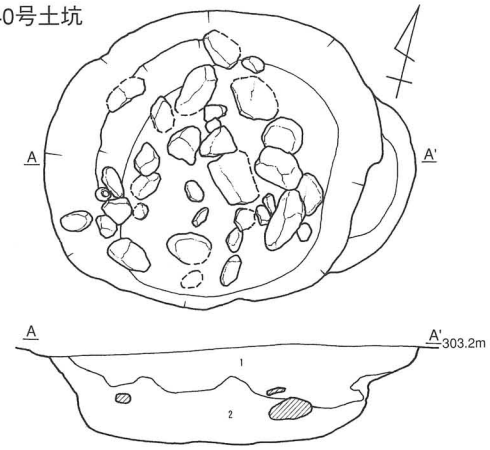
38号土坑



39号土坑



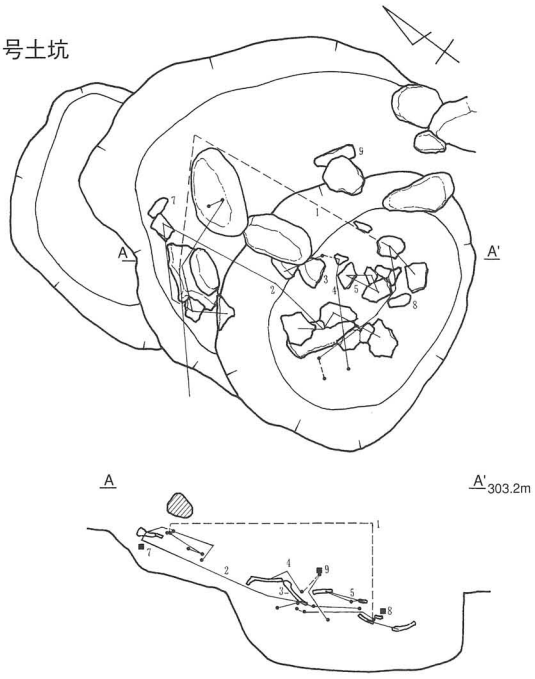
40号土坑



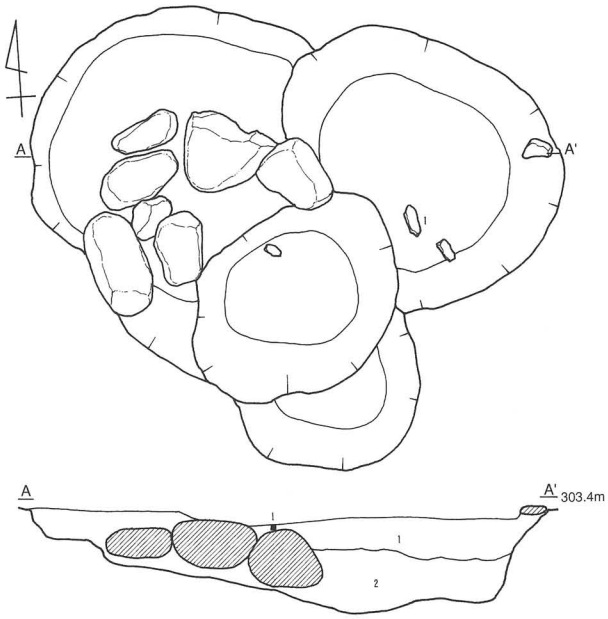
1　暗褐色土十砂質土混合層　サビ粒あり。炭化物を含む。砂質ブロック多。
2　黒褐色土（10YR2/3）炭化物・礫を含む。

0　(1:30)　1m

41号土坑



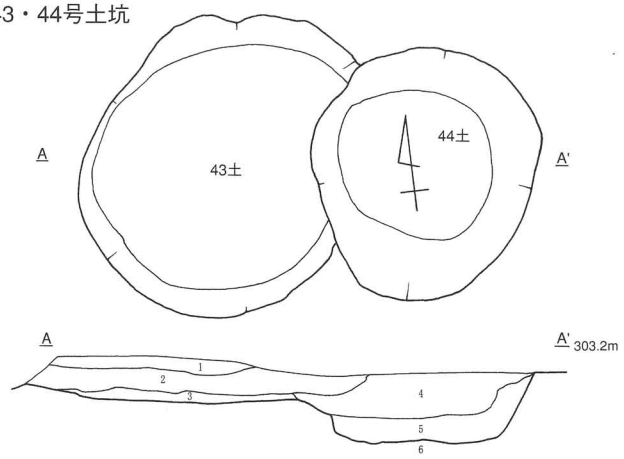
42号土坑



1　暗褐色土（10YR3/3）サビ粒あり。砂質土やや多。
2　黒褐色土（10YR2/3）サビ粒あり。炭化物少。

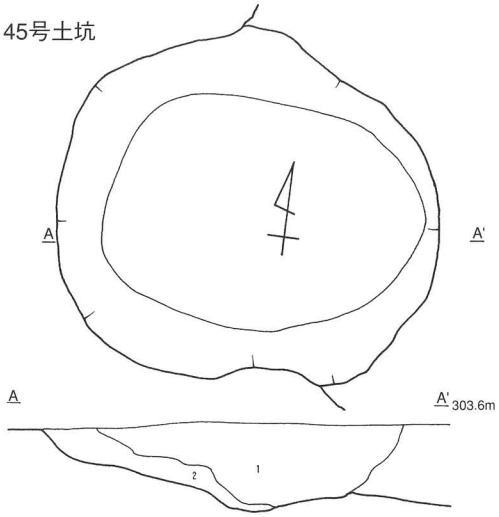
第19図　35・38～42号土坑

43・44号土坑



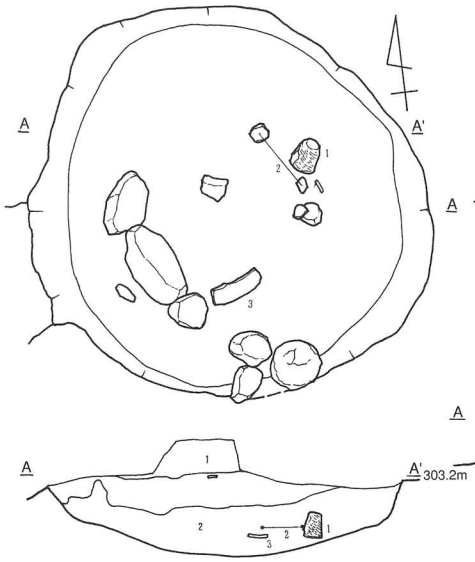
1　灰黄褐色土（10YR4/2）砂質小ブロック少。サビ粒やや多。
2　黒褐色土（10YR2/3）炭化粒少。
3　灰黄褐色土（10YR5/3）地山と2層の混合土。
4　にぶい黄褐色土（10YR4/3）砂質小ブロックを含む。炭化粒あり。
5　黒褐色土（10YR3/2）黒色土・4・6層の混合土。
6　にぶい黄褐色砂（2.5Y5/4）地山。

45号土坑



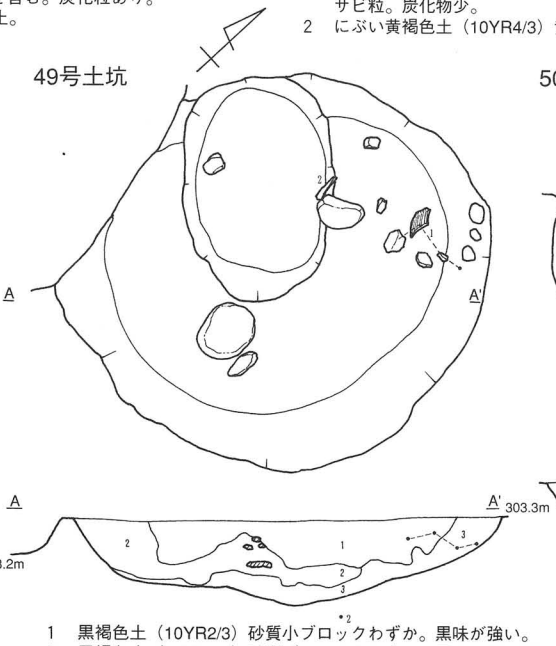
1　暗褐色土（10YR3/3）灰色土ブロック、砂質土ブロックを含む。サビ粒。炭化物少。
2　にぶい黄褐色土（10YR4/3）黄色砂質土主体。地山類似。

48号土坑



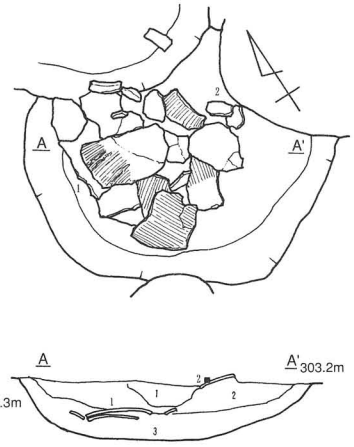
1　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）溝の覆土。
2　黒色土（10YR2/1）礫・砂質小ブロック混じる。炭化粒あり。
3　黒褐色土（10YR3/2）土器片を含む。砂質土多。地山直上層。

49号土坑



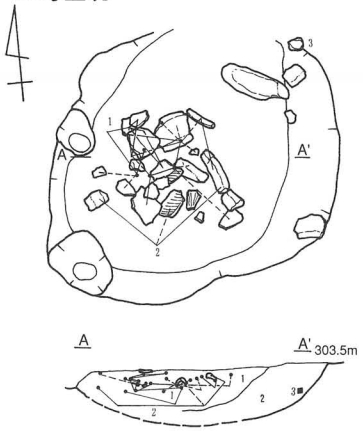
1　黒褐色土（10YR2/3）砂質小ブロックわずか。黒味が強い。
2　黒褐色土（10YR3/2）砂質ブロックやや多。1層と3層の混合層。
3　灰黄褐色土（10YR4/2）地山直上。砂質ブロック・砂質土多。

50号土坑



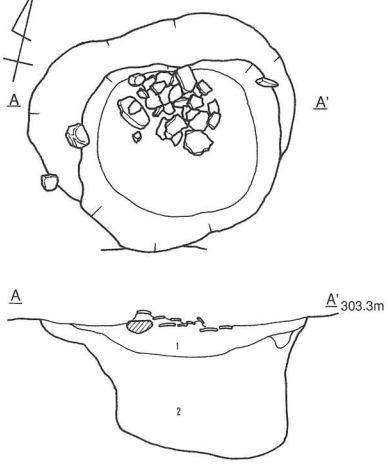
1　黒褐色土（10YR2/2）炭化物あり。土器片多。
2　暗褐色土（10YR3/4）サビ粒多。
3　黒褐色土（10YR3/2）

52号土坑



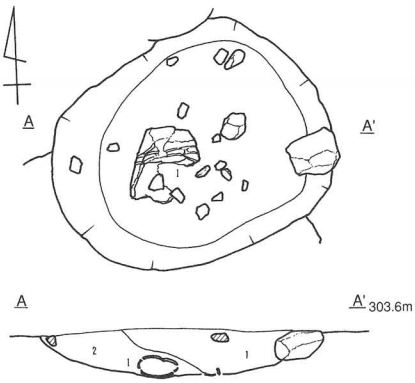
1　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色砂質ブロック多。
2　暗褐色土（10YR3/3）土器片を含む。

53号土坑



1　黒褐色土（10YR2/2）上層に土器片多い。
2　黒褐色土（10YR3/2）1層よりもやや黄灰色がかる。炭化粒少量。黄褐色砂質土を含む。
3　黒色土（10YR2/1）ブロック状。

54号土坑

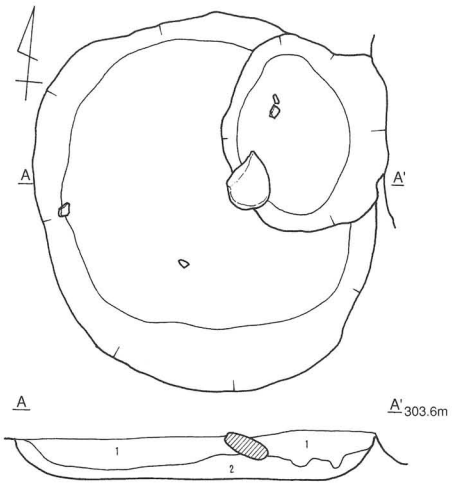


1　暗褐色土（10YR3/4）黒味あり。土器片・砂質小ブロック混じる。
2　褐色砂質土（10YR4/4）サビ粒あり。黄褐色砂質土主体。

0　(1:30)　1m

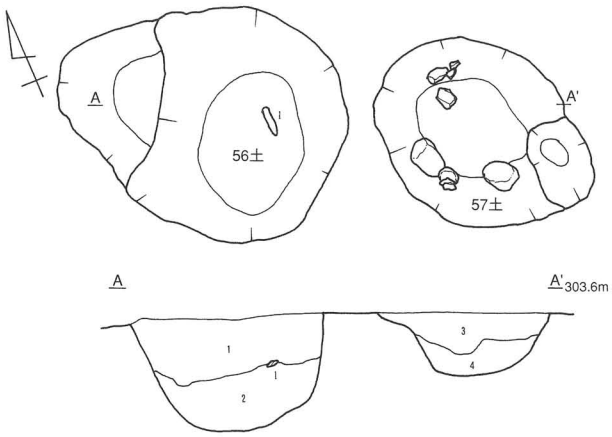
第20図　43～45・48～50・52～54号土坑

55号土坑



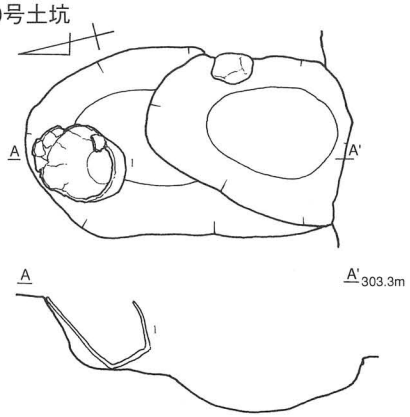
1　暗褐色土（10YR3/3）サビ粒あり。炭化粒あり。
2　にぶい黄褐色土（10YR4/3）砂質土ブロック多。地山直上。

56・57号土坑

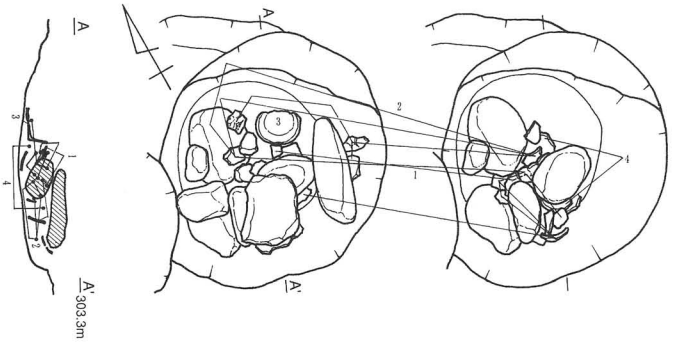


1　にぶい黄褐色土（10YR4/3）砂質土主体。炭化物多。
2　黒褐色土（10YR3/2）サビ粒あり。砂質ブロック・黒色土ブロックを含む。黒味あり。
3　にぶい黄褐色土（10YR4/3）炭化物少。
4　暗褐色砂質土（10YR3/3）炭化物少。

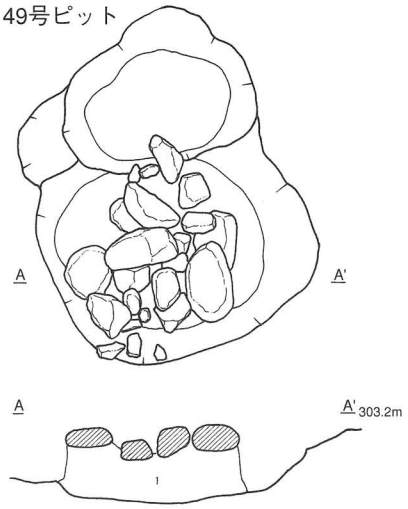
59号土坑



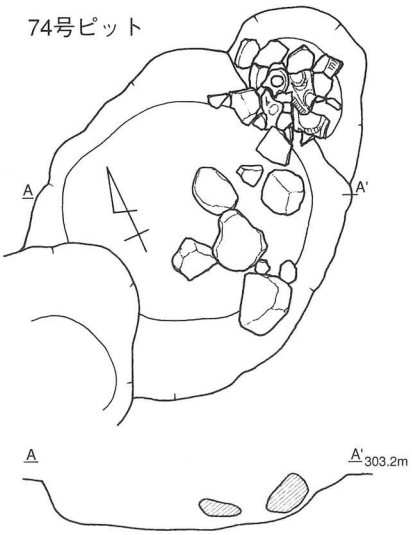
58号土坑



49号ピット



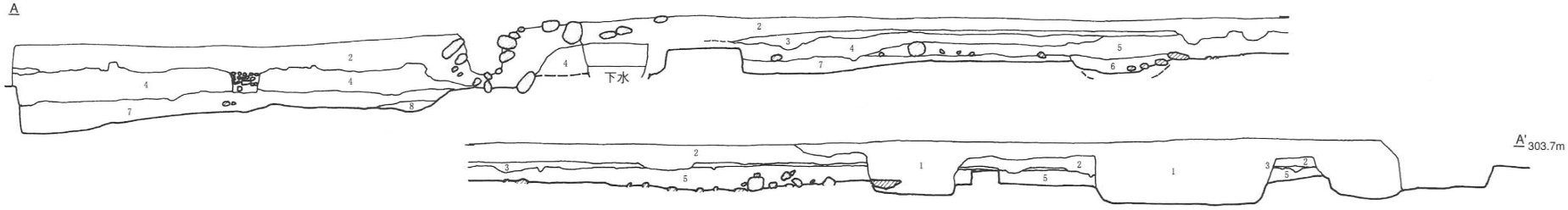
74号ピット



0　(1:30)　1m

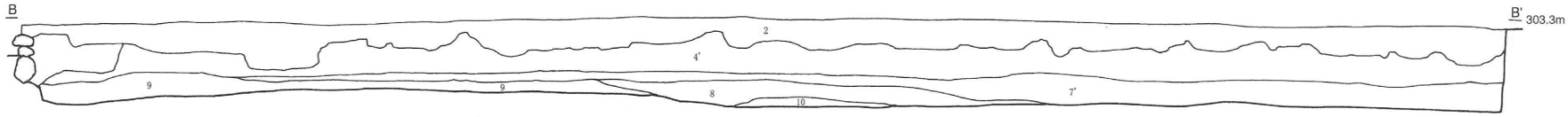
第21図　55～59号土坑、49・74号ピット

西壁（北側）断面



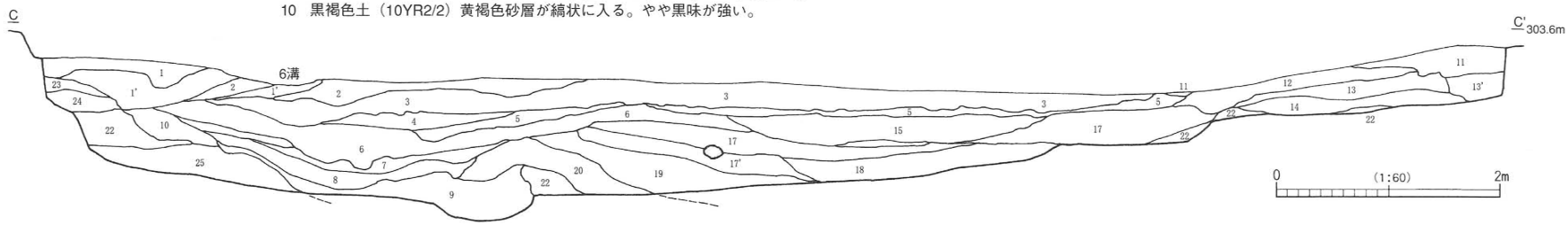
1　灰黄褐色礫混合土（10YR4/2）旧共選所の基礎。
2　灰黄褐色土（10YR4/2）旧耕作土。炭化物。
3　褐色土（10YR4/6）酸化層。旧水田面か。
4　黒褐色土（10YR3/1）灰色味が強い。谷の覆土。炭化物・土器片（須恵器・灰釉陶器）。
5　黒褐色土（10YR2/2）小礫・黄褐色小ブロック混じる。縄文の包含層。
6　黒褐色土（10YR2/3）土坑状の落込み。黒味が強い。
7　黒褐色土（10YR2/2）黄褐色砂層が縞状に部分的に入る。炭化物を含む。粘性あり。

西壁（南側）断面



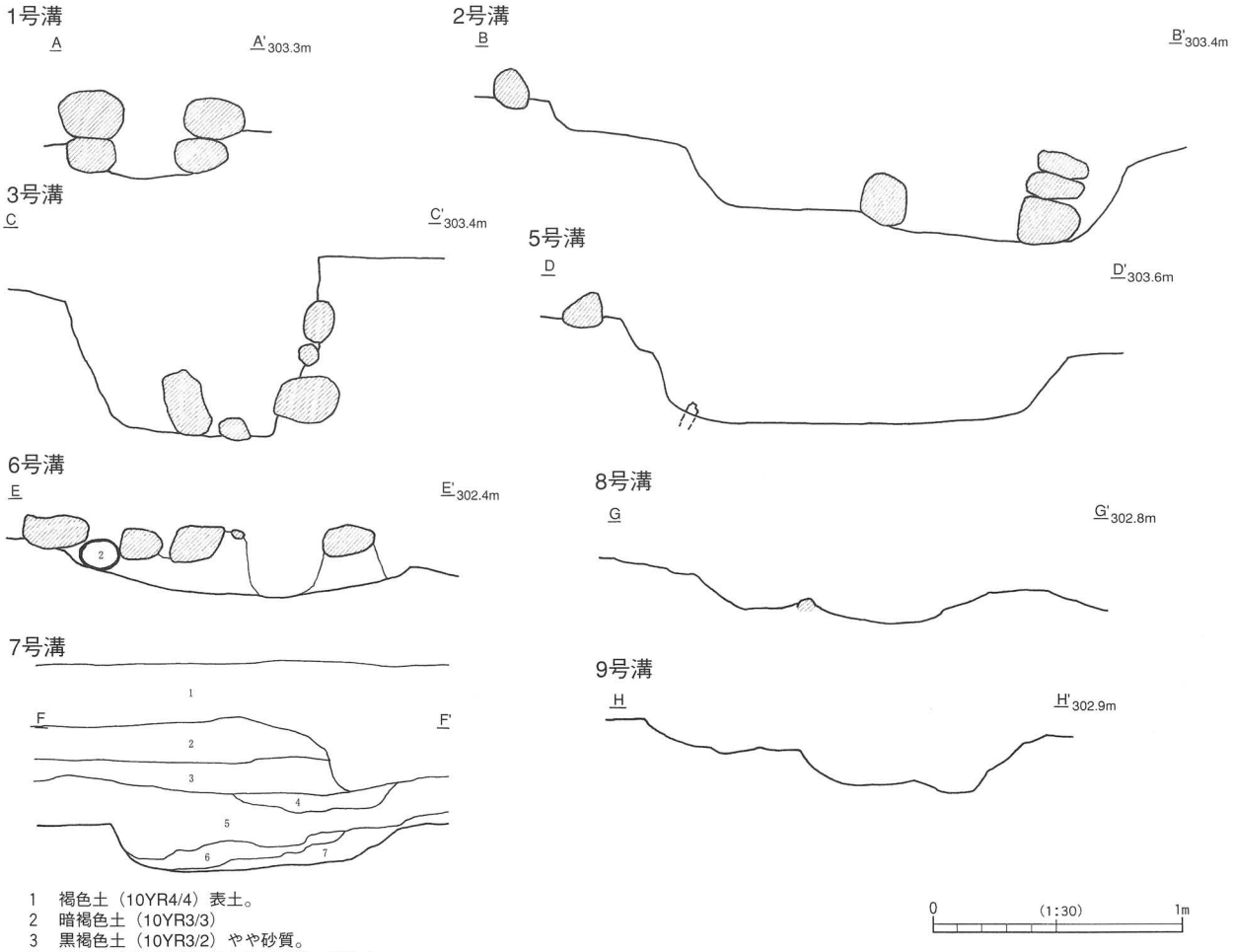
2　にぶい黄褐色土（10YR4/3）耕作土。やや粗。
4'　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）白色砂質ブロック多。炭化物多。サビ粒あり。
7'　黒褐色土（10YR2/2）砂層が縞状に入る。土器片（須恵器・灰釉陶器など）を含む。やや粘性あり。
8　黒褐色土（10YR3/1）土器片・礫・炭化物を含む。
9　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）炭化物を含む。サビ粒あり。やや黄味あり。
10　黒褐色土（10YR2/2）黄褐色砂層が縞状に入る。やや黒味が強い。

埋没谷トレンチ断面



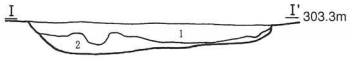
1　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）縞状の砂層が入る。炭化物・雲母を含む。サビ粒あり。
1'　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）灰褐色砂層主体。礫・雲母を含む。サビ粒あり。
2　黒色土（10YR2/1）雲母を含む。粘性あり。
3　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）黄褐色砂と黒色砂質土の縞。
4　褐灰色砂質土（10YR4/1）雲母多量。
5　黒褐色土（10YR3/2）植物根。
6　黒褐色土十黄褐色砂質土の混合土（10YR3/2）黒味が強いが、15層より灰色味がある。
7　黒褐色土（10YR3/2）5層に近い。
8　褐灰色砂質土（10YR5/1）砂層主体。サビ粒あり。
9　黒褐色土（10YR3/2）砂層が薄く縞状に入る。
10　褐灰色砂質土（2.5Y4/1）サビ粒あり。
11　灰黄褐色土（10YR4/2）炭化物を含む。サビ粒あり。黄色味がある。
12　灰黄褐色土（10YR4/2）黄褐色砂質土混じる。炭化物を含む。
13　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色砂質ブロック多。サビ粒あり。
25　黒褐色土（10YR2/2）細粒子。灰色味がある。粘性あり。
13'　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）13層よりブロックが少ない。
14　黒褐色砂質土（10YR3/1）黄褐色砂質ブロックが入る。黒味あり。
15　黒褐色土（10YR2/2）黄褐色砂層が縞状に入る。
16　にぶい黄橙色砂質土（10YR6/3）18層より礫が少ない。サビ粒あり。
17　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黒色土と砂質土の混合土。サビ粒あり。
18　にぶい黄褐色礫層　0.5～4cm大の礫を多量に含む。縄文土器・土師器が混じる。
19　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/2）黒色土が縞状に入る。
20'　黒褐色砂質土（10YR2/2）19層の続き。黒味が強い。サビ粒あり。
21　褐灰色砂質土（10YR4/1）灰色味が強い。
22　灰オリーブ砂質土層（5Y5/2）粗い砂が混じる。サビ粒あり。
23　灰オリーブ砂質土（5Y5/2）2層より細かい。サビ粒あり。
24　黒褐色土（10YR2/2）サビ粒あり。
25　黒褐色土（10YR2/2）細粒子。灰色味がある。粘性あり。

第22図　西壁（北側・南側）断面、埋没谷トレンチ断面



1　褐色土（10YR4/4）表土。
2　暗褐色土（10YR3/3）
3　黒褐色土（10YR3/2）やや砂質。
4　黒色土（10YR2/1）やや粘りの強い黒色土。
5　黒褐色砂質土（10YR2/2）
6　黒褐色砂質土（10YR3/2）5層と黄褐色砂層の混合。
7　灰黄褐色砂質土（10YR5/2）地山の砂質土に近い。黒色土が混じる。

10号溝

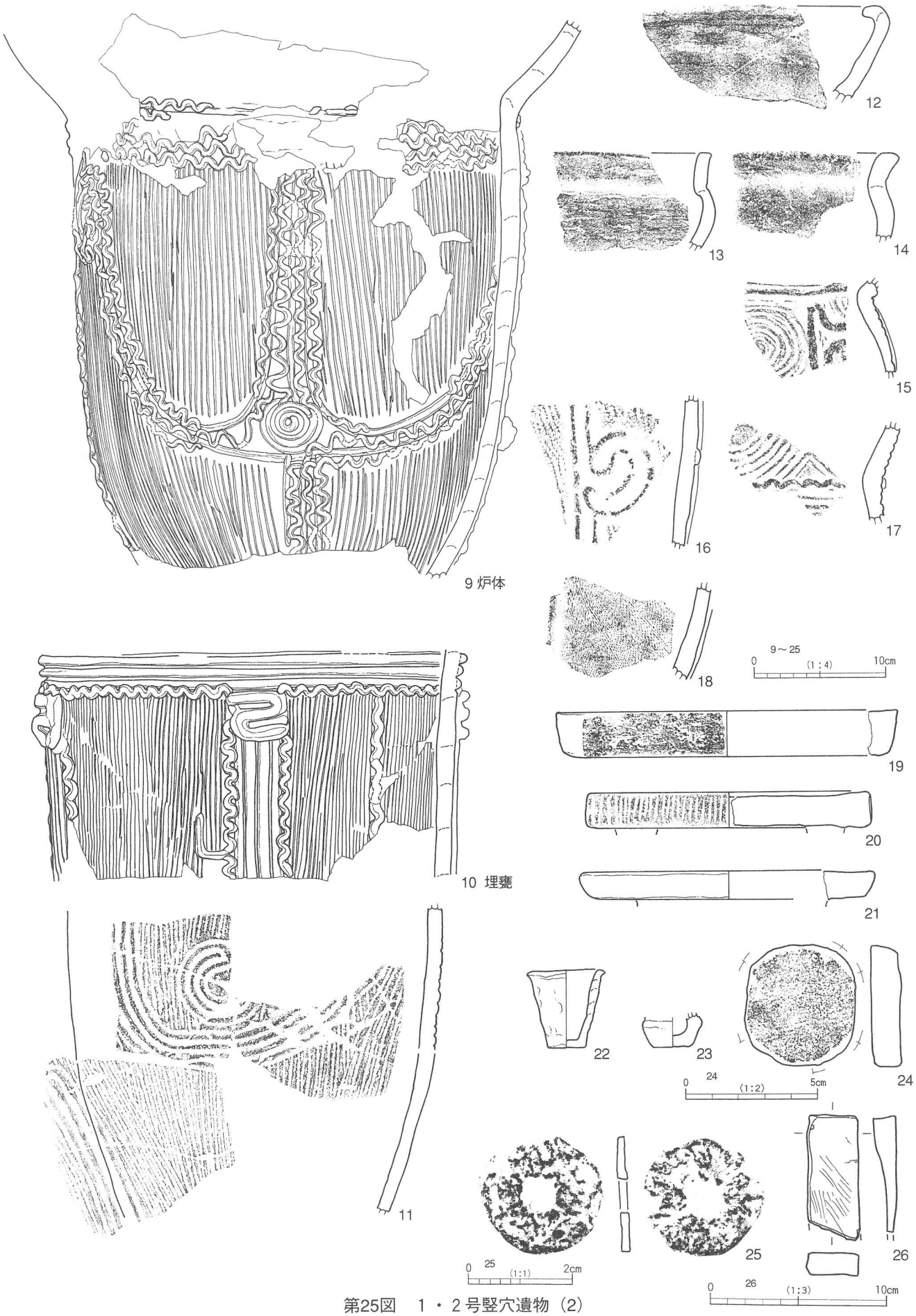


1　黒褐色土（10YR2/3）粘性強い。黒味強い。
2　黄褐色砂質土（2.5Y5/3）地山。

第23図　溝断面

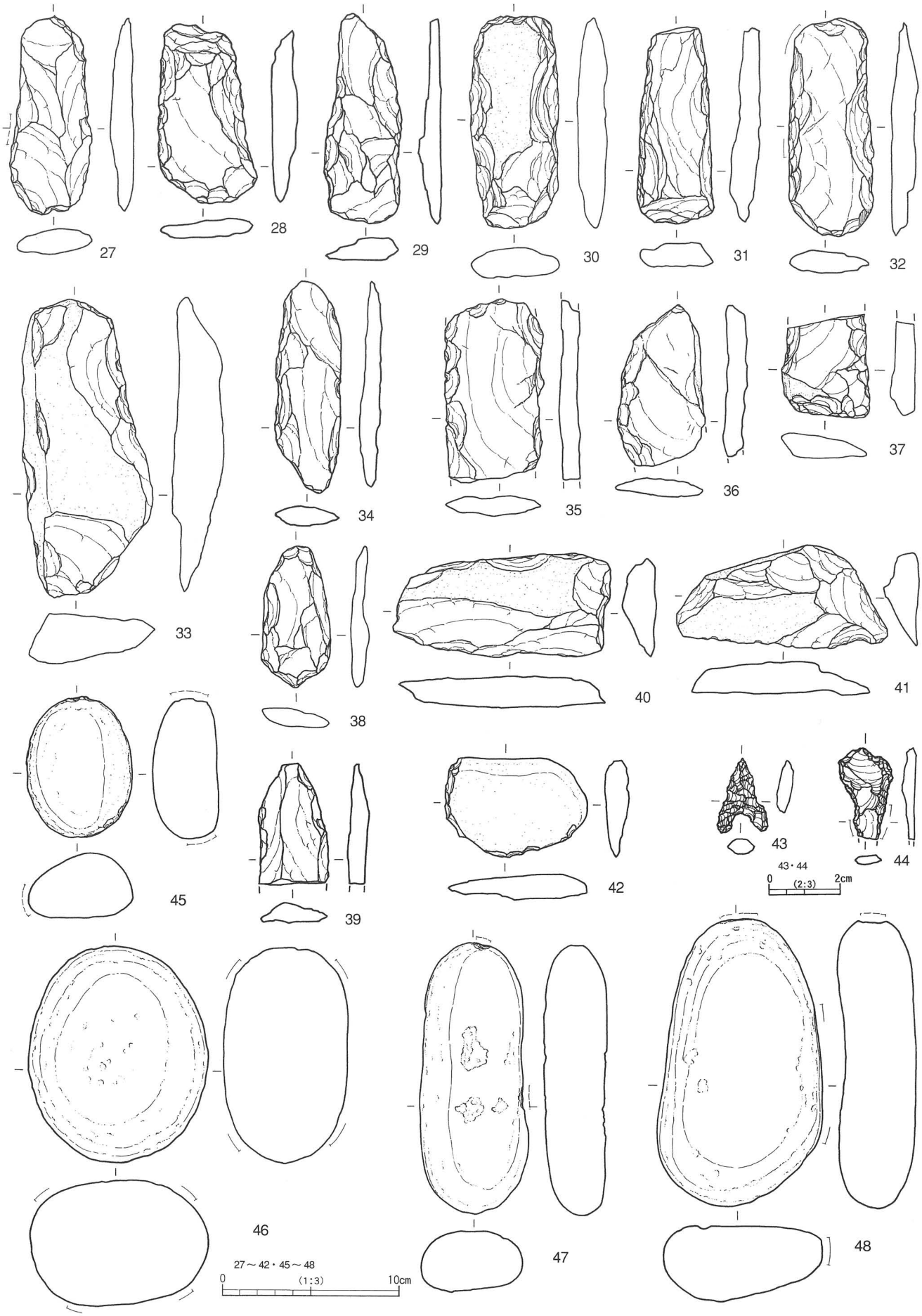
1・2号竪穴

第24図　1・2号竪穴遺物（1）



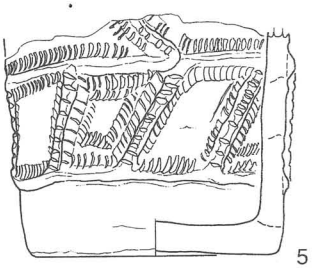
第25図　1・2号竪穴遺物（2）

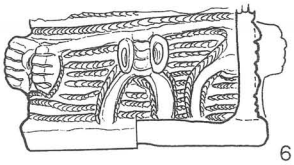
1・2号竪穴

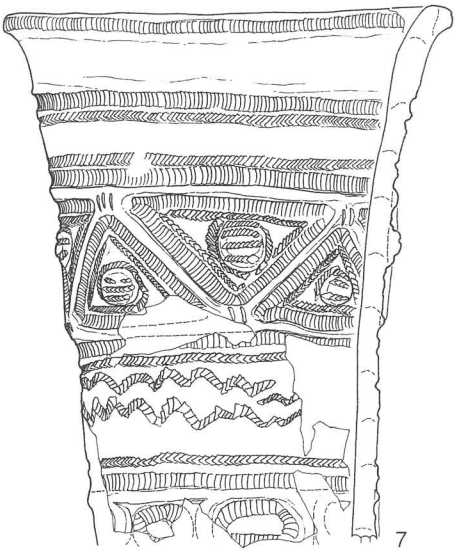


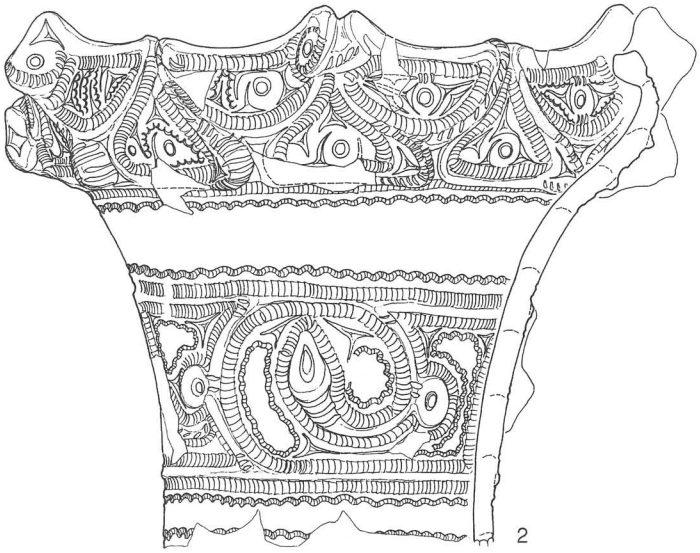
第26図　1・2号竪穴遺物（3）

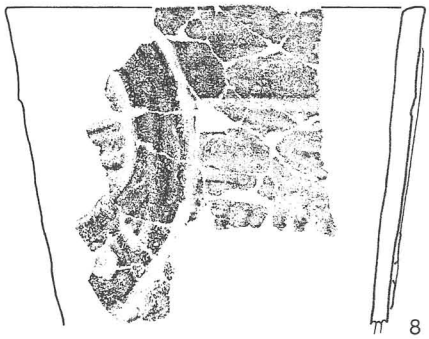
4号竪穴

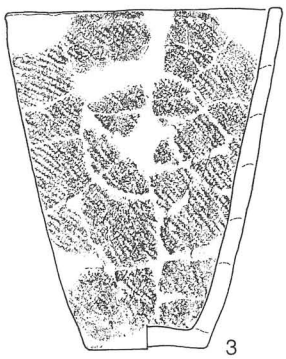


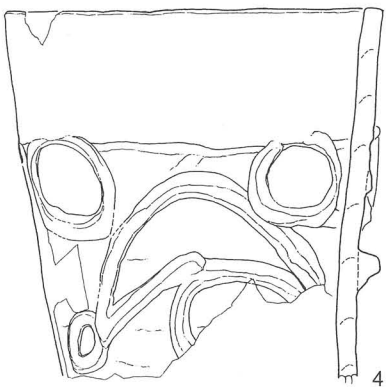


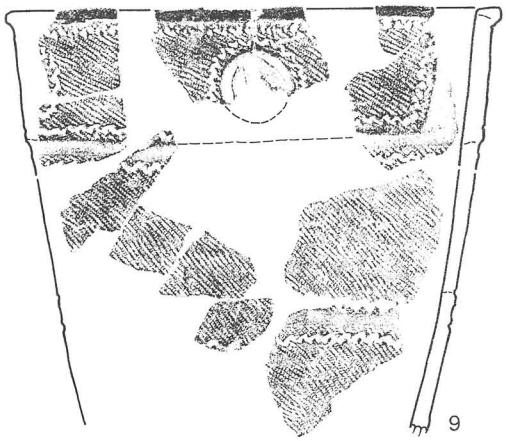






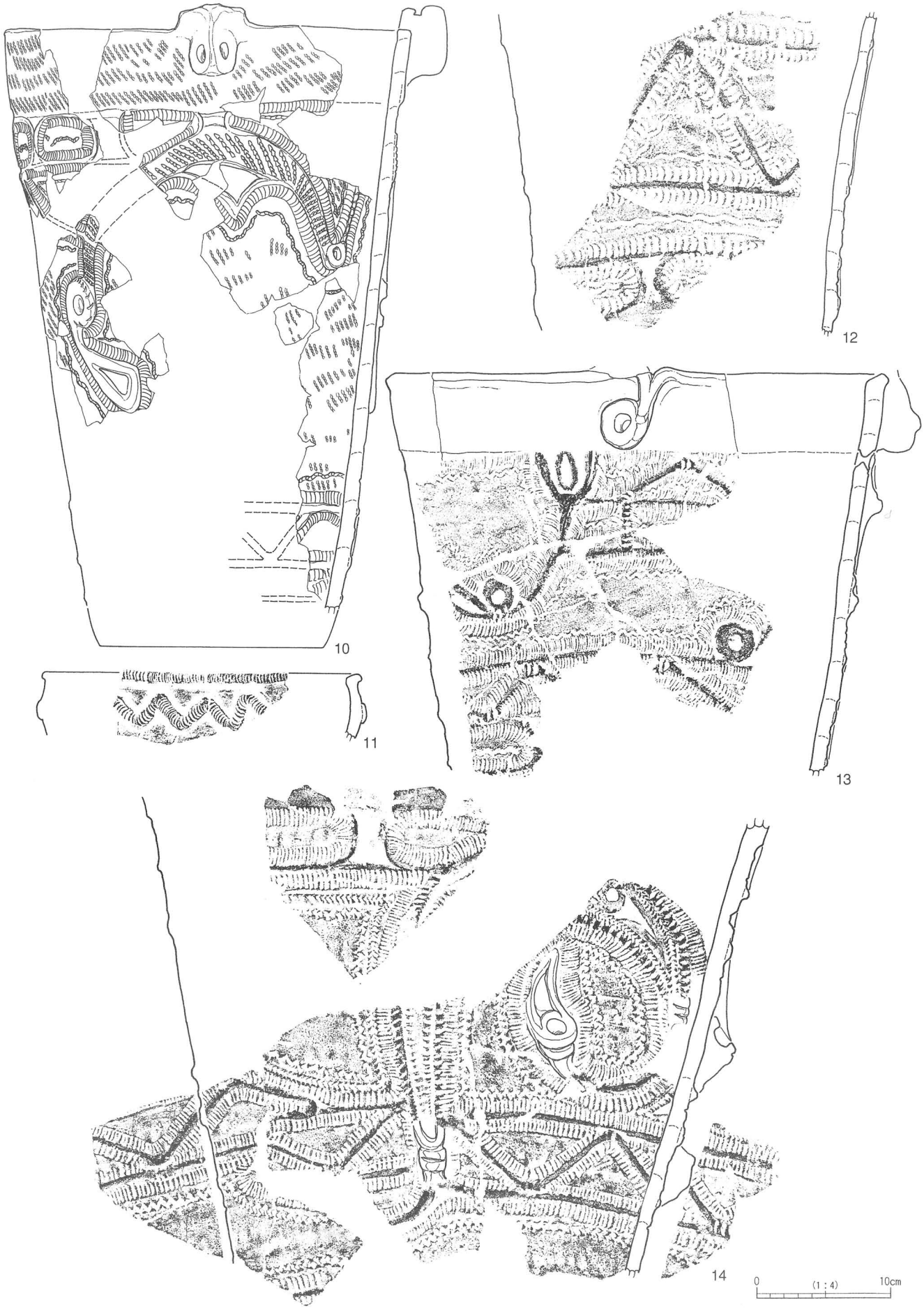




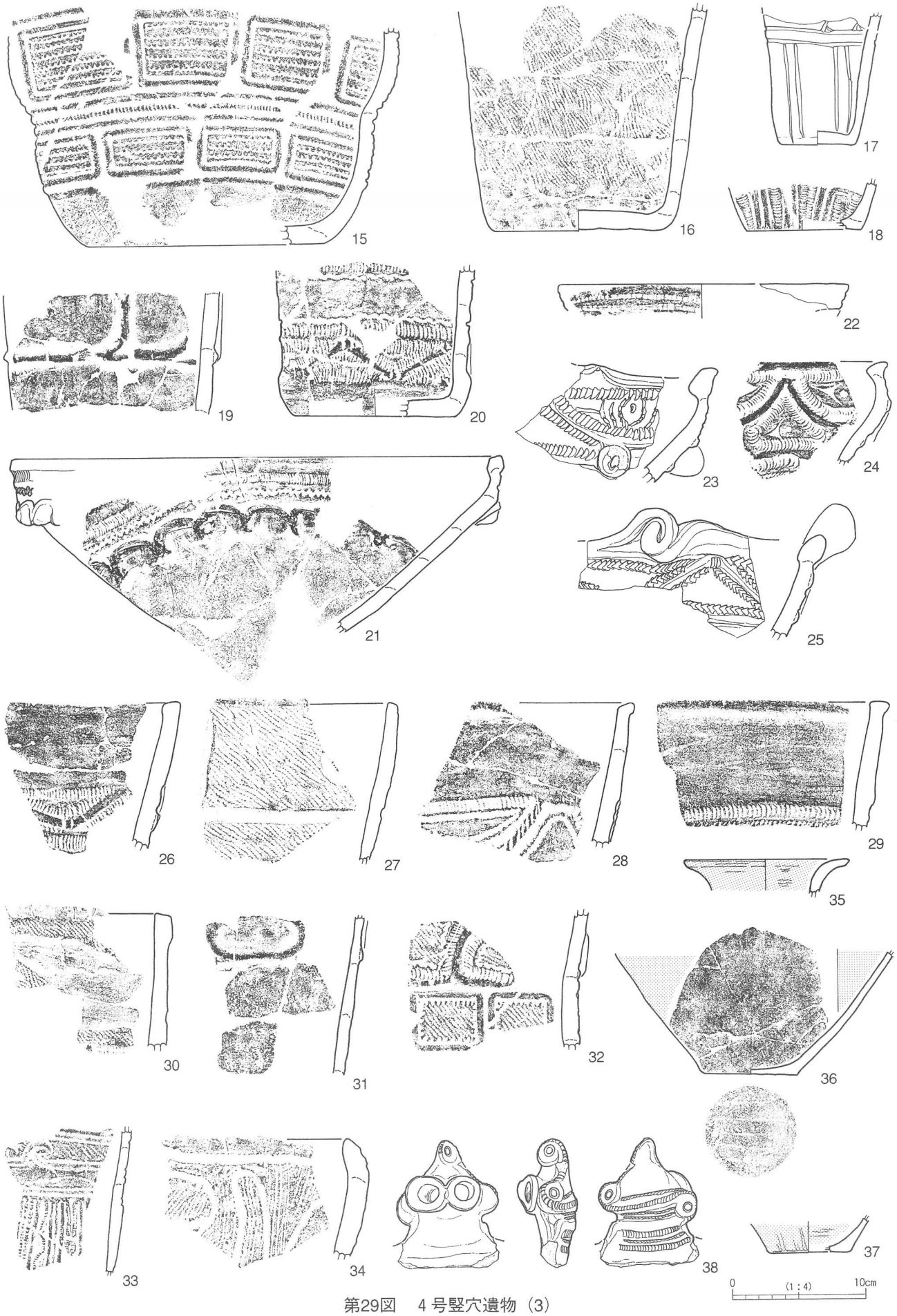


0 (1：4) 10cm

第27図　4号竪穴遺物（1）

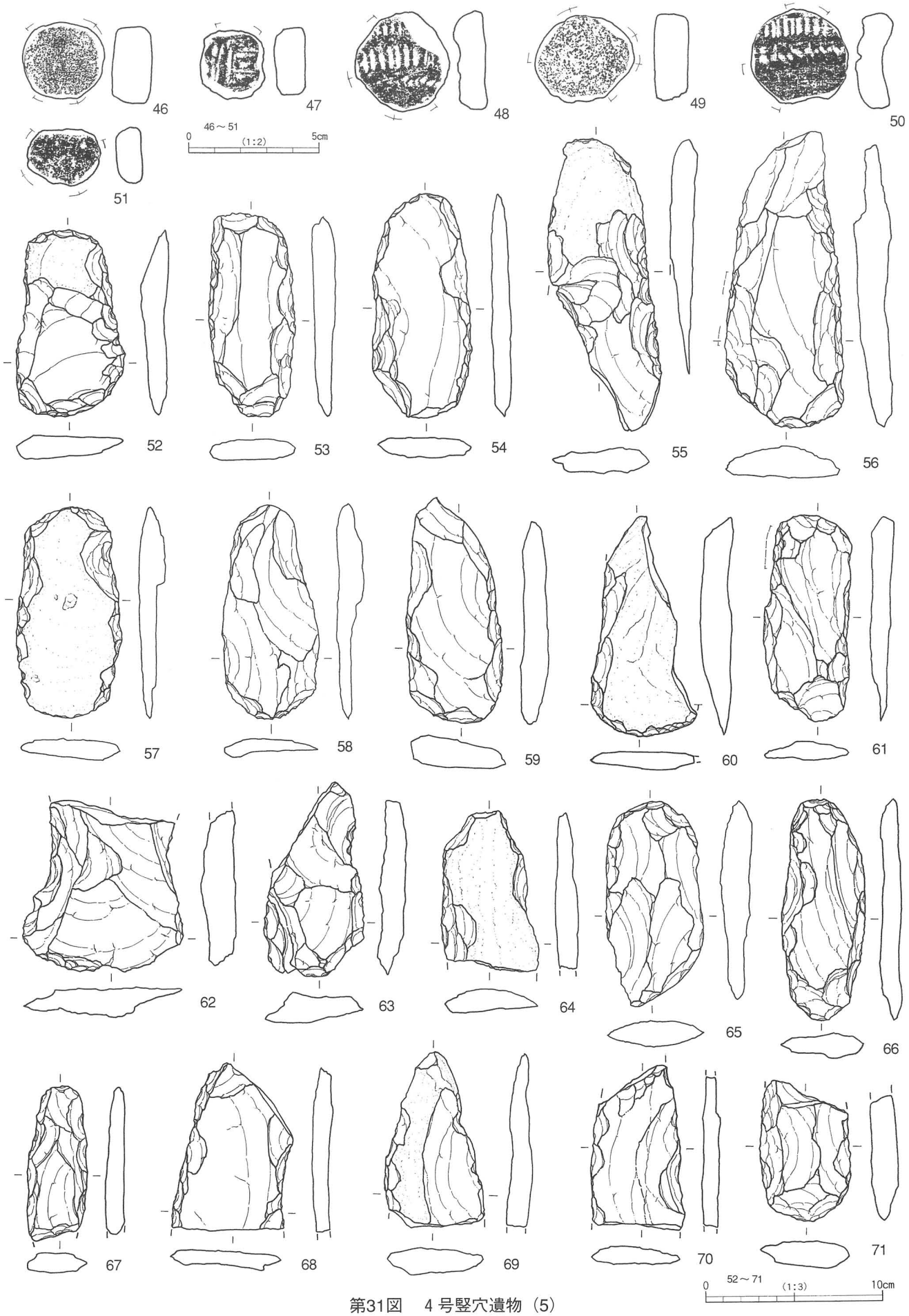


第28図　4号竪穴遺物（2）

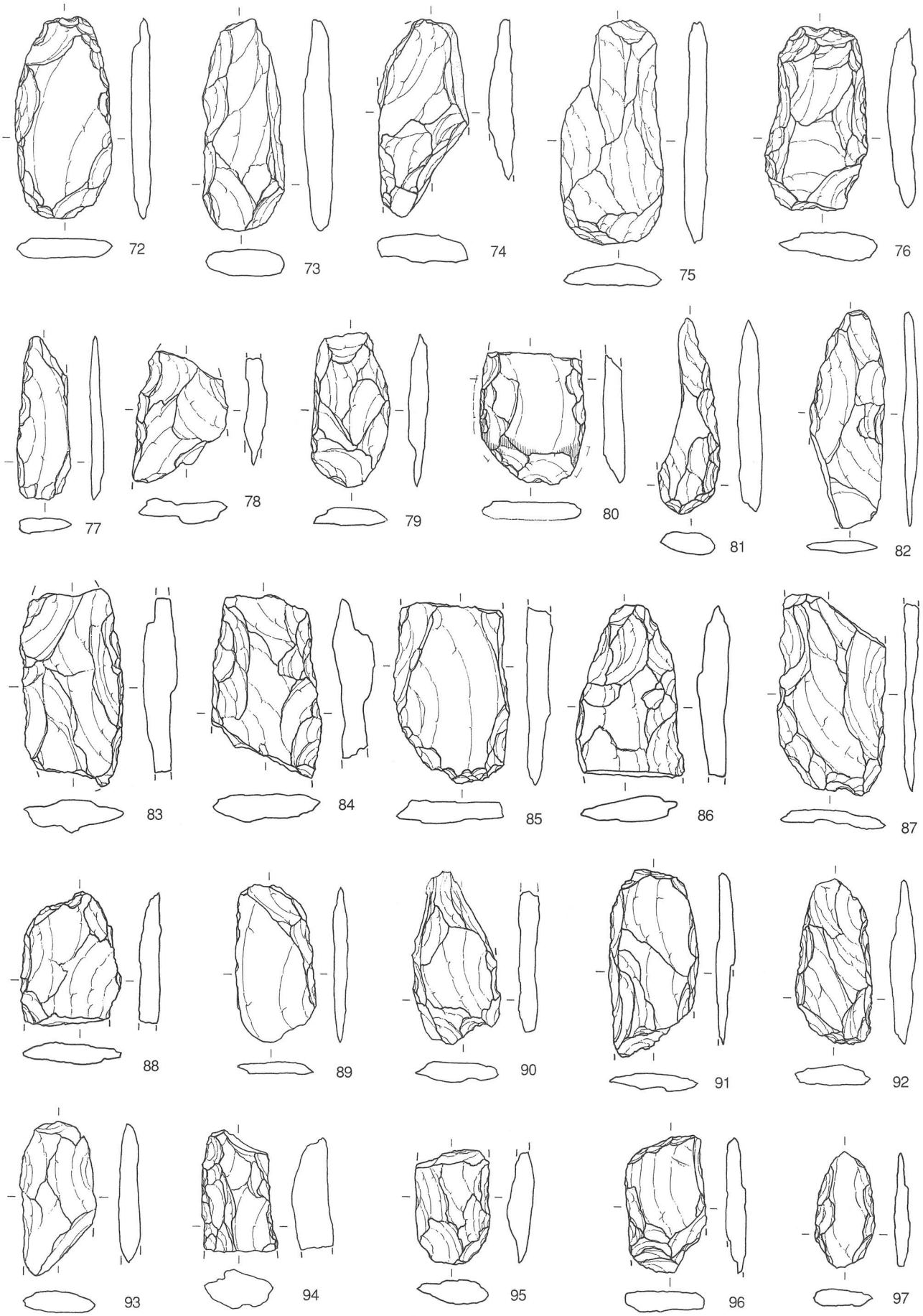


第29図　4号竪穴遺物（3）

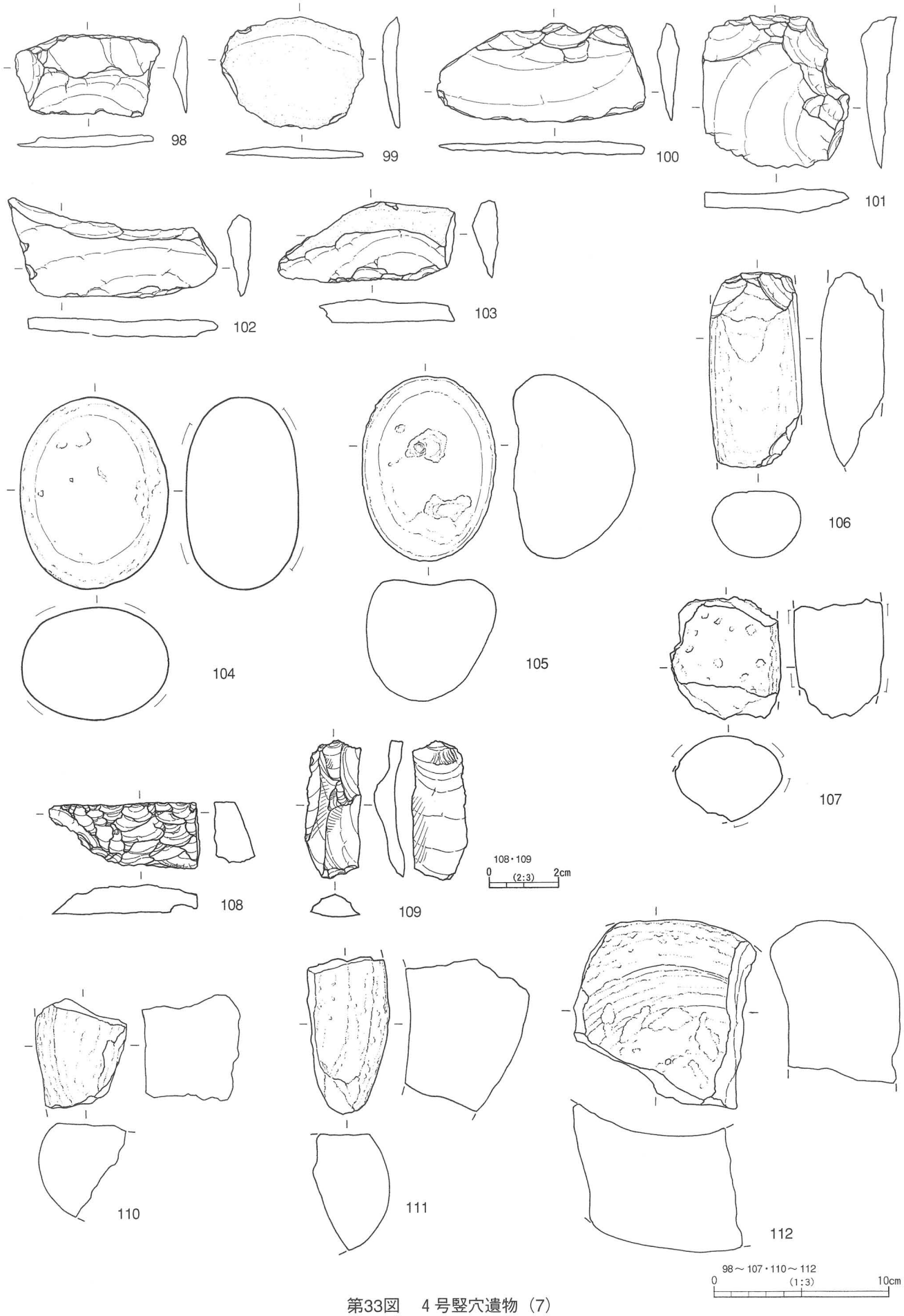
第30図　4号竪穴遺物（4）



第31図　4号竪穴遺物（5）

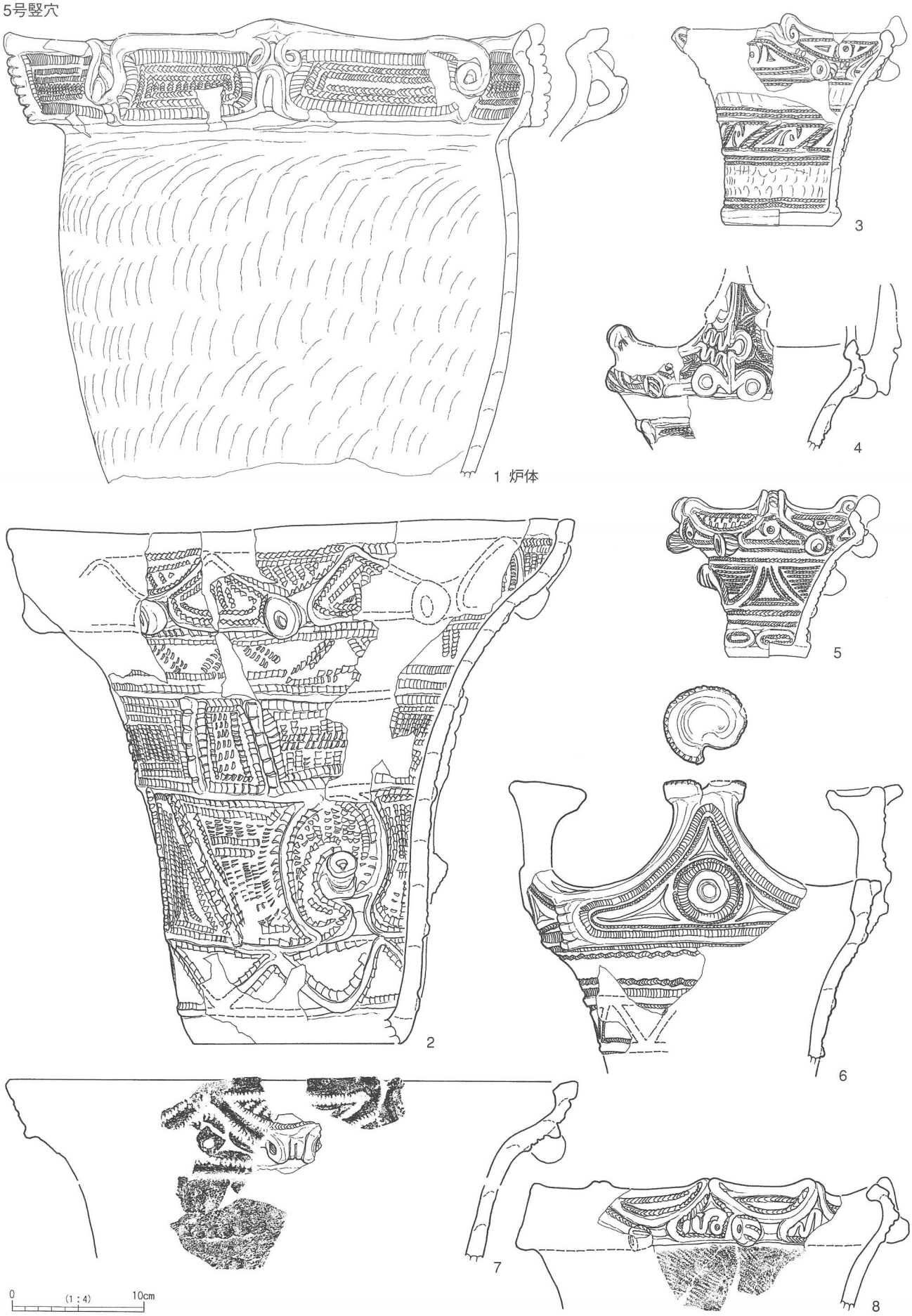


第32図　4号竪穴遺物（6）

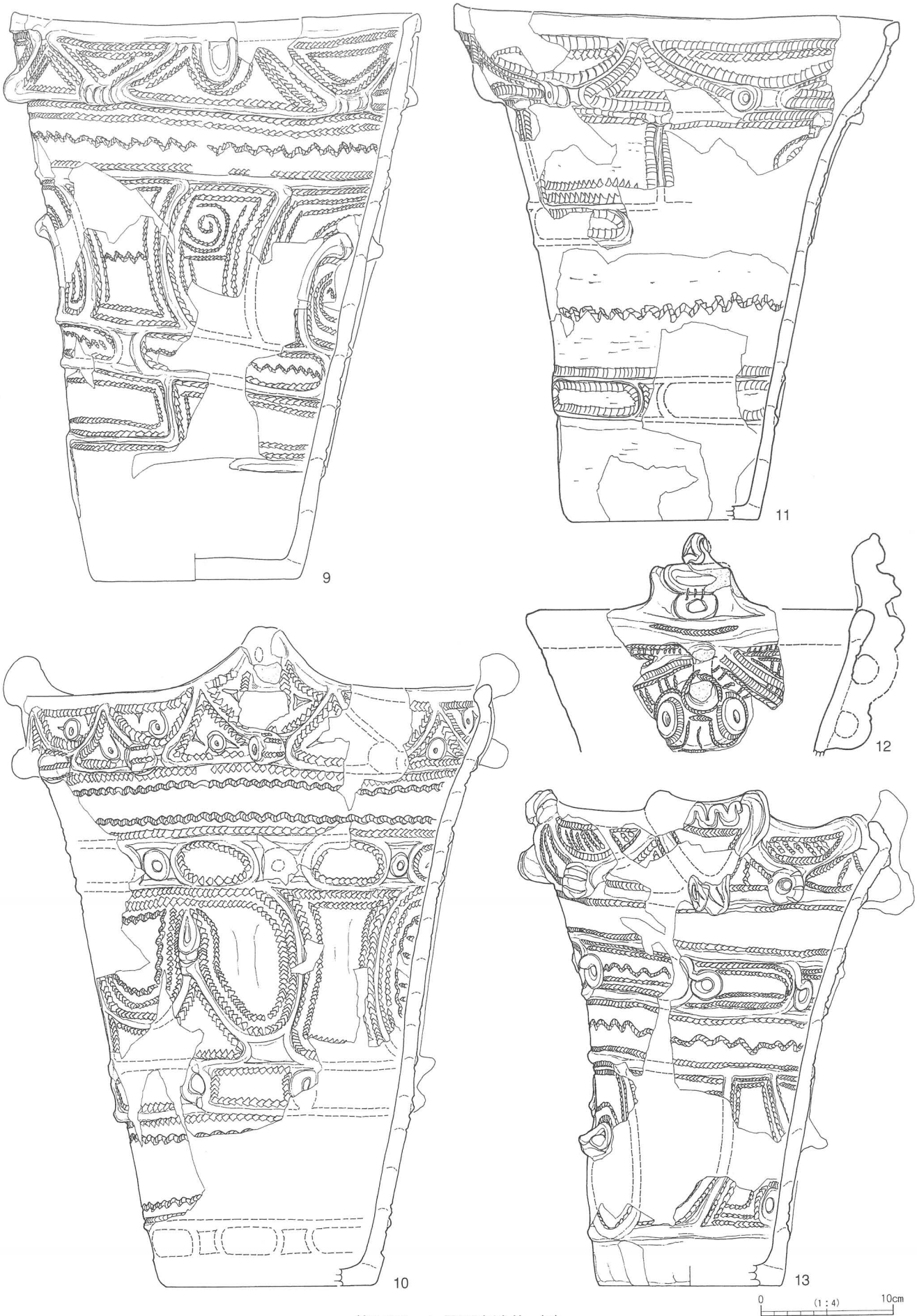


第33図　4号竪穴遺物（7）

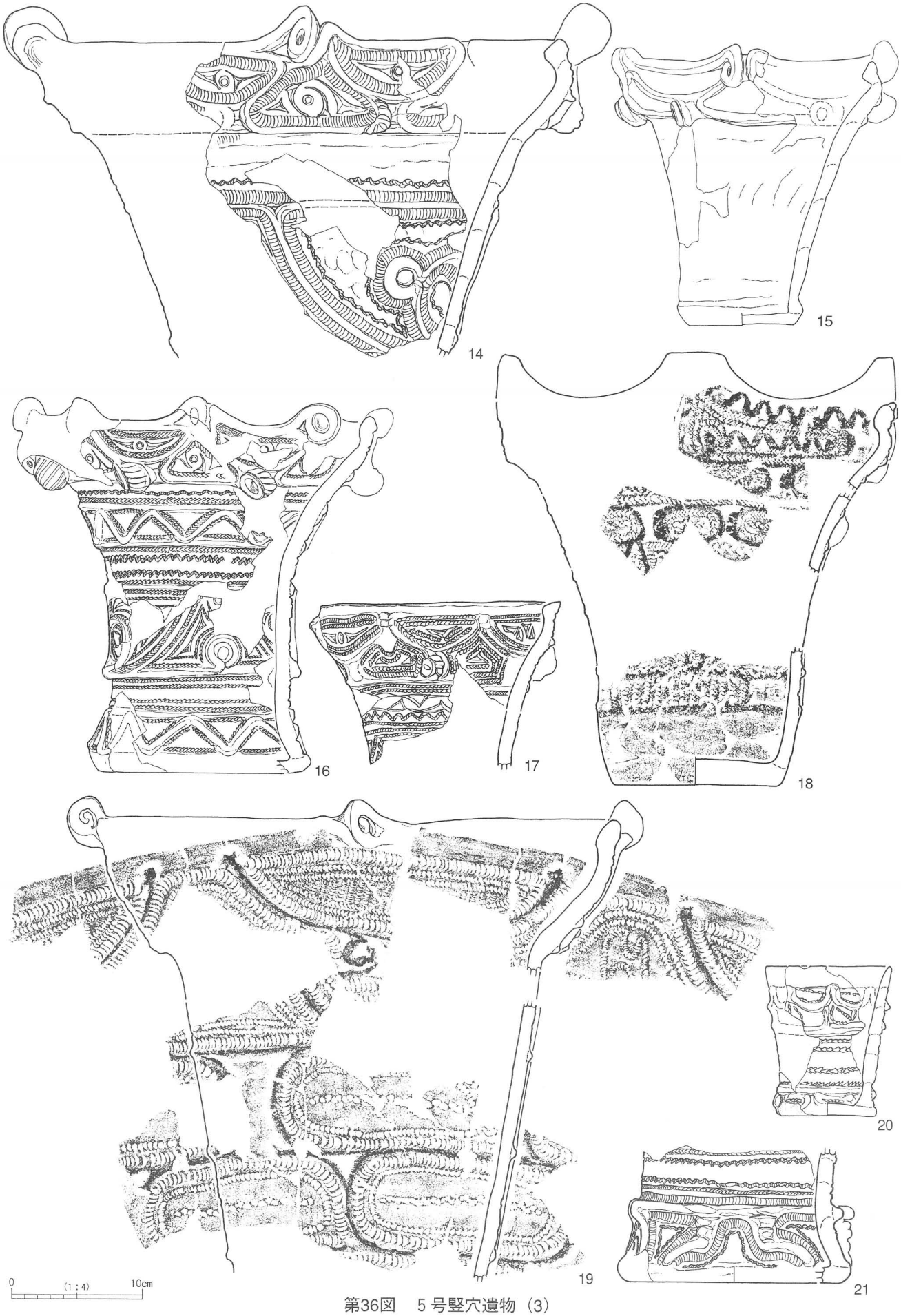
5号竪穴



第34図　5号竪穴遺物（1）

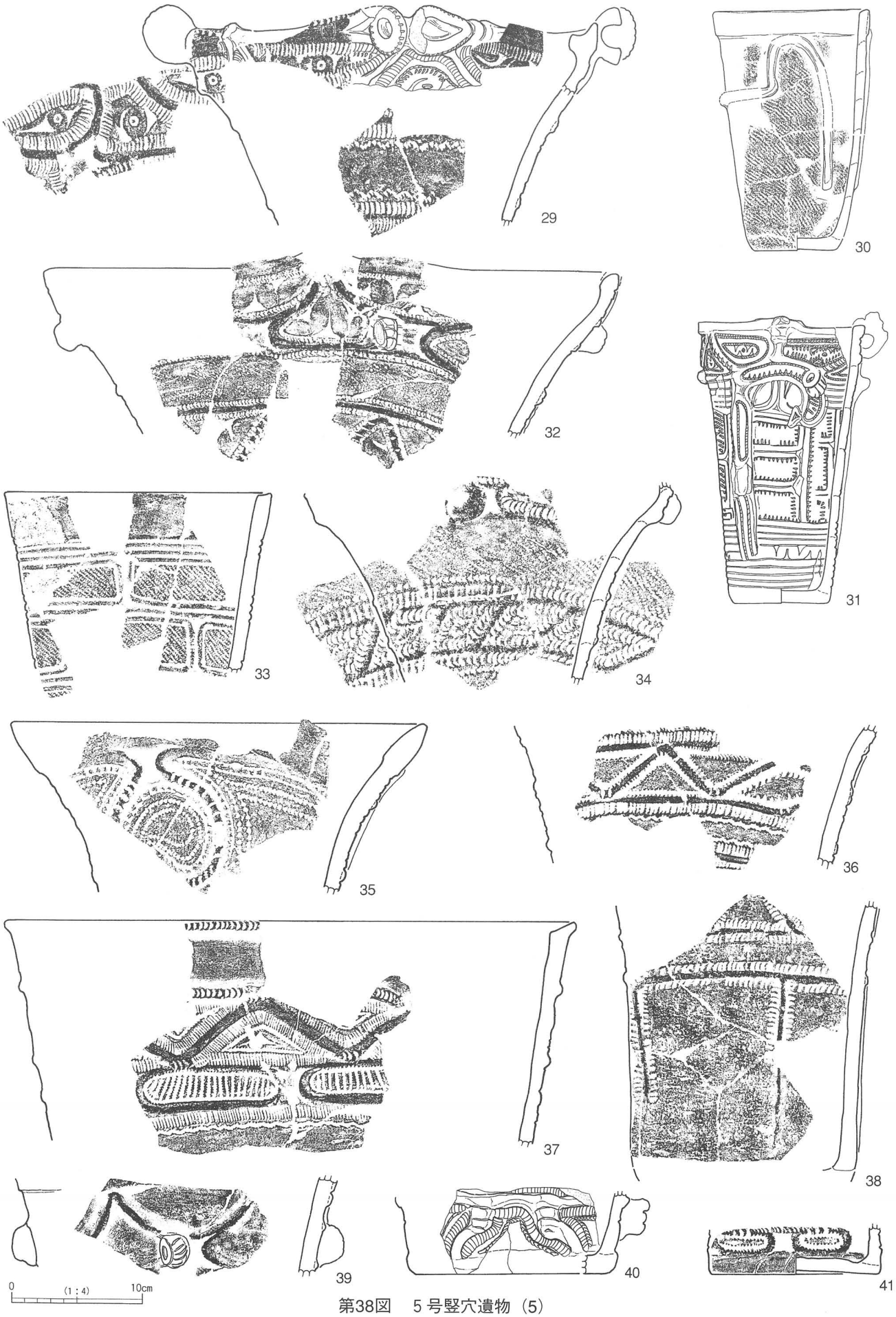


第35図　5号竪穴遺物（2）

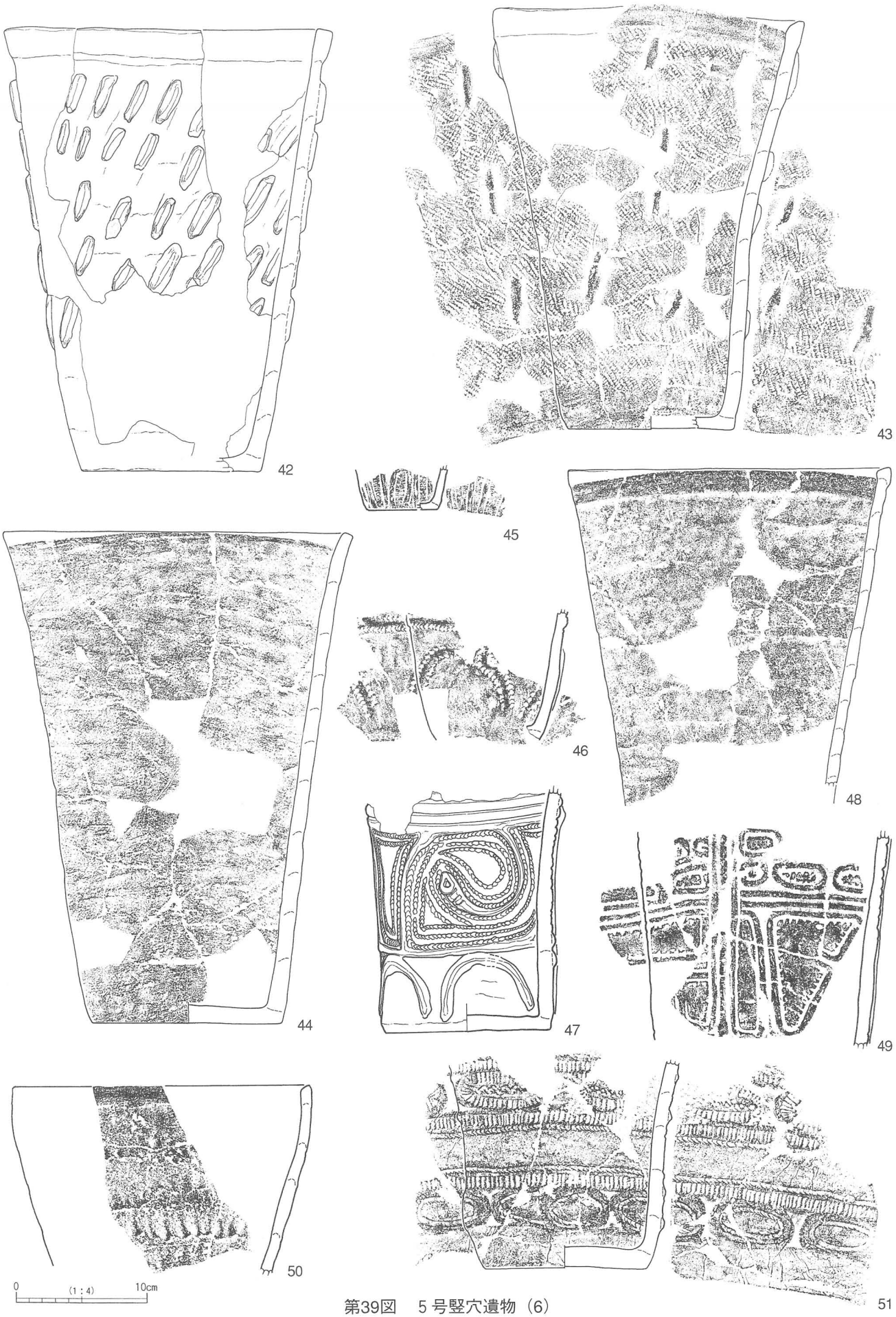


第36図　5号竪穴遺物（3）

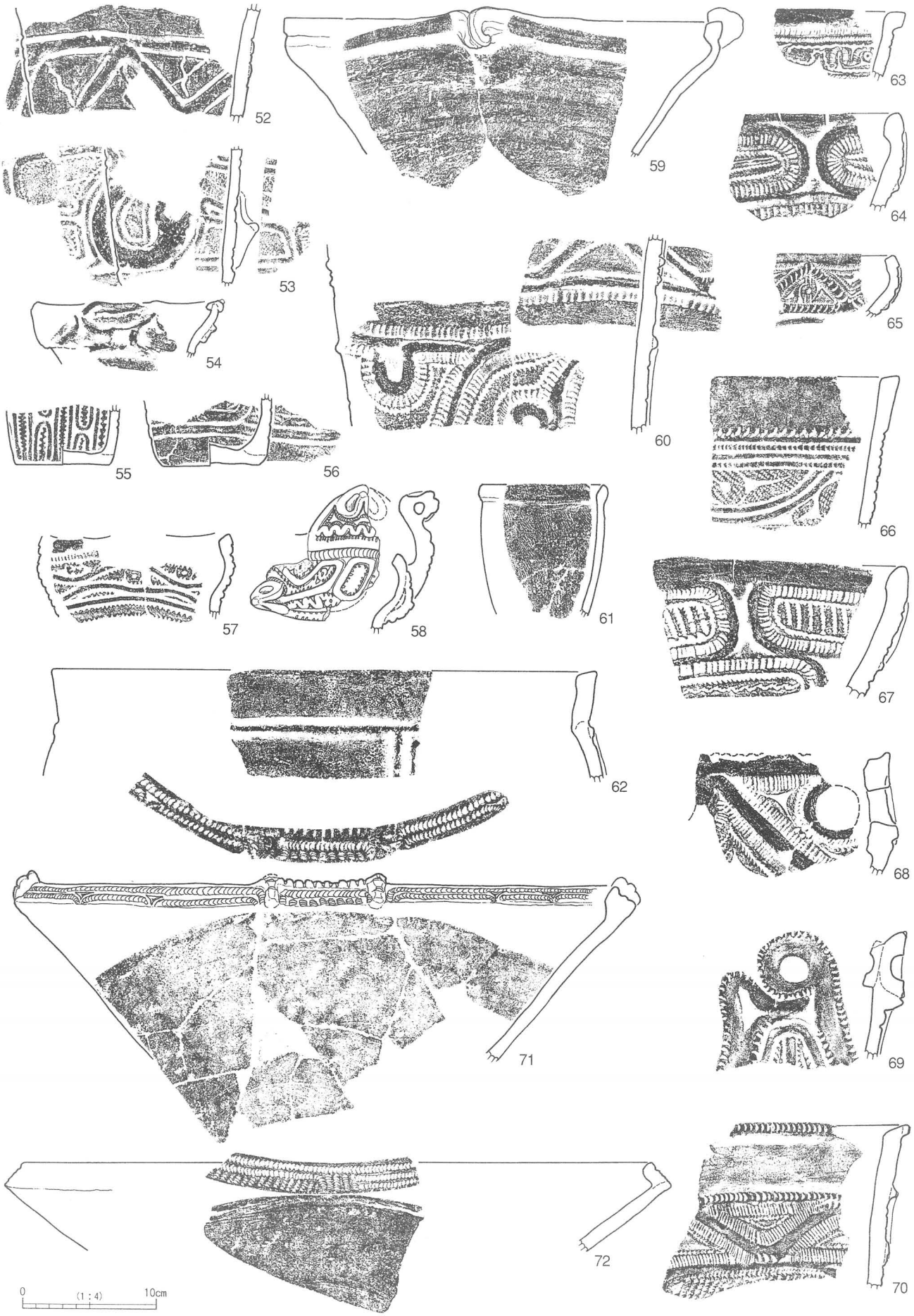
第37図　5号竪穴遺物（4）



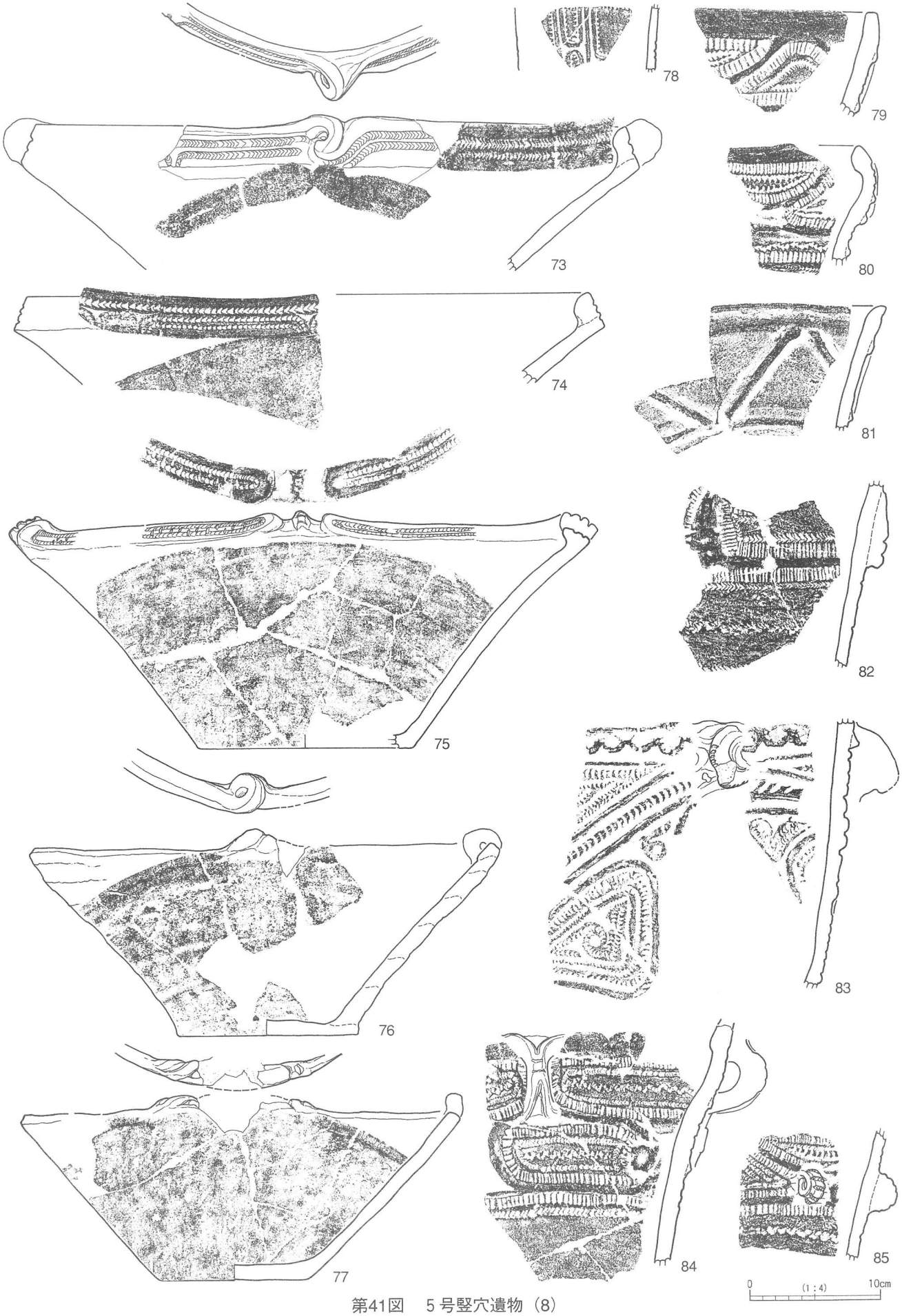
第38図　5号竪穴遺物（5）



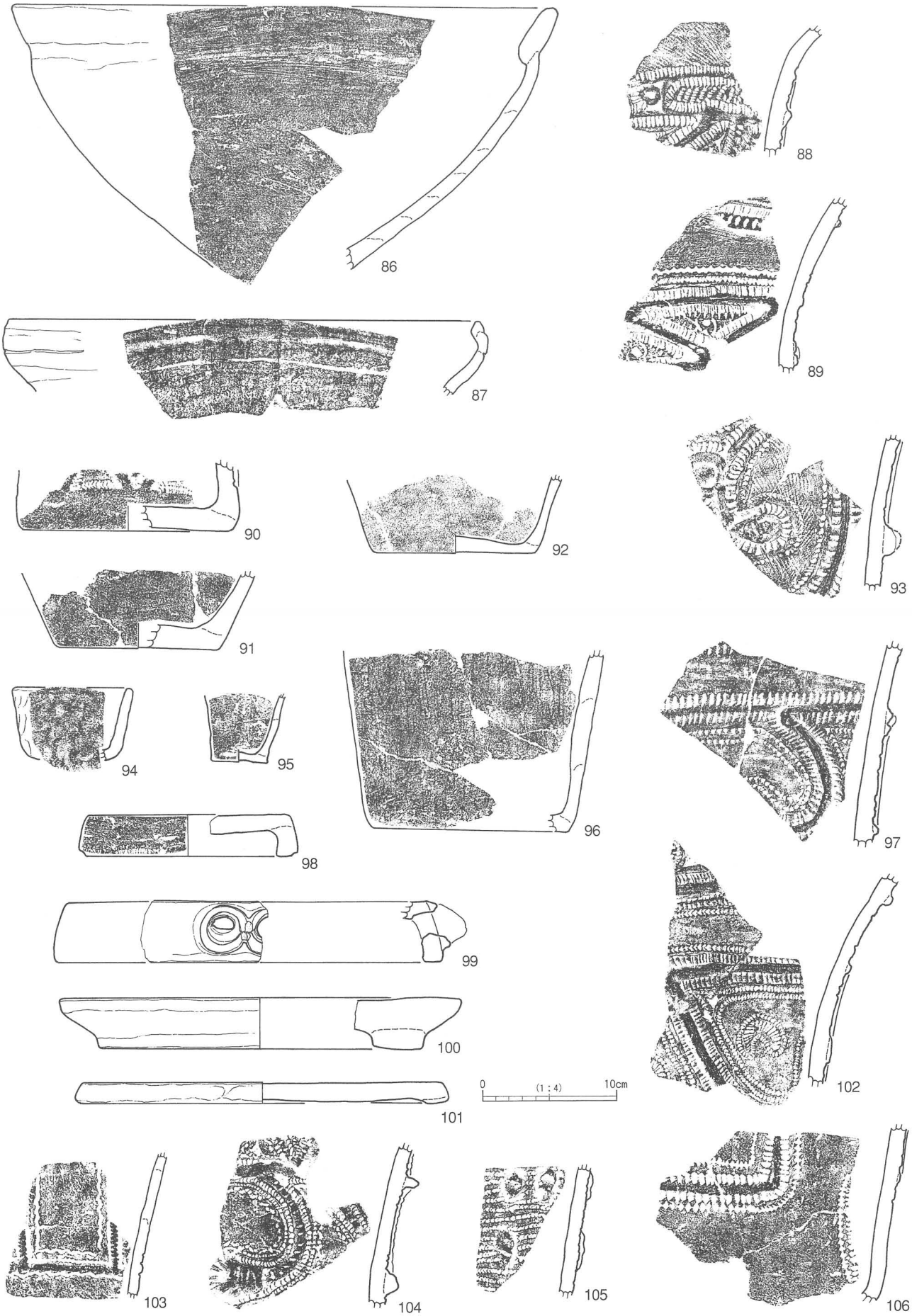
第39図　5号竪穴遺物（6）



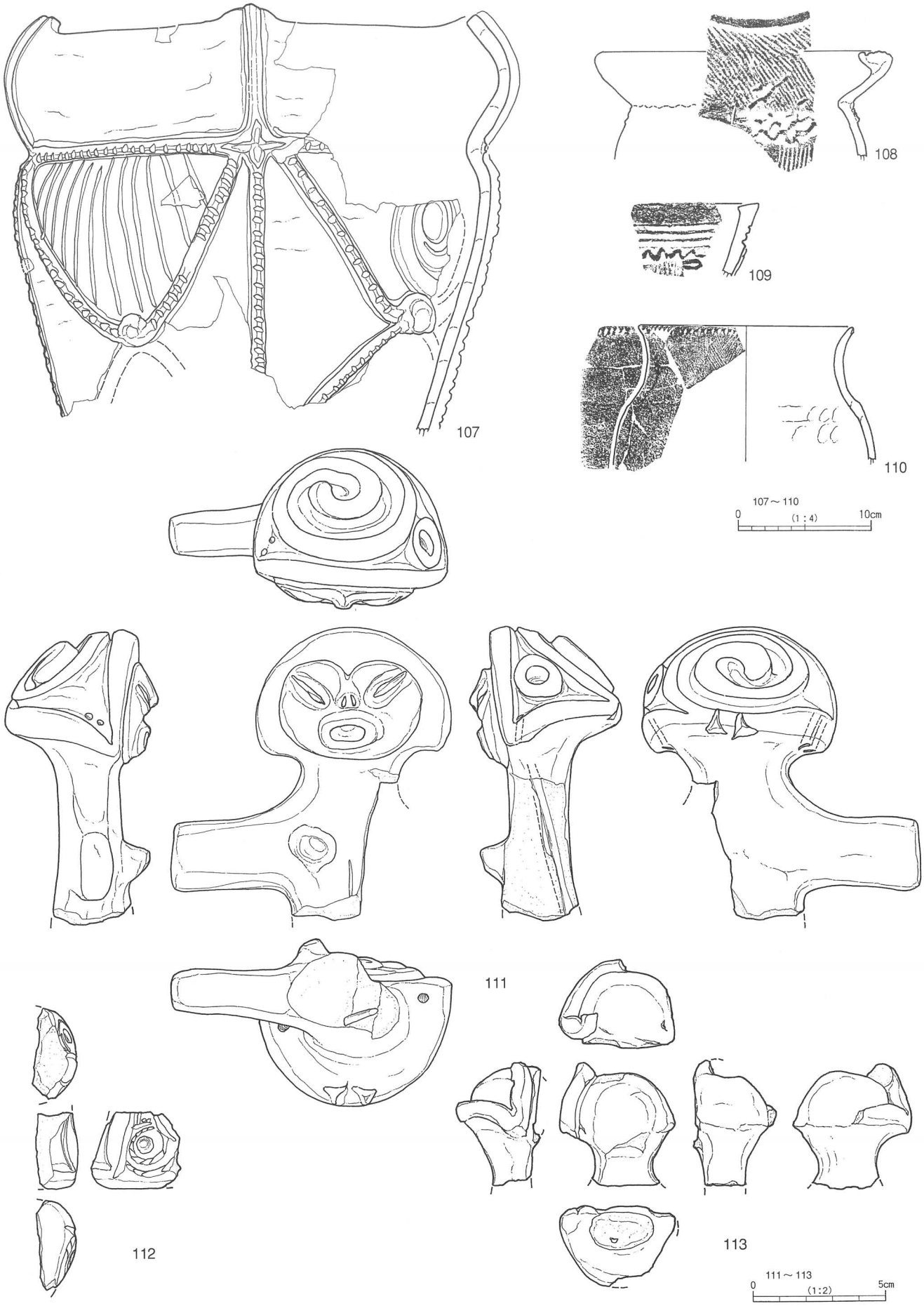
第40図　5号竪穴遺物（7）



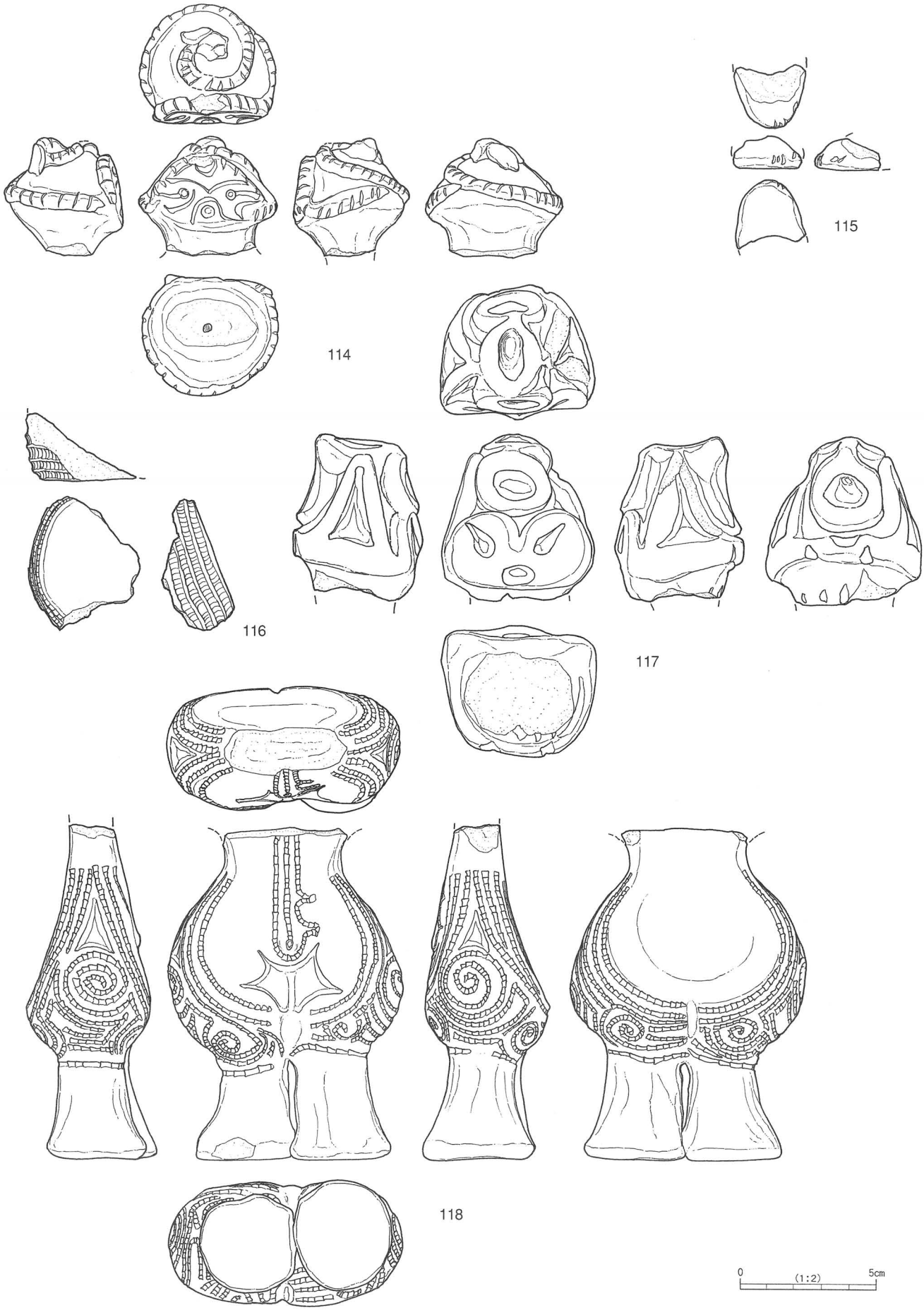
第41図　5号竪穴遺物（8）



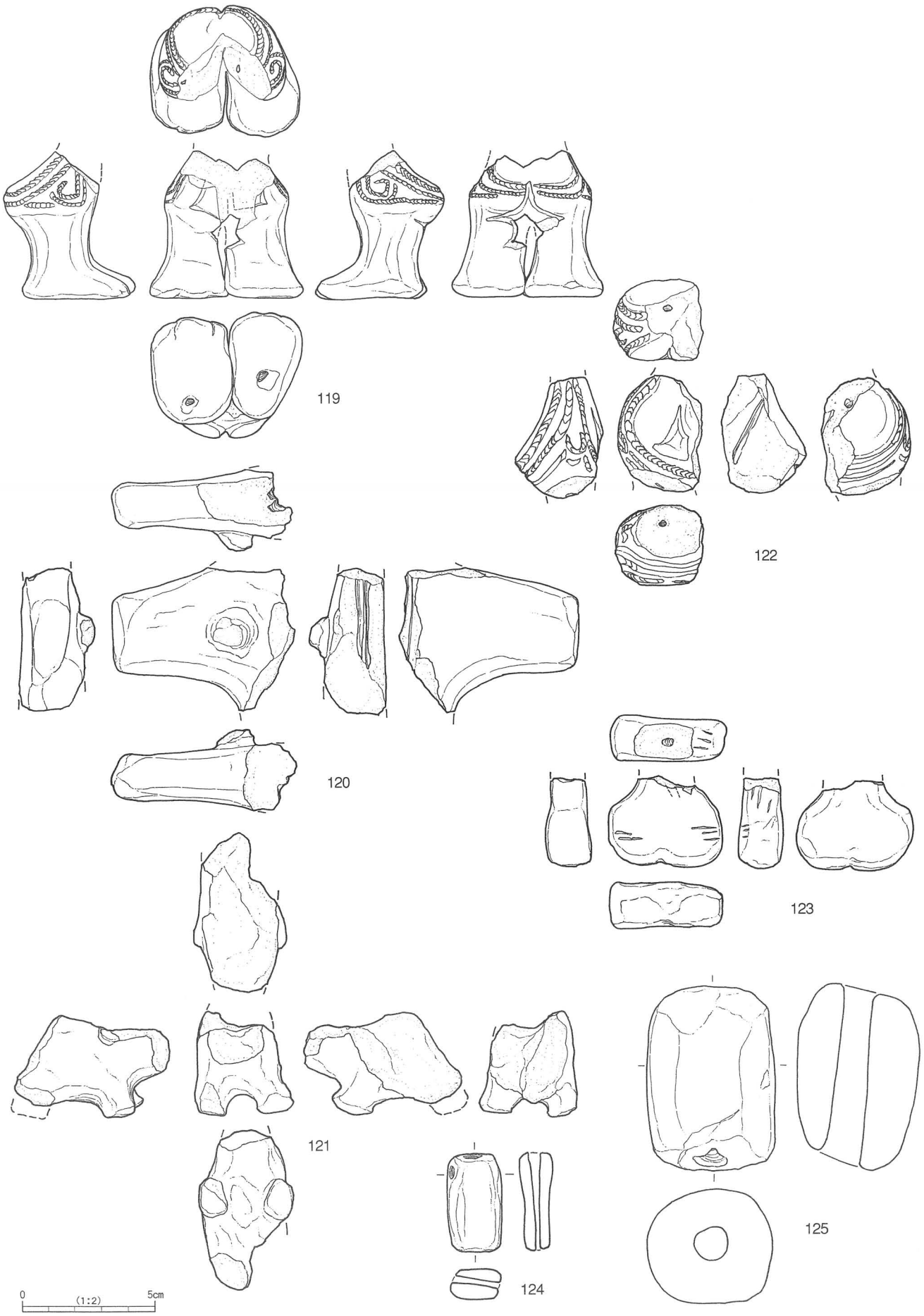
第42図　5号竪穴遺物（9）



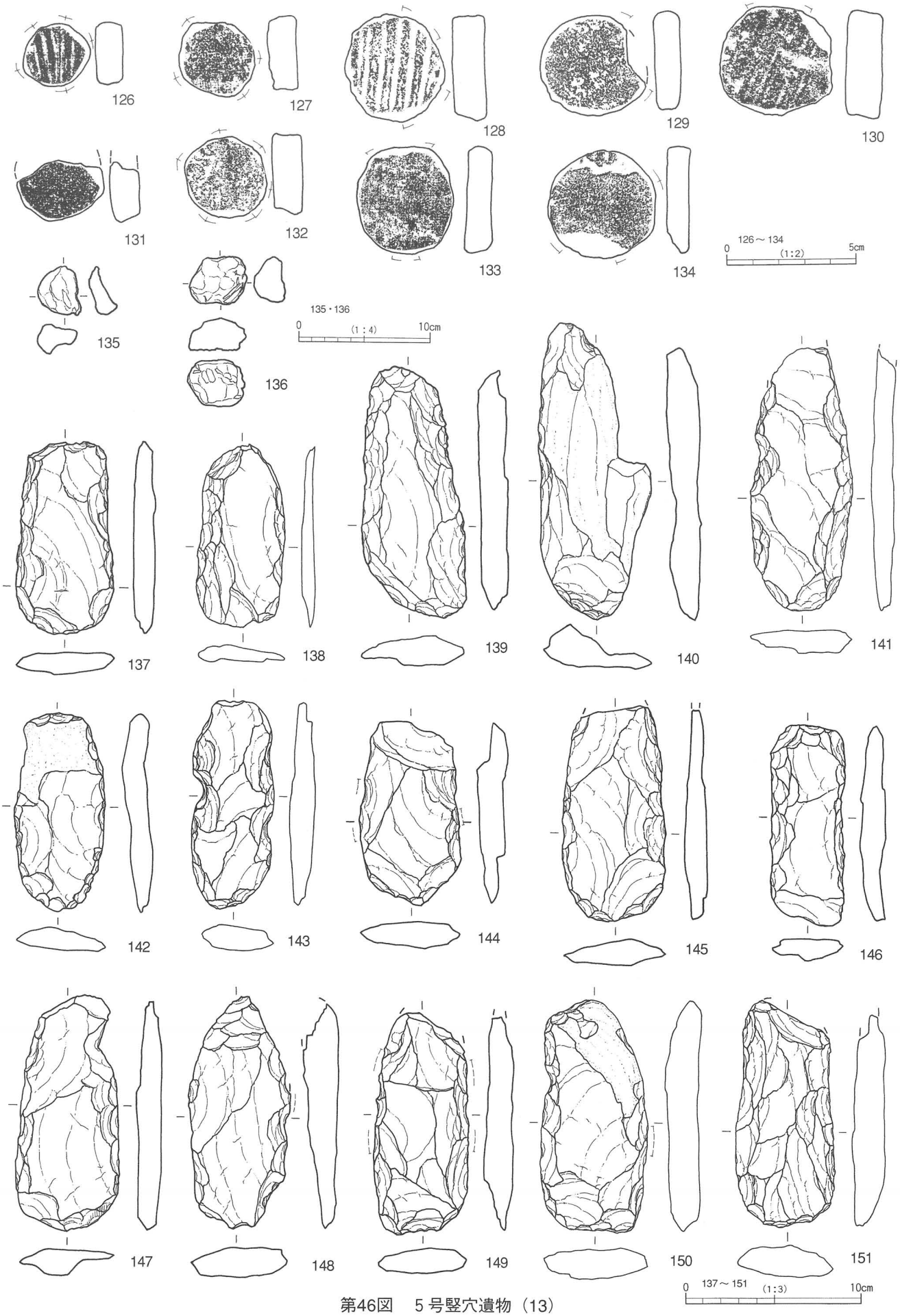
第43図　5号竪穴遺物（10）



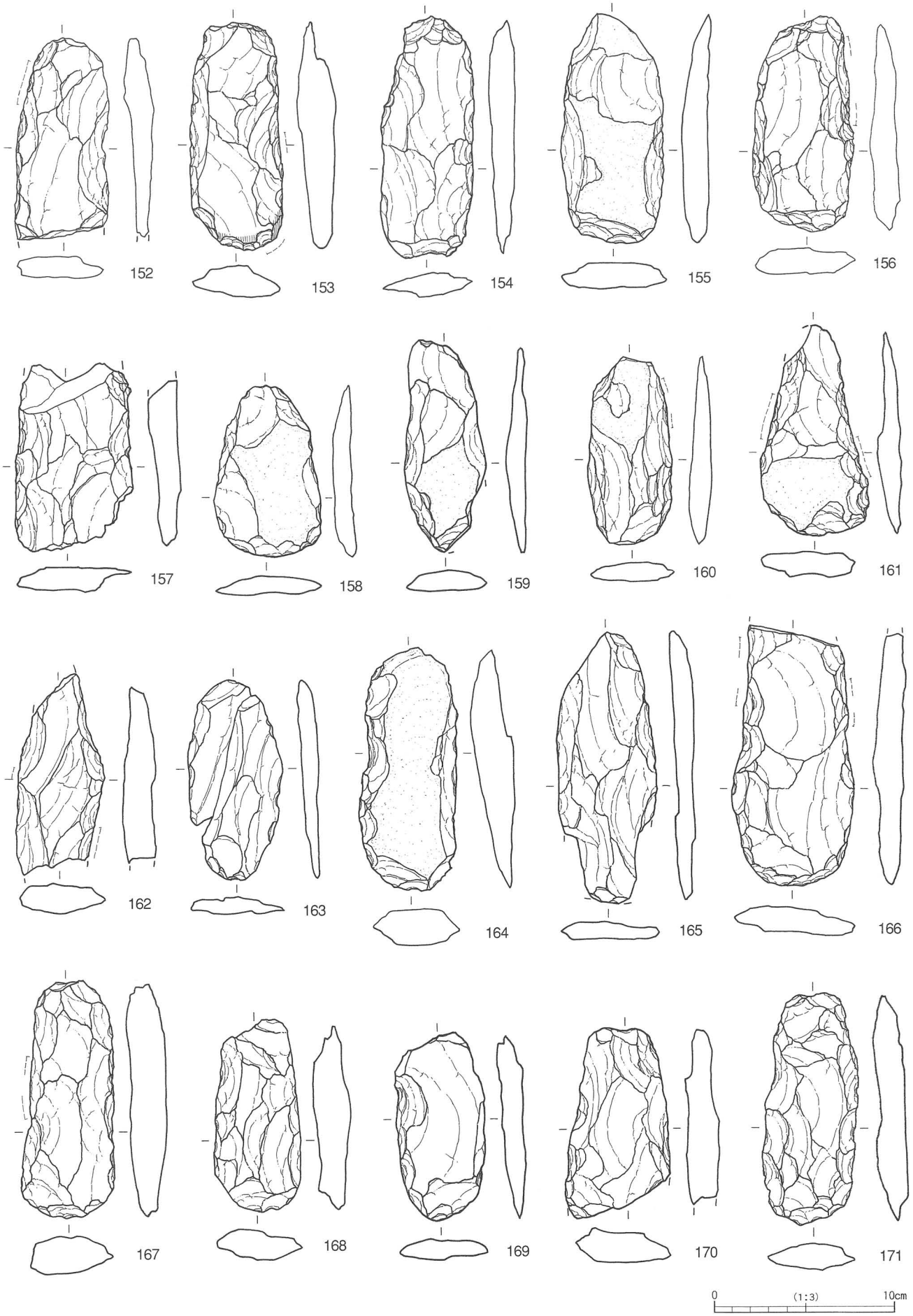
第44図　5号竪穴遺物（11）



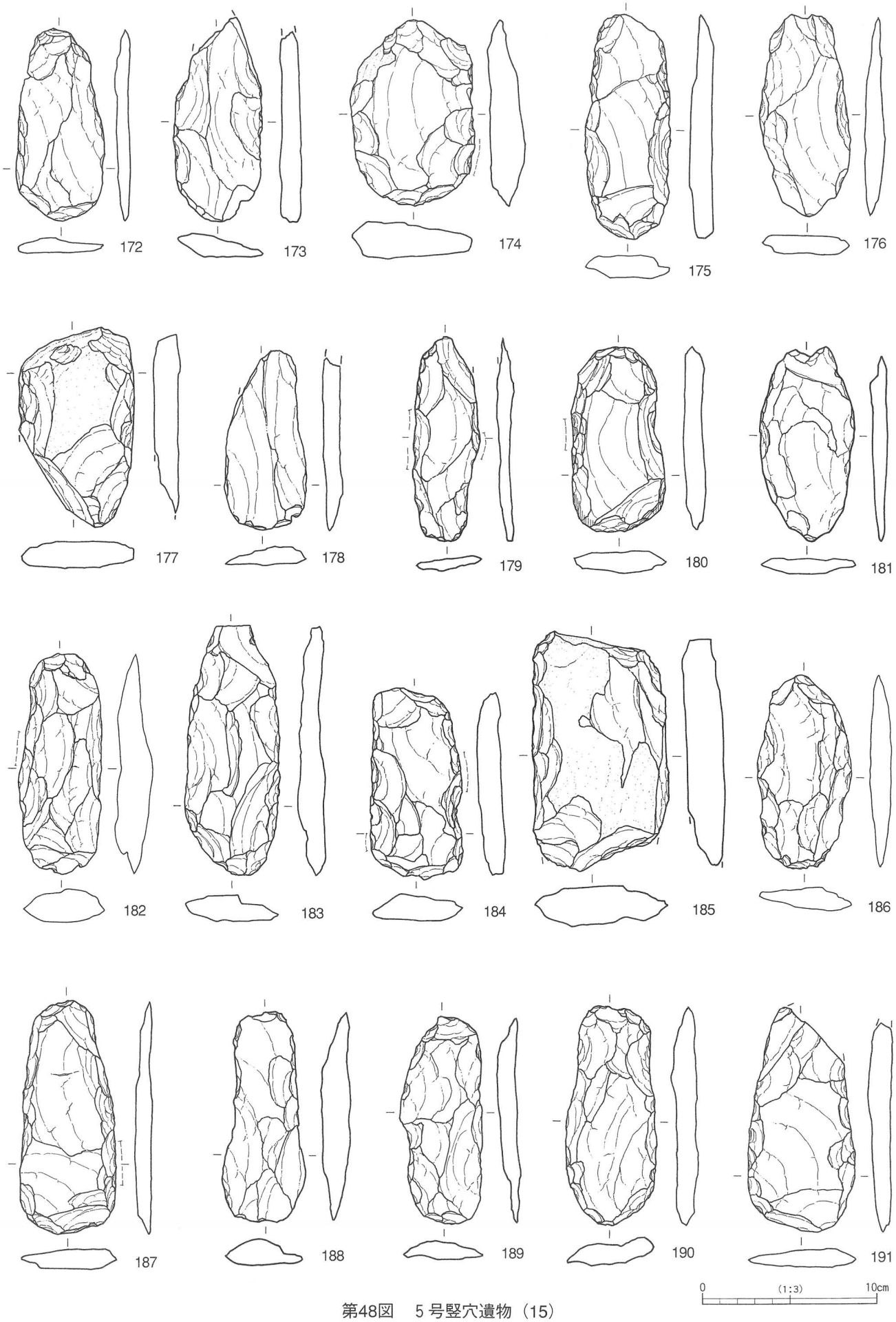
第45図　5号竪穴遺物（12）



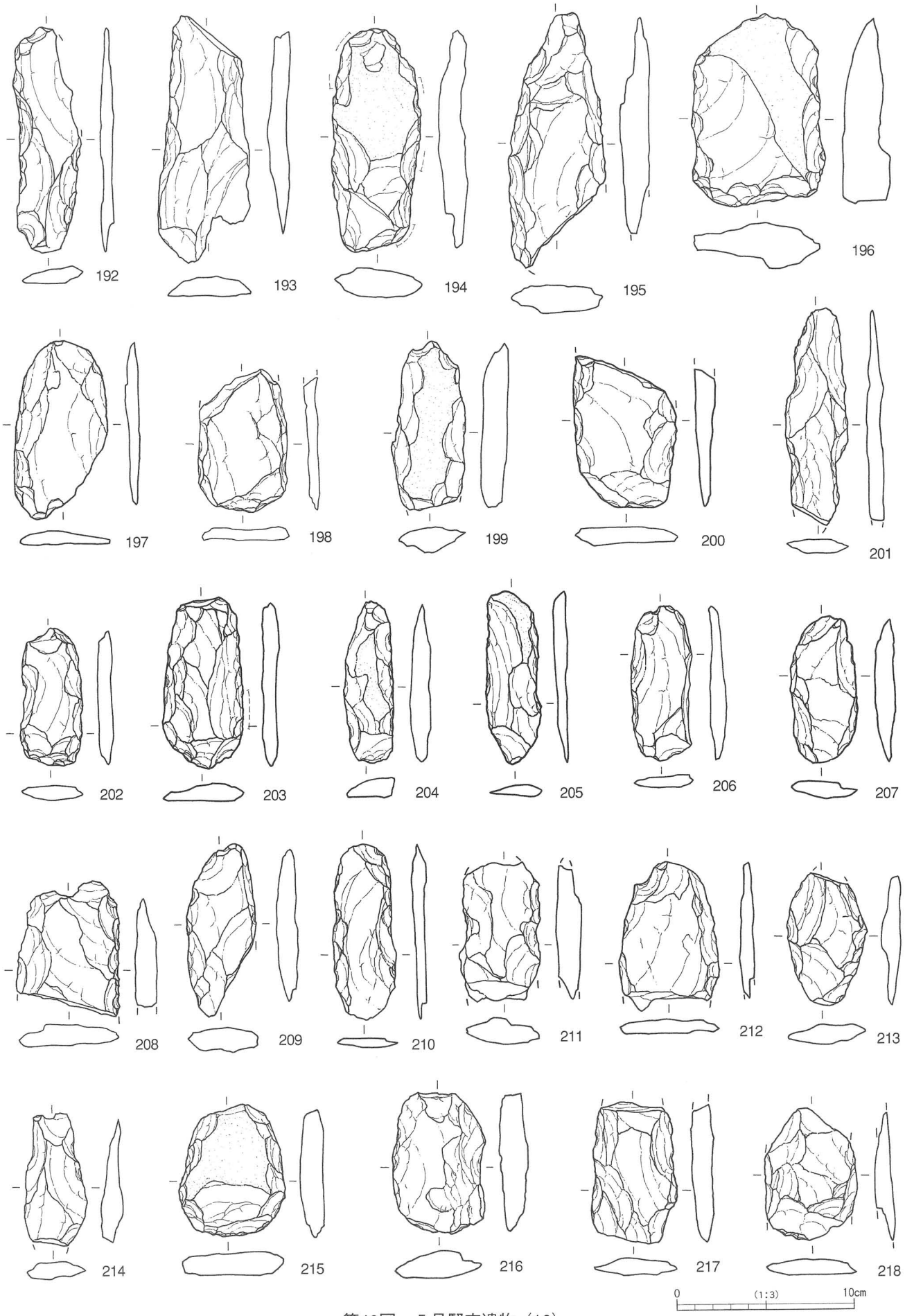
第46図　5号竪穴遺物（13）



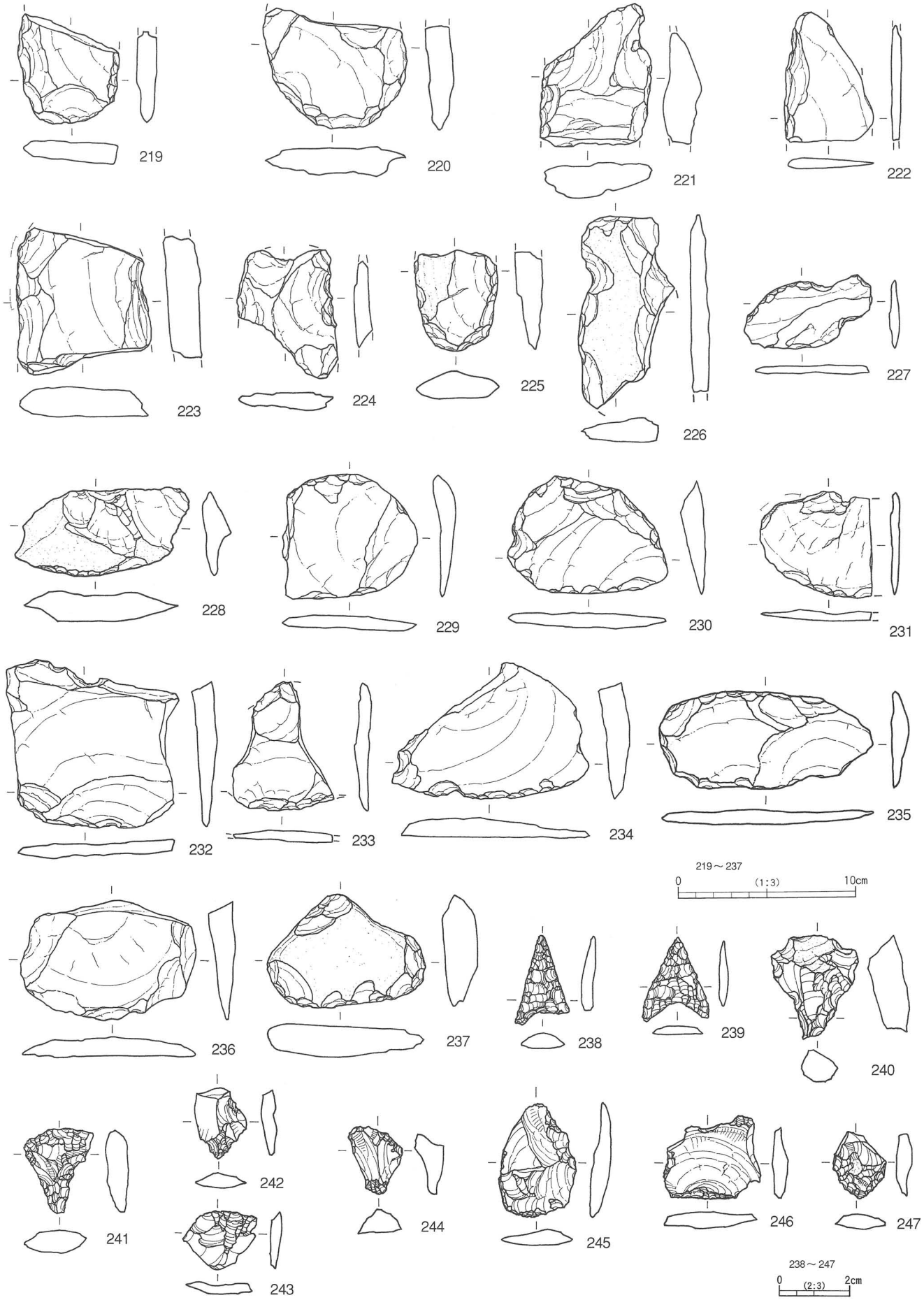
第47図　5号竪穴遺物（14）



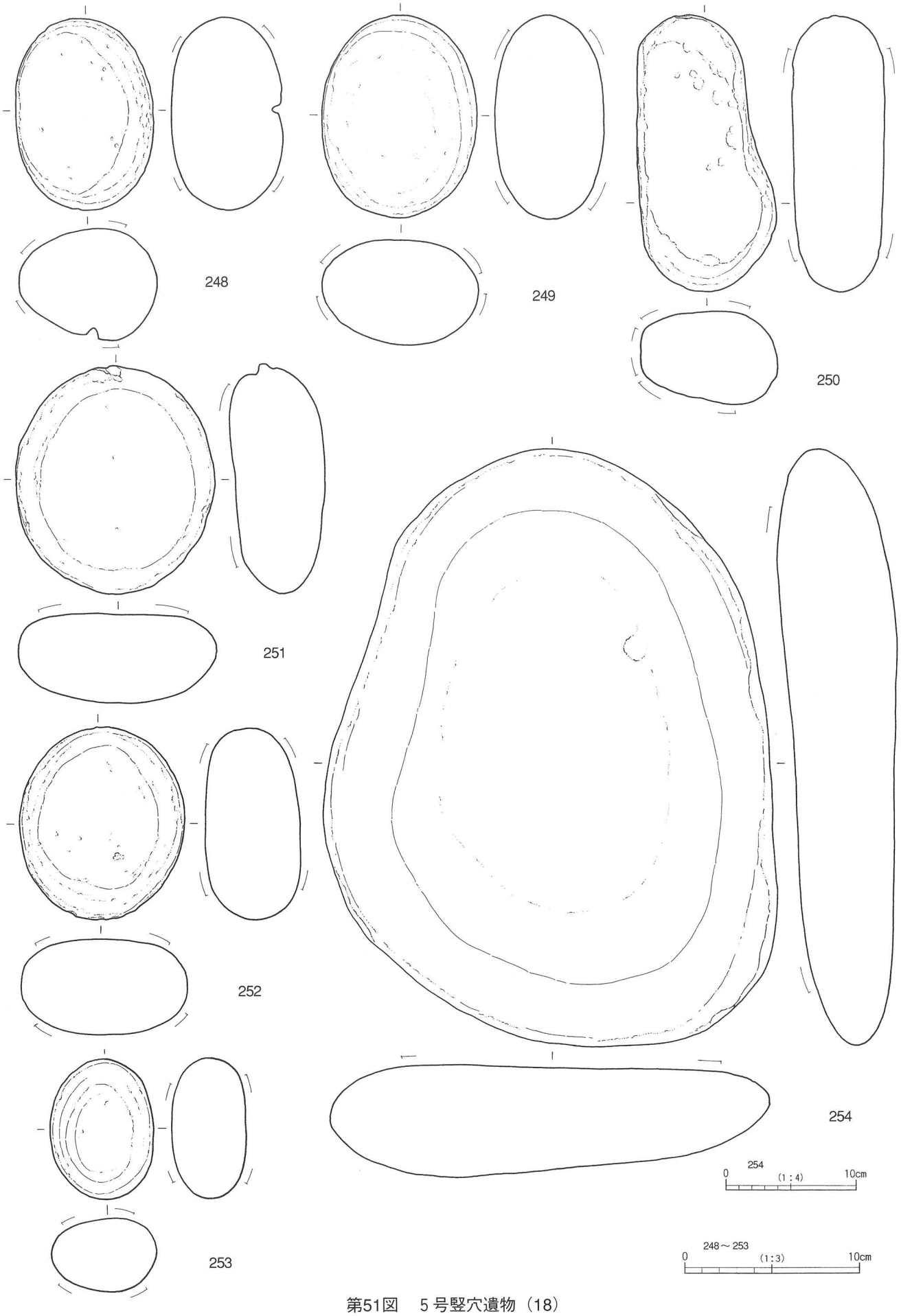
第48図　5号竪穴遺物（15）



第49図　5号竪穴遺物（16）

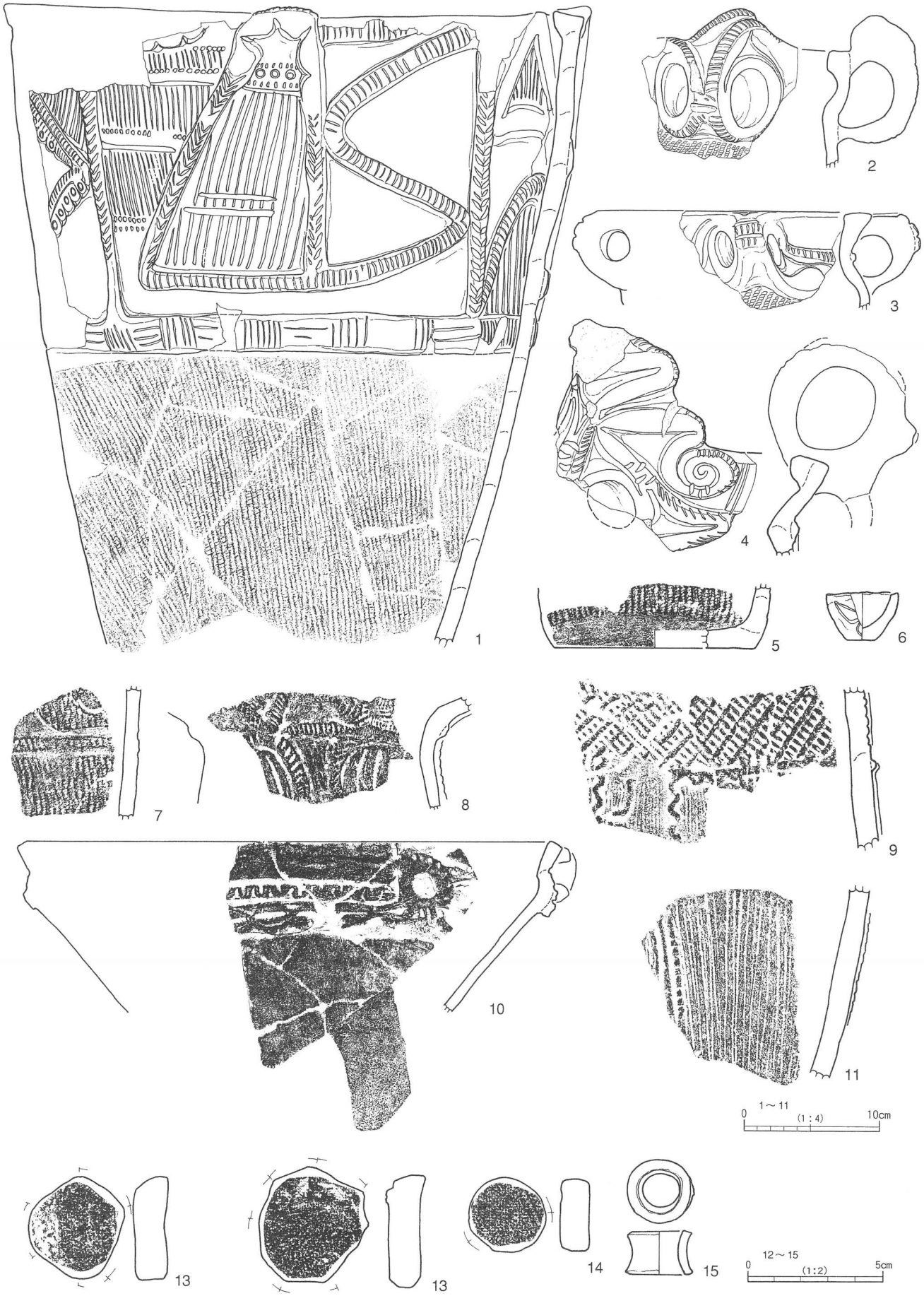


第50図　5号竪穴遺物（17）

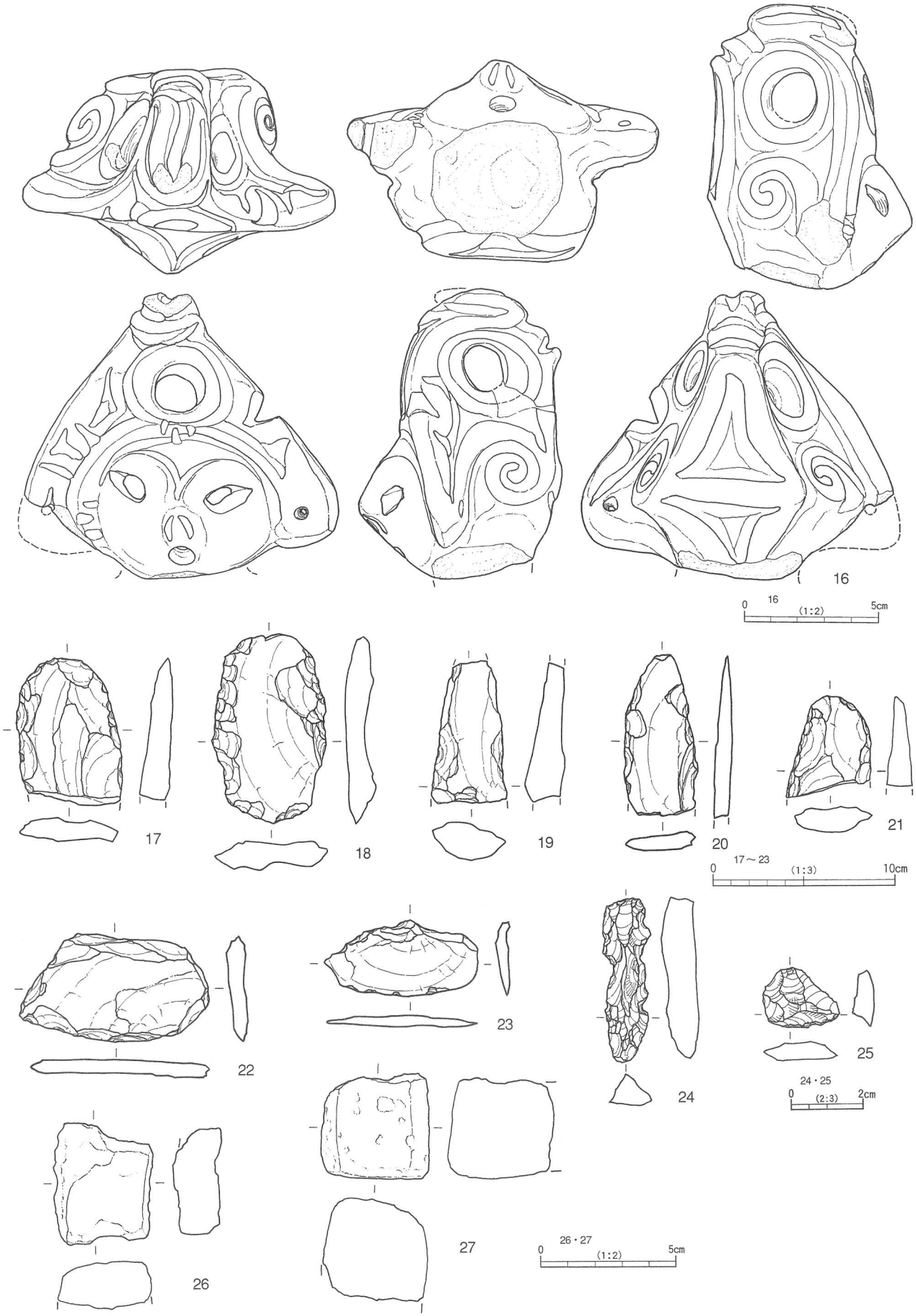


第51図　5号竪穴遺物（18）

6号竪穴

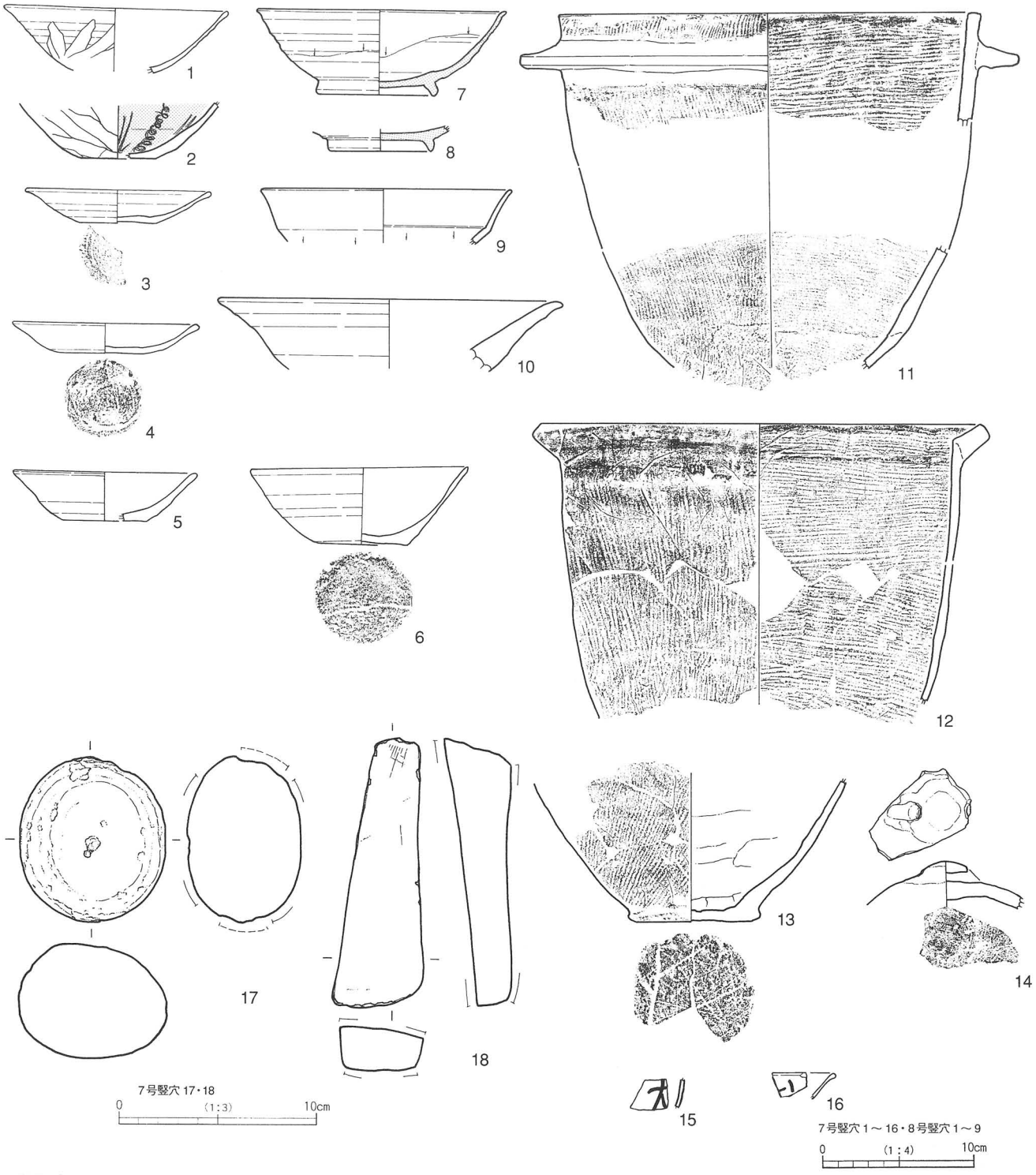


第52図　6号竪穴遺物（1）

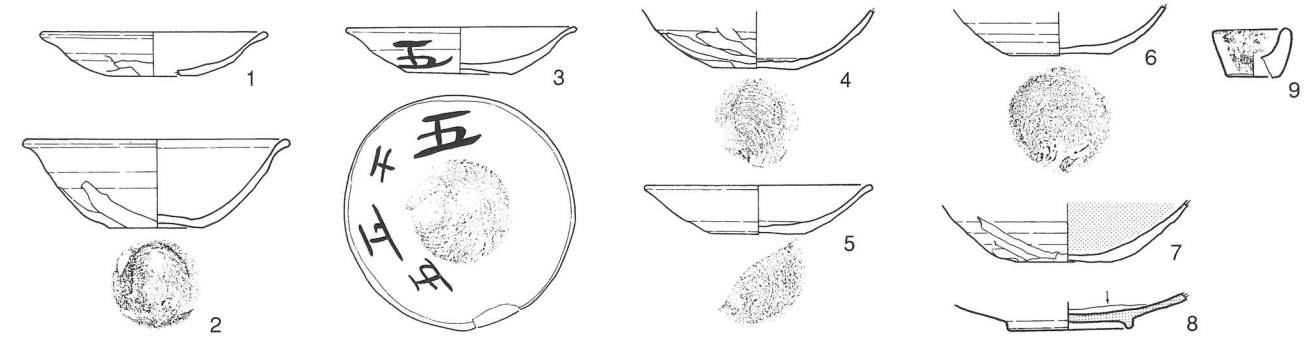


第53図　6号竪穴遺物（2）

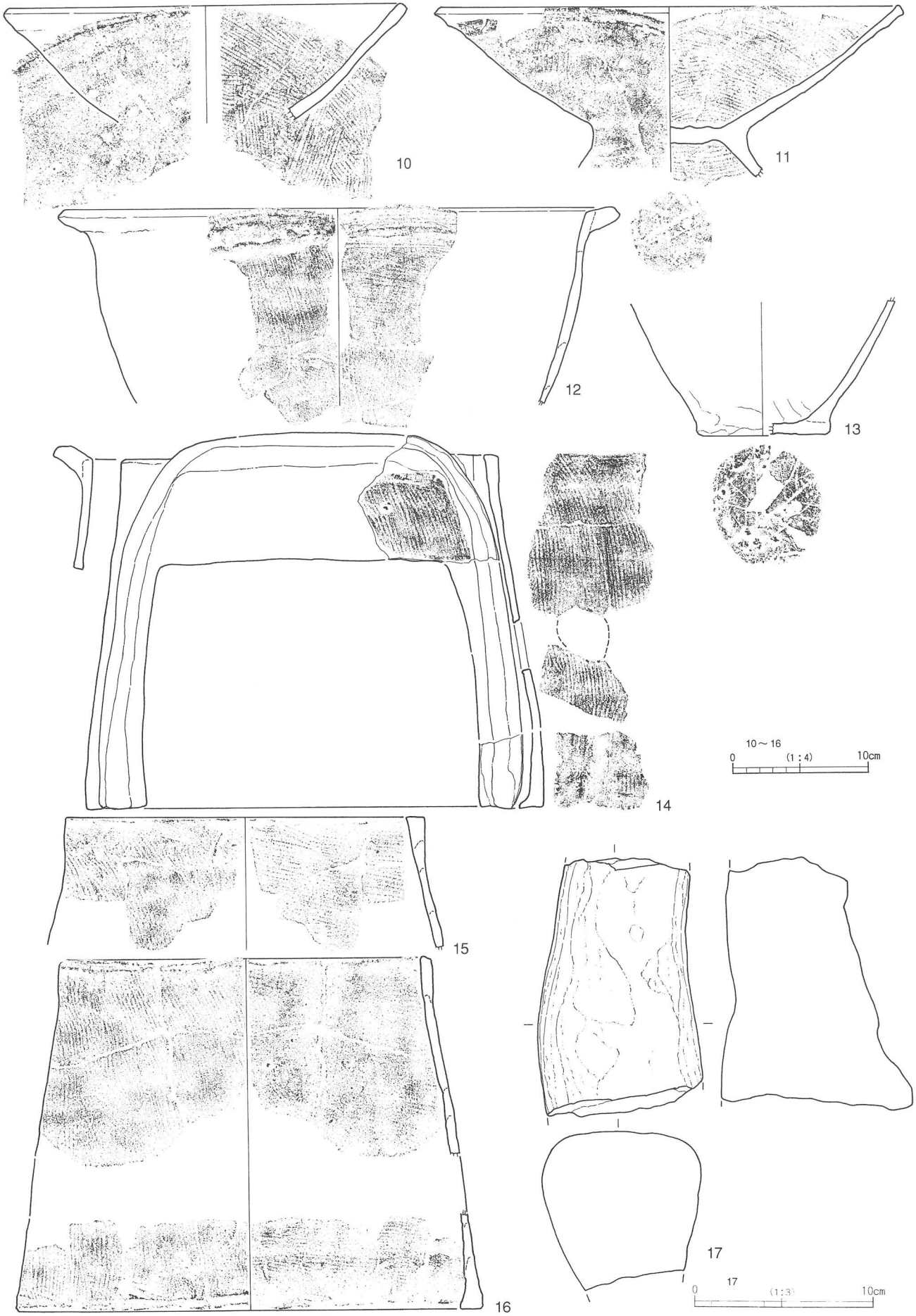
7号竪穴



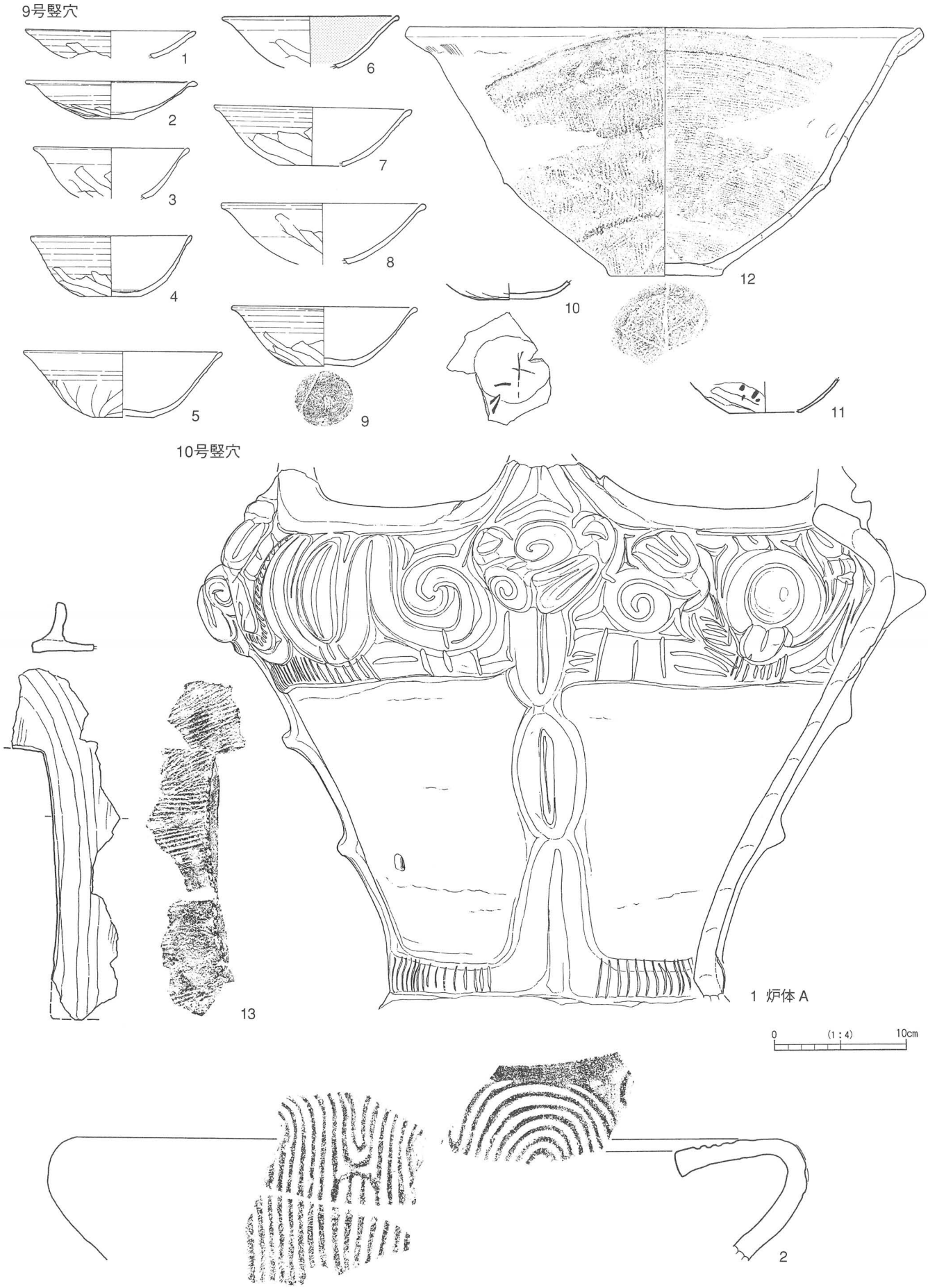
8号竪穴



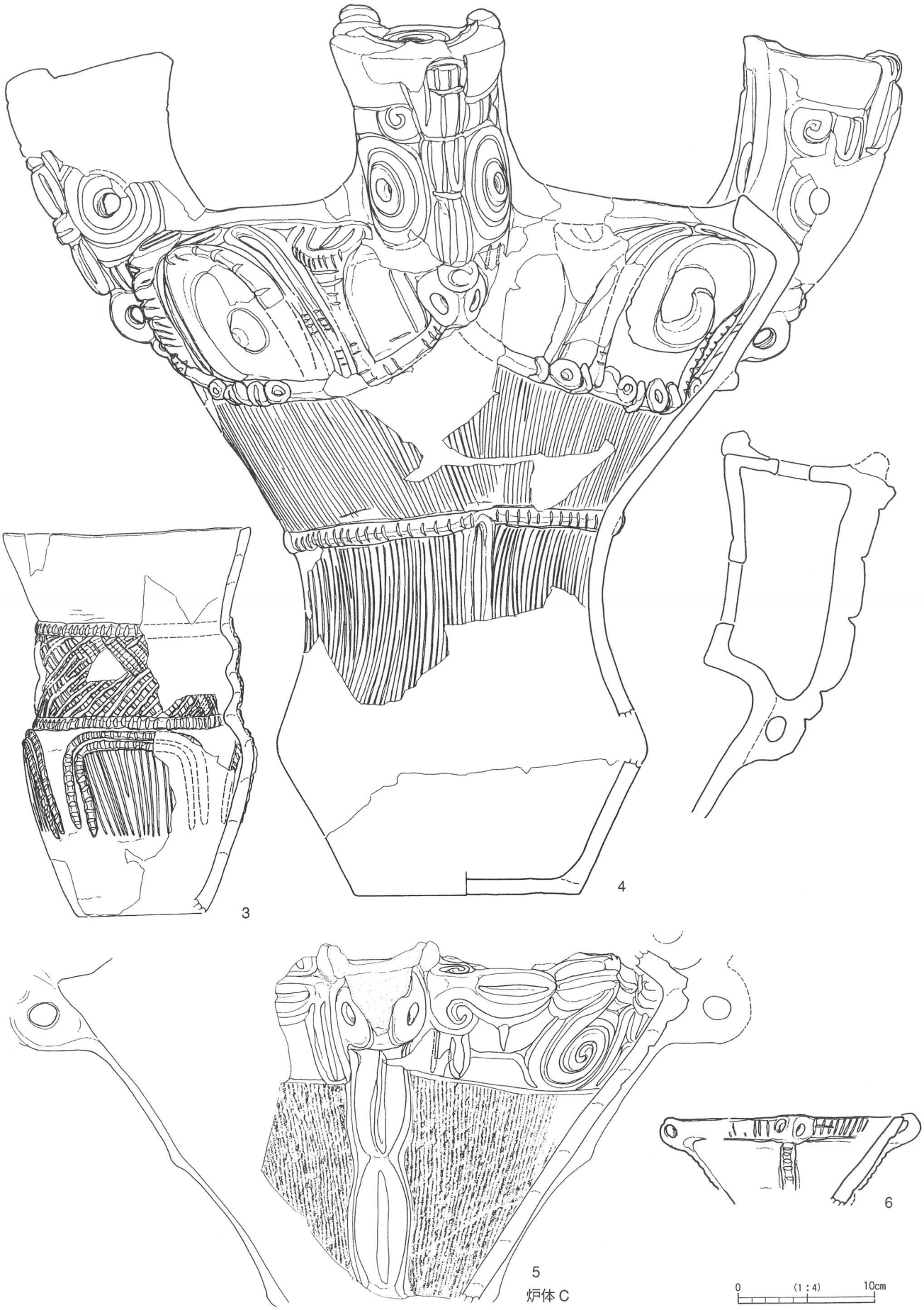
第54図　7号竪穴遺物、8号竪穴遺物（1）



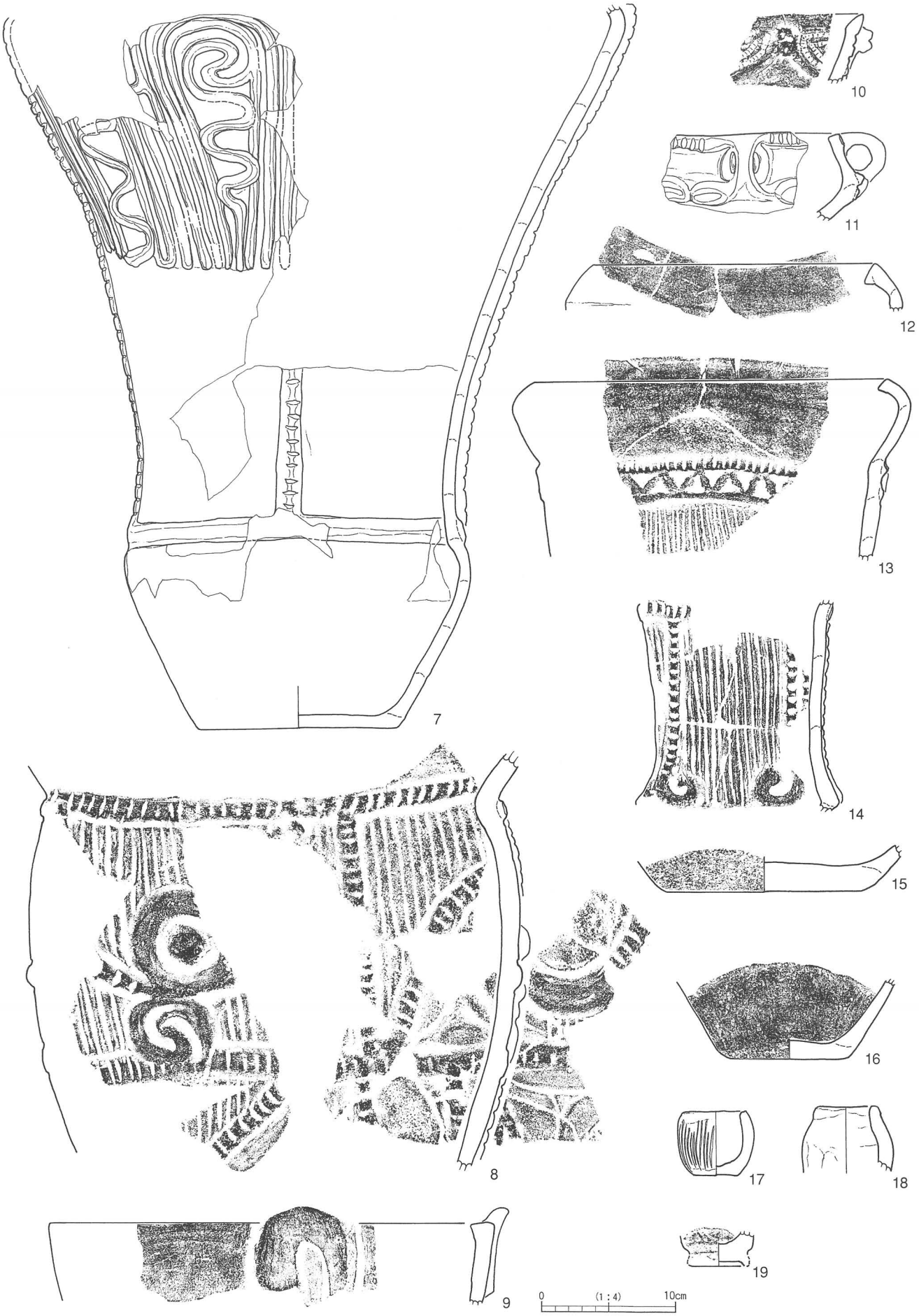
第55図　8号竪穴遺物（2）



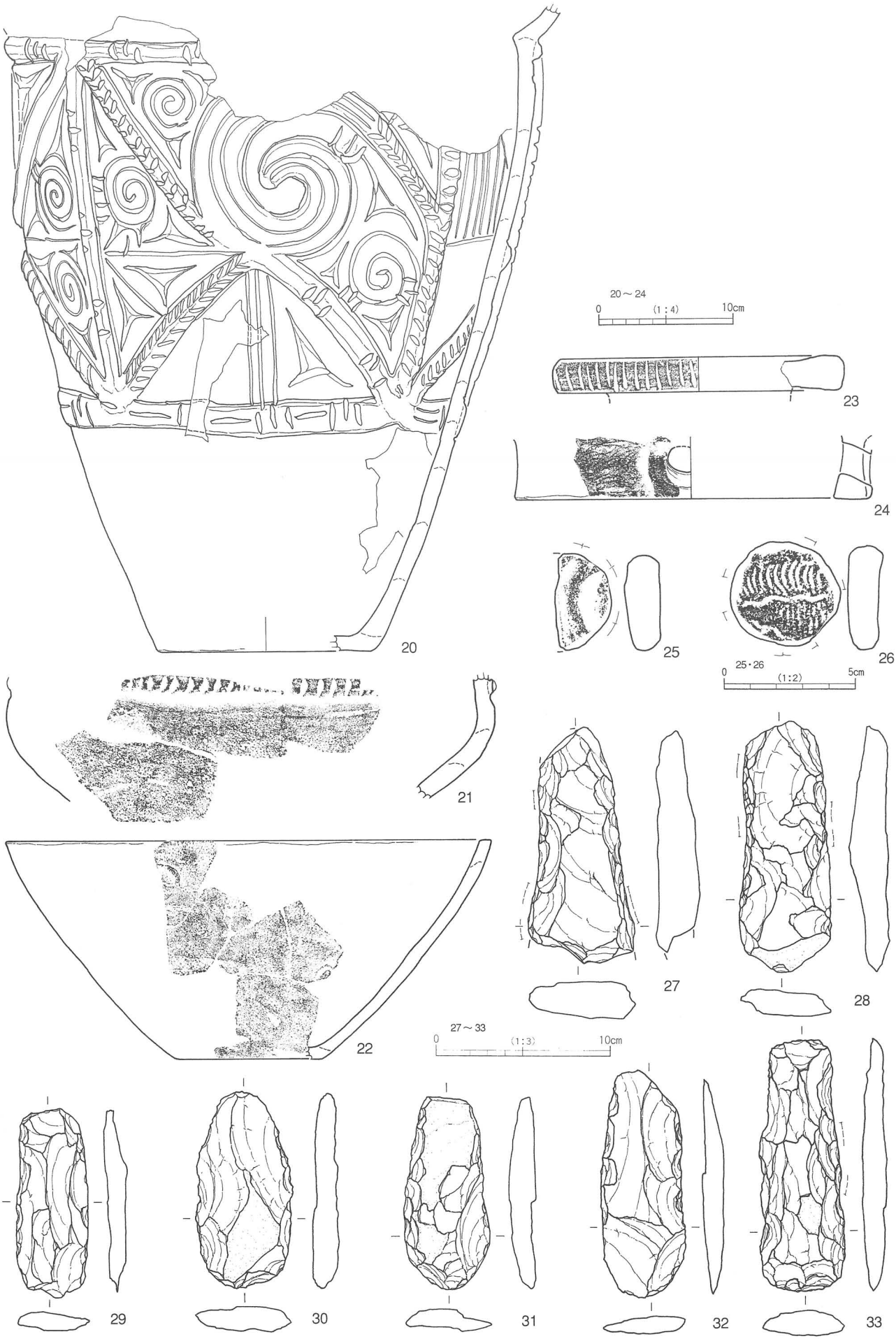
第56図　9号竪穴遺物、10号竪穴遺物（1）



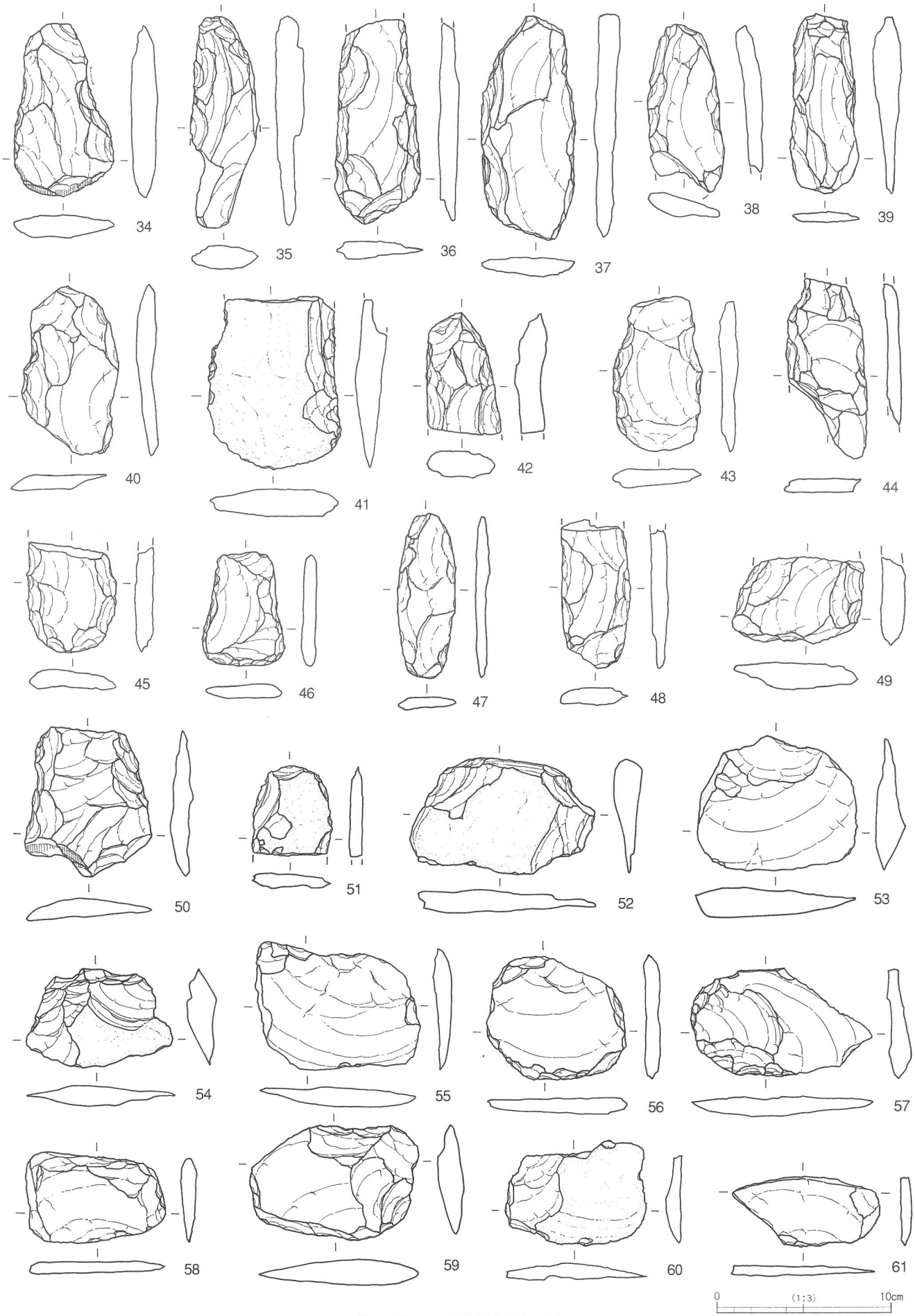
第57図　10号竪穴遺物（2）



第58図　10号竪穴遺物（3）



第59図　10号竪穴遺物（4）

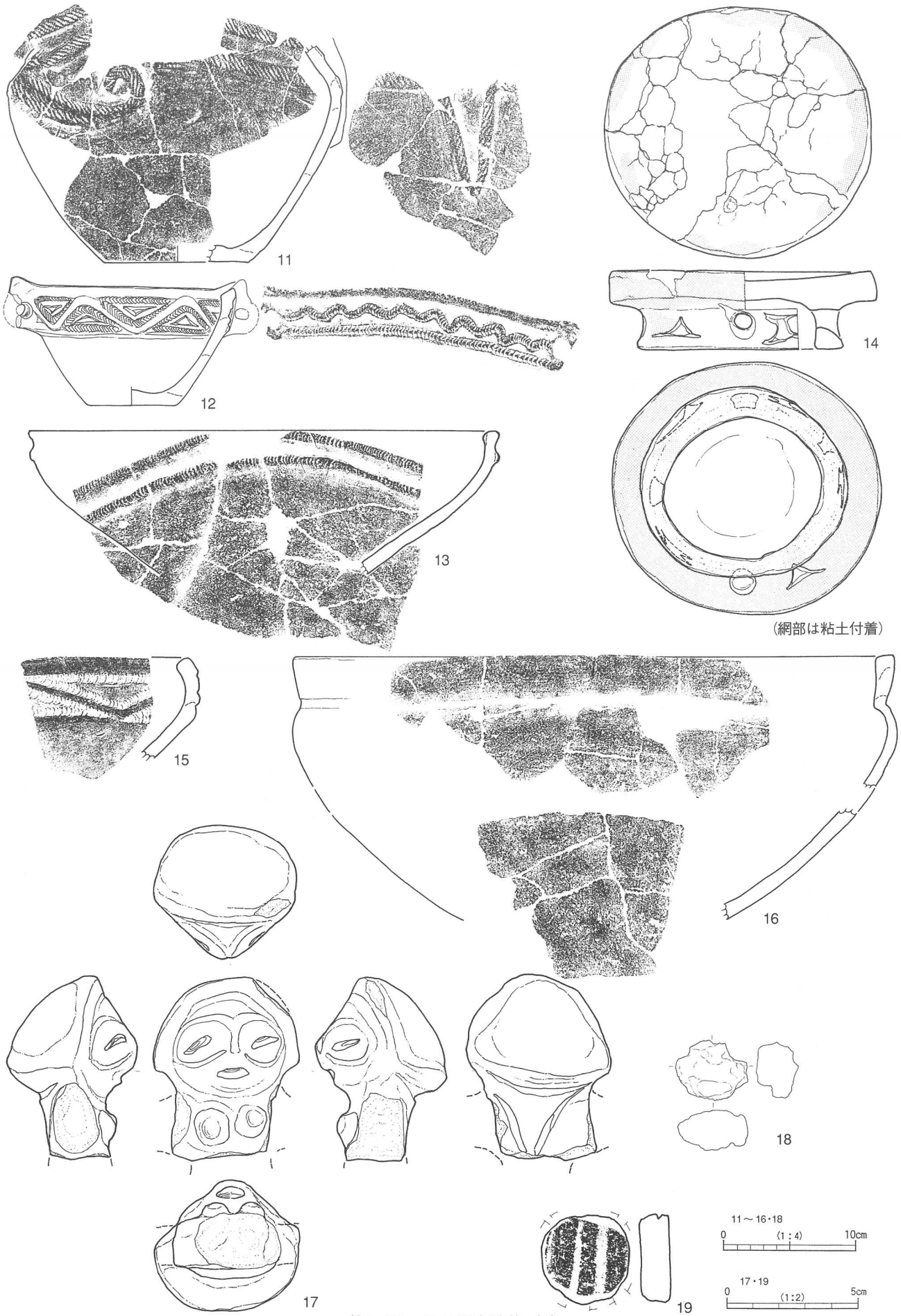


第60図　10号竪穴遺物（5）

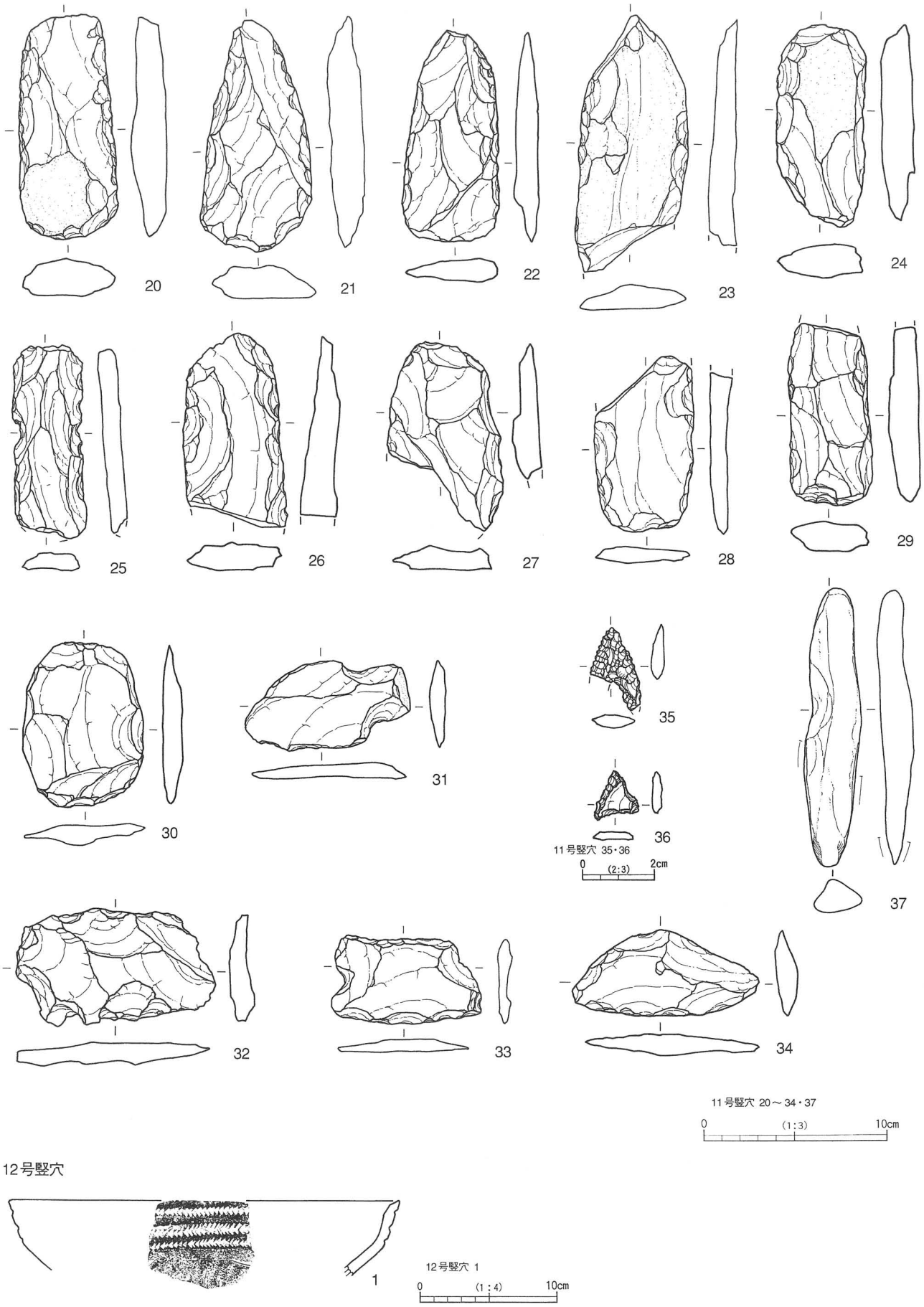
第61図　10号竪穴遺物（6）

11号竪穴

第62図　11号竪穴遺物（1）



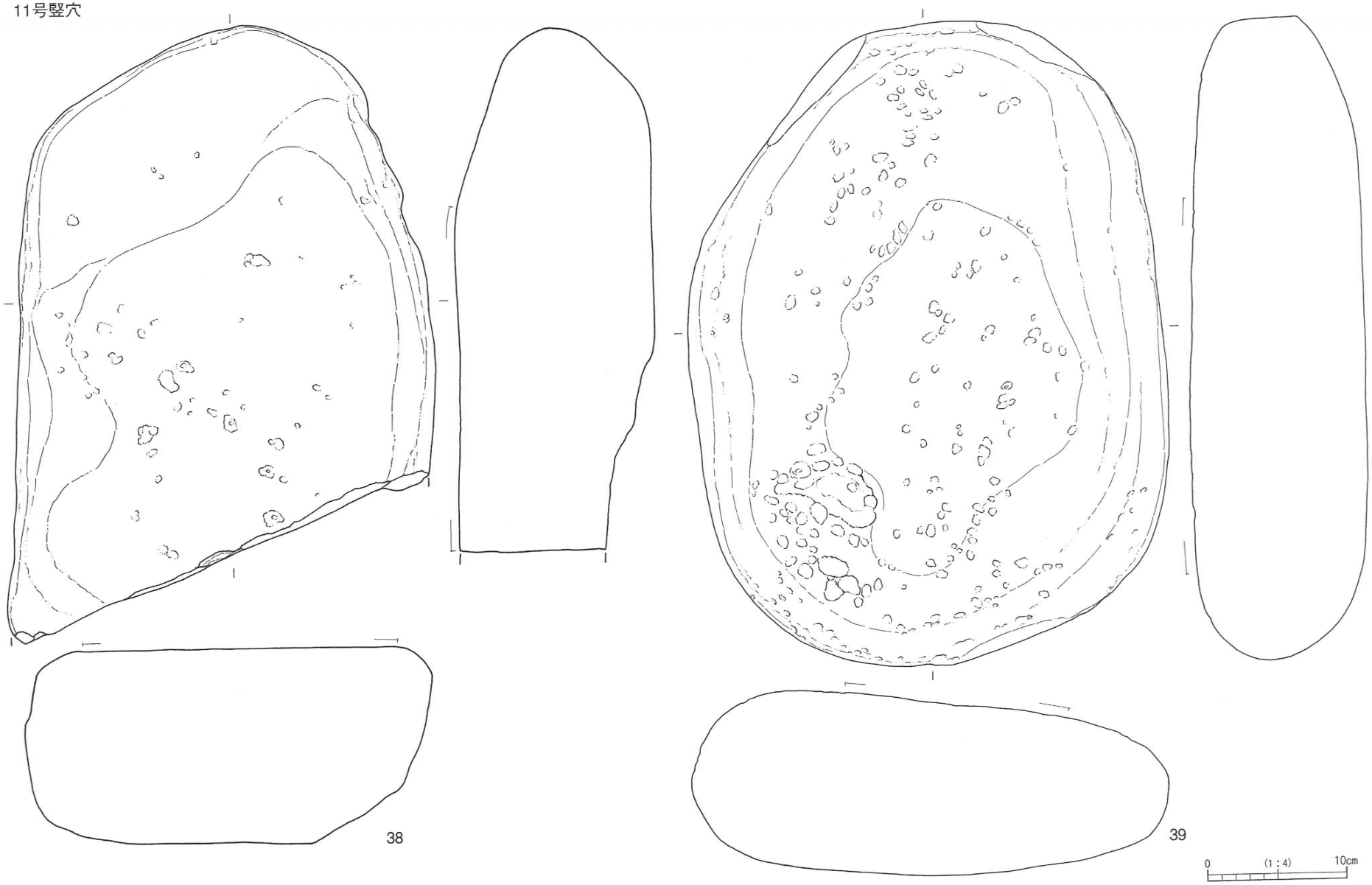
第63図　11号竪穴遺物（2）



12号竪穴

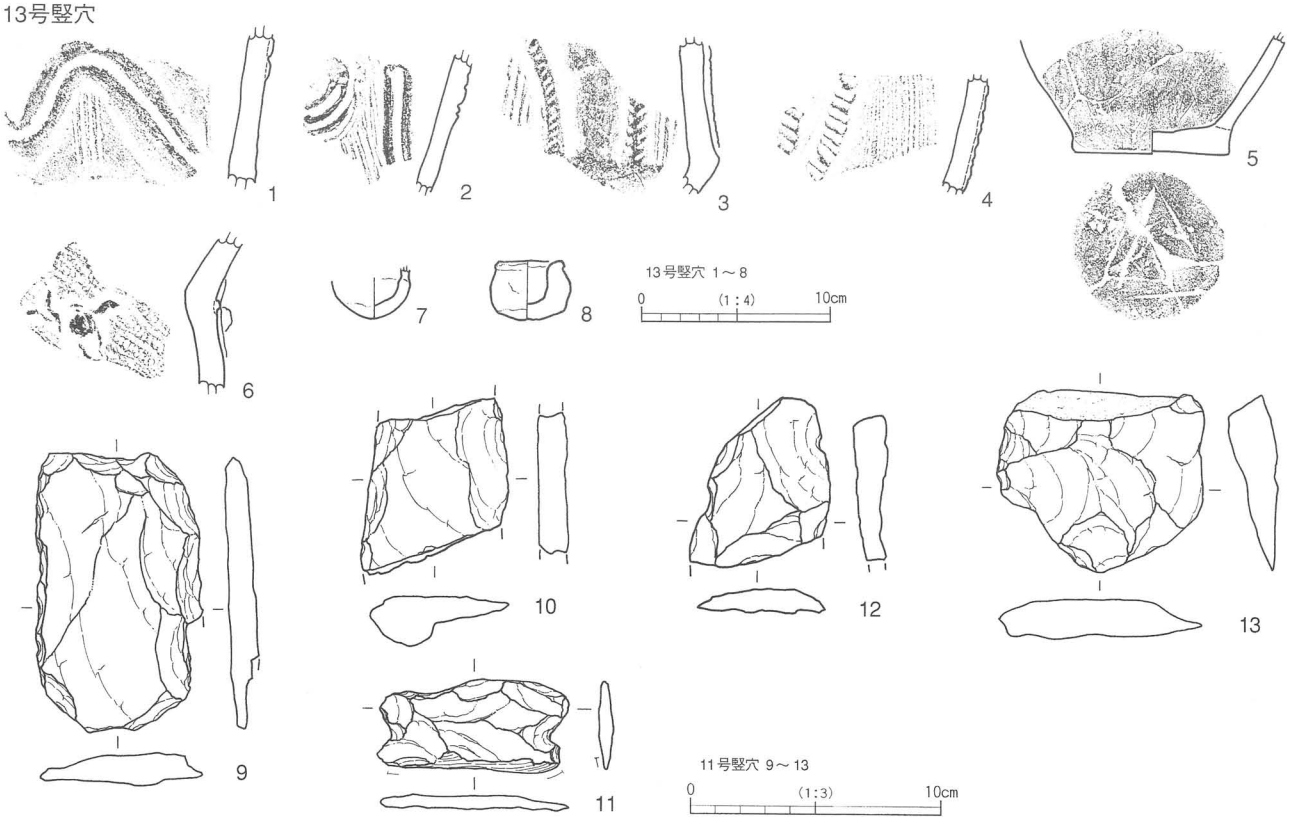
第64図　11号竪穴遺物（3）、12号竪穴遺物

11号竪穴

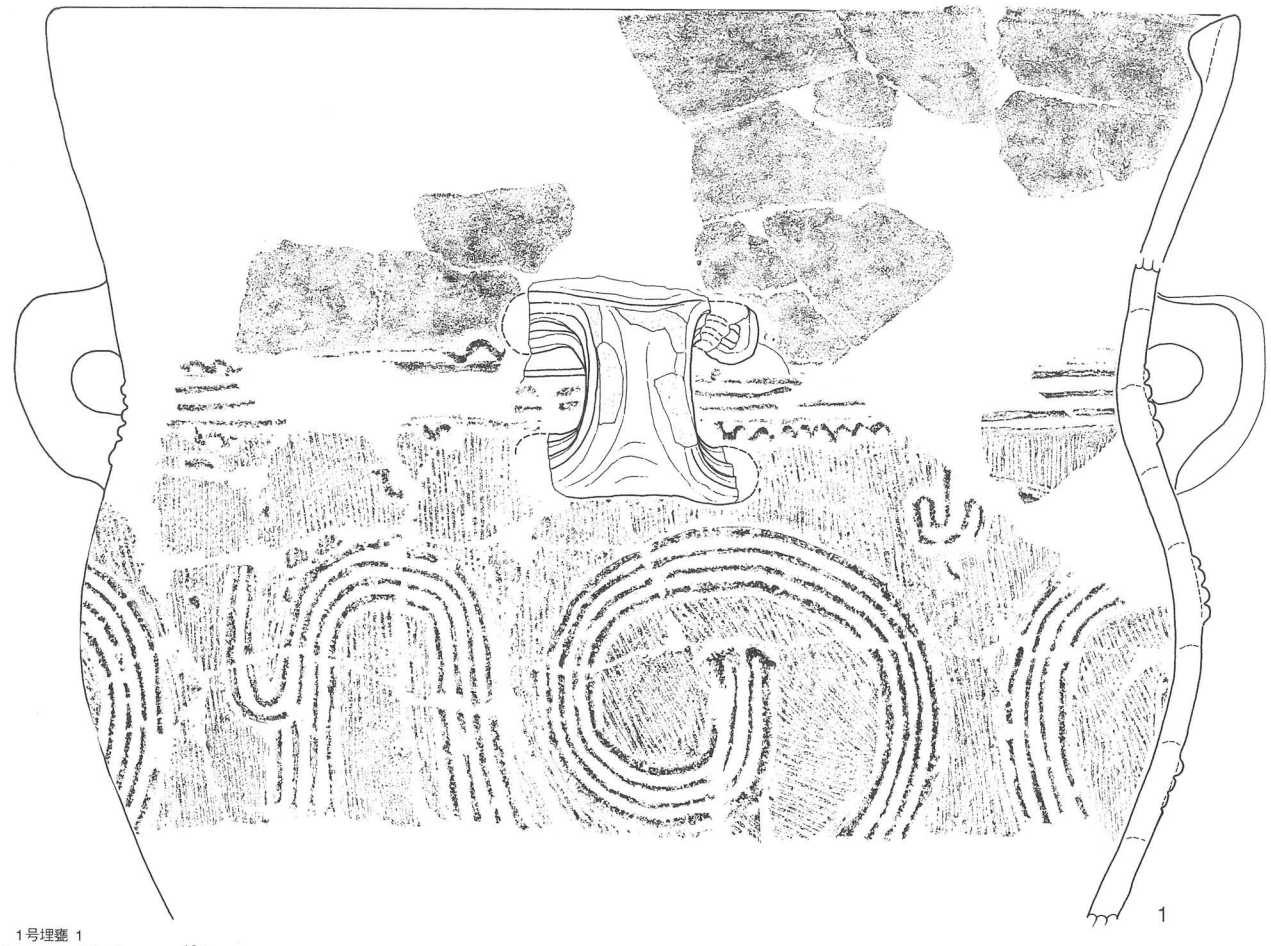


第65図　11号竪穴遺物（4）

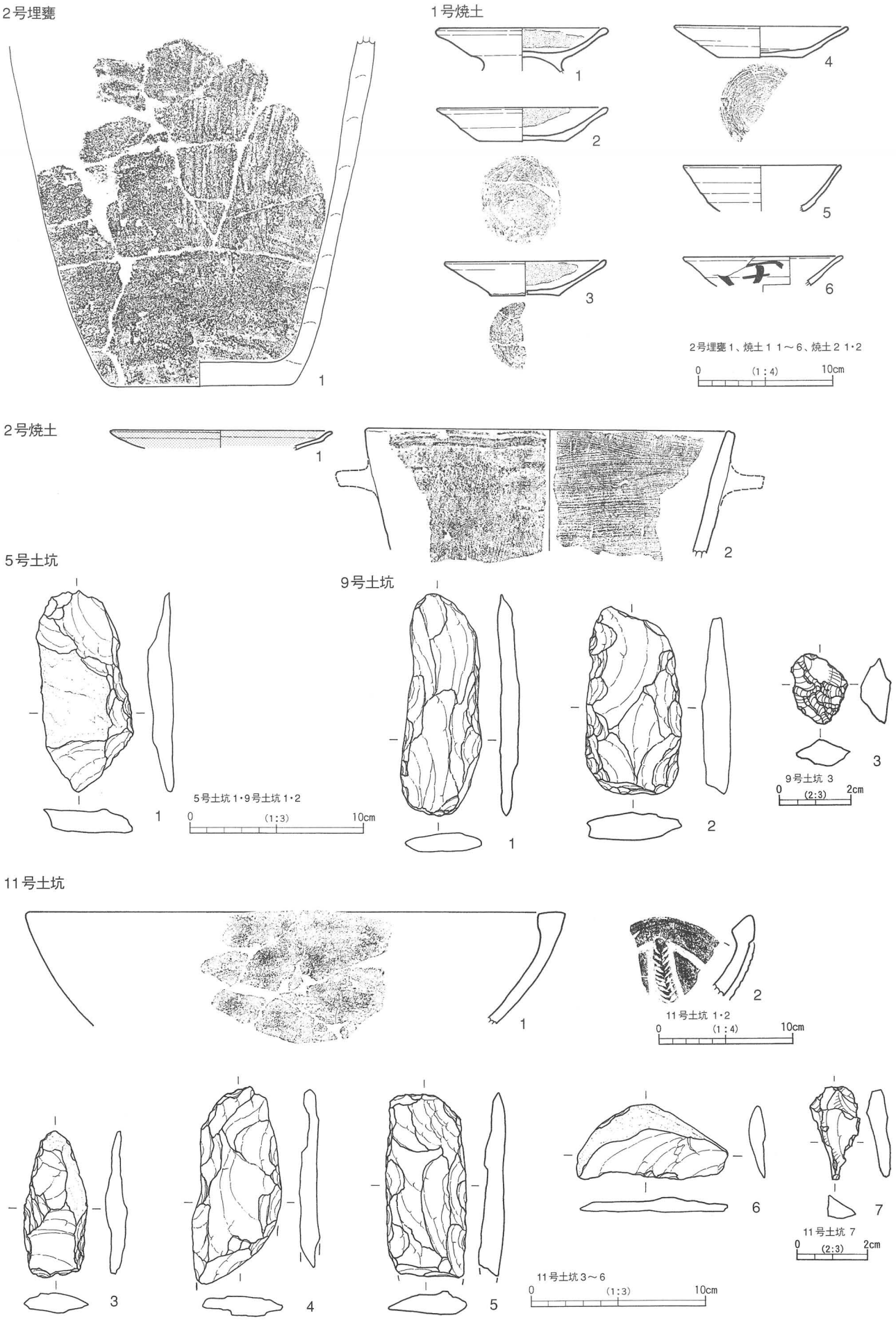
13号竪穴



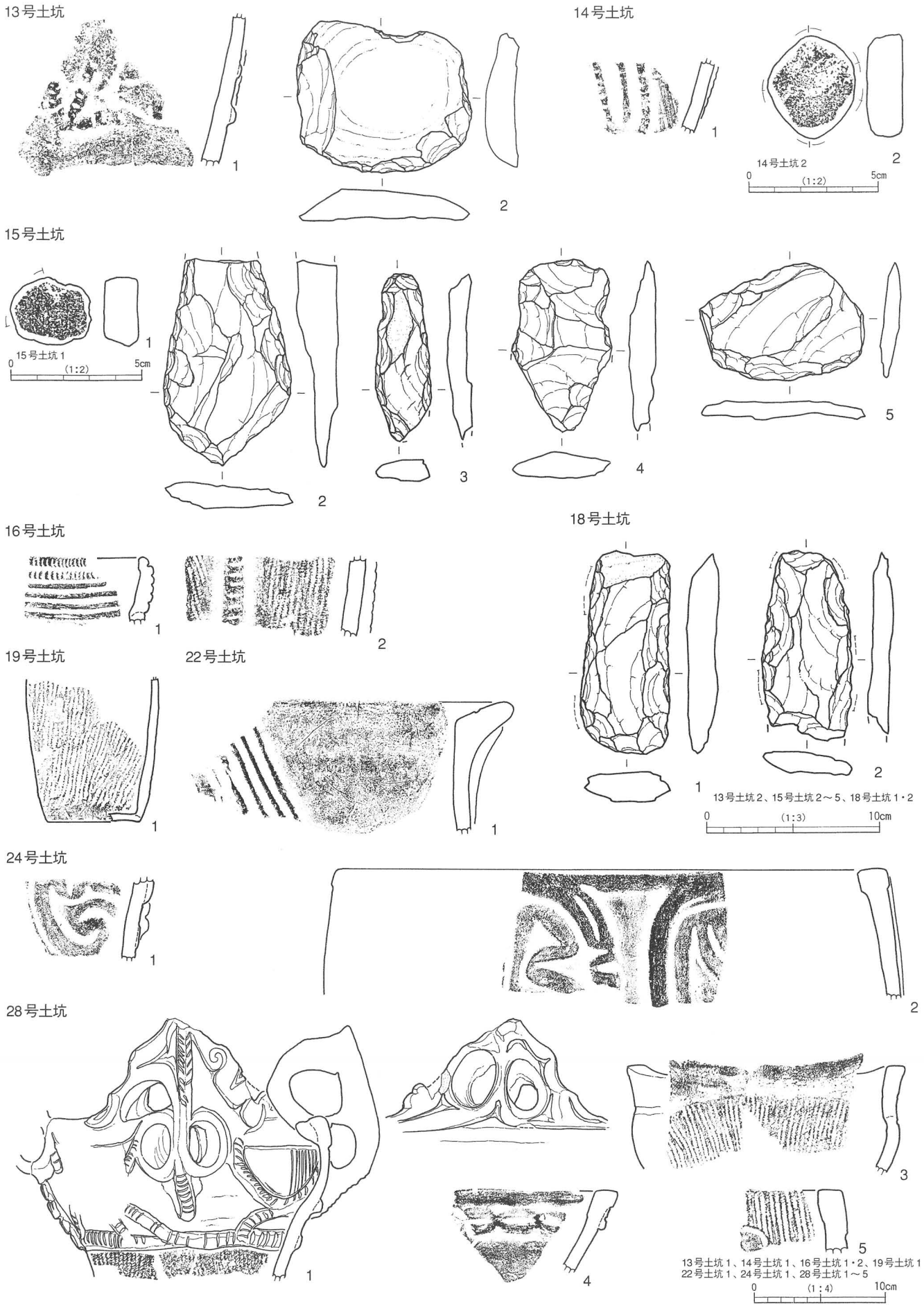
1号埋甕



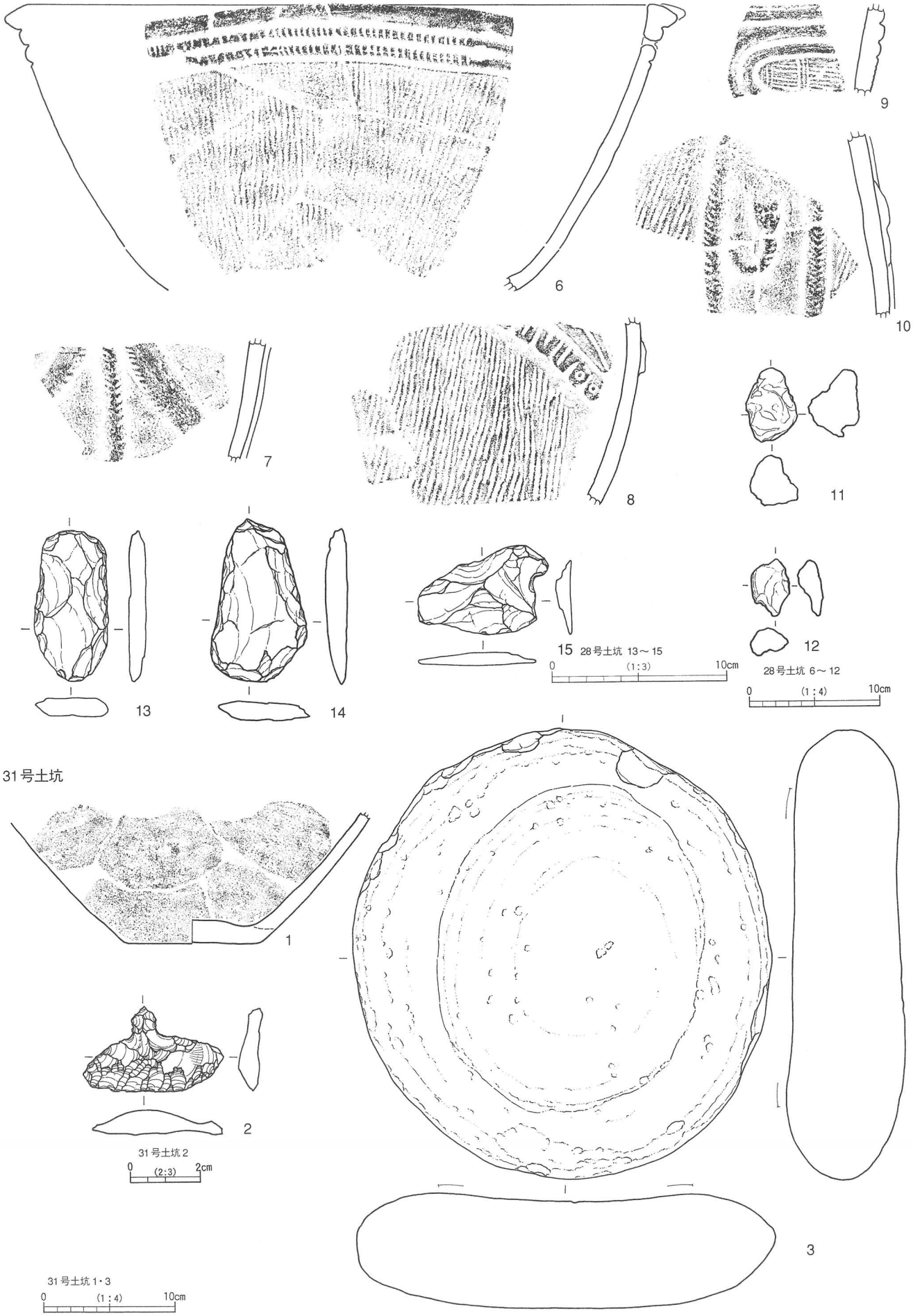
第66図　13号竪穴遺物、1号埋甕遺物



第67図　2号埋甕遺物、1・2号焼土遺物、5・9・12号土坑遺物

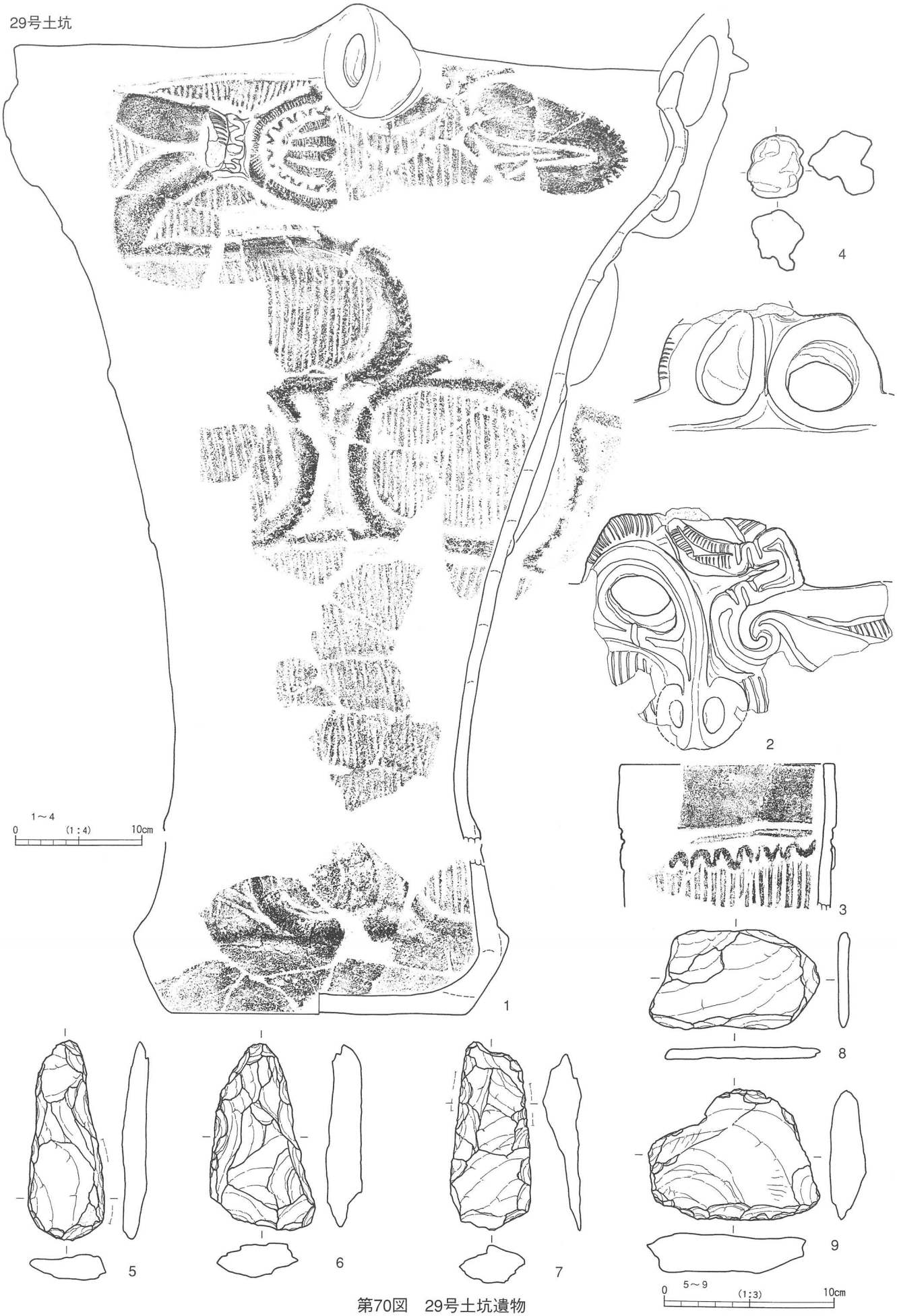


第68図　13～16・18・19・22・24号土坑遺物、28号土坑遺物（1）

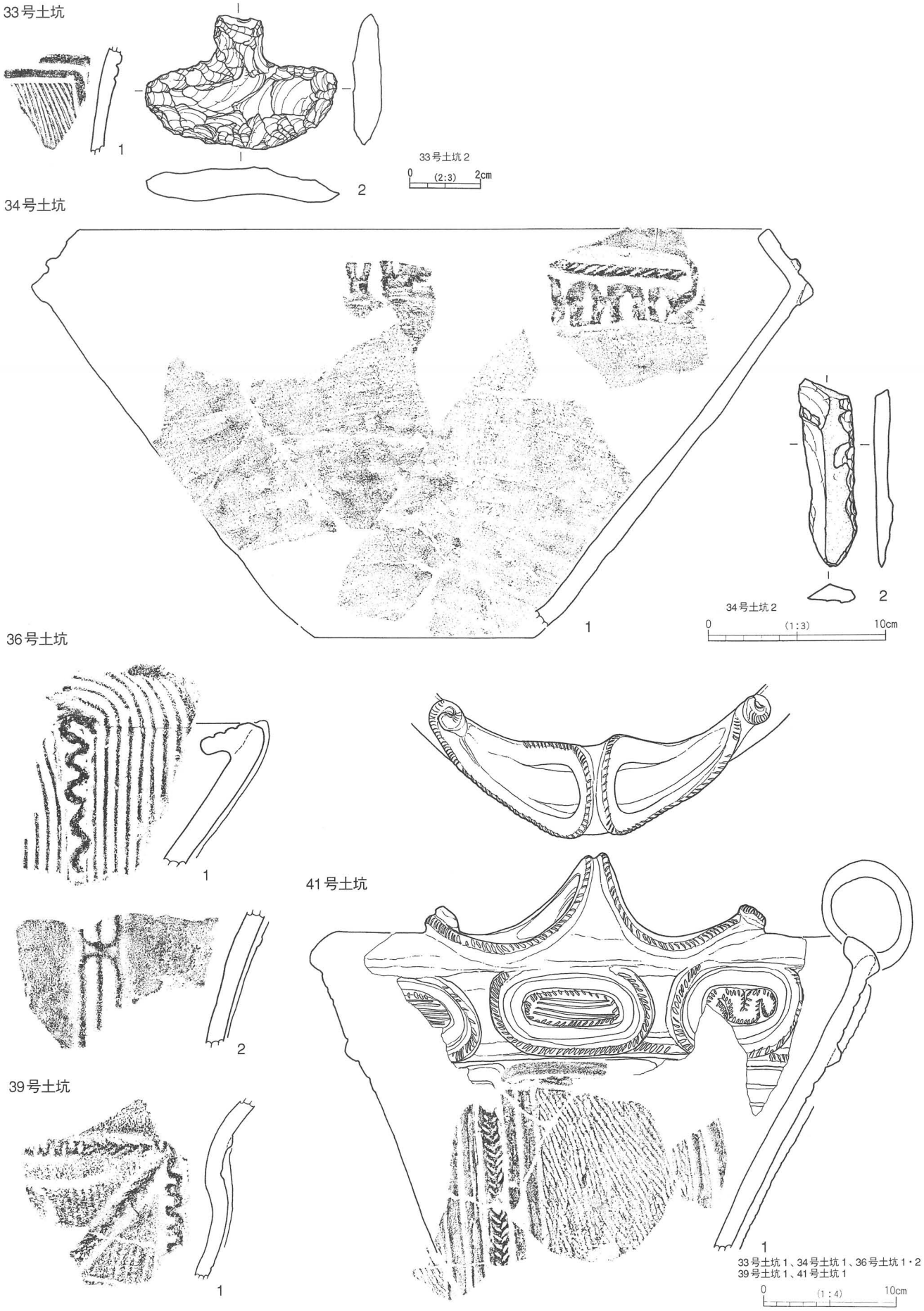


第69図　28号土坑遺物（2）、31号土坑遺物

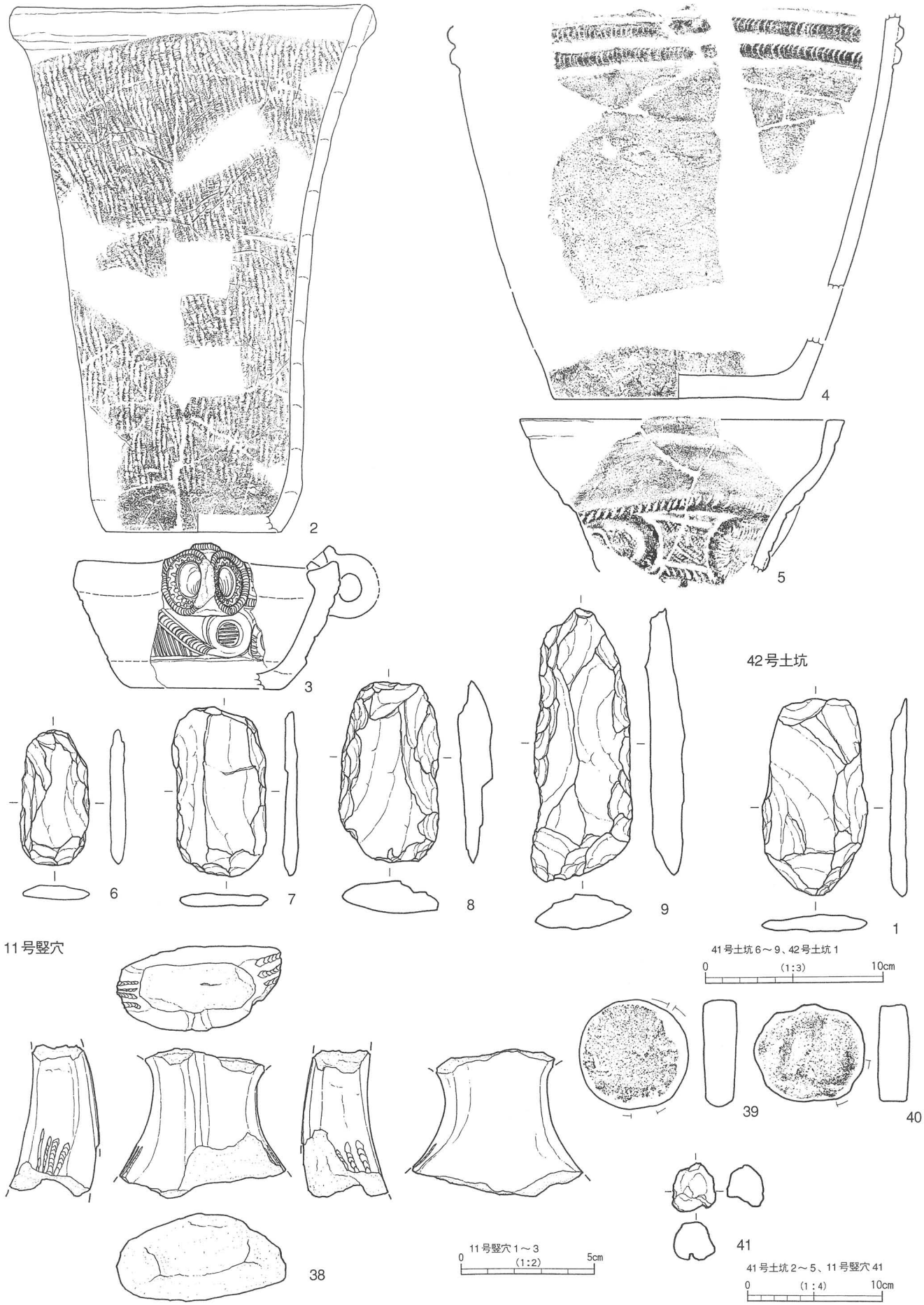
29号土坑



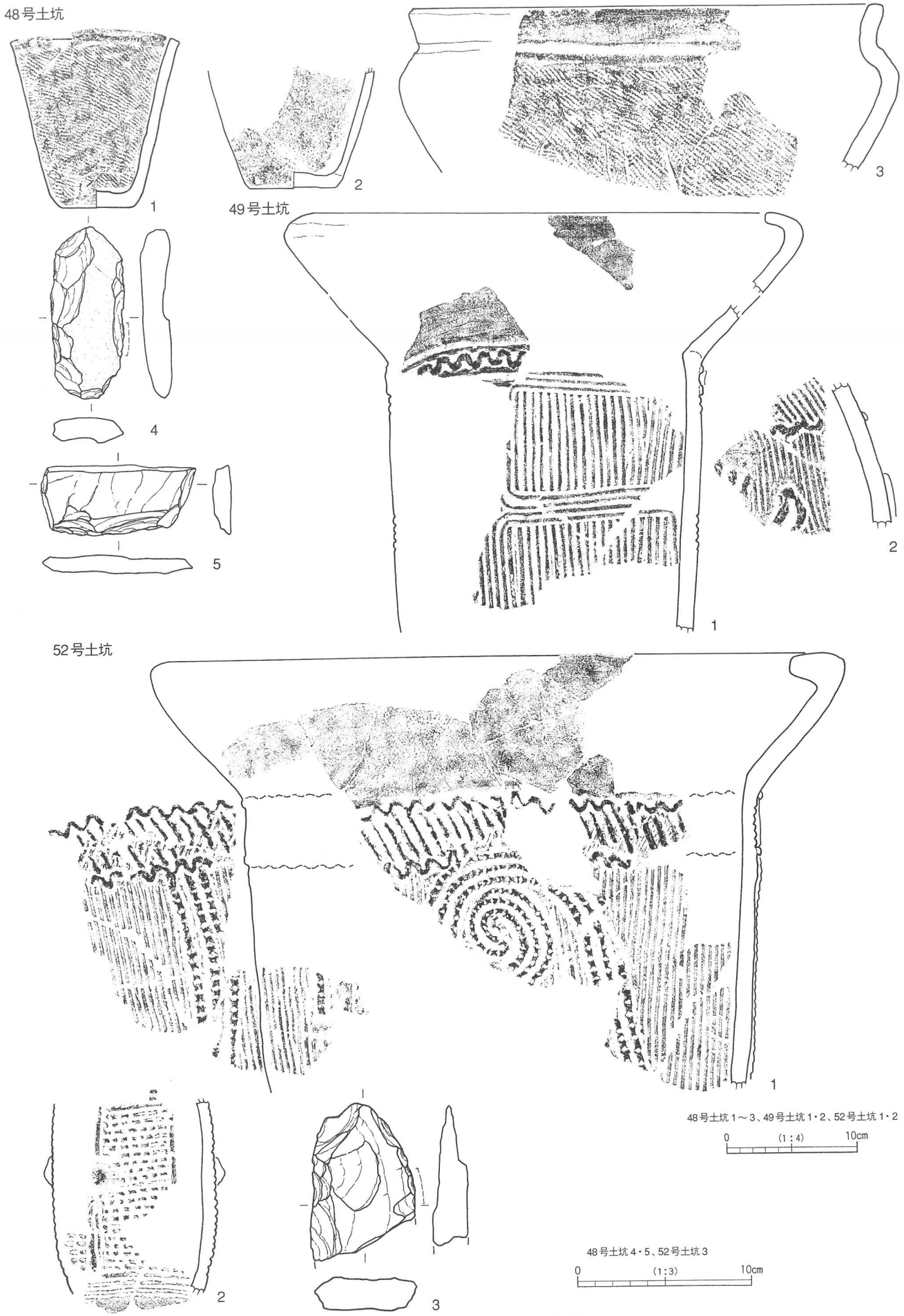
第70図　29号土坑遺物



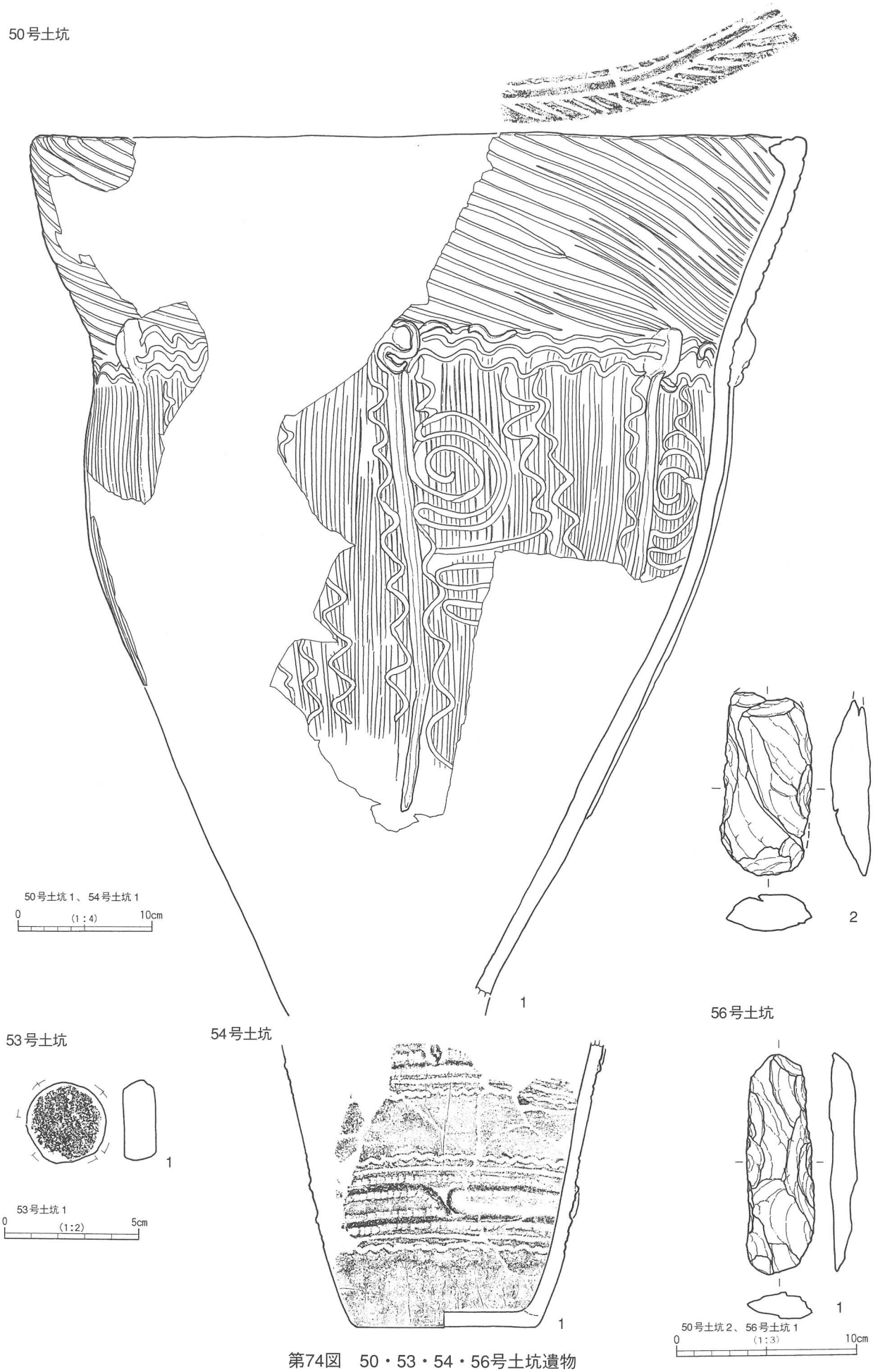
第71図　33・34・36・39号土坑遺物、41号土坑遺物（1）



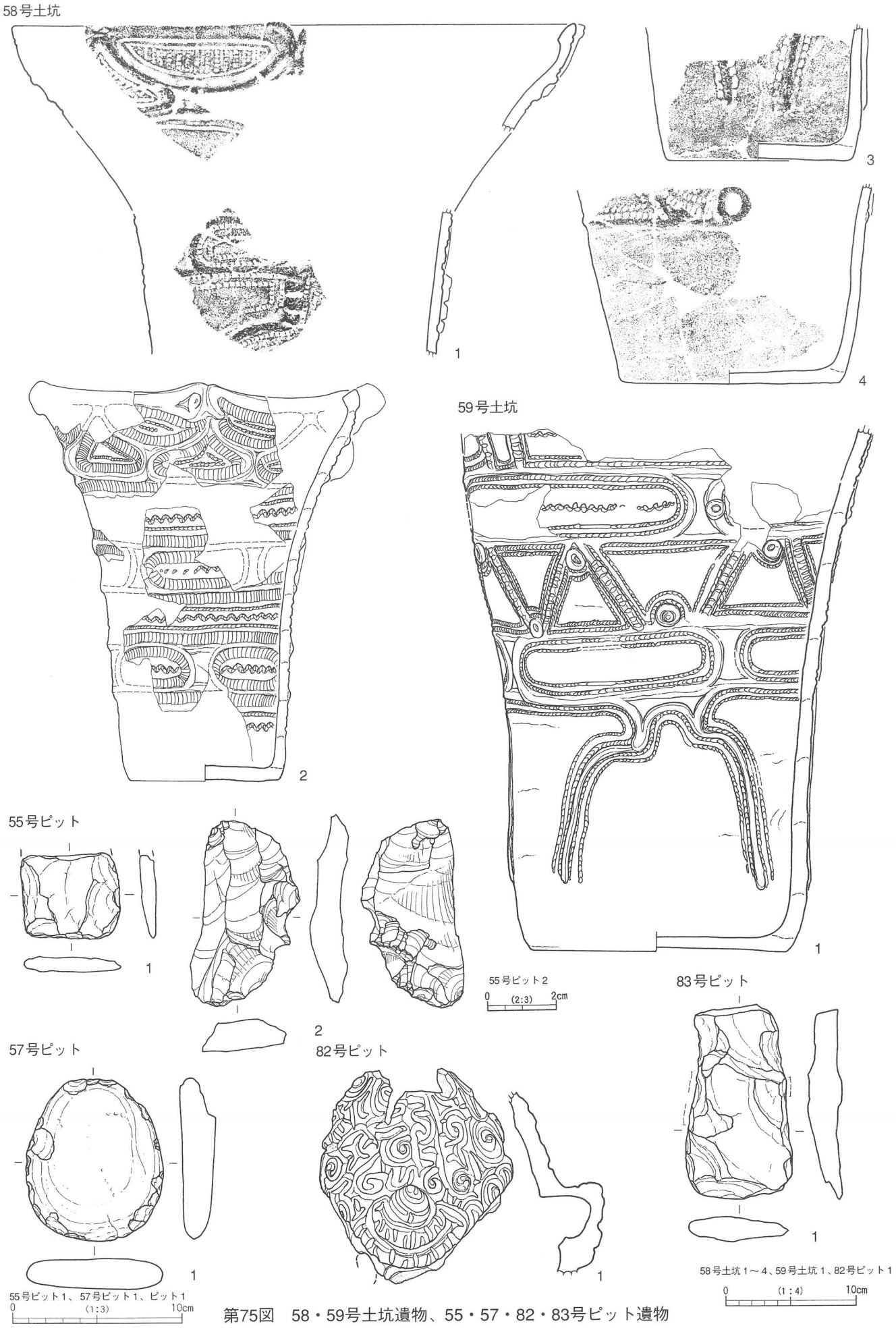
第72図　41号土坑遺物（2）、42号土坑遺物、11号竪穴遺物（4）



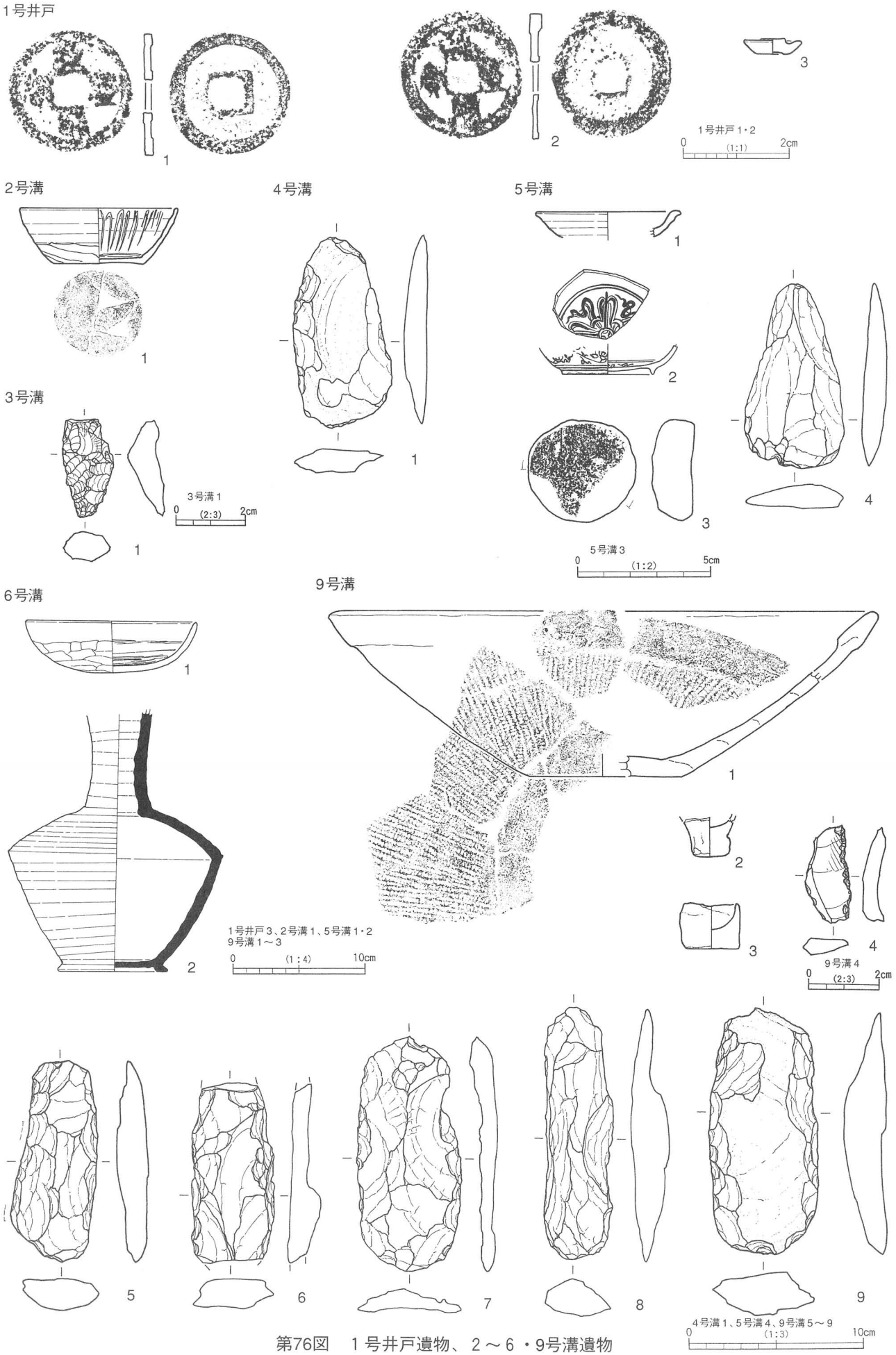
第73図　48・49・52号土坑遺物



第74図　50・53・54・56号土坑遺物

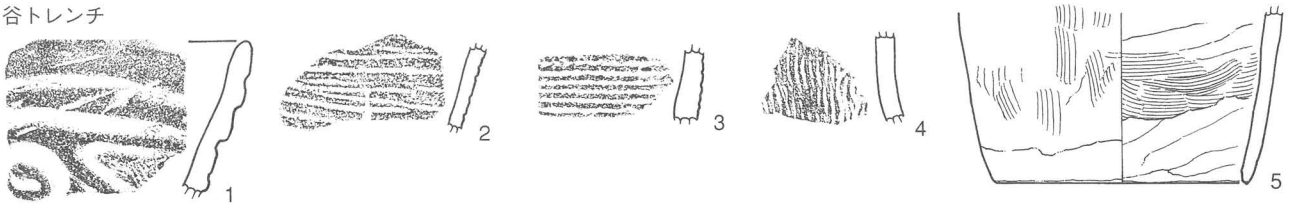


第75図　58・59号土坑遺物、55・57・82・83号ピット遺物

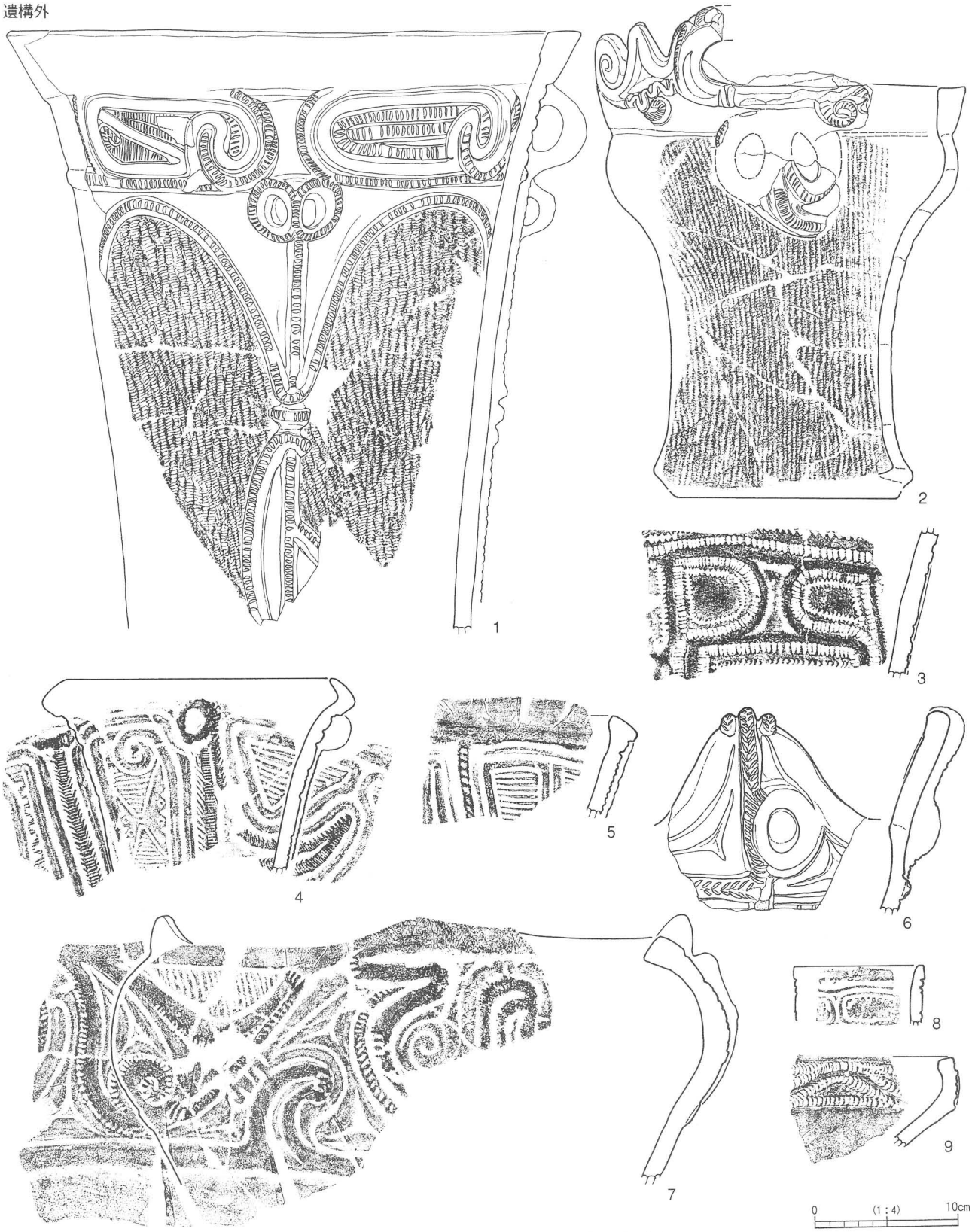


第76図　1号井戸遺物、2～6・9号溝遺物

谷トレンチ

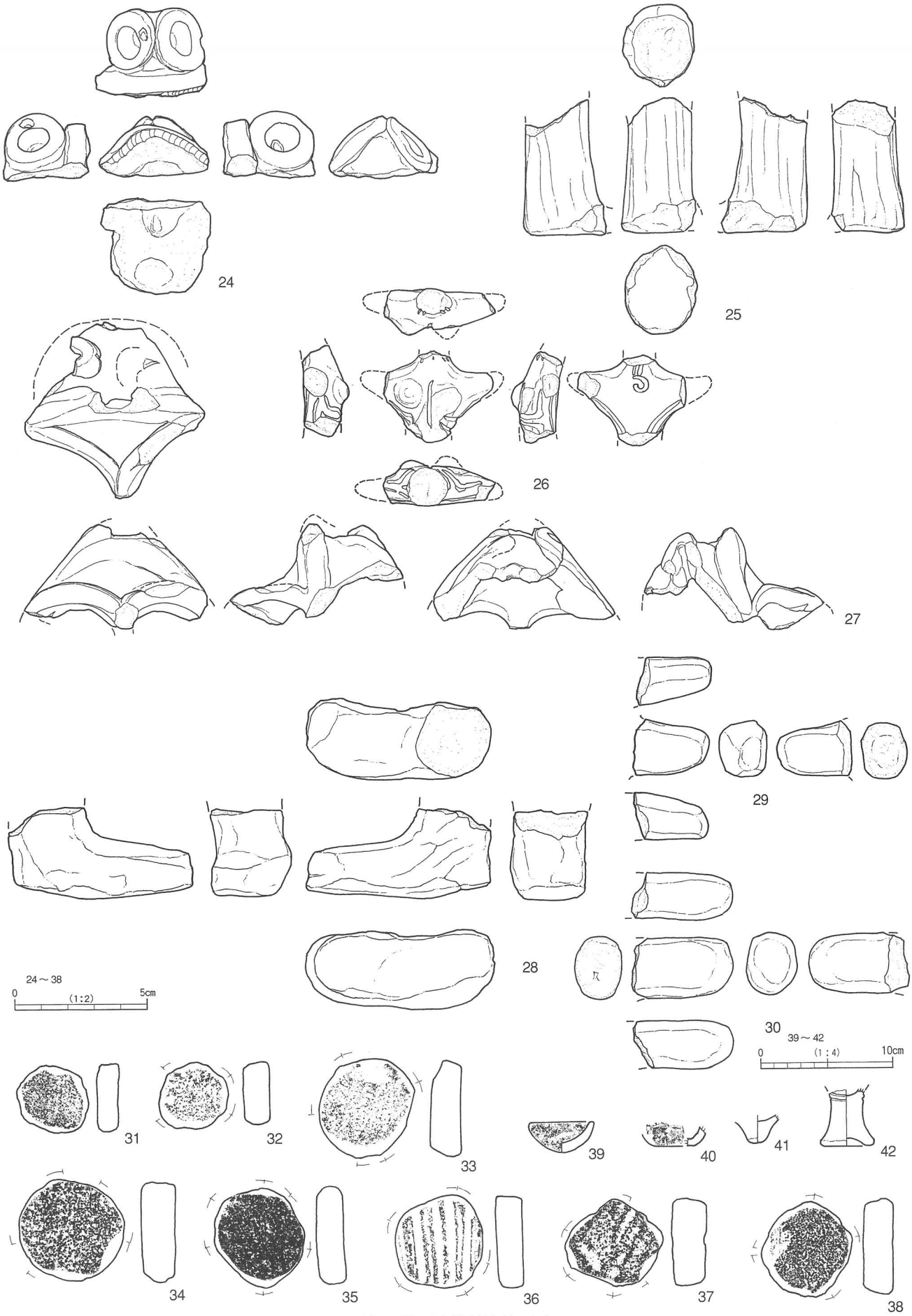


遺構外

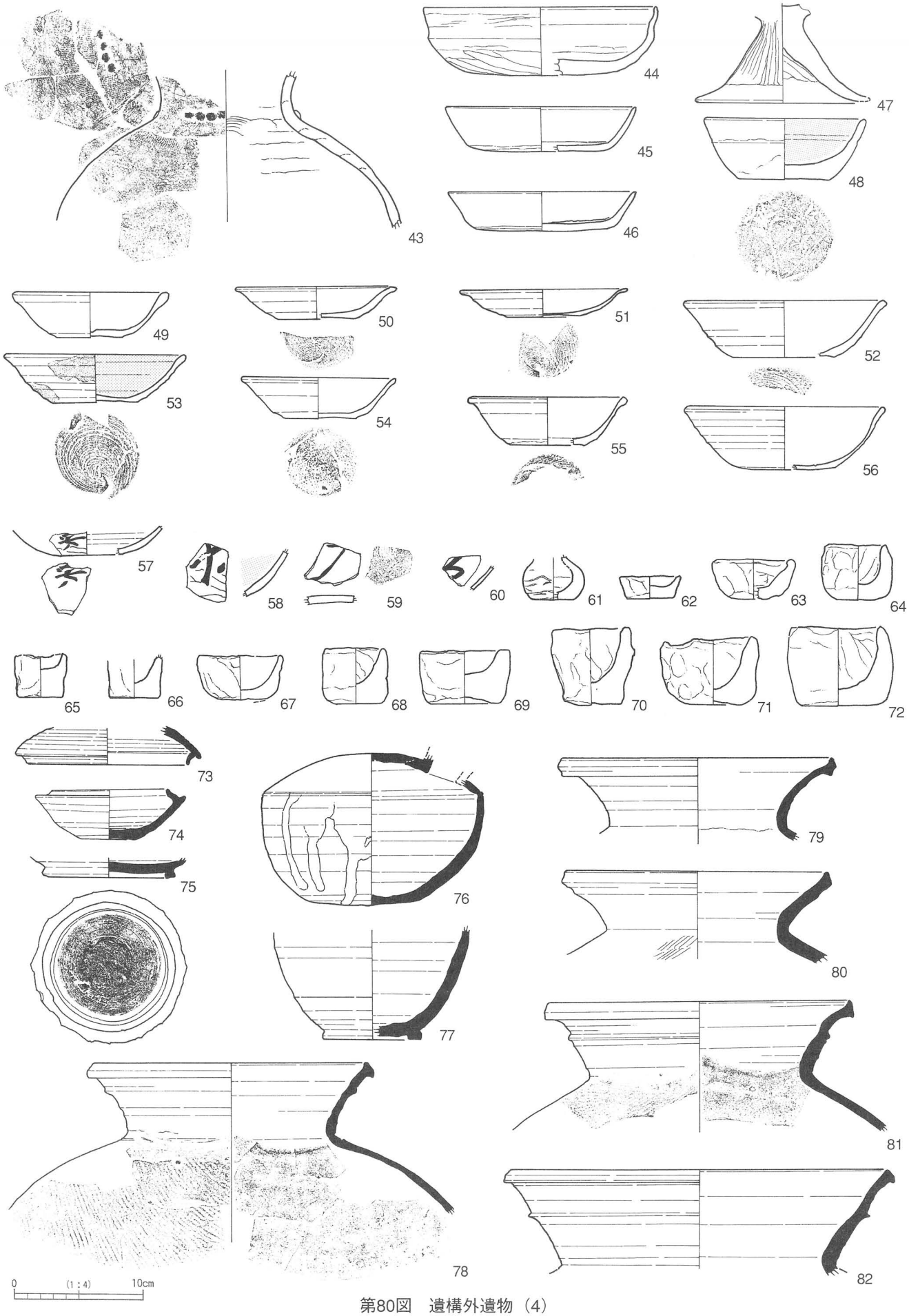


第77図　谷トレンチ遺物、遺構外遺物（1）

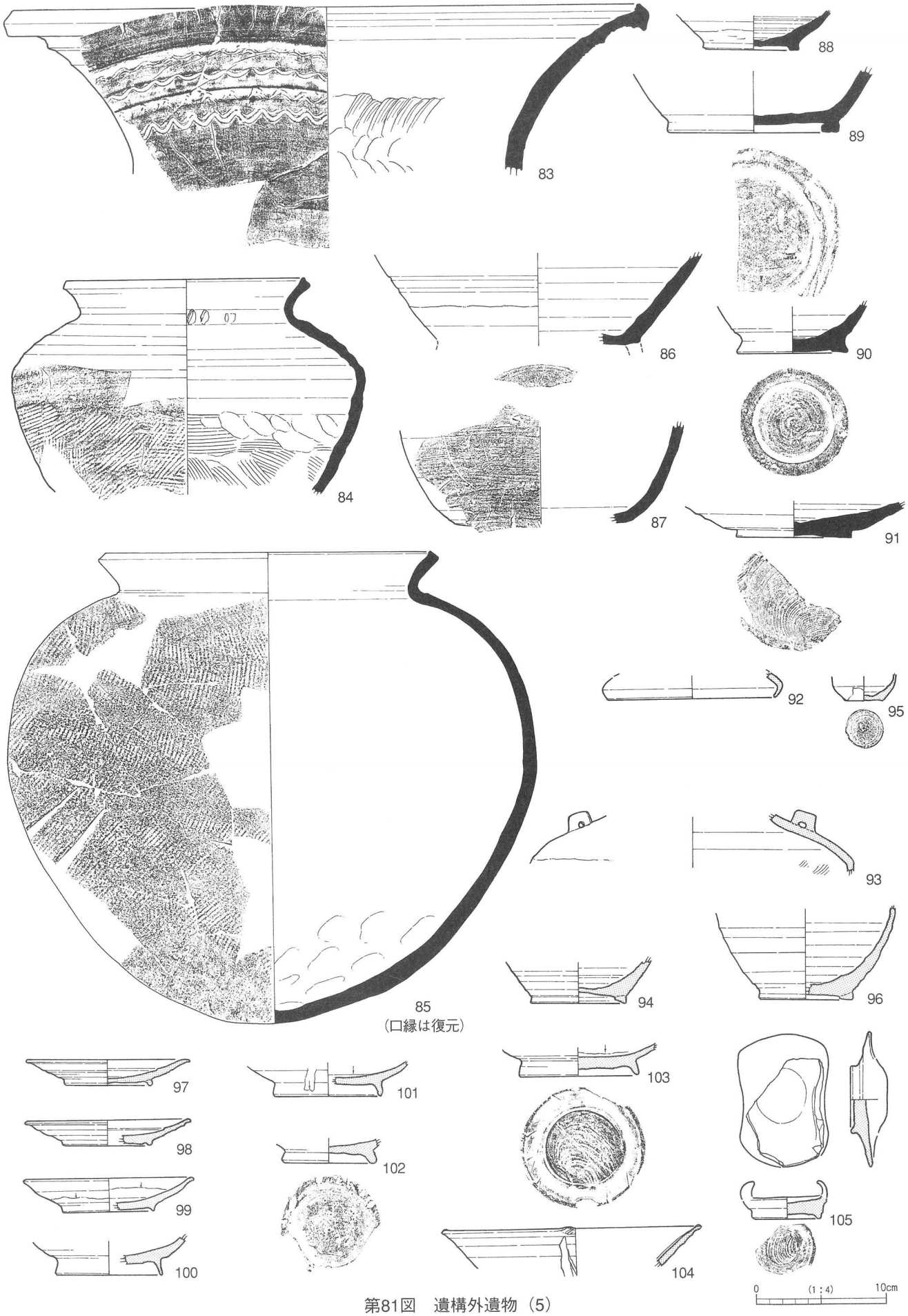
第78図　遺構外遺物（2）


24
25
26
27
29
28
30
24～38
0
(1:2)
5cm
39～42
0
(1:4)
10cm
31
32
33
39
40
41
42
34
35
36
37
38

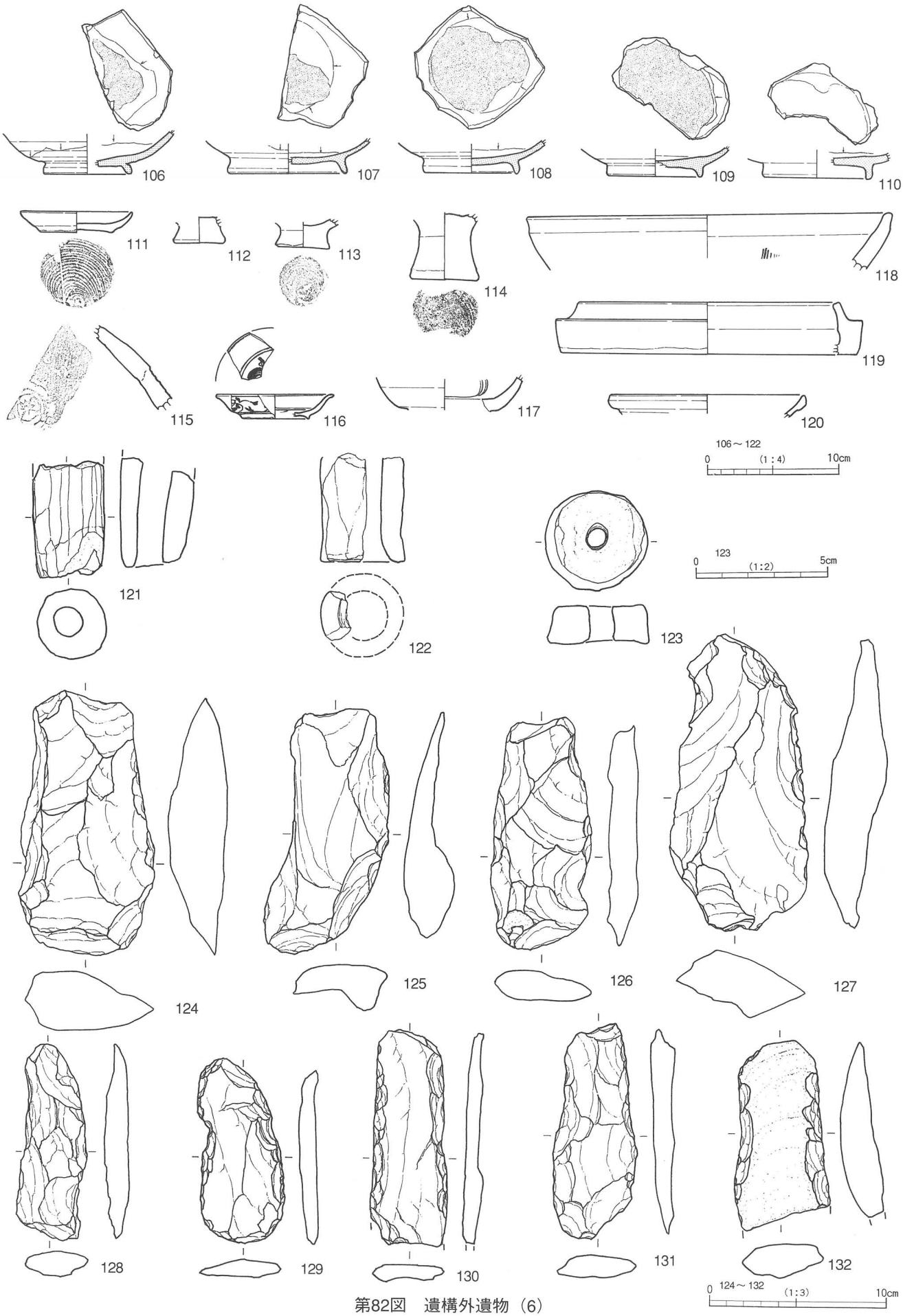
第79図　遺構外遺物（3）


43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
0
(1：4)
10cm

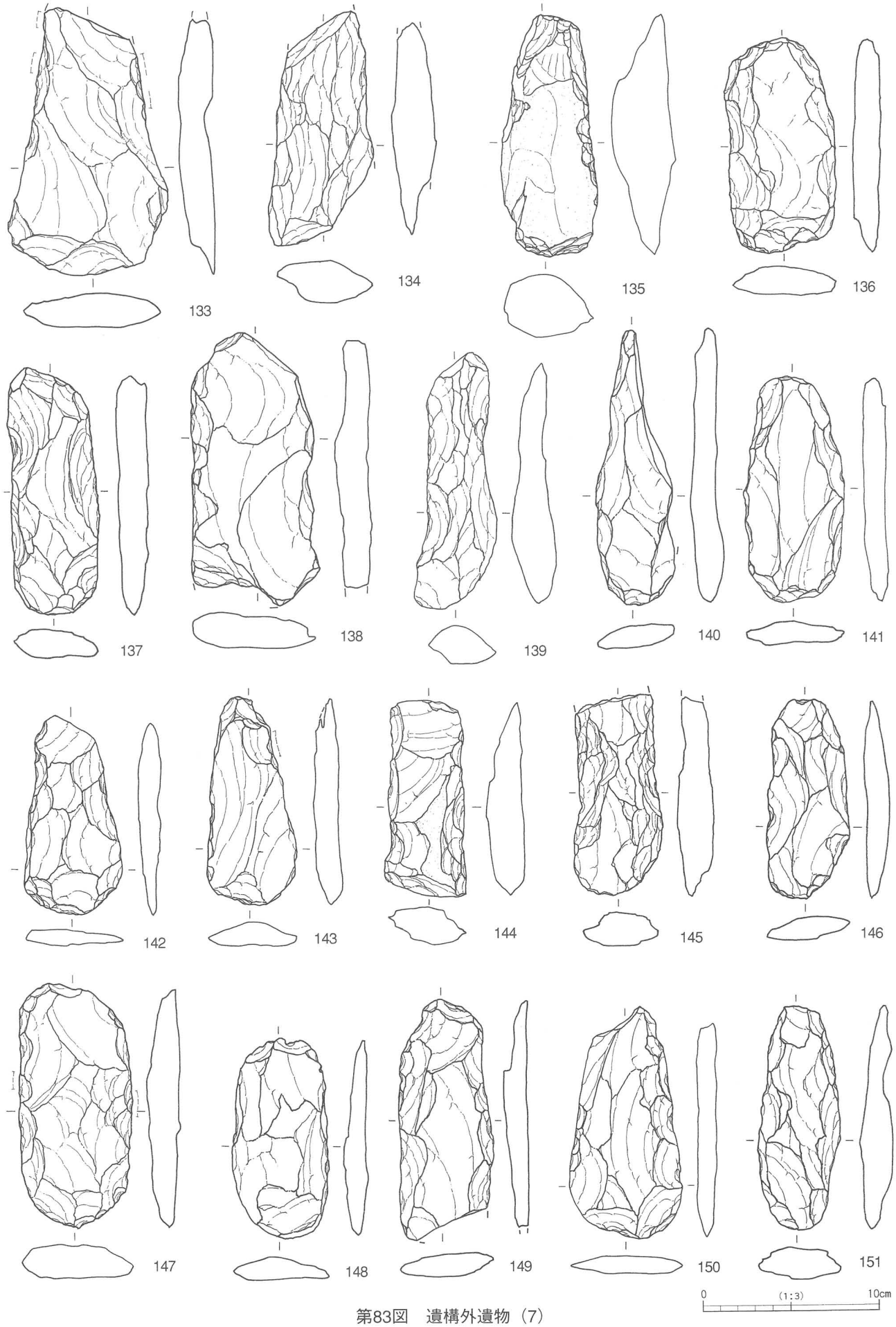
第80図　遺構外遺物（4）


83
84
85
(口縁は復元)
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
0
(1：4)
10cm

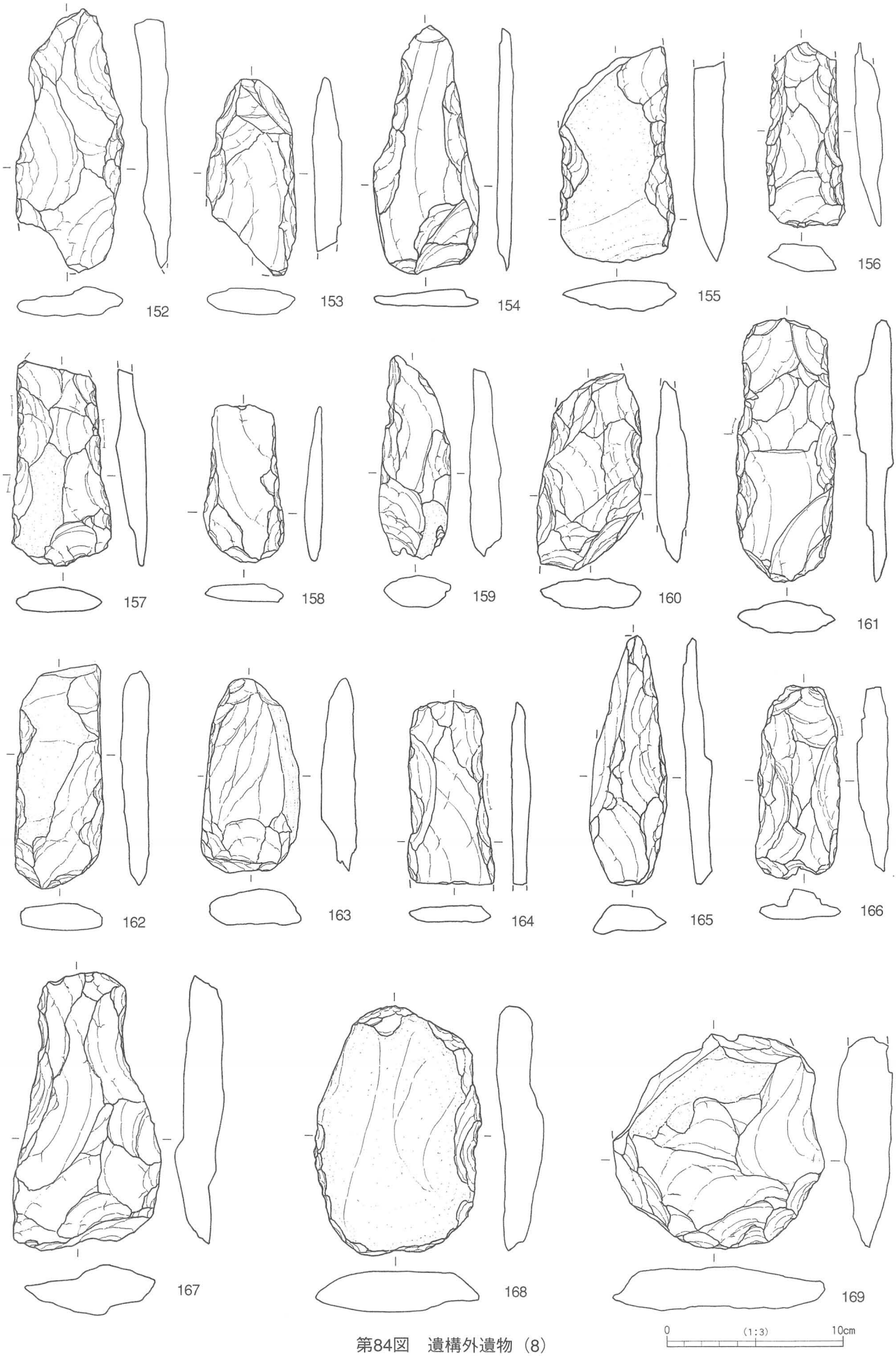
第81図　遺構外遺物（5）


106
107
108
109
110
111
112
113
114
118
119
115
116
117
120
106～122
0
(1：4)
10cm
121
122
123
0
123
(1:2)
5cm
124
125
126
127
128
129
130
131
132
0
124～132
(1:3)
10cm

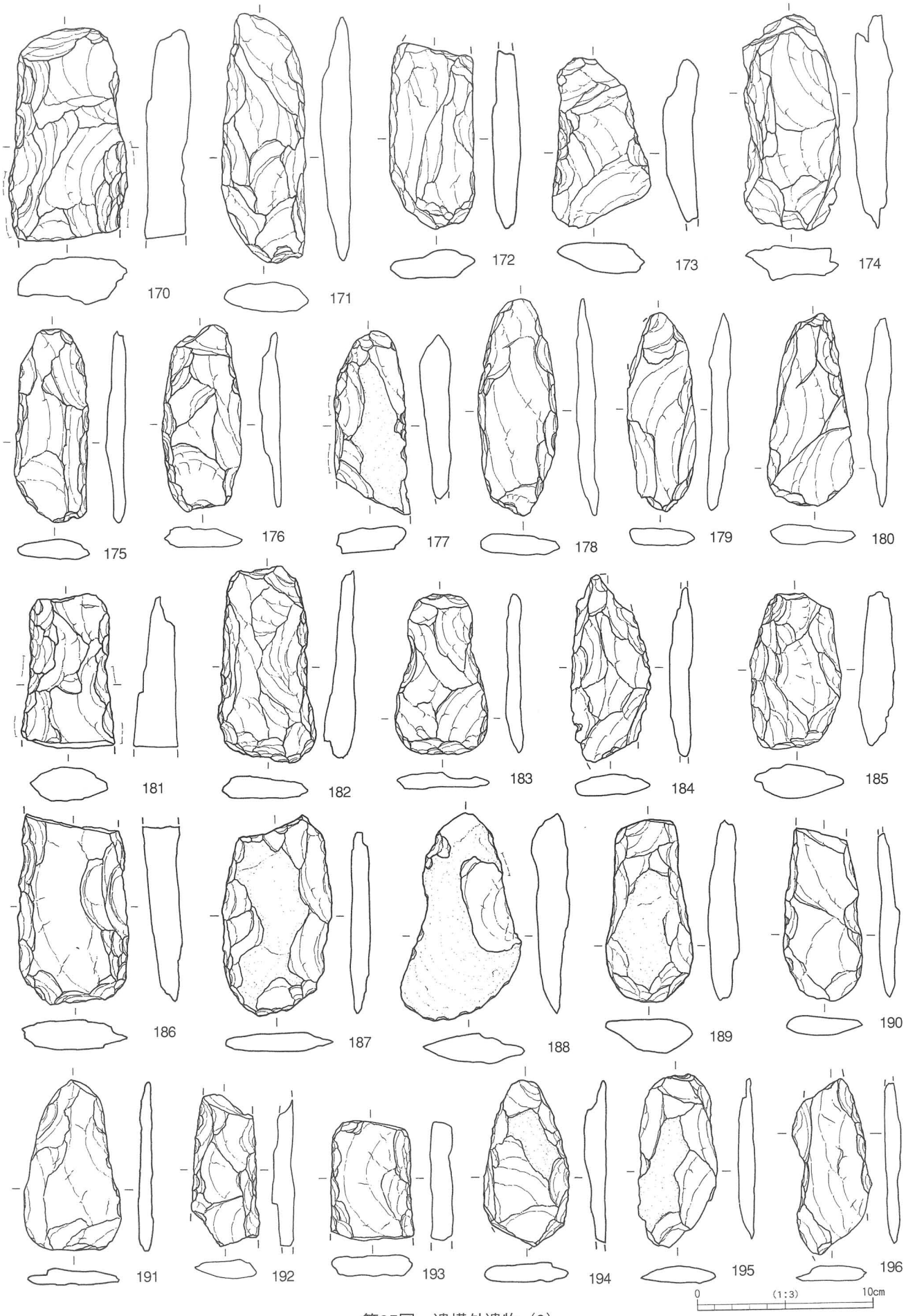
第82図　遺構外遺物（6）


133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
0
(1:3)
10cm

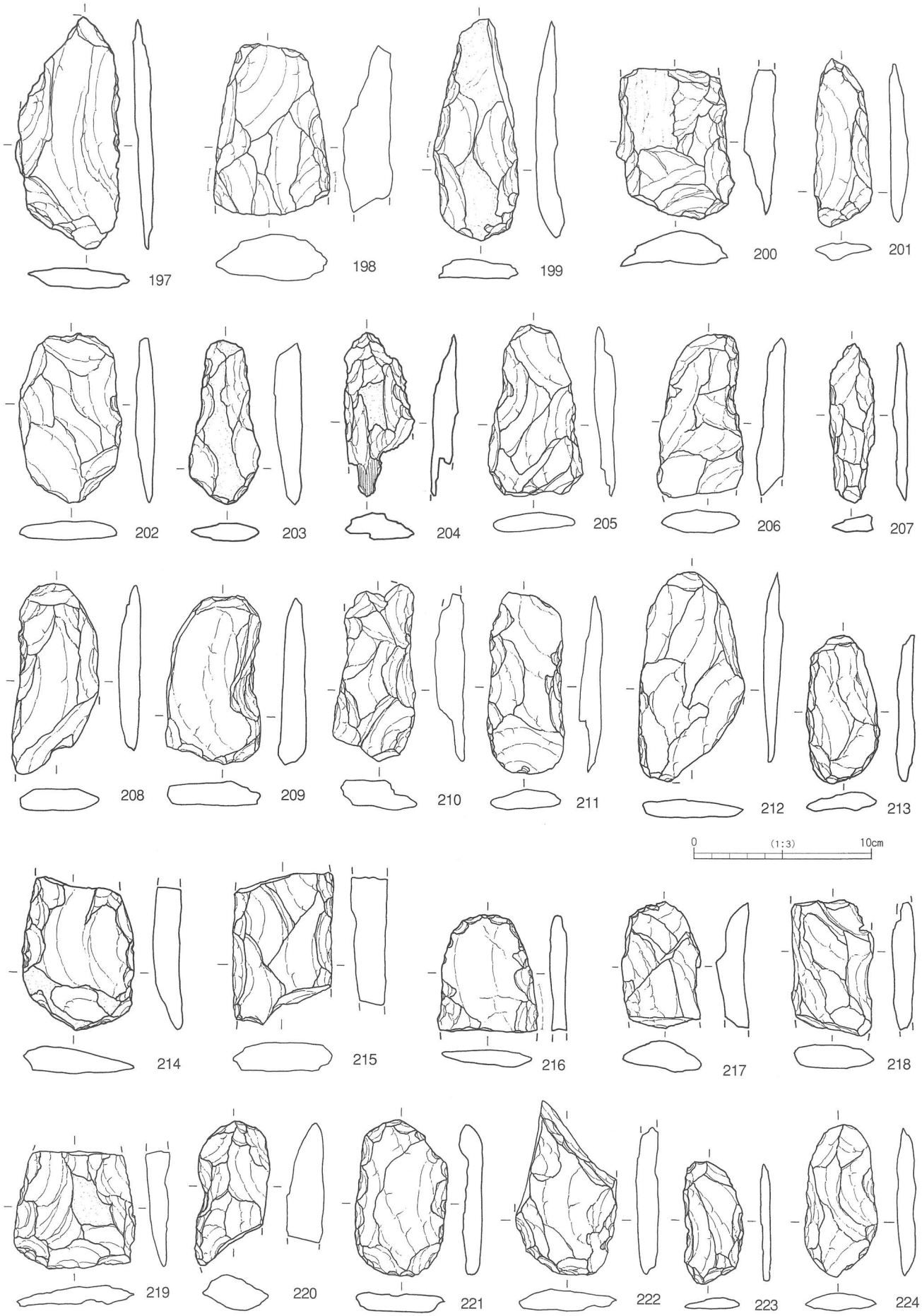
第83図　遺構外遺物（7）


152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
0
(1:3)
10cm

第84図　遺構外遺物（8）

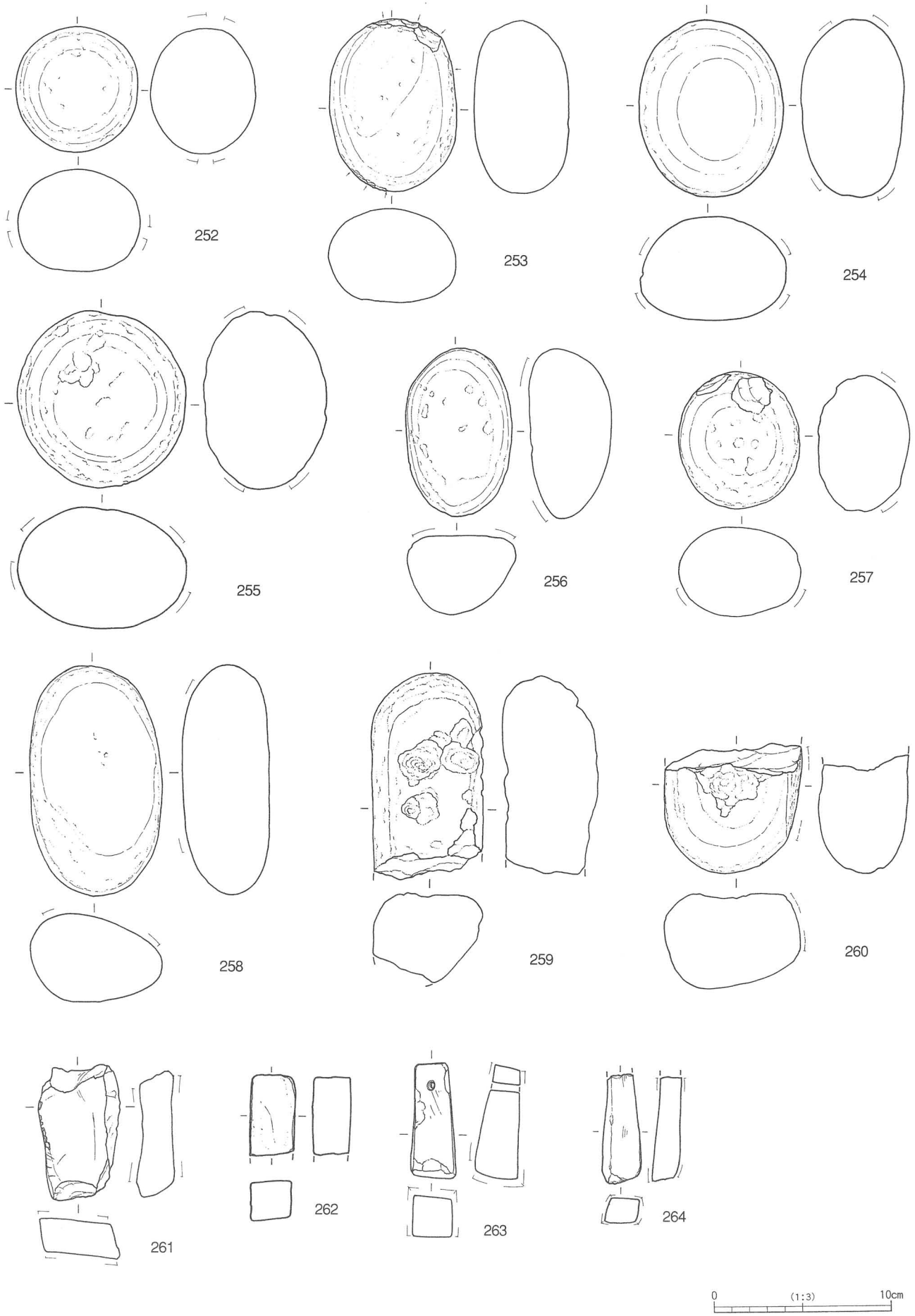

170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
0
(1:3)
10cm

第85図　遺構外遺物（9）

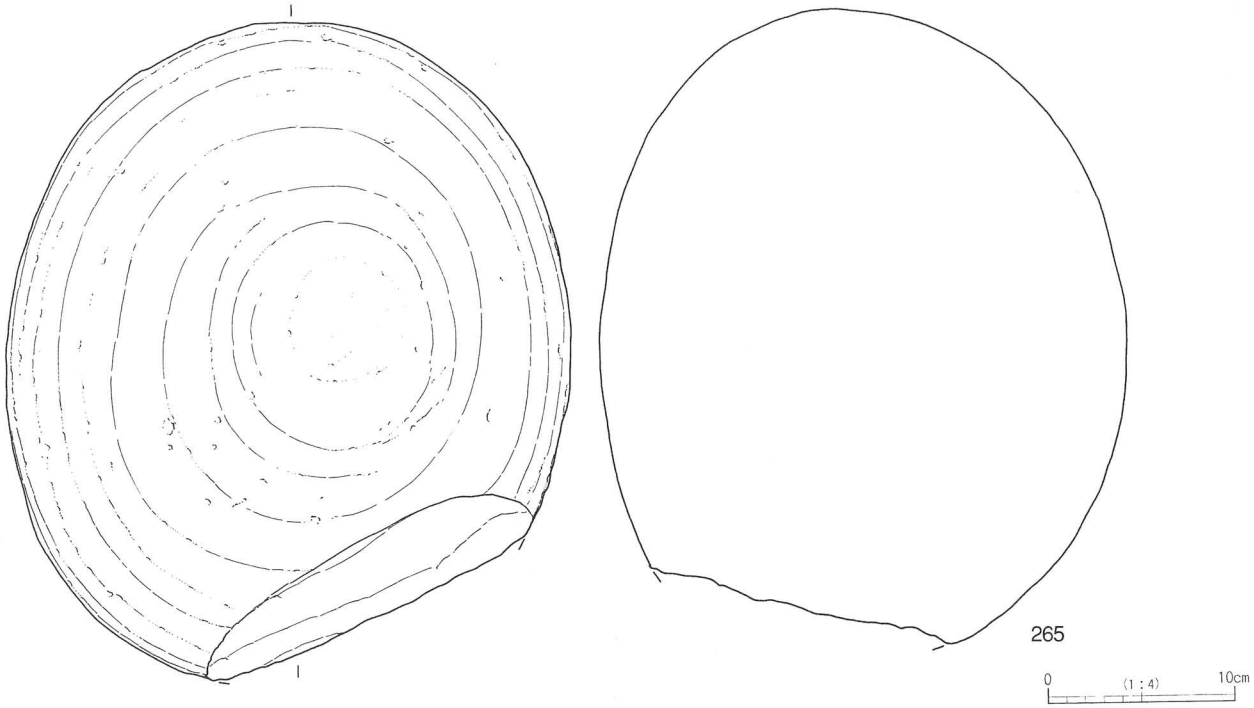


第86図　遺構外遺物（10）

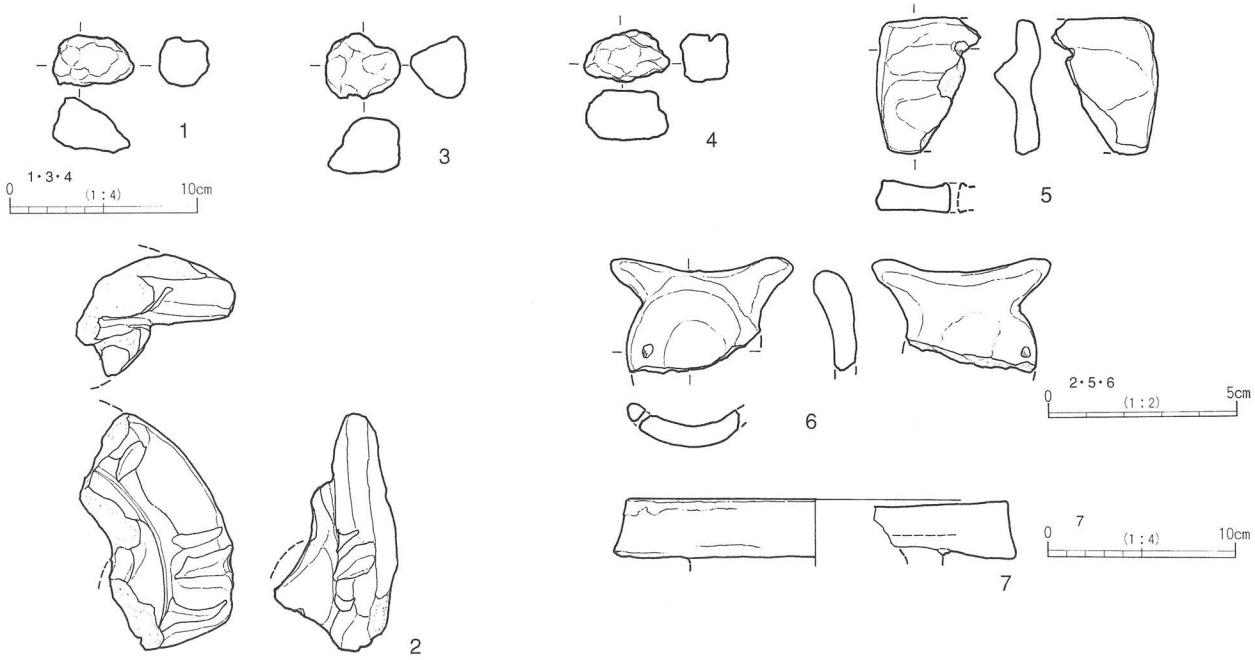
第87図　遺構外遺物（11）



第88図　遺構外遺物（12）



第89図　遺構外遺物（13）



第90図　追加資料

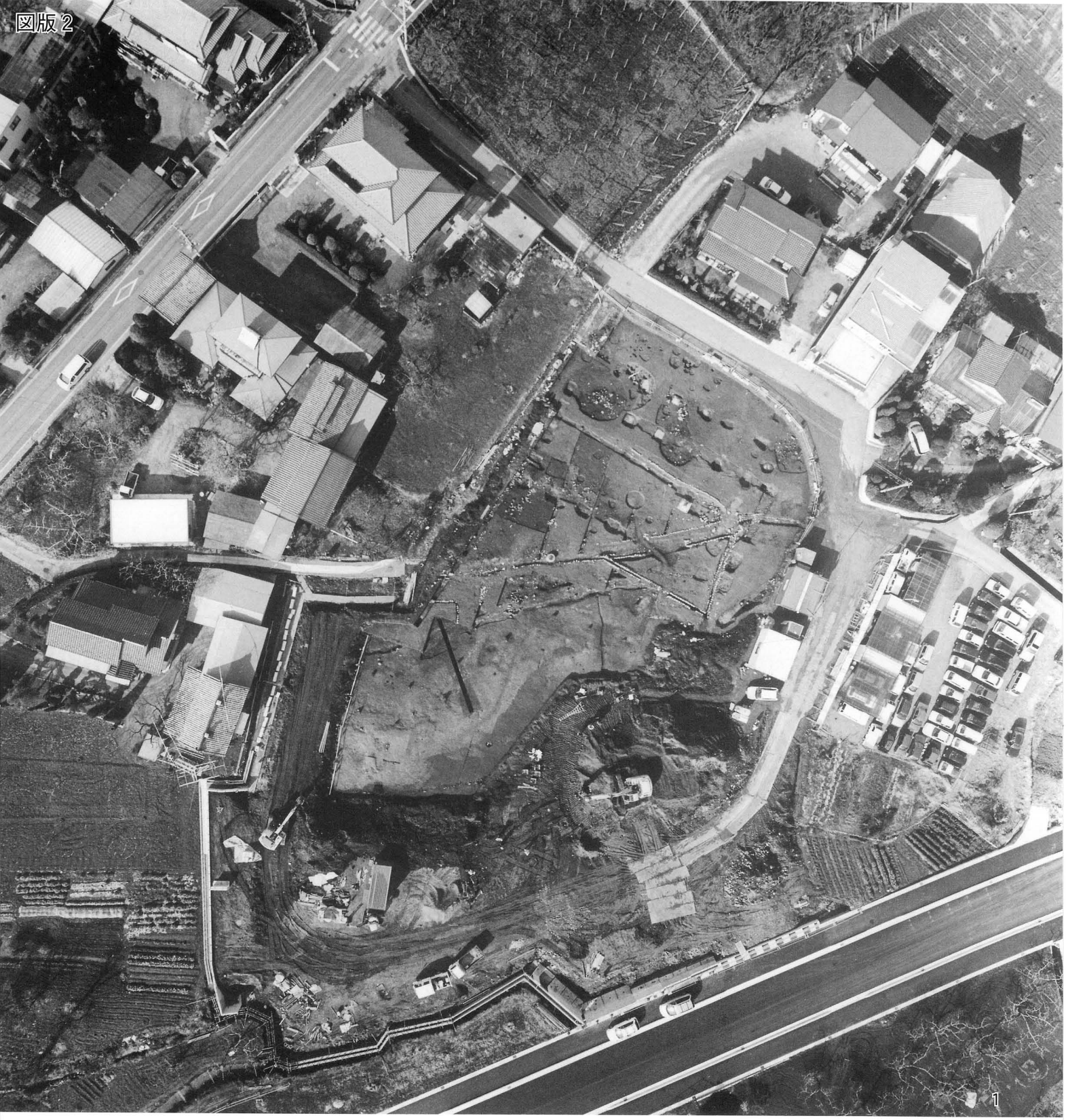
表６　追加遺物観察表

図版	地点	No.	種別	時期	長/短/厚cm 口/底/高cm	重さｇ	整形技法等	色調	胎土	注記	備考
90	1号竪穴	1	焼成粘土塊	縄文中期	4.2/2.8/2.7	24.0	指頭痕など	暗褐色	長-やや多、雲	1竪	
90	1号竪穴	2	土偶?	縄文中期	6.3/4.0/3.3	34.0	沈線、ナデ	橙褐色	雲、赤、長	1竪	
90	5号竪穴	3	焼成粘土塊	縄文中期	4.0/3.4/2.9	27.0		暗褐色	長-多、赤	5竪	
90	5号竪穴	4	焼成粘土塊	縄文中期	4.7/2.8/2.6	25.0	指頭痕など	暗褐色	長-大・多、角、赤	5竪63ピ	
90	12号土坑	5	不明土製品	縄文中期	3.5/2.9/1.3	6.0	ナデ	茶褐色	長、雲、石	12土	
90	45号土坑	6	角皿状土製品	縄文中期	4.8/3.0/1.2	10.0	ナデ、径1.5mmの孔	黄褐色	雲-多、長、角	45土	
90	13号土坑	7	台形土器	縄文中期	(20.2/13.5/-)	180.0	ナデ	橙褐色	長-多、赤、雲	13土342	受け面滑らか

図版 1

1

2

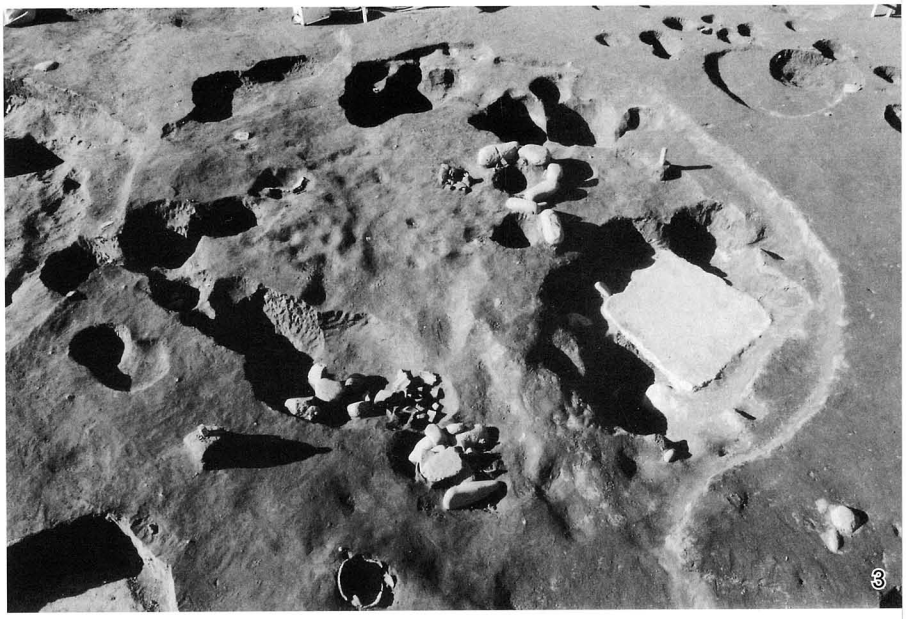


図版１－１：調査空撮（東より）
　　２：同（南より）

図版２－１：調査空撮（上より）
　　２：遺跡全景（南より）

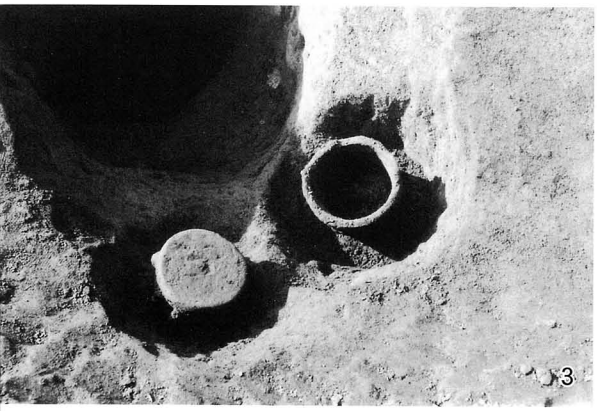
1：1・2号竪穴炉
（左：1号竪穴炉、右：2号竪穴炉）

2・3：同完掘状況



4～8：4号竪穴遺物出土状況
（7・8：床面出土土器出土状況）

図版 4



1：4号竪穴完掘状況

2・3：同遺物出土状況

4：5号竪穴調査風景

5：同履土中礫出土状況

6・7：同土偶・土製品出土状況

図版５

図版５－１：５号竪穴内礫・遺物出土状況

２：同完掘状況

３：同炉体土器半裁状況

４～８：同土器出土状況

図版６－１：６号竪穴出土状況

２：同完掘状況

３：同49号ピット礫出土状況

４：同炉完掘状況

５：７～９号竪穴完掘状況

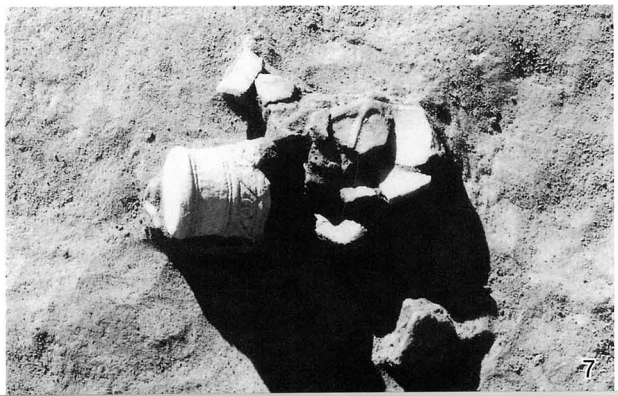
６：８号竪穴遺物出土状況

７：７号竪穴竈

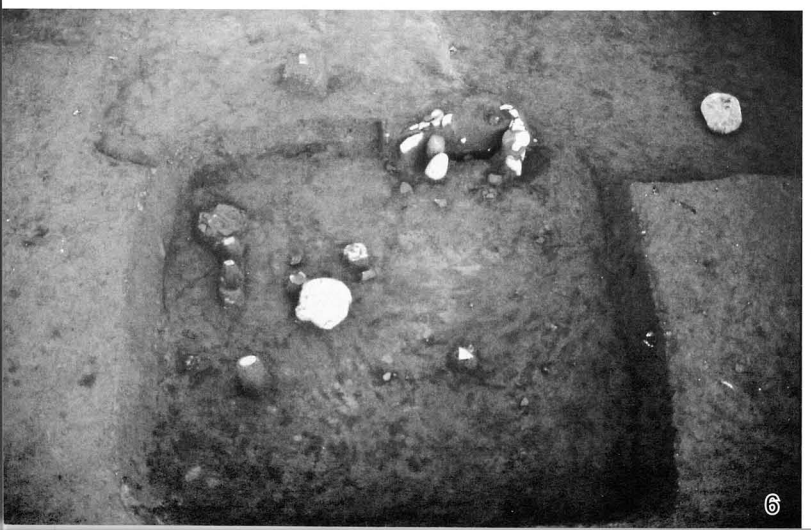
８：８号竪穴竈

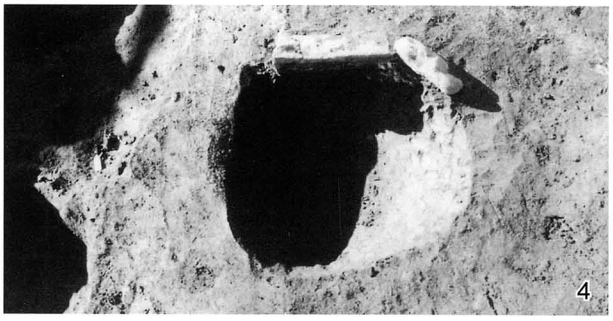
９：９号竪穴竈内坏出土状況

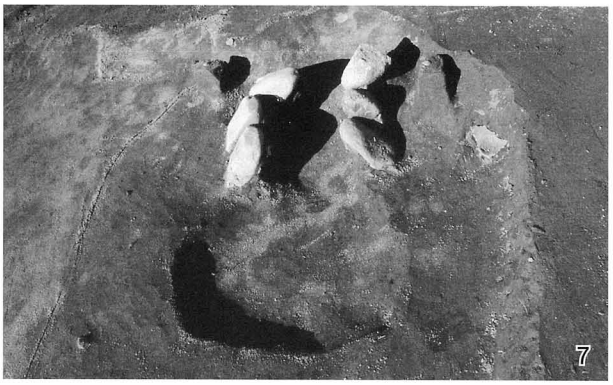
10：９号竪穴竈

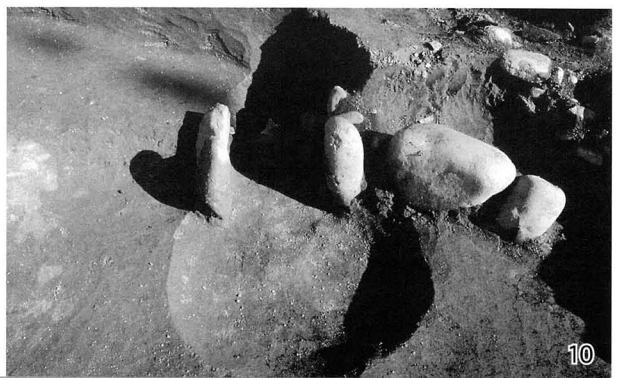


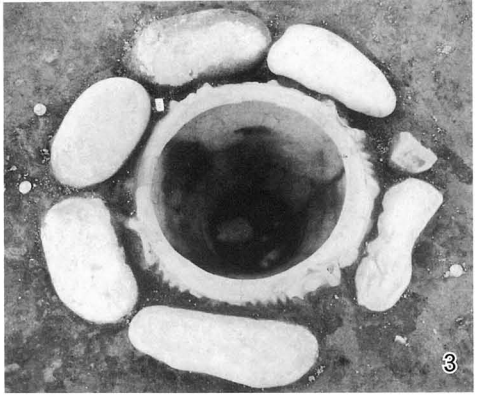
図版 6

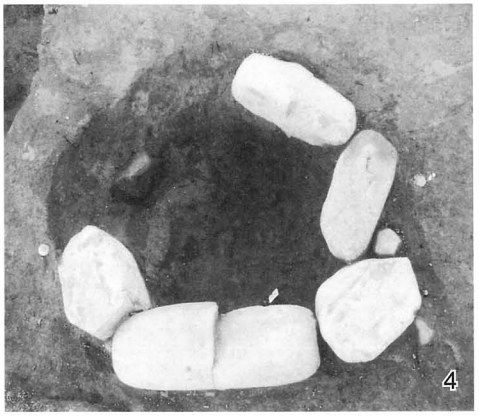












1：10号竪穴遺物出土状況

2：同完掘状況

3：同炉A

4：同炉B

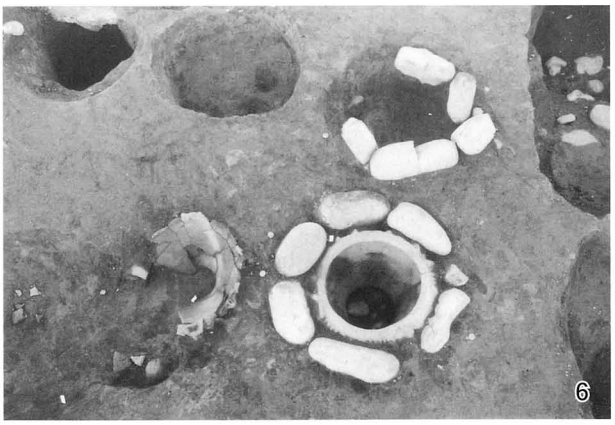
5：同炉C

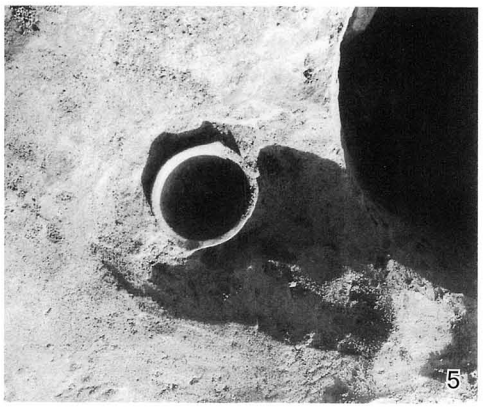
6：炉A～C

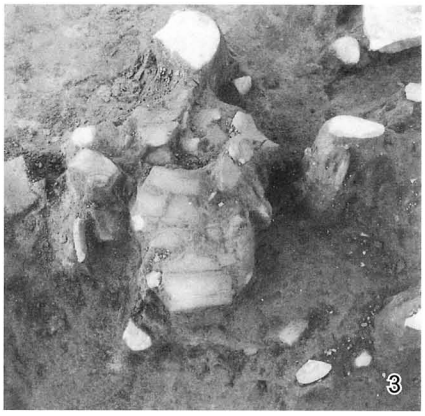
7：同遺物出土状況

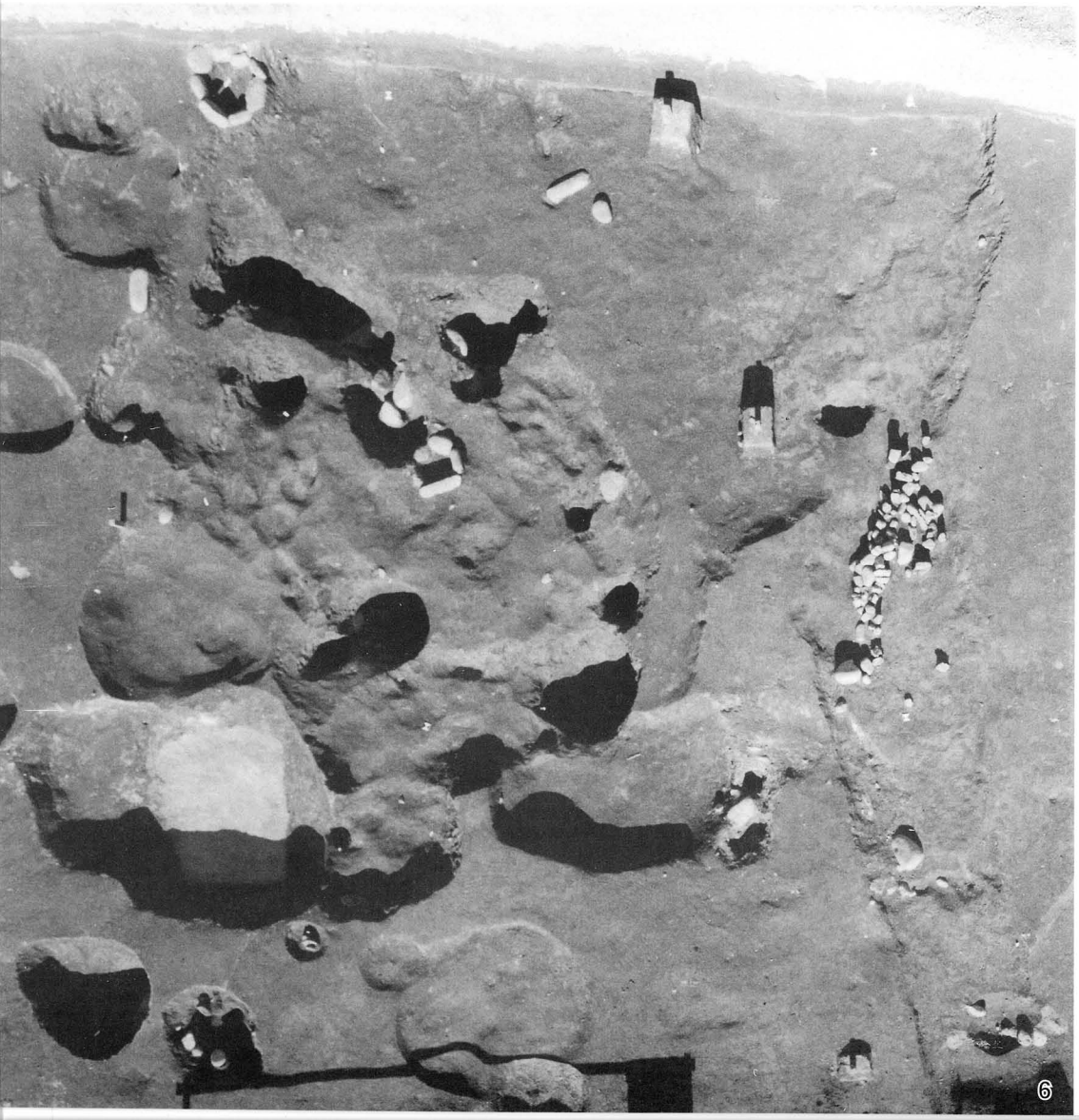
8：11号竪穴遺物出土状況

9：同炉







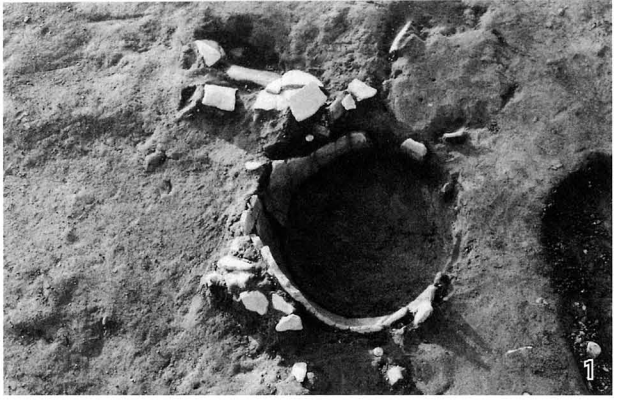


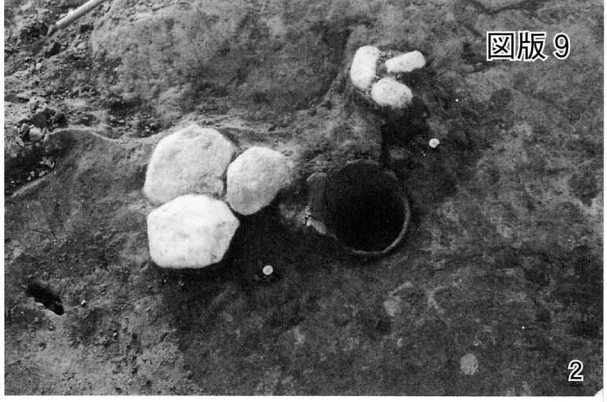
1：11号竪穴完掘状況

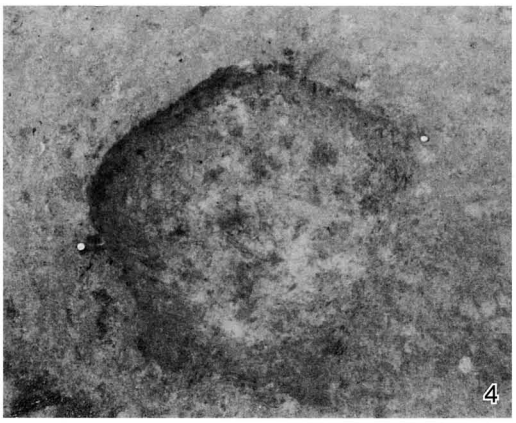
2～5：同遺物出土状況
　2：台形土器（2）
　4：鉢(12)直上から出土した深鉢（1）
　5：同鉢(12)

6：11～13号竪穴空撮（上より）

7：12号竪穴炉







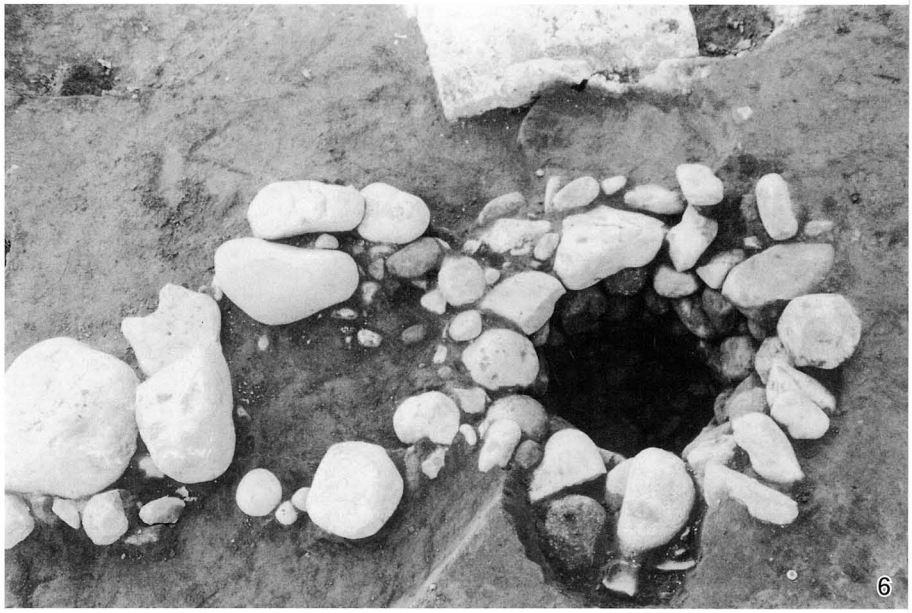
1：１号埋甕　　2：２号埋甕

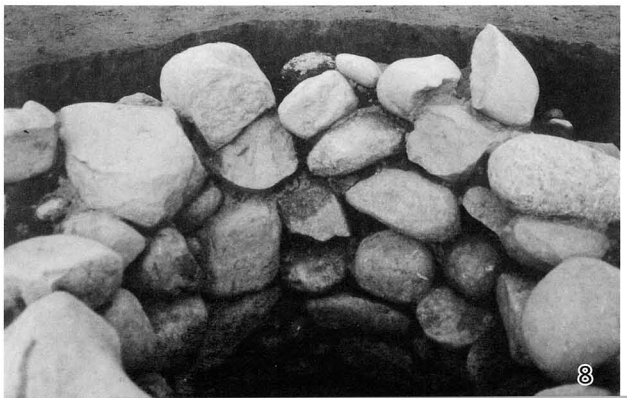
3：１号焼土　　4：２号焼土

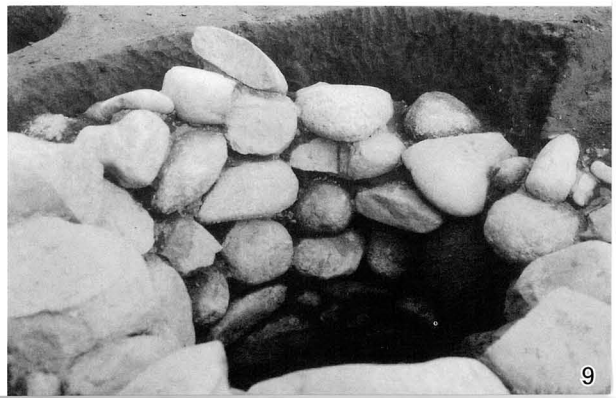
5：調査区西南付近（１・２号焼土）

6～9：１号井戸

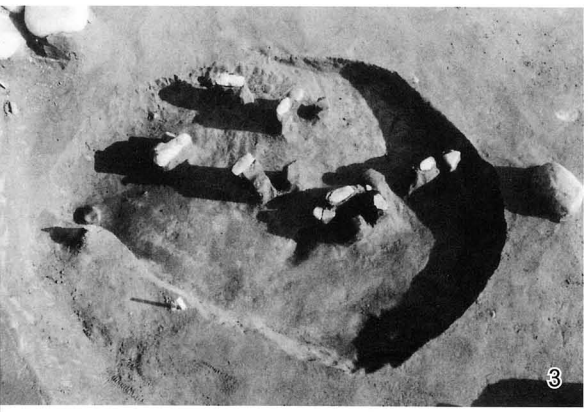
7：同井戸底曲物出土状況

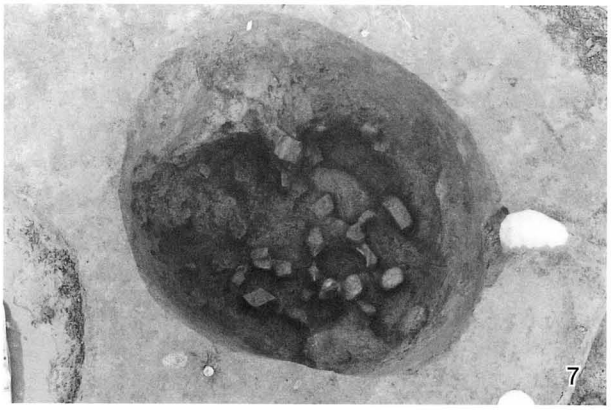


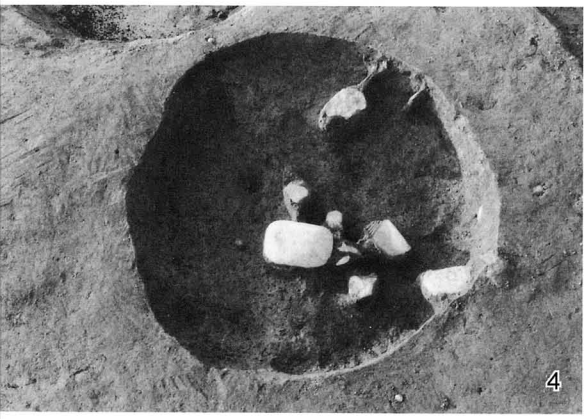


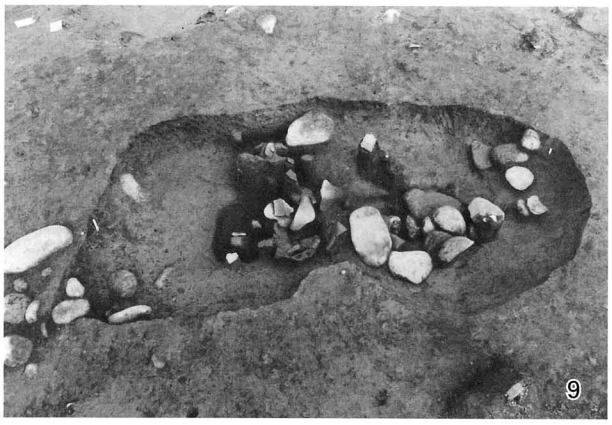


図版10









1：11～16・19号土坑

2：19号土坑

3：18号土坑

4：22号土坑

5：24・34号土坑

6：27号土坑

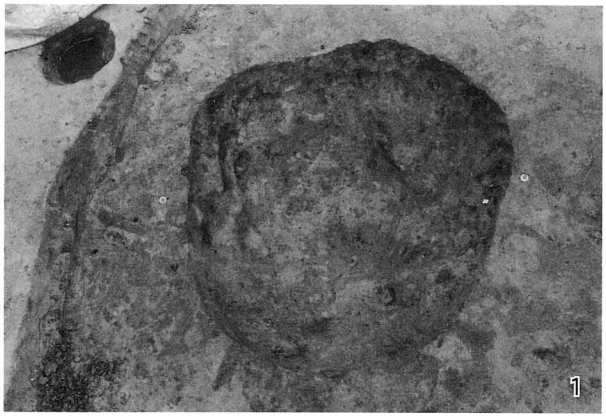
7：28号土坑（上層）

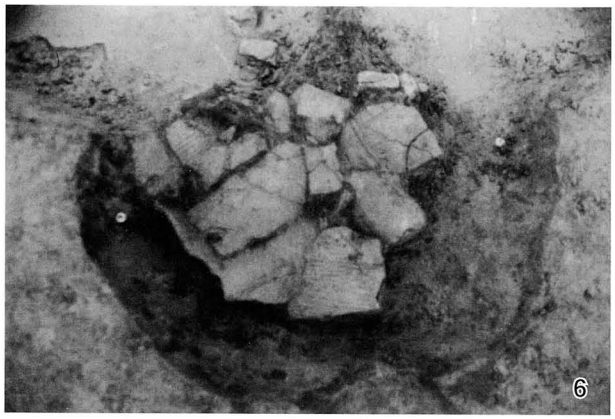
8：同完掘状況

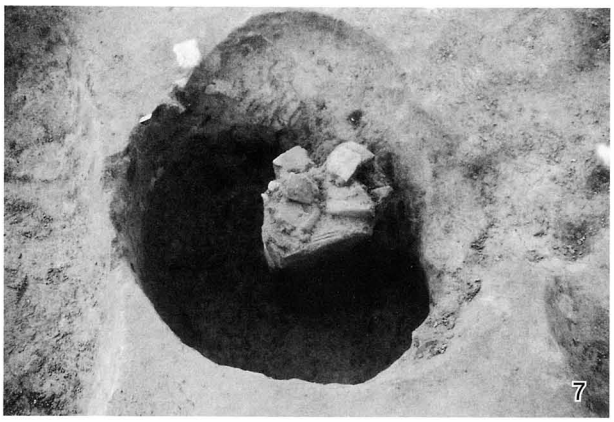
9：29・36号土坑

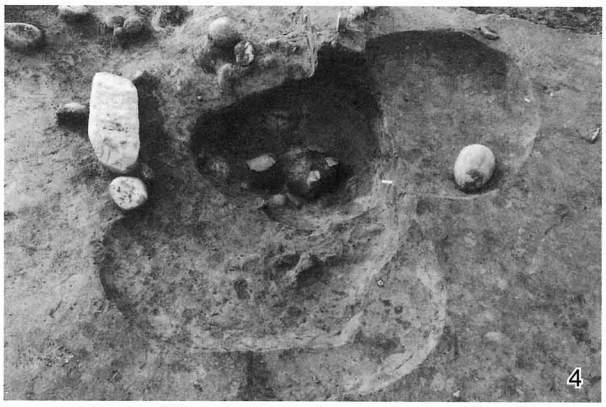
10：29号土坑遺物
出土状況

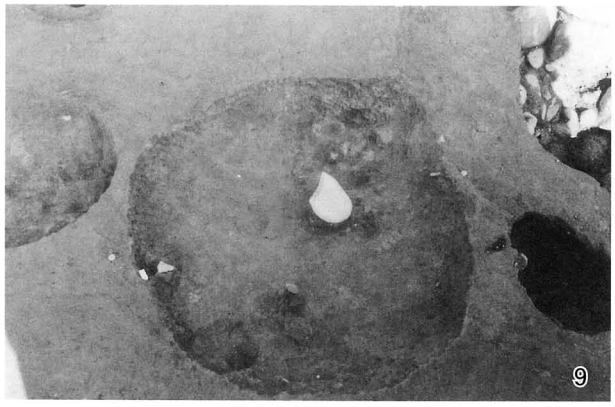
1：30号土坑
2：31号土坑
3：39号土坑
4：27・41号土坑
5：41号土坑
6：50号土坑
7：53号土坑
8：54号土坑
9：55号土坑
10：58号土坑

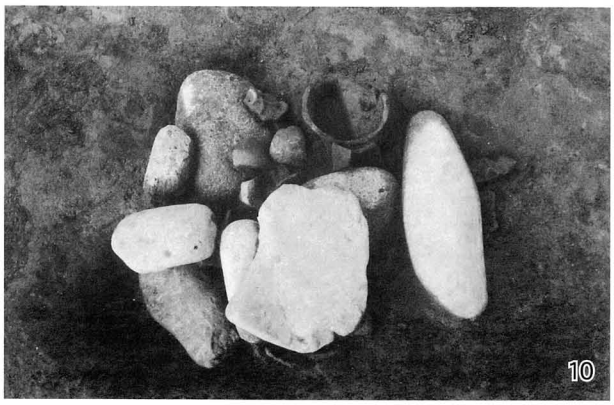




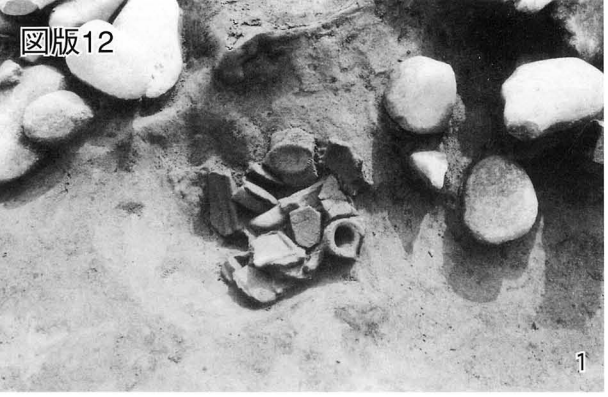








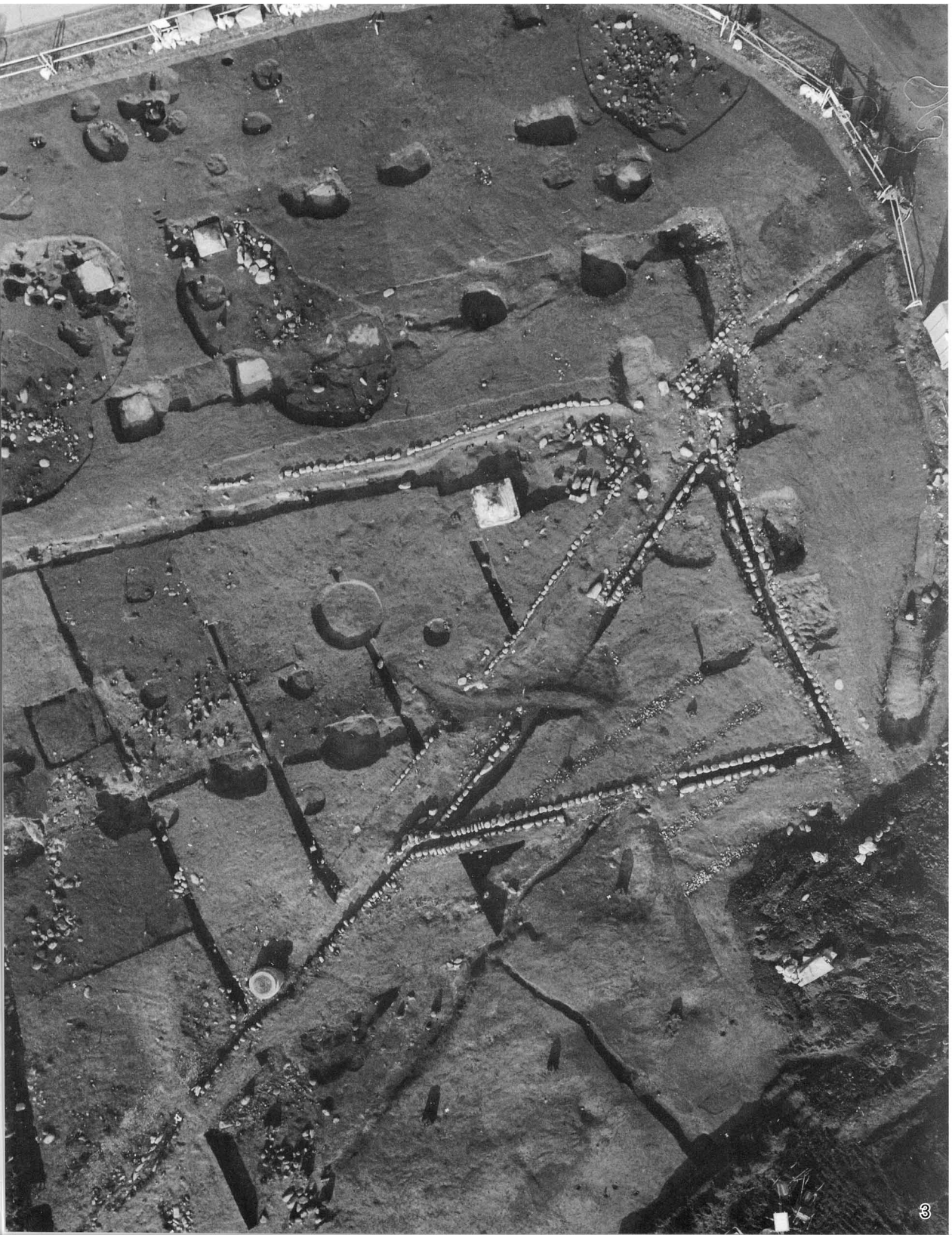
図版12



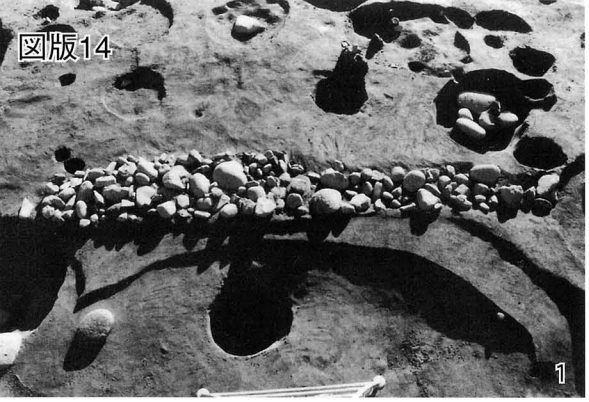
1：74号ピット

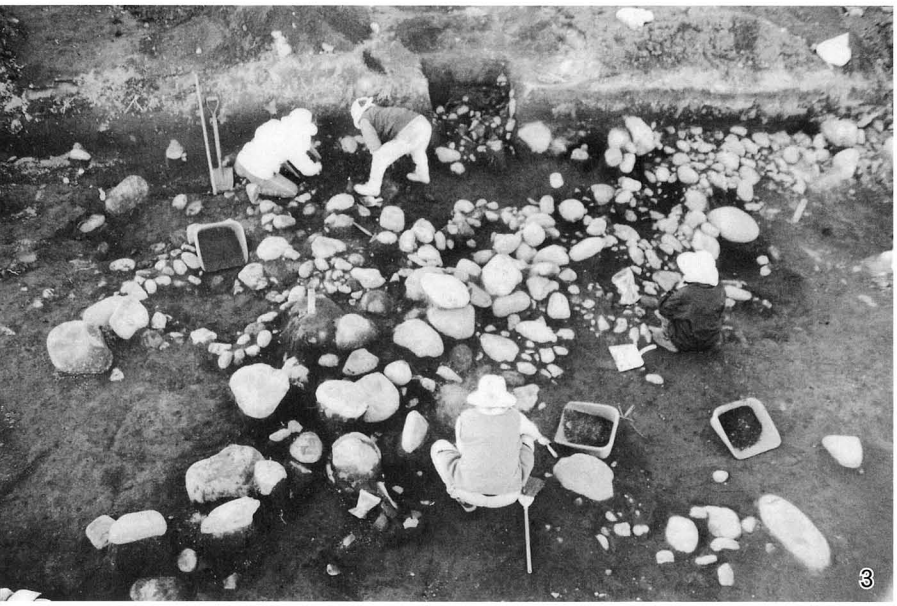
2：M７付近土坑・ピット検出状況

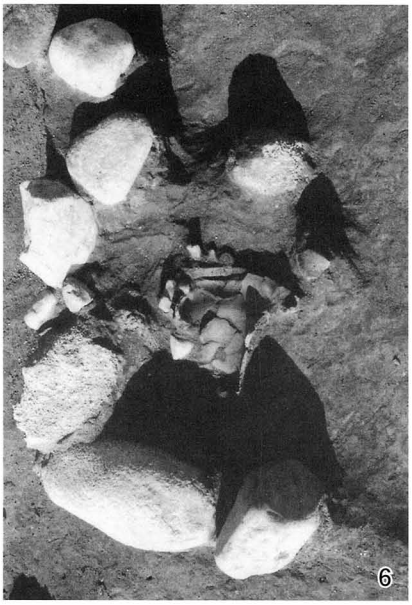
3：１～３・５号溝、石列空撮（上より）

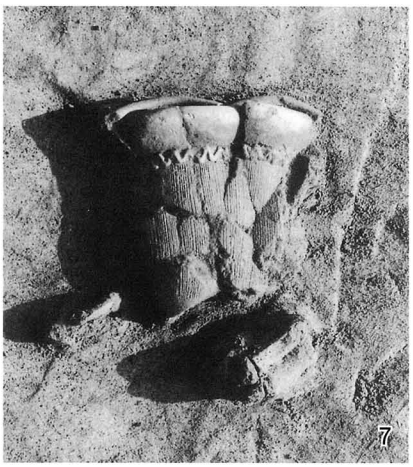


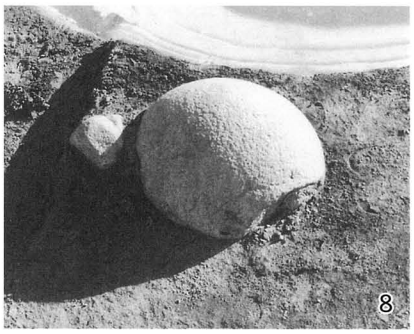
1：5号溝（東より）
2：1～3号溝ほか（南より）
3：2号溝（東より）
4：6号溝（東より）
5：8・9号溝（東より）
6：6号溝内須恵器壷(2)出土状況
7：埋没谷トレンチ断面（南西より）











1：1号集石（10号竪穴南側）

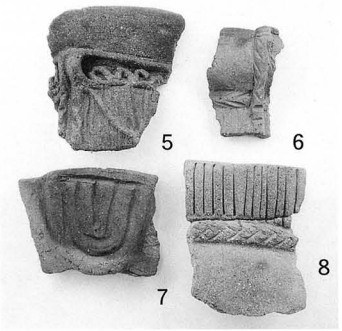
2：2号集石（10号溝内）

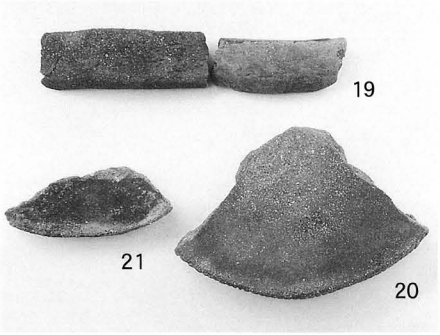
3：L 6付近礫出土状況

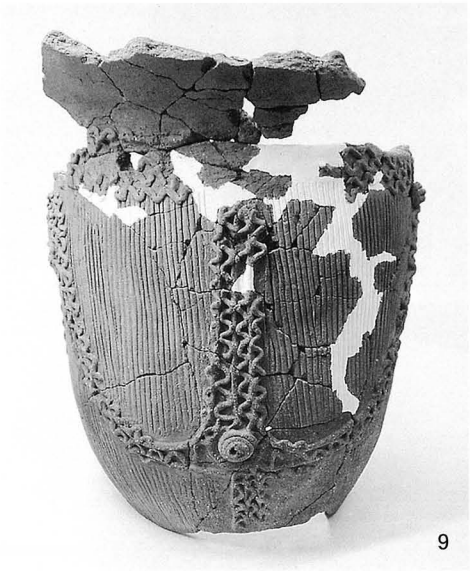
4・5：5号竪穴周辺完掘状況

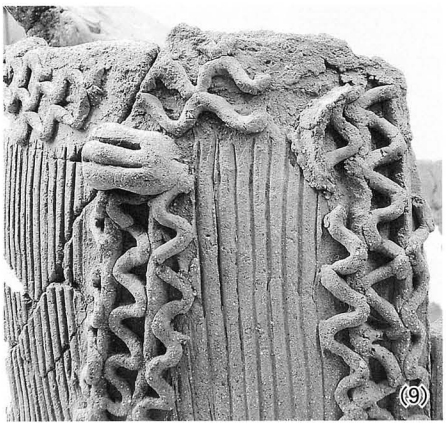
6～8：遺構外出土遺物
（6：遺構外2、7：遺構外13、8：遺構外265）

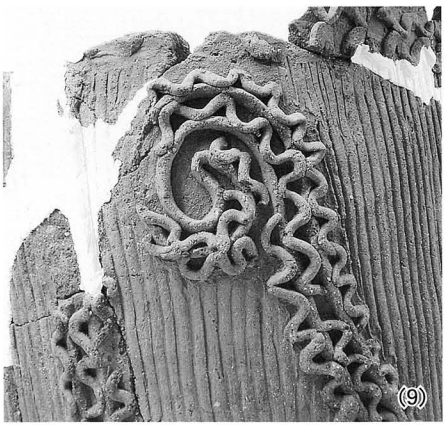
1・2号
竪穴遺物

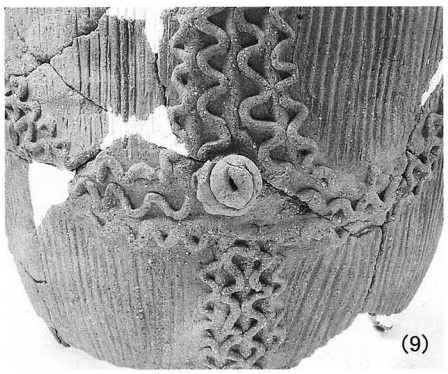




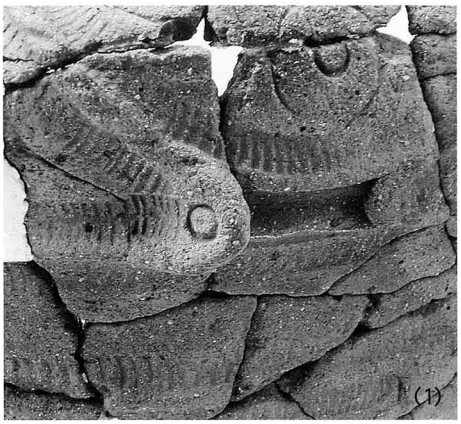


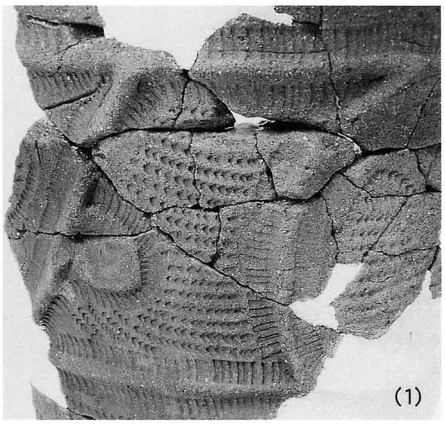


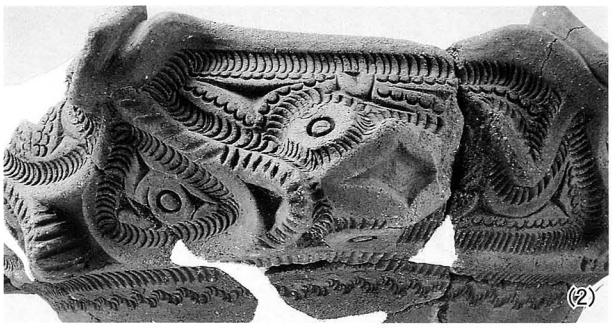


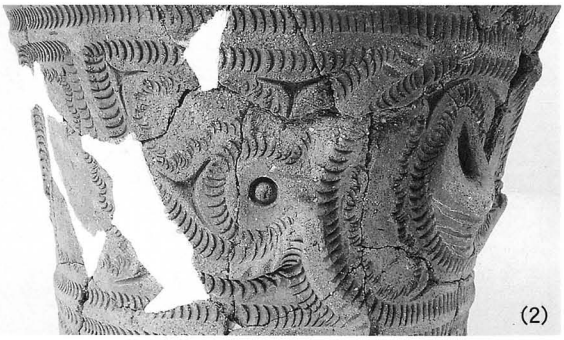


4号竪穴
遺物(1)

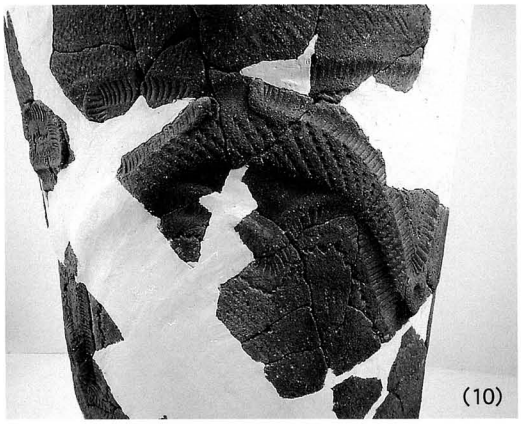


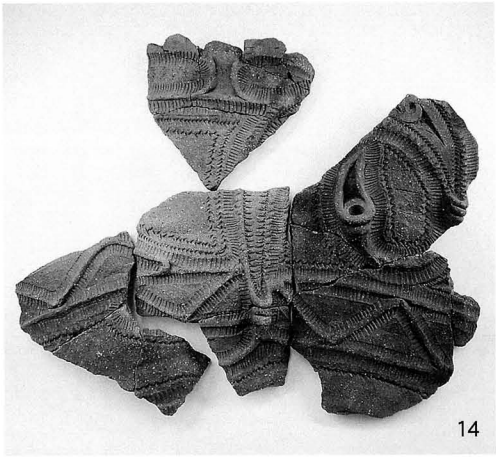


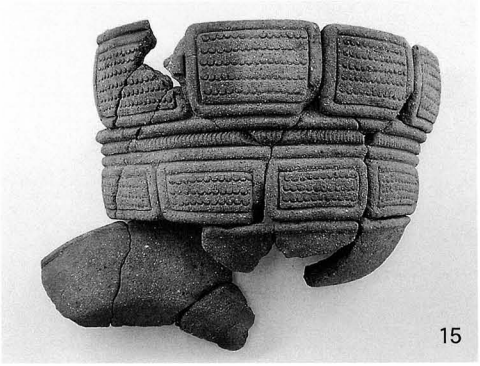


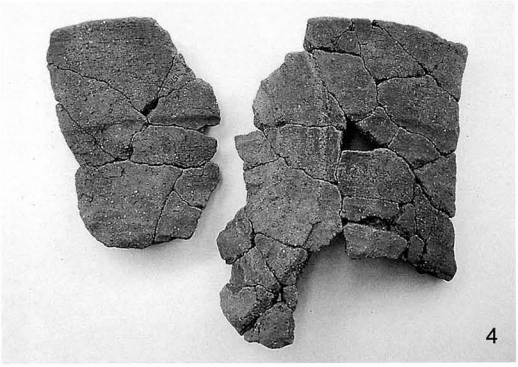


4号竪穴
遺物（2）

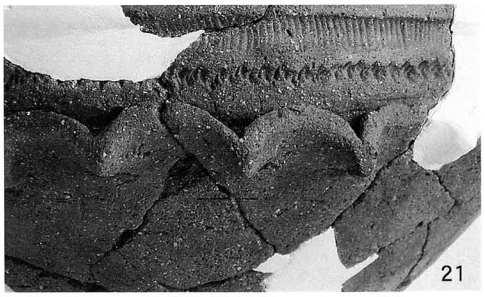


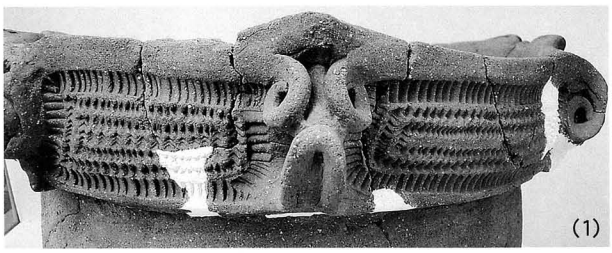


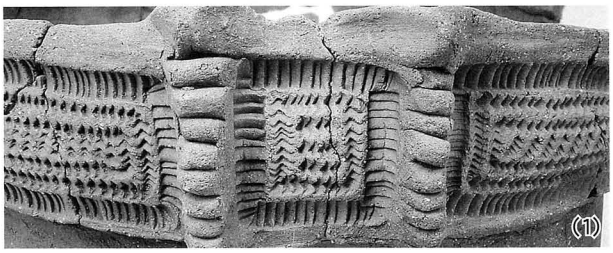




5号竪穴
遺物（1）







5号竪穴遺物(2)

2

(2)

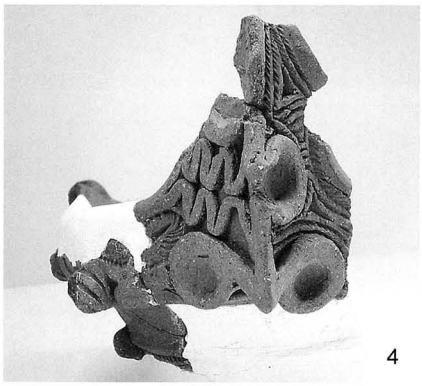
(2)

3

(4)

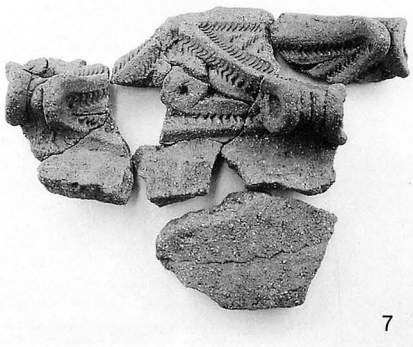
5

(3)


4

(5)

6

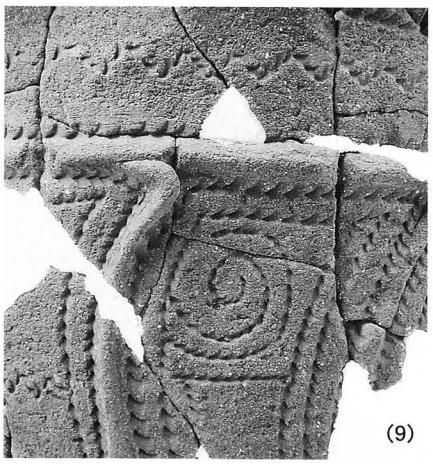

7

(5)

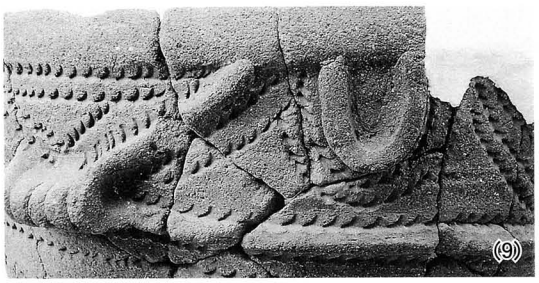
8

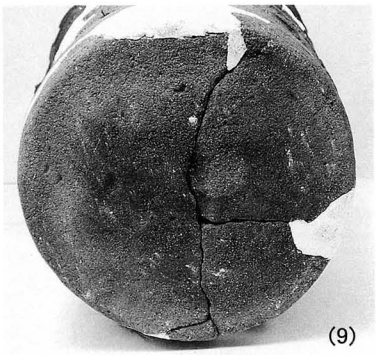
9

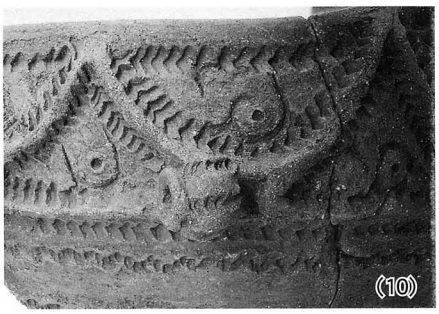
(9)

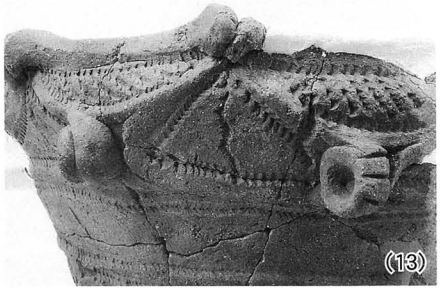

(9)

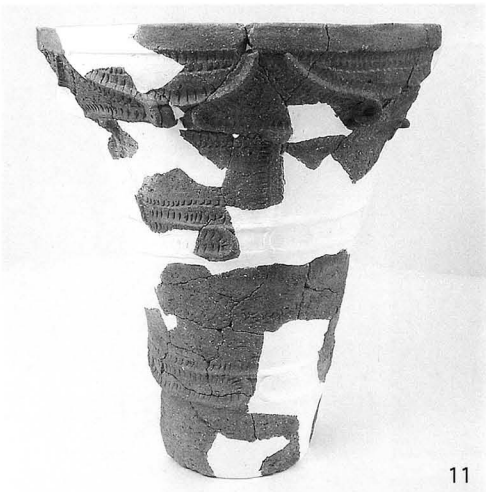
5号竪穴遺物（3）

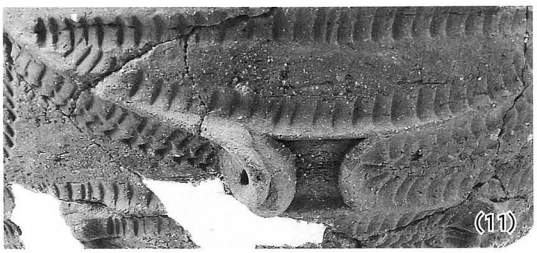


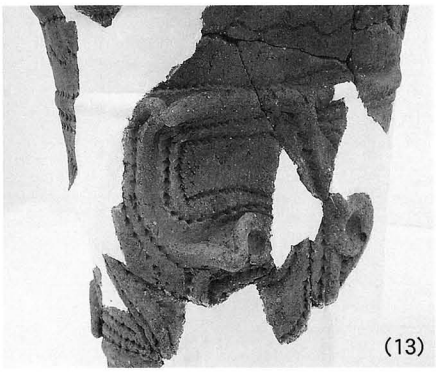


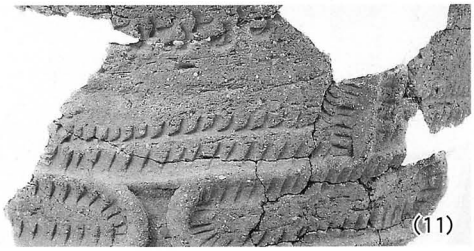




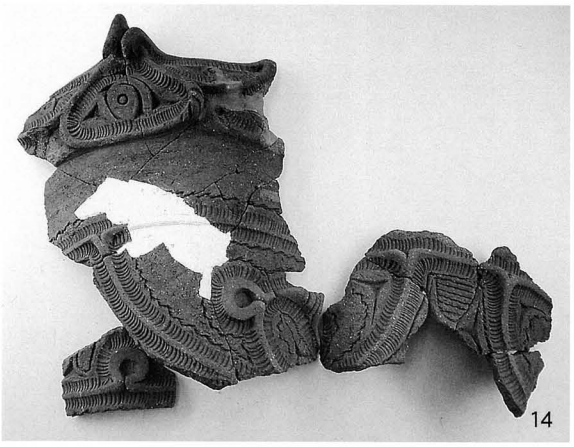


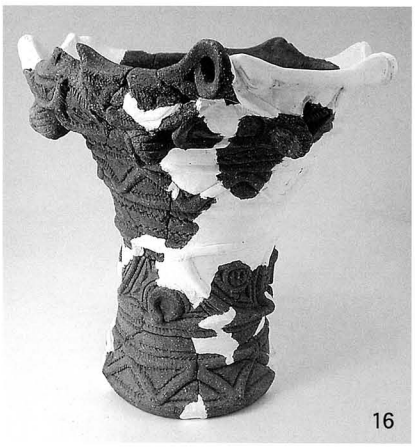


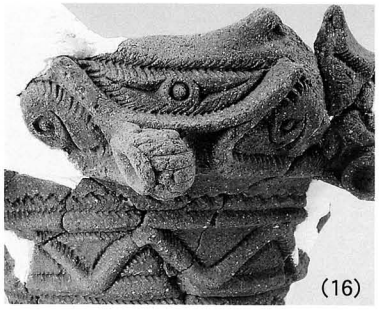




5号竪穴
遺物(4)


14

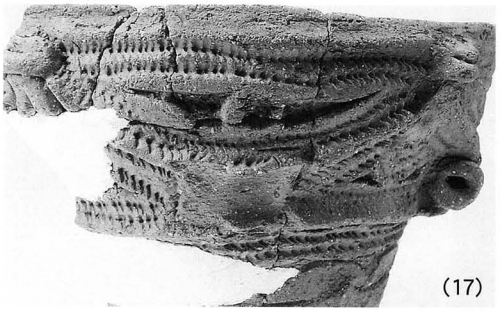

16

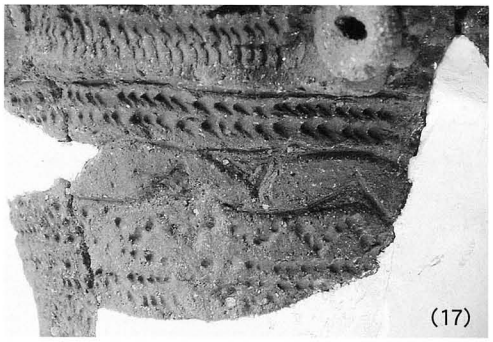

(16)

(16)

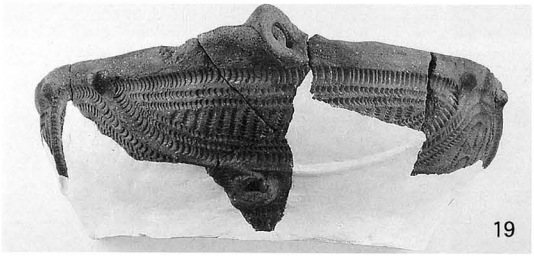
17

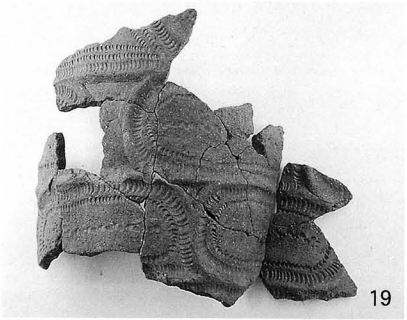
(17)


(17)


(17)

21


19


19

22

31

(23)

23

(31)

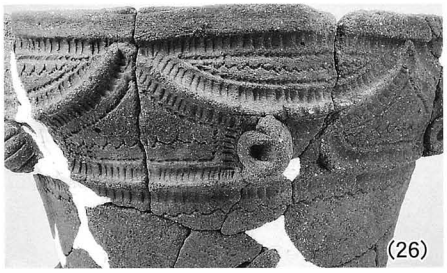
5号竪穴
遺物（5）

25

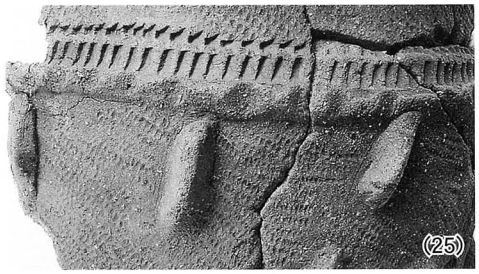
26

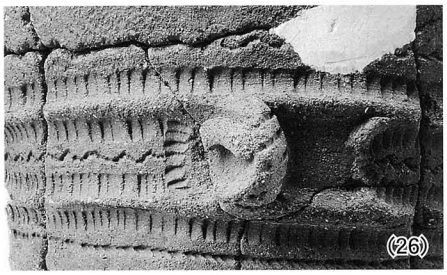
24

(25)


(26)

(24)

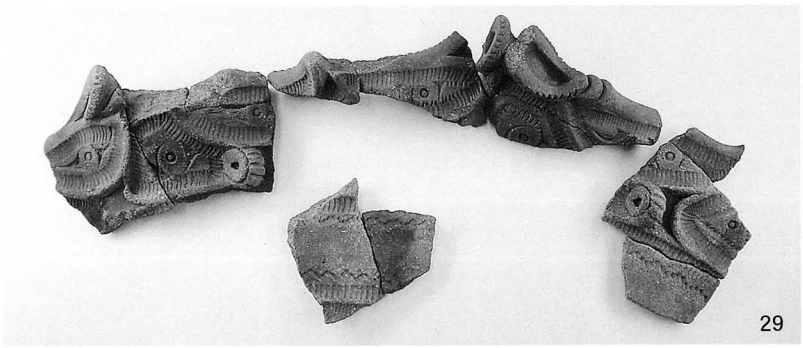

(25)


(26)

27

28

(24)


29

(24)

32

34

33

5号竪穴
遺物(6)

35

37・70

38

42

43

44

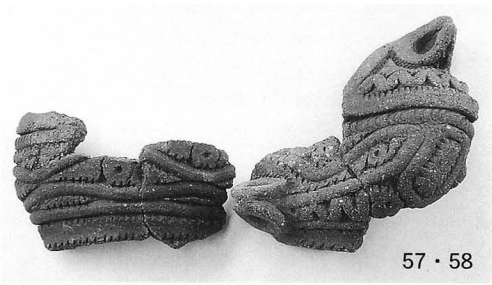
48

47

(47)

49

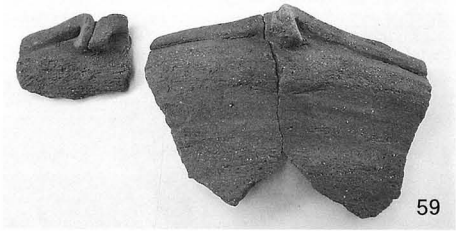
40


57・58

55

53

61

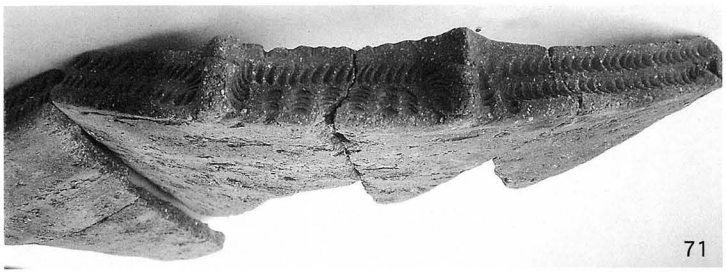

59

54

66

69

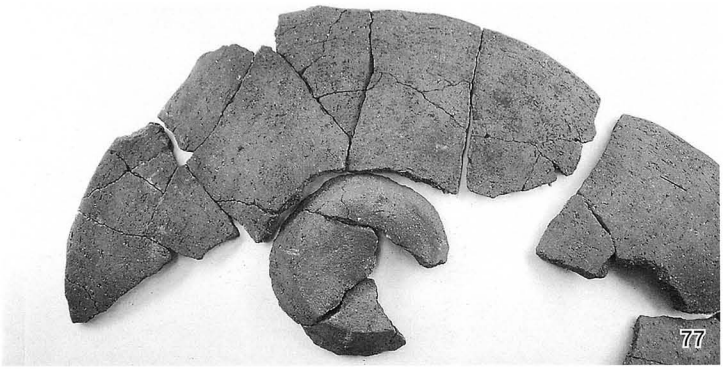
5号竪穴
遺物（7）

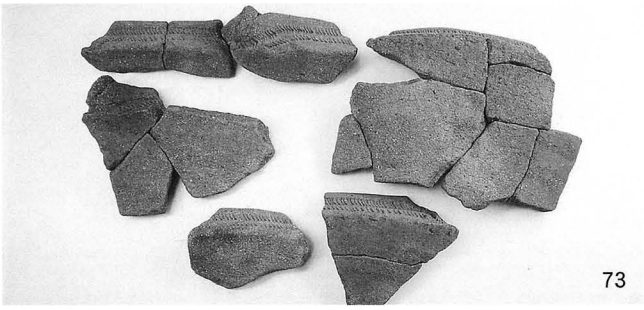

71

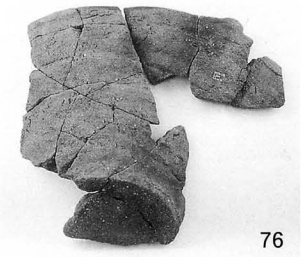
72

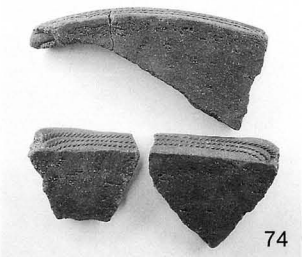
75

75


77

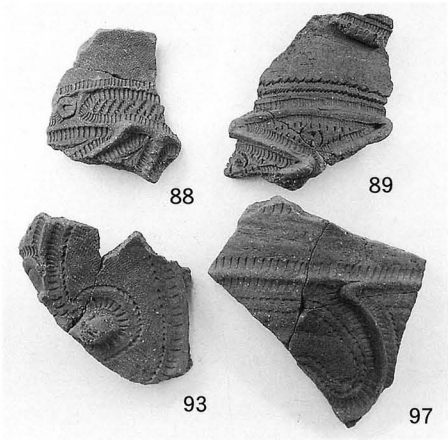

73

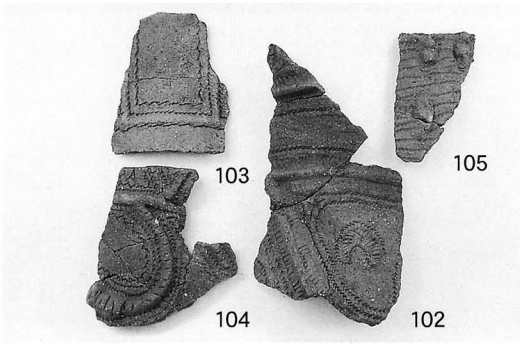

76

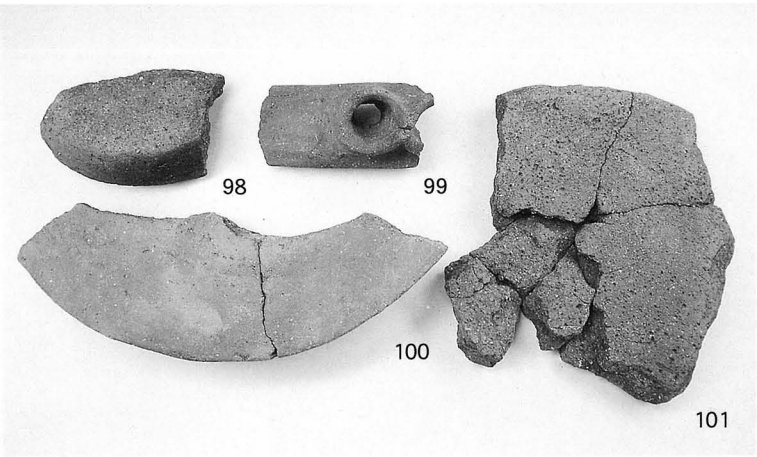

74

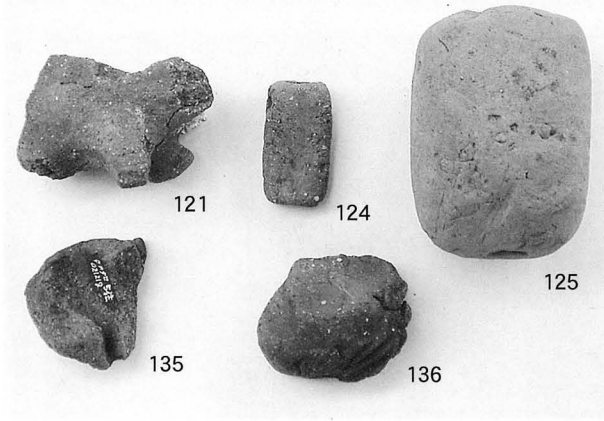
84

83

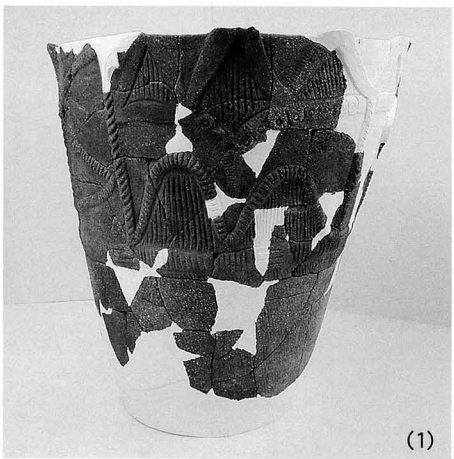

88
89
93
97


103
105
104
102

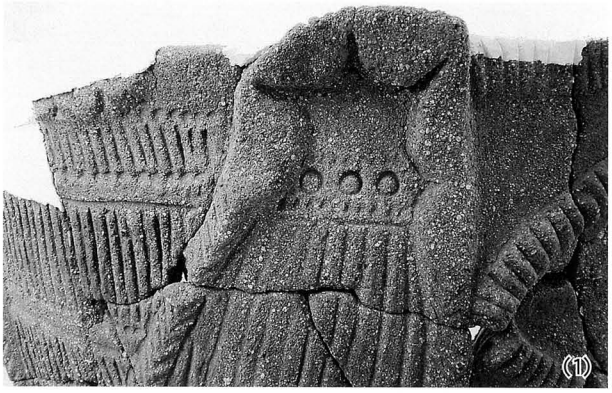

98
99
100
101

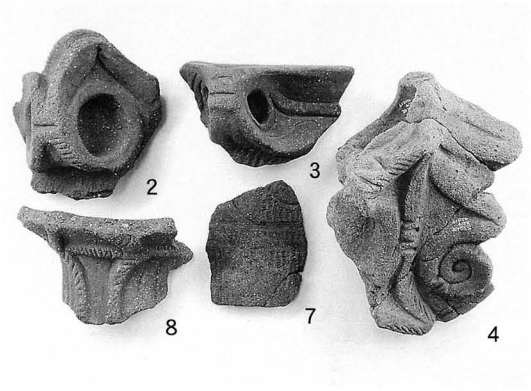

121
124
125
135
136

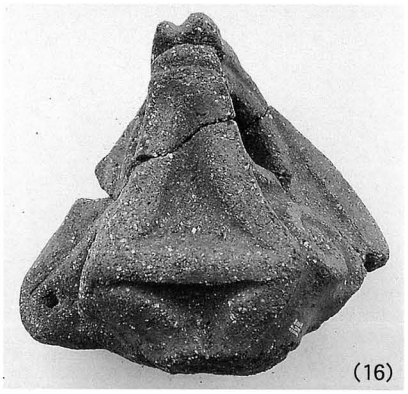
5号竪穴遺物(8)

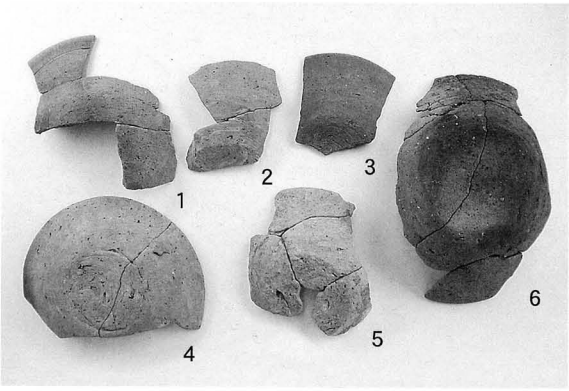


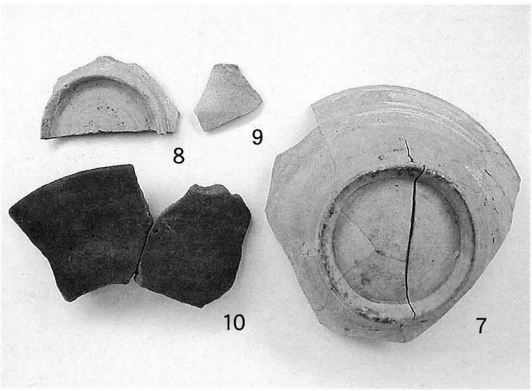
6号竪穴遺物





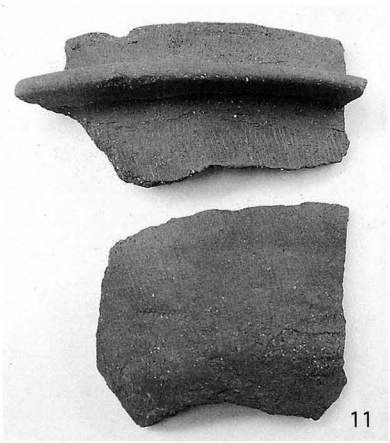


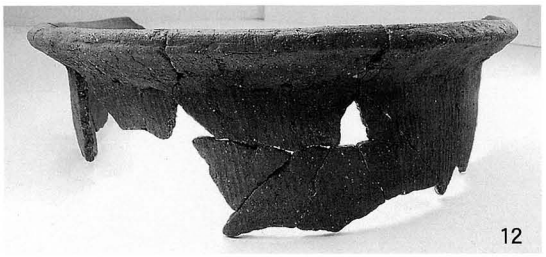


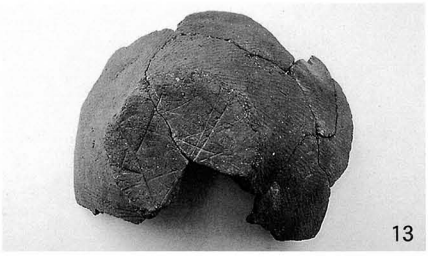


7号竪穴遺物(1)

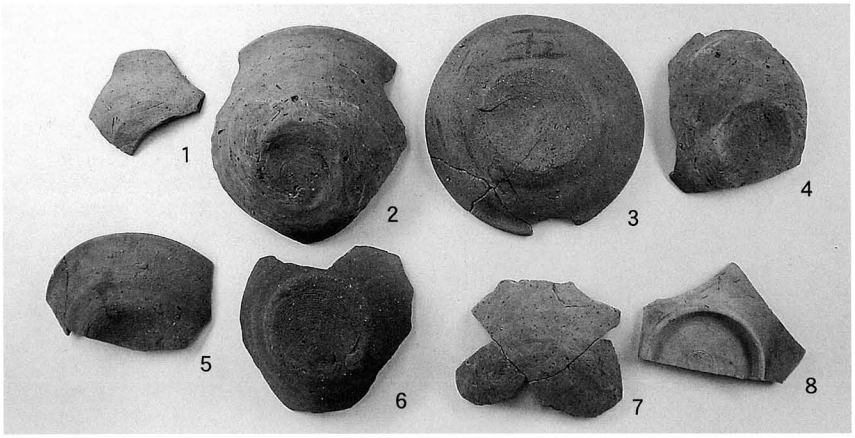
7号竪穴
遺物(2)

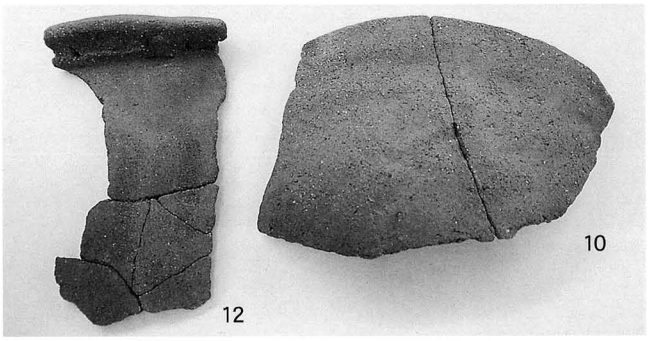


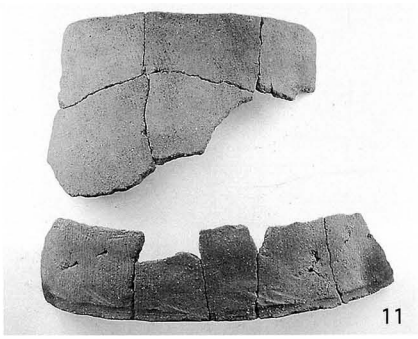




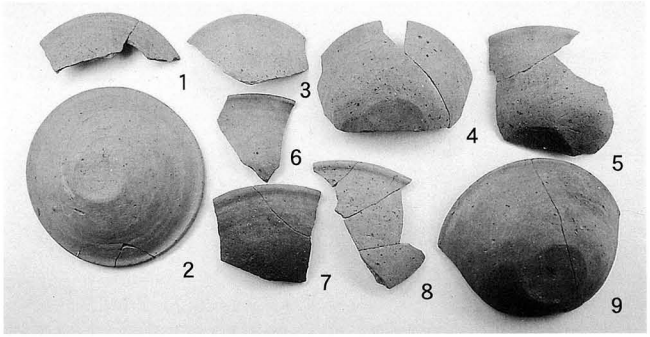
8号竪穴
遺物



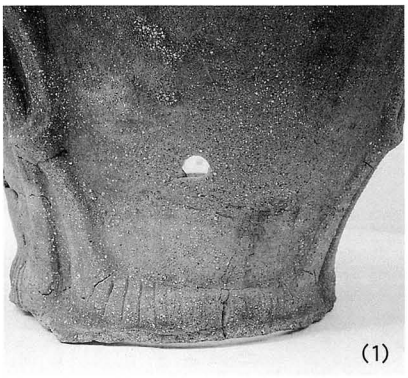




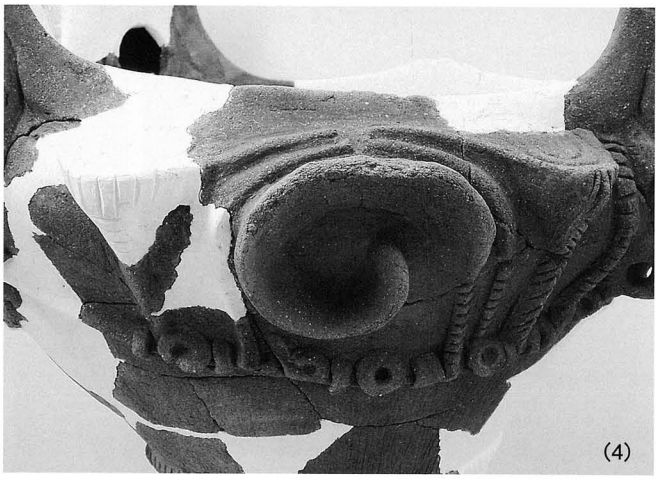
9号竪穴
遺物

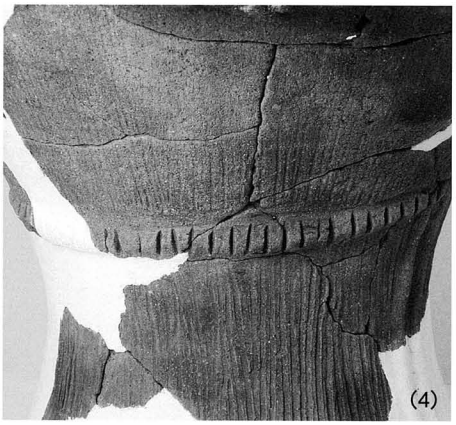


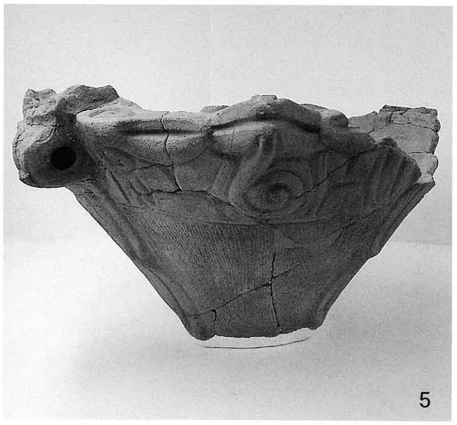
10号竪穴
遺物(1)



10号竪穴
遺物(2)







10号竪穴
遺物(3)

20

(20)

(20)

11号竪穴
遺物(1)

8

1

1

2

9

14

7

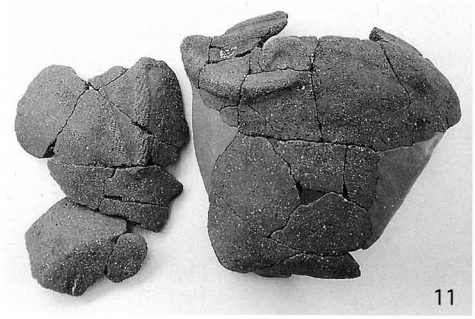
(14)

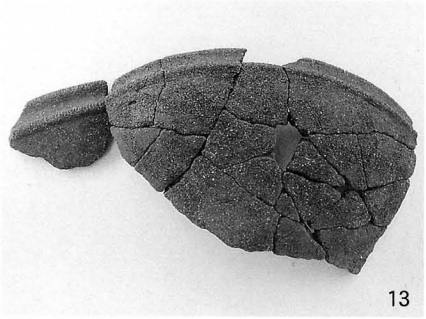
3

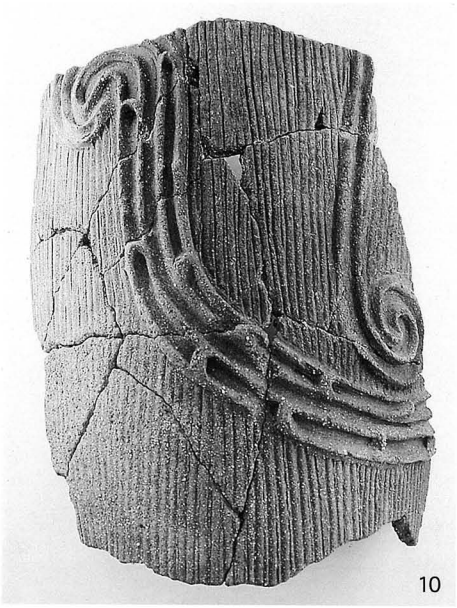
4

6

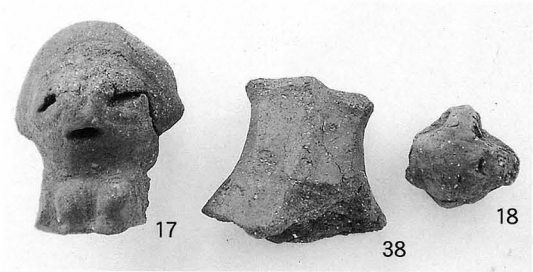
(14)





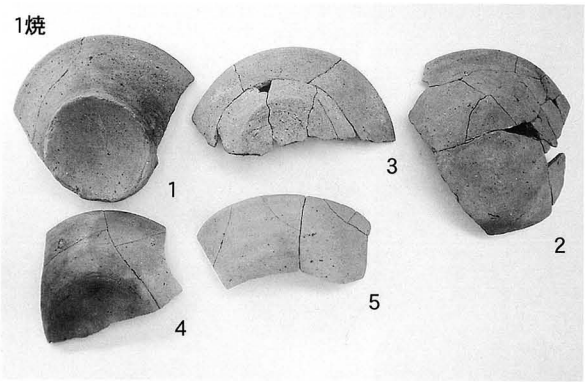


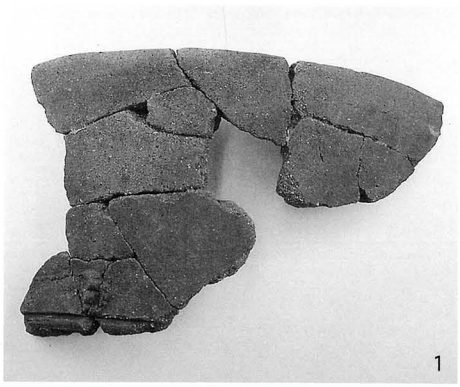
11号竪穴
遺物(2)



13竪

1焼





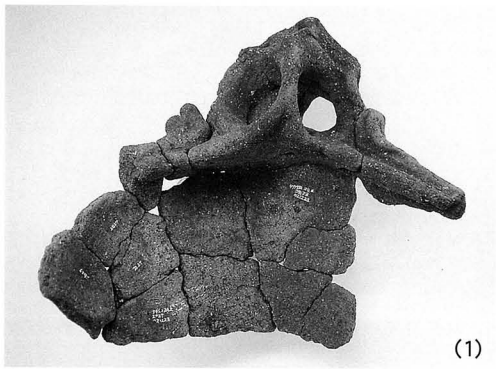
13号竪穴
遺物

1号焼土
遺物

28土

1埋

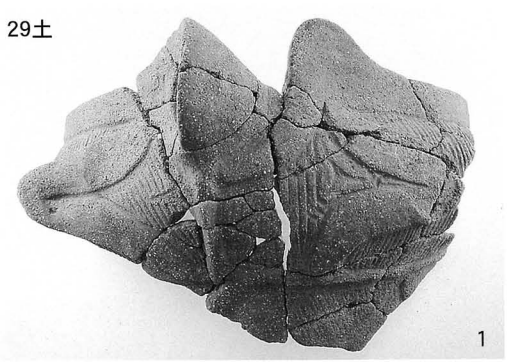
1号埋甕
遺物



28号土坑
遺物

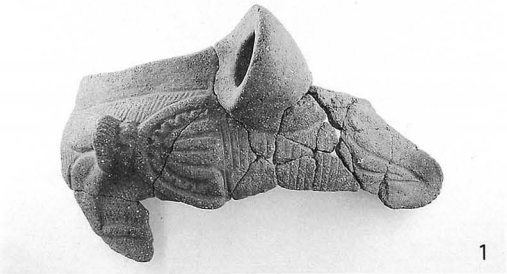
29号土坑
遺物

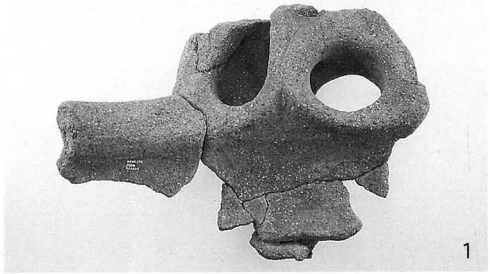
29土


1

1

3


1

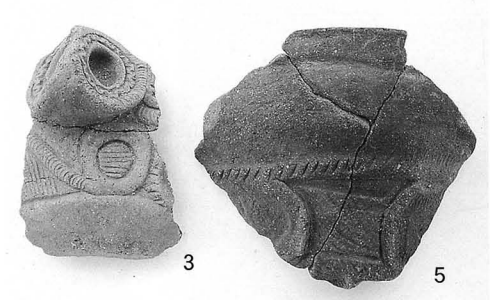

1

2

34号土坑
遺物

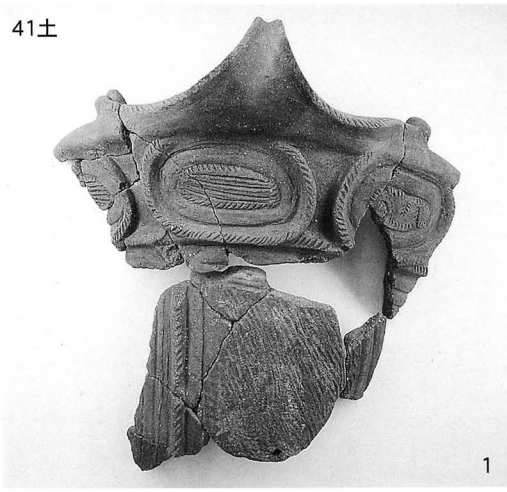
34土

1

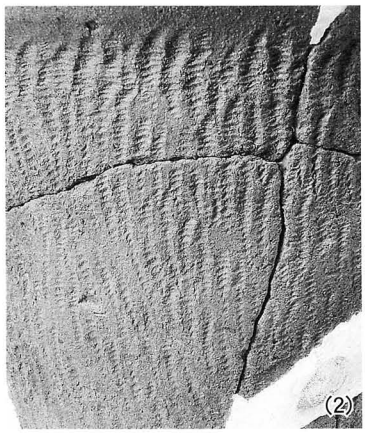

3 5

41号土坑
遺物

41土


1

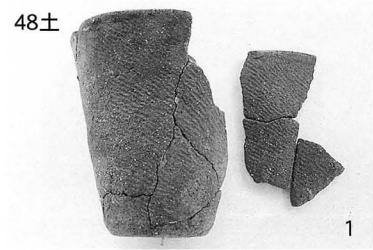
4

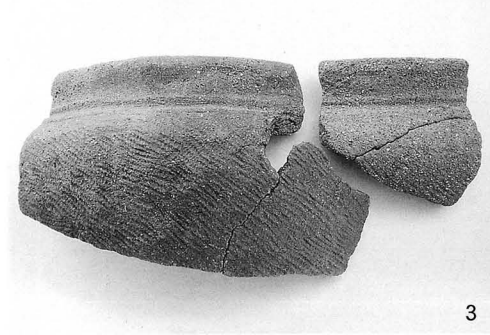

(2)

48号土坑
遺物

49号土坑
遺物

48土


1


3

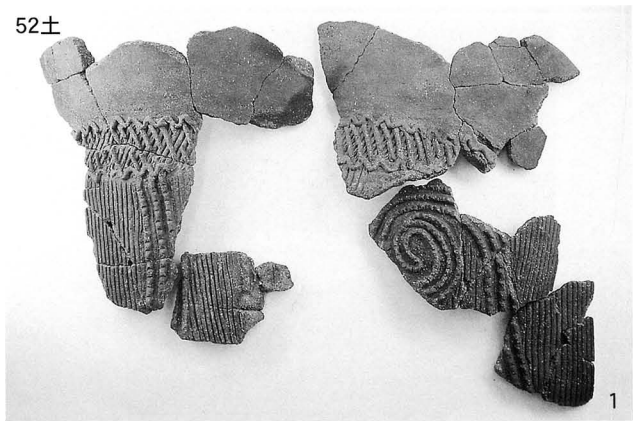
49土

1

52号土坑
遺物

54号土坑
遺物

52土


1

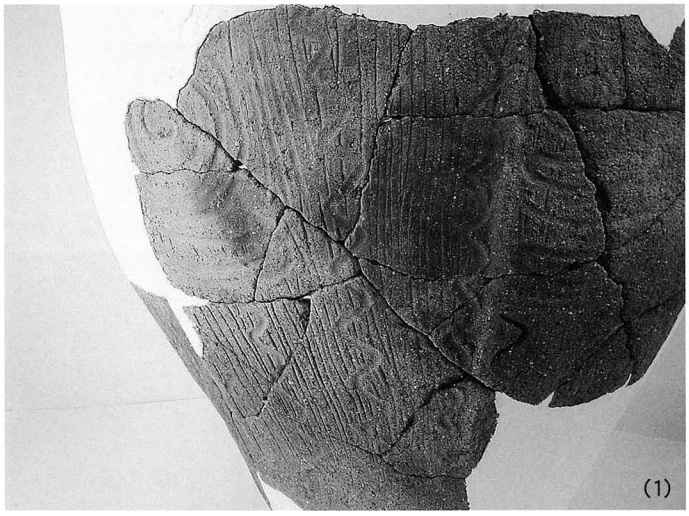
2

1

50土

1

50号土坑遺物



58号土坑遺物

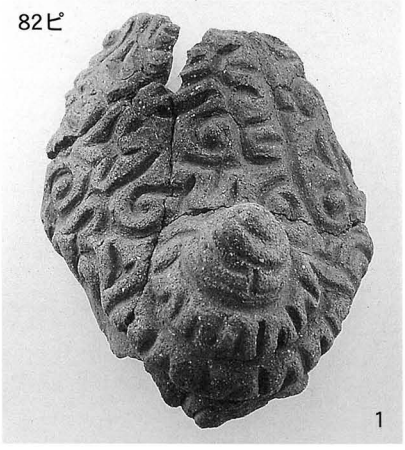
59土

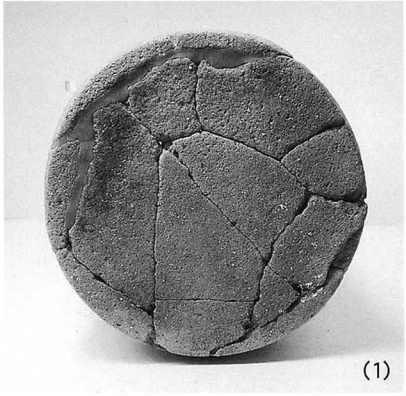
59号土坑遺物

58土

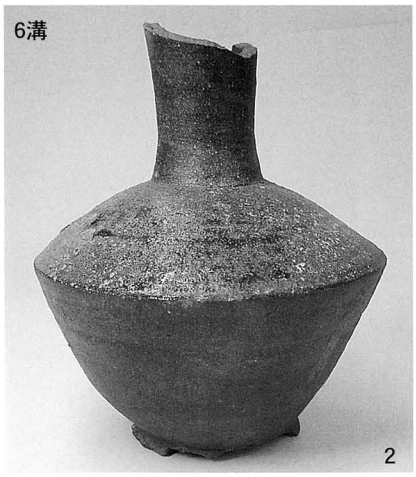
82号ピット遺物

82ピ



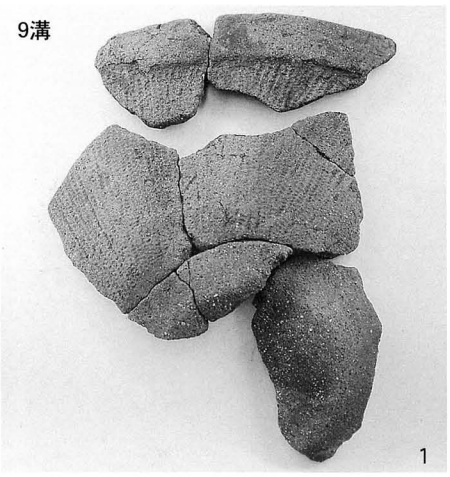


溝遺物


6溝
2

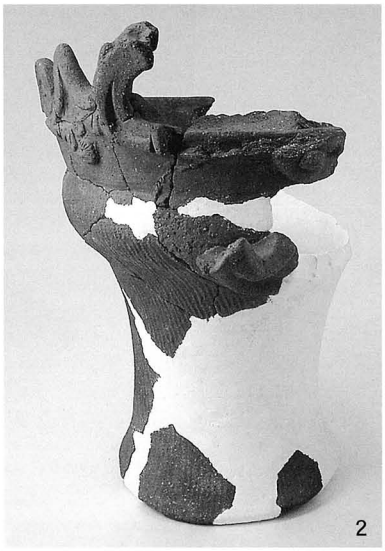
6溝
1

2溝
1

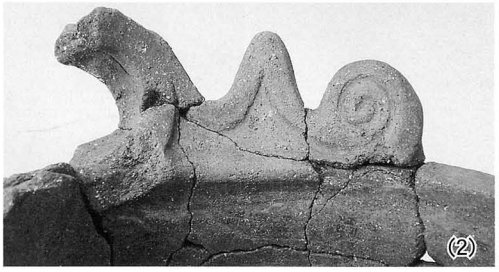

9溝
1

遺構外
遺物(1)

1


2

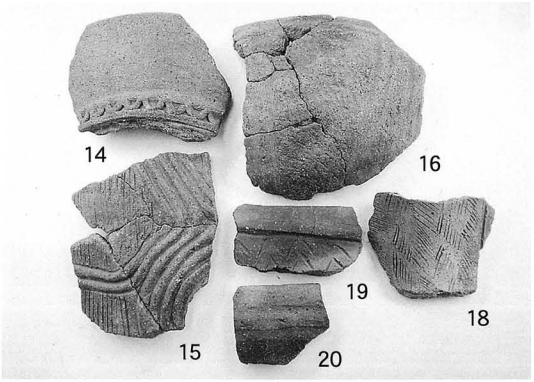
(2)

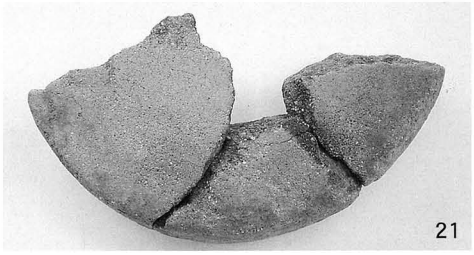

(2)

4

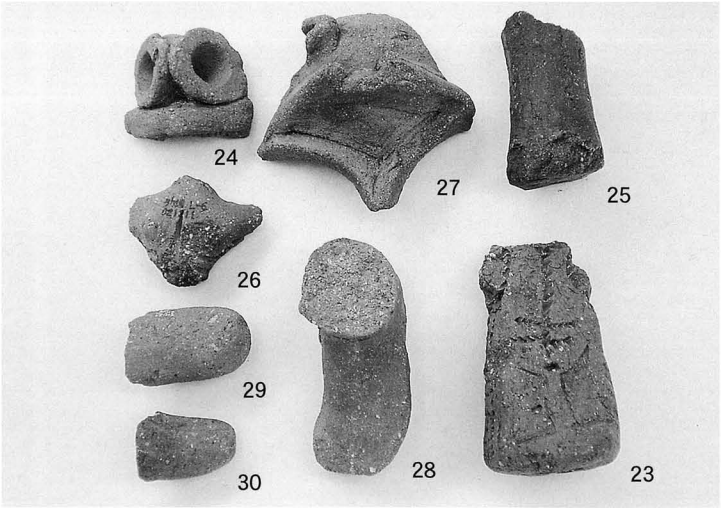
7

13

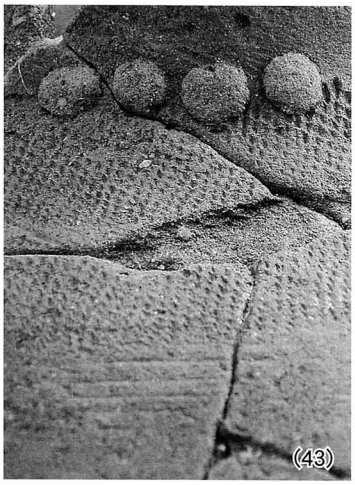

14
16
15
20
19
18

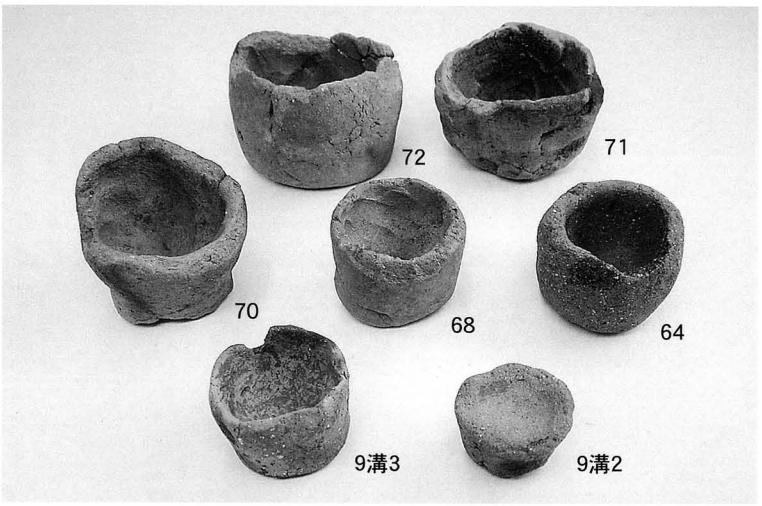

21

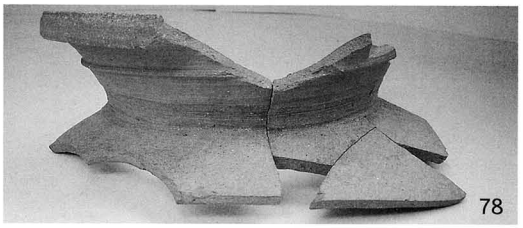
22

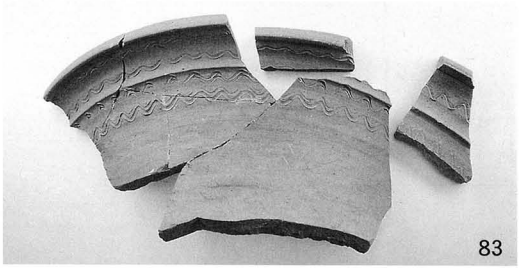

24
27
25
26
29
30
28
23

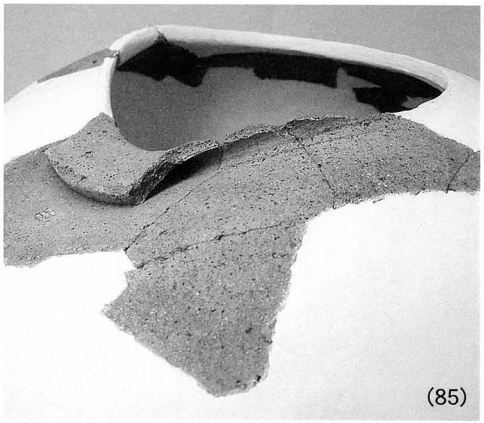
遺構外
遺物（2）

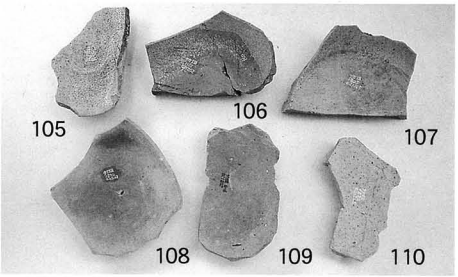




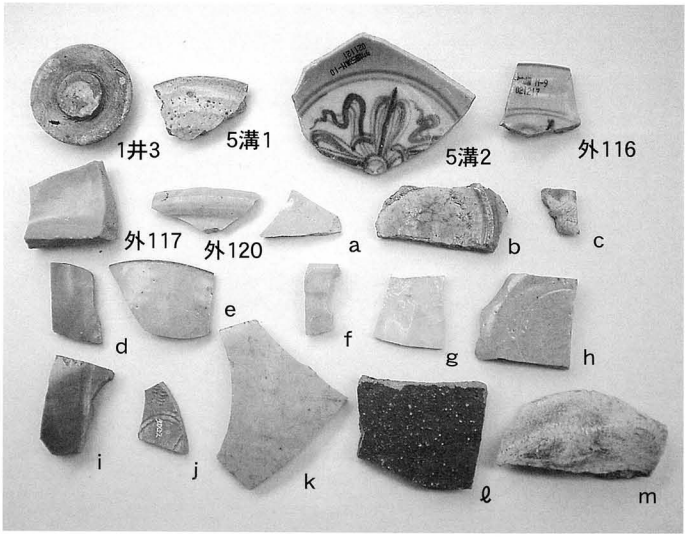






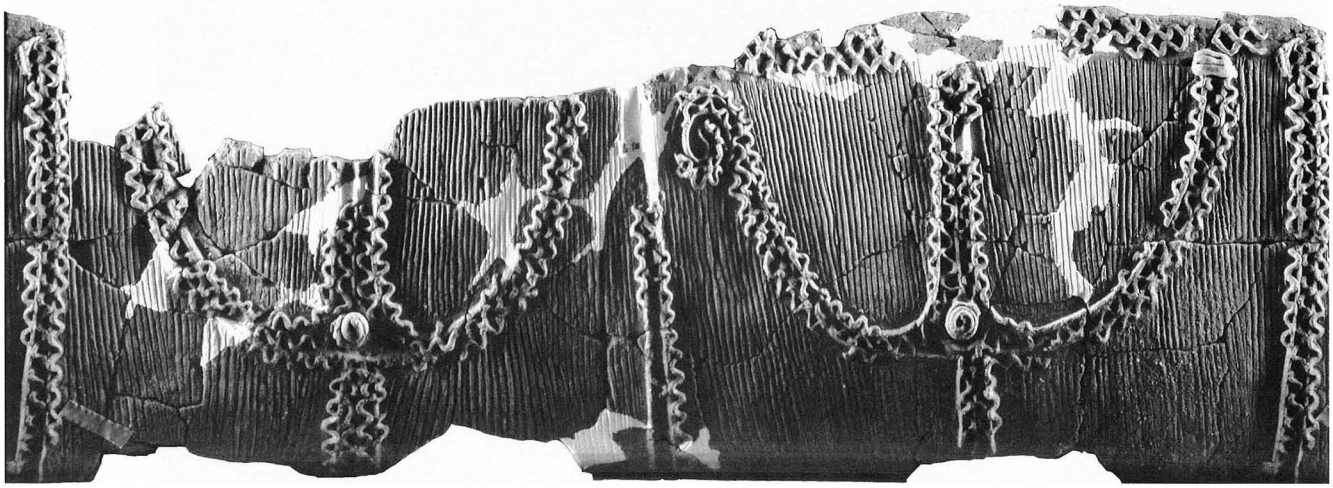


中世陶磁器

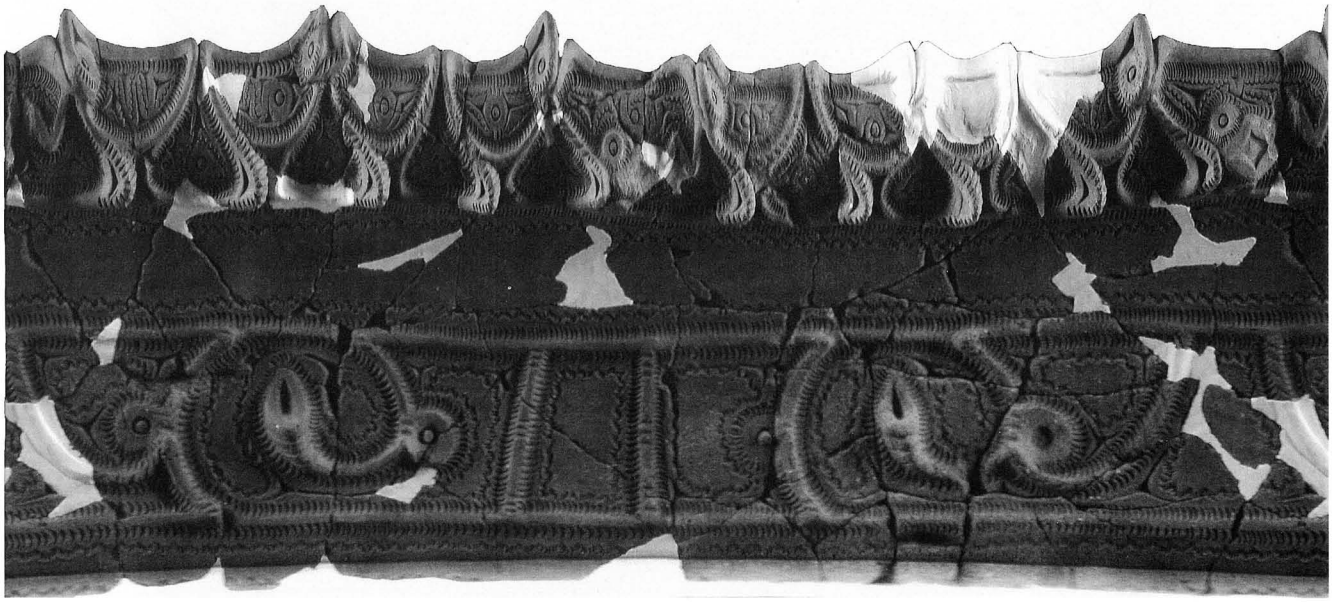


1・2竪1

1・2竪9

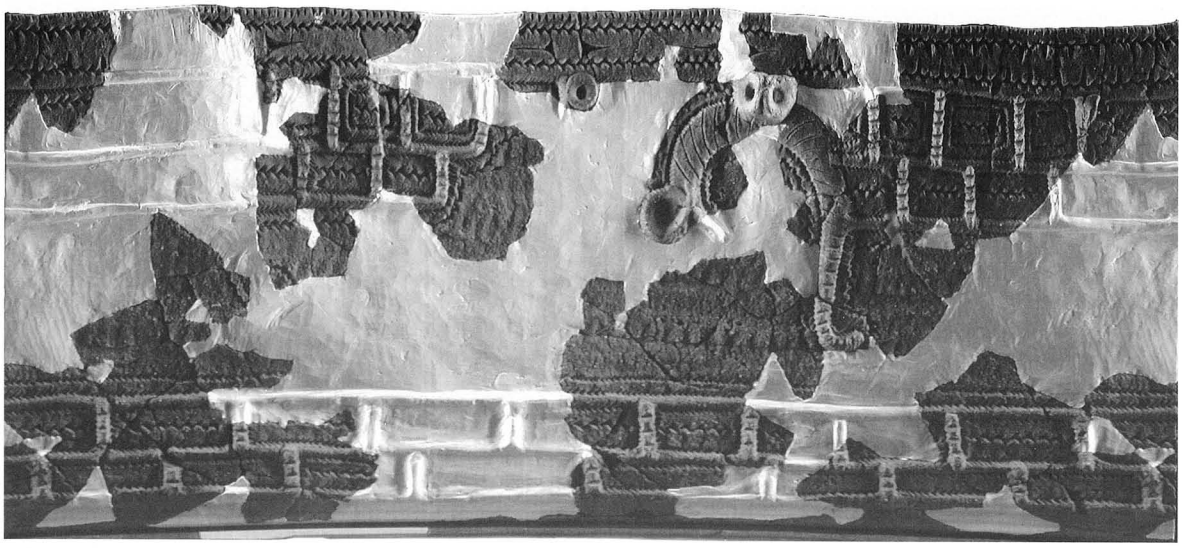


4竪2

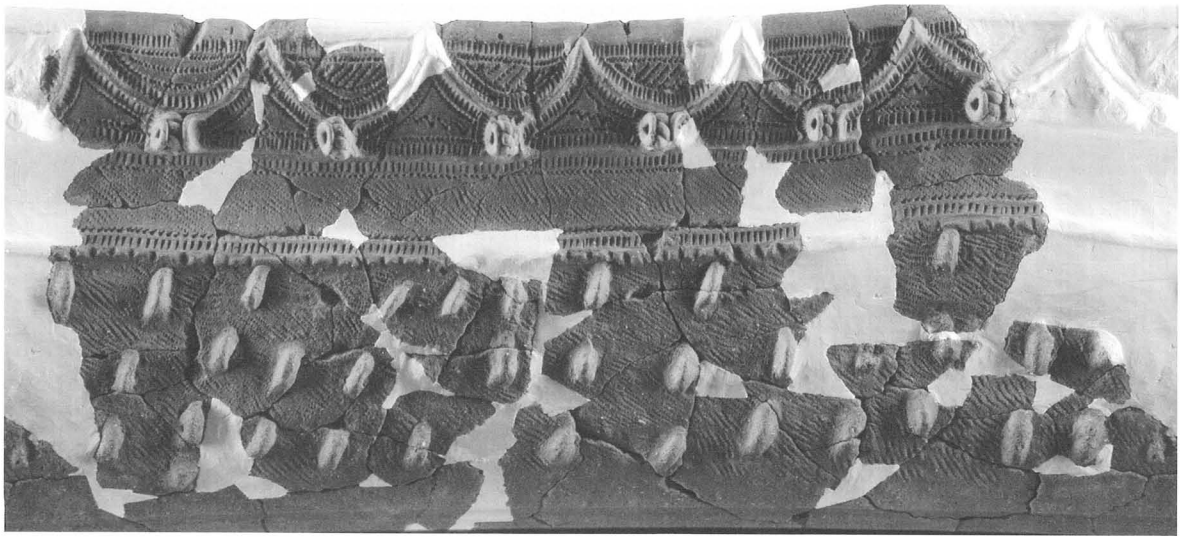


5竪16

土器展開写真（2）

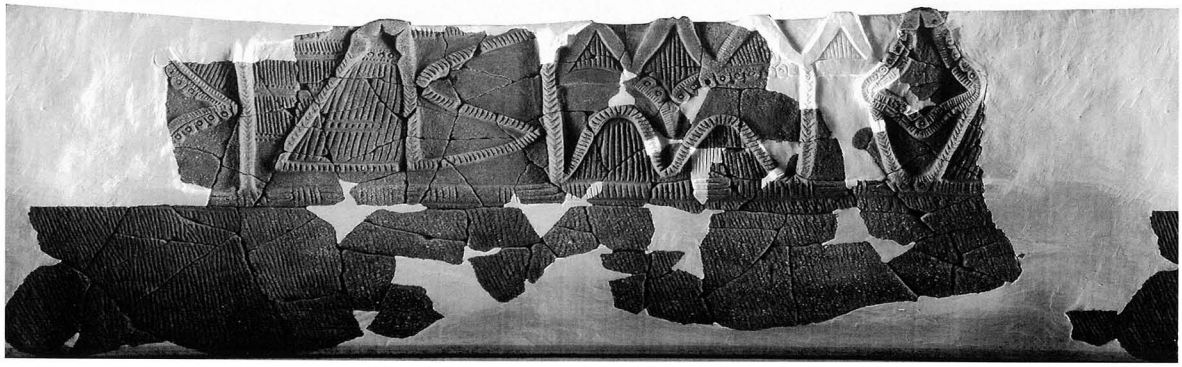


5 竪23

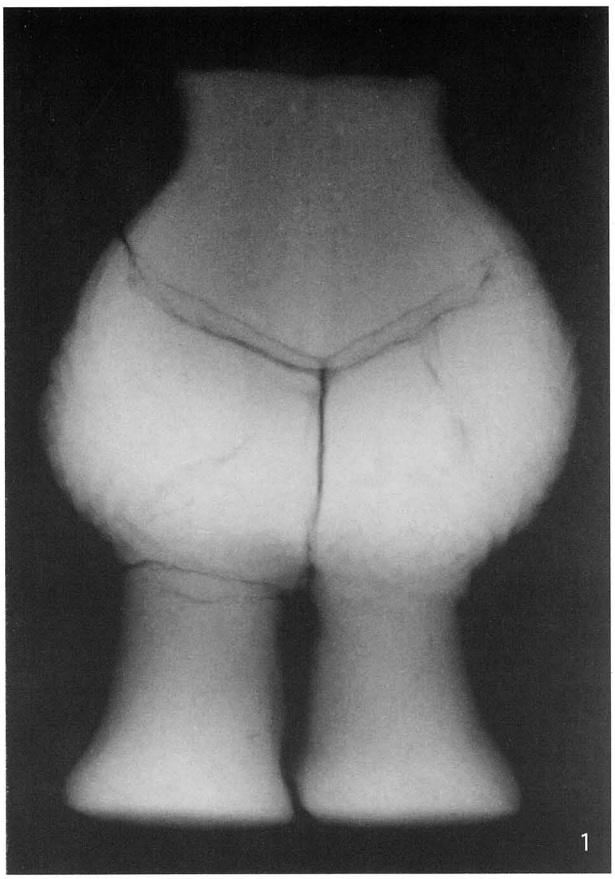


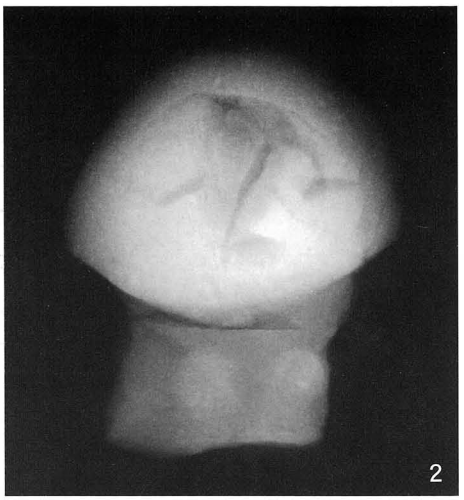
5 竪25

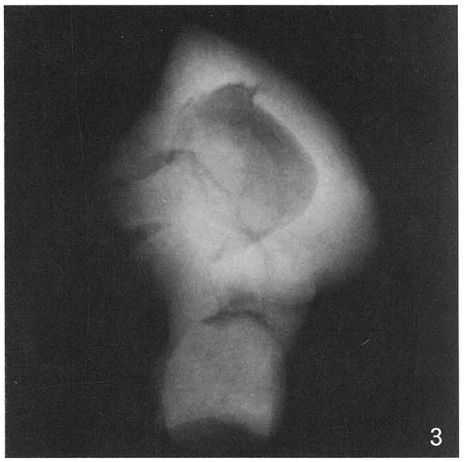
5 竪31

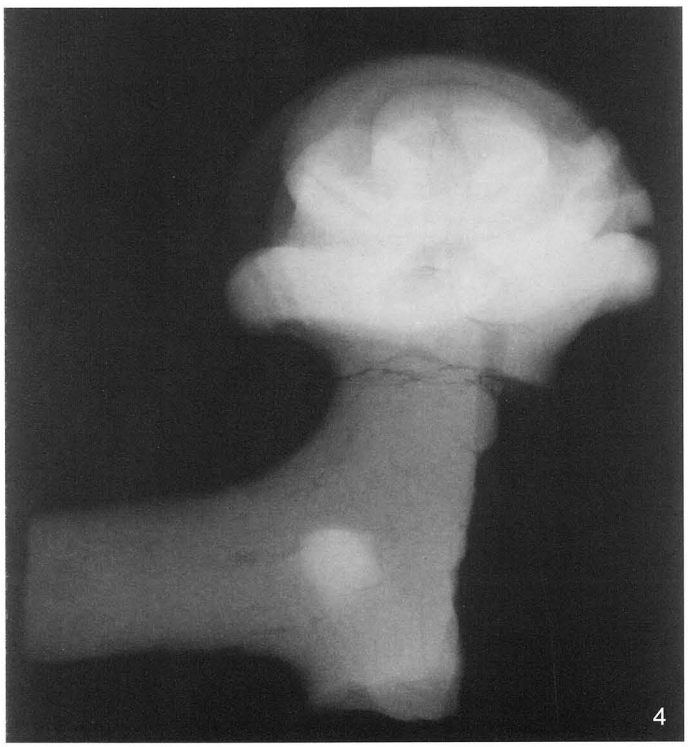


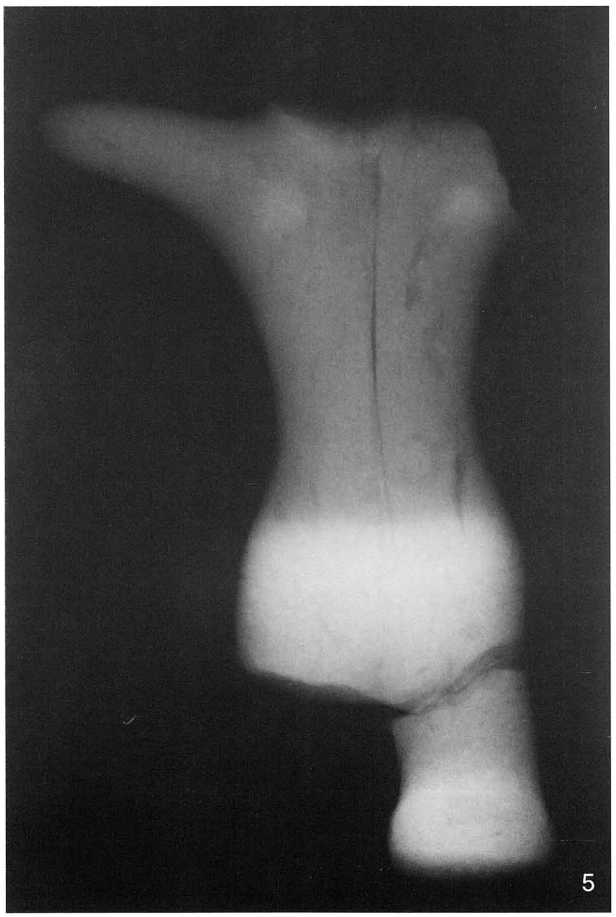
6 竪 1





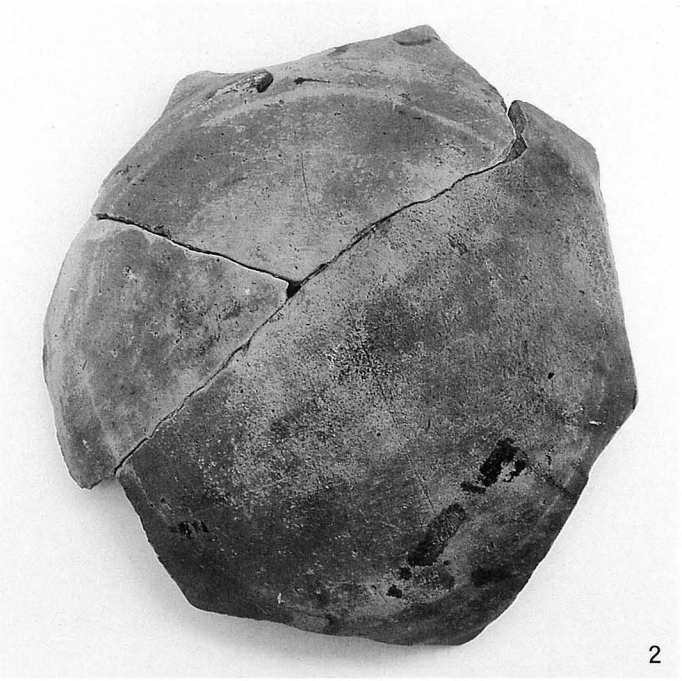


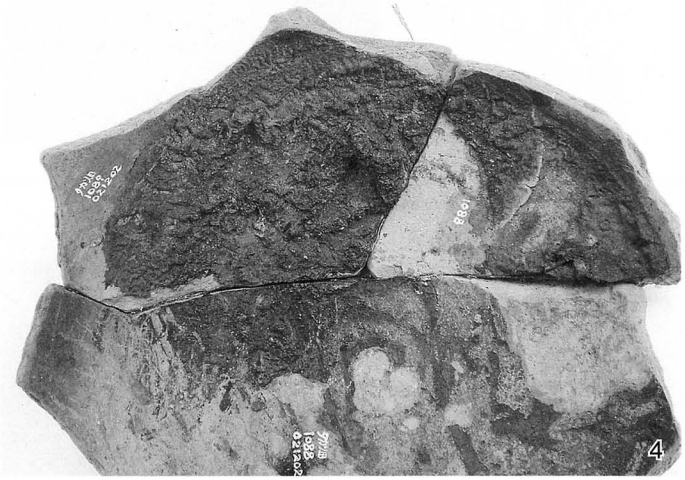


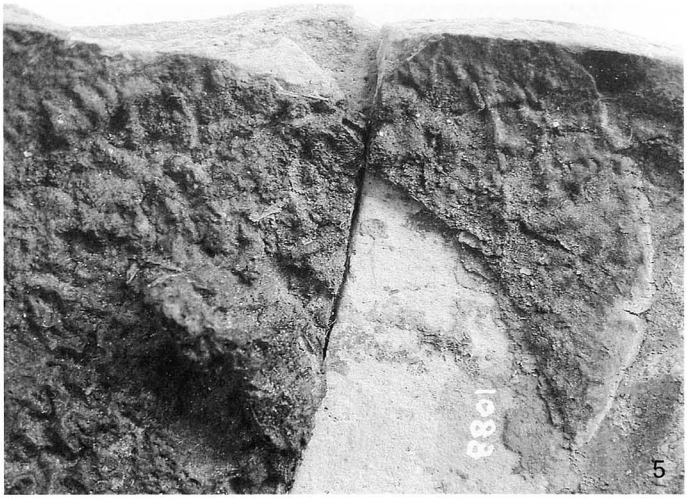


土偶のＸ線写真

（１：５号竪穴118　２・３：11号竪穴17　４：５号竪穴111　５：参考資料　天神前西遺跡出土曽利式期の土偶）







漆紙？付着土器（遺構外46）
（1：内面　2：外面　3：斜め　4・5：内面接写）

報告書抄録

フリガナ	タカバタケイセキ	
書名	高畑遺跡	
副題	JAフルーツ山梨加納岩統一共選所建設に伴う発掘調査報告書	
シリーズ名	山梨市文化財調査報告書　第８集	
著者名	櫛原功一・小林謙一・鈴木　稔	
発行者名	JAフルーツ山梨・山梨市教育委員会・(財)山梨文化財研究所	
編集者名	(財)山梨文化財研究所	
住所・電話番号	〒406-0032　山梨県笛吹市石和町四日市場1566 (財)山梨文化財研究所　TEL 055－263－6441	
印刷所	帝京サービス	
発行日	2005年３月31日	
高畑遺跡	所在地	山梨県山梨市大野
	1/25,000 地図名・位置・標高	塩山　北緯 35度40分17秒　東経 138度40分39秒　標高 303m
遺跡概要	主な時代	縄文時代中期（新道式～曽利Ⅰ式）
	主な遺構	竪穴建物、土坑、ピット、溝
	主な遺物	縄文土器、石器、土偶、須恵器、土師器
	特殊遺構	井戸、埋甕
	特殊遺物	土偶、動物形土製品、漆紙付着土器
	調査期間	2002年11月１日～2003年１月16日

なお緯度・経度は世界測地系データに基づく数値である。

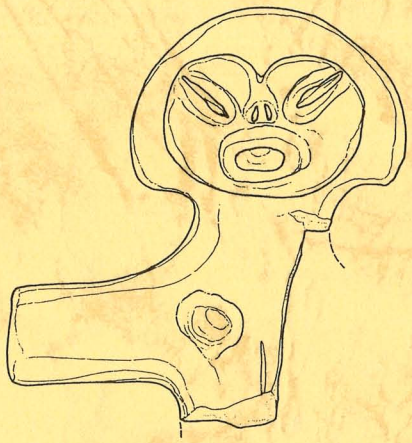
山梨市文化財調査報告書　第８集

高畑遺跡

—JAフルーツ山梨加納岩統一共選所建設に伴う発掘調査報告書—

平成17年（2005）3月31日　発行

編　　集　　(財)山梨文化財研究所
〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566　TEL 055-263-6441

発　　行　　JAフルーツ山梨・山梨市教育委員会・(財)山梨文化財研究所

印　　刷　　(株)帝京サービス